HITACHI

JP1 Cloud Service 通報管理 利用ガイド

JCSM21-0260-01

前書き

■ 対象サービス（V02-00 以降）

●通報管理 - 基本プラン

SD-5273181Z3 JP1 Cloud Service/Notification Management - Basic Plan 02-00 以降

●通報管理 - ユーザー追加オプション

SD-527318203 JP1 Cloud Service/Notification Management - Additional-User Option 02-00 以降

●通報管理 - 電話通知オプション

SD-527318213 JP1 Cloud Service/Notification Management - Phone Notifications Option 02-01 以降

●通報管理 - 電話追加通知オプション

SD-527318223 JP1 Cloud Service/Notification Management - Additional Phone Notifications Option 02-01 以降

●通報管理 - 信号灯通知追加オプション

SD-5273182F3 JP1 Cloud Service/Notification Management - Additional Signal Tower Notifications Option 02-30 以降

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

記載の会社名，製品名などは，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

マイクロソフトの許可を得て使用しています。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	正式名称
Windows 10	Windows(R) 10 Home
	Windows(R) 10 Pro

表記	正式名称
Windows 10	Windows(R) 10 Enterprise
Windows 11	Windows(R) 11 Home
	Windows(R) 11 Pro
	Windows(R) 11 Enterprise
Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
Windows Server 2016	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard
Windows Server 2019	Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard
Windows Server 2022	Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Standard
Windows Server 2025	Microsoft(R) Windows Server(R) 2025 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2025 Standard

Windows 11，Windows 10，Windows Server 2025，Windows Server 2022，Windows Server 2019，Windows Server 2016，Windows Server 2012 R2，および Windows Server 2012 を総称して Windows と表記することがあります。

■ 発行

2026 年 10 月　JCSM21-0260-01

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2023, 2026, Hitachi, Ltd.

はじめに

このマニュアルは，TELstaff クラウド型通報管理サービス（JP1 Cloud Service 通報管理サービス）のサービス内容について説明したものです。このマニュアルでは，TELstaff クラウド型通報管理サービスとのサービス契約が完了し，必要な情報（接続先 URL など）を入手されていることを前提に説明しています。

■ 対象読者

TELstaff クラウド型通報管理サービスを利用して，外部の通信サービス（Twilio，LINE WORKS，Slack, Microsoft Teams，楽天モバイル，信号灯），メールサーバへの通知を実行するシステム管理者を対象としています。

また，次に示す機能や操作を理解されている方を前提として説明します。

- ネットワークを運用・管理する。
- メールを運用・管理する。
- 通信サービス（Twilio，LINE WORKS，Slack, Microsoft Teams，楽天モバイル，信号灯）を利用したシステムを運用・管理する。
- コマンドや REST API を操作・制御する知識を持っている。また，必要に応じ JSON 形式のインターフェースを解析・設定する知識を持っている。
- カスタムジョブを使用する場合，JP1/Automatic Job Management System（JP1/AJS）の知識を持っている。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章　TELstaff クラウド型通報管理サービスとは
TELstaff クラウド型通報管理サービスの概要について説明しています。

第 2 章　TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能
TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能について説明しています。

第 3 章　セットアップ
TELstaff クラウド型通報管理サービスを使用するための設定について説明しています。

第 4 章　運用上の留意事項
TELstaff クラウド型通報管理サービスの運用上の留意事項について説明しています。

第 5 章　Web 画面

TELstaff クラウド型通報管理サービスの Web 画面について説明しています。

第 6 章　コマンド

TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するコマンドインターフェースの内容について説明しています。

第 7 章　API

TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供する REST API について説明しています。

第 8 章　JSON プロパティ

TELstaff クラウド型通報管理サービスの JSON プロパティについて説明しています。

第 9 章　カスタムジョブ

TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するカスタムジョブについて説明しています。

第 10 章　メッセージ

TELstaff クラウド型通報管理サービスの出力するメッセージについて説明しています。

■ このマニュアルでの表記

このマニュアルでは，日立ソリューションズ製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に，製品の正式名称と，このマニュアルでの表記を示します。

表記	正式名称
AEPE	TELstaff(R) AE Professional Edition
AESE	TELstaff(R) AE Standard Edition
AECL	TELstaff(R) AE Client
JP1/AJS	JP1/Automatic Job Management System

その他，次のような表記を使用しています。

- TELstaff クラウド型通報管理サービスを「通報管理サービス」または「本サービス」と記載します。
- TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するコマンドインターフェースを「コマンド」と記載します。
- TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供する REST API を「API」と記載します。
- TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するカスタムジョブを「カスタムジョブ」と記載します。

■ このマニュアルで使用する略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
API	Application Programming Interface
GUI	Graphical User Interface
LAN	Local Area Network
POP	Post Office Protocol
SMS	Short Message Service
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SMTPS	SMTP over SSL/TLS
SPF	Sender Policy Framework
SSL	Secure Sockets Layer
TCP	Transmission Control Protocol
TLS	Transport Layer Security

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。ウィンドウ内で指定する文字は，Shift_JIS 文字および半角英数字記号で指定することを前提にしています。

記号	意味
[ ]	メニュー項目，画面名，ボタン名，およびキーボードのキーなどを表します。 （例）［Ctrl］キー
[ ] ＋ [ ]	キーボードのキーを同時に押すことを表します。 （例）［Ctrl］＋［A］キー
【 】	メニューおよびサブメニューを示します。 （例）【ファイル】メニューから【終了】を選びます。

■ コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を，次のように定義します。コマンド名とコマンドパラメタは，Shift_JIS 文字および半角英数字記号で指定することを前提にしています。

記号	意味
[　]	指定が省略できることを示します。 （例） tlscbase tel notify -u **ユーザ名** -f **通知文ファイル名** [--fenc { SJIS | UTF8 }] .. この場合，--fenc の指定を省略できます。
{　}	| で区切られている前後の項目から，選択して指定できることを示します。 （例） tlscbase tel notify -u **ユーザ名** -f **通知文ファイル名** [--fenc { SJIS | UTF8 }] .. この場合，--fenc の後に，通知文ファイル名の文字エンコーディングを SJIS または UTF8 のどれかを選択して指定できます。

■ 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは，常用漢字を使用することを基本としていますが，次に示す用語については，常用漢字以外の漢字を使用しています。

- 桁（けた）
- 橙（だいだい）
- 貼り付け（はりつけ）

■ 文字数表記および KB（キロバイト）等の単位表記について

- このマニュアルでの文字数表記は，n 桁と n 文字で表記しています。
- n 桁は，半角文字数を意味します。
- n 文字は，全角文字，半角文字を問わず文字数を意味します。
- 1 KB（キロバイト），1 MB（メガバイト），1 GB（ギガバイト），1 TB（テラバイト）は，それぞれ 1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

目　次

目　次 i
1.　TELstaff クラウド型通報管理サービスとは 5
1.1　通報管理サービスについて 6
1.2　通報管理サービスで通知を行うまでの流れ 8
1.3　システムの構成 11
1.3.1　通報管理サービスの構成 11
1.4　前提環境 13
1.4.1　お客様の環境に関して 13
1.4.2　動作環境 13
1.4.3　本サービスと接続するお客様側の IP アドレスに関して 15
1.4.4　本サービスと接続するお客様側のマシン時刻の設定に関して 15
1.4.5　電話通知と SMS 通知について 15
1.4.6　LINE WORKS への通知について 16
1.4.7　Slack への通知について 16
1.4.8　Microsoft Teams への通知について 16
1.4.9　信号灯への通知について 16
1.4.10　メール通知について 17
1.4.11　受信メール連携をご使用になる場合 17
2.　TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能 19
2.1　提供する機能 20
3.　セットアップ 27
3.1　外部通信サービスへ通知するための設定 28
3.2　コマンド配置と設定ファイル 37
3.3　マシン時刻の設定 41
4.　運用上の留意事項 43
4.1　発信制限に関して 44
4.2　性能に関して 45
4.3　外部通信サービス側の注意事項に関して 46
4.4　電話通知の操作と応答に関して 49
4.5　通知文ファイルに関して 54
4.6　障害を考慮した運用方法と留意事項 55
4.7　調査用資料の採取 57
4.8　メール送信機能を使用する場合の制限事項 59
4.9　ロールによるリソース管理機能を使用する場合の注意事項 61
5.　Web 画面 63
5.1　サインイン画面 65
5.1.1　ワンタイムパスワード画面 66
5.2　メイン画面 67
5.3　パスワード変更画面 70
5.4　ライセンス表示画面 72
5.5　アカウント設定画面 74
5.5.2　ワンタイムパスワード登録画面 74
5.6　API キー設定画面 76
5.7　リソース管理方法の変更画面 78
5.8　ロール一覧 79
5.9　ロールへのサブアカウント割り当て画面 80
5.10　ロールへのリソース割り当て画面 82
5.10.1　アクセス権の付与ダイアログ 83

5.11　リソースグループ一覧 85
5.12　リソースグループ定義画面 86
5.13　サブアカウント一覧画面 88
5.13.2　サブアカウント設定画面 88
5.14　電話通知利用情報画面 93
5.15　大量発信の集約、間引き画面 94
5.16　メールサーバ登録画面 96
5.17　Twilio プロファイル一覧 99
5.18　Twilio プロファイル画面 101
5.19　LINE WORKS プロファイル一覧 103
5.20　LINE WORKS プロファイル画面 104
5.21　Slack プロファイル一覧 107
5.22　Slack プロファイル画面 108
5.23　Microsoft Teams プロファイル一覧 109
5.24　Microsoft Teams プロファイル画面 110
5.25　楽天モバイルプロファイル一覧 111
5.26　楽天モバイルプロファイル画面 112
5.27　外部 API 連携プロファイル一覧 114
5.28　外部 API 連携プロファイル画面 115
5.29　信号灯プロファイル一覧 119
5.30　信号灯プロファイル画面 121
5.31　信号灯ステータス画面 122
5.32　ユーザ一覧 123
5.32.1　ユーザグループ作成ダイアログ 124
5.32.2　ユーザ検索ダイアログ 125
5.33　ユーザ定義画面 126
5.34　連絡網一覧 130
5.35　連絡網定義画面 132
5.35.1　連絡網コピーダイアログ 137
5.35.2　LINE WORKS トークルーム設定ダイアログ 137
5.35.3　Slack チャンネル設定ダイアログ 139
5.35.4　Microsoft Teams 設定ダイアログ 140
5.35.5　信号灯通知設定ダイアログ 140
5.35.6　外部 API 連携設定ダイアログ 142
5.35.7　メール一括送信設定ダイアログ 143
5.36　カレンダーダイアログ 146
5.37　スケジュールダイアログ 152
5.38　電話読み替え定義一覧 158
5.39　電話読み替え定義画面 160
5.40　通知文テンプレート一覧 161
5.41　通知文テンプレート画面 162
5.42　連絡網発信フィルタ一覧 164
5.42.2　連絡網発信フィルタ優先順位編集ダイアログ 165
5.43　連絡網発信フィルタ定義画面 166
5.44　受信メール連携一覧 168
5.45　受信メール連携ルール画面 169
5.46　生成 AI 連携設定画面 174
5.47　発信履歴レポート画面 176
5.47.1　通知一覧レポート 176

5.47.2　電話通知レポート 177
6.　コマンド 181
6.1　コマンド一覧 182
6.2　通報管理サービスのコマンド（tlscbase） 183
6.2.1　電話発信コマンド 185
6.2.2　SMS 発信コマンド 187
6.2.3　メール発信コマンド 189
6.2.4　LINE WORKS 投稿コマンド 191
6.2.5　Slack 投稿コマンド 194
6.2.6　Microsoft Teams 投稿コマンド 196
6.2.7　連絡網発信コマンド 198
6.2.8　発信結果問い合わせコマンド 202
6.2.9　通知先ユーザ定義登録コマンド 204
6.2.10　通知先ユーザ定義取得コマンド 205
6.2.11　通知先ユーザ定義削除コマンド 207
6.2.12　連絡網定義登録コマンド 209
6.2.13　連絡網定義取得コマンド 210
6.2.14　連絡網定義削除コマンド 212
6.2.15　LINE WORKS トークルーム作成コマンド 213
6.2.16　発信情報件数問い合わせコマンド 215
6.2.17　発信情報削除コマンド 217
6.2.18　ログ取得コマンド 219
6.2.19　操作証跡取得コマンド 220
6.2.20　コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数 222
7.　API 225
7.1　API 一覧 226
7.2　通報管理サービスの API 227
7.2.1　サインイン API 231
7.2.2　サインアウト API 232
7.2.3　サインイントークン更新 API 232
7.2.4　発信受付 API 233
7.2.5　発信問い合わせ API 234
7.2.6　連絡網発信 API 235
7.2.7　連絡網発信結果取得 API 236
7.2.8　通知先ユーザ定義登録 API 237
7.2.9　通知先ユーザ定義取得 API 238
7.2.10　通知先ユーザ定義削除 API 239
7.2.11　ユーザグループ登録 API 240
7.2.12　ユーザグループ取得 API 241
7.2.13　ユーザグループ削除 API 242
7.2.14　連絡網定義登録 API 243
7.2.15　連絡網定義取得 API 244
7.2.16　連絡網定義削除 API 245
7.2.17　LINE WORKS トークルーム作成 API 246
7.2.18　発信情報件数問い合わせ API 246
7.2.19　発信情報削除 API 247
7.2.20　ログ取得 API 248
8.　JSON プロパティ 251
8.1　通報管理サービスの JSON 252
9.　カスタムジョブ 289
9.1　カスタムジョブの機能 290
9.2　カスタムジョブの導入 291
9.3　カスタムジョブの操作説明 295
9.3.1　カスタムジョブの定義 295
9.3.2　カスタムジョブの実行 299
9.3.3　カスタムジョブの実行結果 299

9.4　　カスタムジョブ実行時の注意事項.....300
10.　メッセージ.....301
10.1　　メッセージについて.....302
10.1.1　メッセージの形式.....302
10.1.2　メッセージの表記方法.....302
10.1.3　メッセージ挿入文字の説明.....302
10.2　　メッセージ一覧.....304
1000 以上 1054 以内のメッセージ ID（Web システムのメッセージ）.....304
4045 以上 4062 以内のメッセージ ID（tlscbase コマンドのメッセージ）.....311
10.3　　操作証跡メッセージ一覧.....313
10.3.1　メッセージの形式.....313
索　引.....316

1. TELstaff クラウド型通報管理サービスとは

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスの概要について説明します。

1.1 通報管理サービスについて

1.2 通報管理サービスで通知を行うまでの流れ

1.3 システムの構成

1.4 前提環境

1.1 通報管理サービスについて

通報管理サービスは，お客様環境から通知の指示を受け付けて，外部の通信サービスへ通知の依頼を実施します。

本サービスの特徴を次に示します。

1. 豊富な通信サービスへの通知を提供
2. 公衆電話回線を使用せず，通信サービスを利用した電話通知，SMS 通知を提供
3. 連絡網を使用した通知を提供することで，柔軟な通知を実現

(1) 豊富な通信サービスへの通知を実現

Twilio と連携した電話通知・SMS 通知(※1)，楽天モバイルと連携した SMS 通知(※1)，LINE WORKS への通知(※2)，Slack への通知，Microsoft Teams への通知，信号灯への通知(※3)，メール通知が可能です。

お客様がご利用可能な通信サービスを選択して通知が可能です。各通信サービスとのご契約は，あらかじめお客様にて実施していただく必要があります。(※4)

※1：SMS 通知に関しては，送信可能なキャリアの情報，対応する文字の情報，分割送信のルール，制限の詳細，その他に関しては，連携元（Twilio，または楽天モバイル）へお問い合わせください。

※2：LINE WORKS と LINE は，別のサービスであり，別のアプリケーションです。このため，LINE のユーザへメッセージを通知することはできません。

※3：信号灯への通知を利用する場合，信号灯通知プランのご契約が必要です。

※4：電話通知プランをご契約中の場合で SMS 通知を使用しない場合，お客様と Twilio とのご契約は実施不要です。

(2) 柔軟な通知システムを構築できます

通信サービスへの単独の通知だけでなく，連絡網を使用した通知を定義することで，柔軟な通知が実現可能です。

通知先のユーザ情報や連絡網などの定義情報を登録する操作は，GUI 画面だけでなく，コマンドや API からも行うことが可能です。

通知の指示は，コマンドまたは API から実行します。また，JP1/AJS から指示する場合，カスタムジョブの使用が可能です。

(3) AEPE，AESEとの関係

AEPE（TELstaff AE Professional Edition）または，AESE（TELstaff AE Standard Edition）と，本サービスとでは，通知方式や使用する資源（ハードウェアや電話回線，サービス）が異なりますので，定義（ユーザ定義，連絡網定義を含む，すべての定義）の移行は行えません。また，電話通知に関しても，動作が異なりますので，置き換えての使用はできません。

また，お客様環境に AESE，AEPE または AECL（TELstaff AE Client）がすでに導入済の場合，お客様側のシステムとして，本サービスが提供するコマンドの実行元として使用することは可能です。

1.2 通報管理サービスで通知を行うまでの流れ

通報管理サービスで通知を行うまでの流れを，以下に示します。

利用する各外部通信サービスとのご契約

各外部通信サービスの準備

・使用する各外部通信サービスとのご契約や必要な設定・準備などをお客様側で実施していただきます。
通報管理サービス側では代行作業などは実施していません。

⇩

通報管理サービスのご契約

・本サービス「通報管理サービス」とのご契約が必要です。
契約が完了すると，接続先 URL やアカウント ID など
ご連絡します。

⇩

本マニュアルでは，これ以降に関してご説明しています。

通報管理サービスの設定・定義

設定作業

・使用する各外部通信サービスの情報を登録します。
・通知先のユーザ情報を登録します。

⇩

連絡網の定義

・連絡網を定義します。連絡網を使用せず，単独のコマンド
または，API を使用して発信することも可能です。

⇩

お客様環境側で通知内容を定義する（コマンドまたは，API または，カスタムジョブを使用する場合）

コマンドなどを配置

・通報管理サービスのコマンドを配置し，設定ファイルに
通報管理サービスの接続先 URL など情報を設定します。
（API を使用して通知を行う場合，コマンドの配置は不要です）
・JP1/AJS のカスタムジョブ使用する場合，通報管理サービスの
カスタムジョブを配置します。

⇩

コマンド通知などを定義

・お客様側のシステムにコマンド通知を定義し，連絡網への通知，
各外部通信サービスへの通知内容を定義します。
（API を使用する場合，API を使用し通知内容を定義します）
・メール連携を使用する場合，受信メール連携ルールを定義します。
・JP1/AJS のカスタムジョブ使用する場合，通報管理サービスの
カスタムジョブを定義します。

⇩

コマンドまたは，API または，カスタムジョブを使用する場合，お客様環境側で通知を実行する

コマンド通知などを実行

・任意のタイミングで，お客様側のシステムから，コマンド通知
または，カスタムジョブを実行します。
（API を使用して通知を行う場合，API を使用し実行します）

受信メール連携を使用する場合，お客様環境側から本サービスへメールを送信する

メールを送信

・任意のタイミングで，お客様側のシステムや他のサービスなど
から，本サービスへメールを送信します。

図 1.2-1 通報管理サービスで通知を行うまでの流れ

(1) 通報管理サービスの設定・定義

(a) 設定作業

本サービスへサインインし，通知先として使用する通信サービスの情報を登録します。お客様がご契約されている通信サービスから必要な情報を入手し登録します。

通知先ユーザのユーザ名，メールアドレスや電話番号などのユーザ情報を登録します。

(b) 連絡網の定義

連絡網を使用する場合には，連絡網を作成し登録します。連絡網を使用せず，単独のコマンド発信を行う場合，または，単独の API を使用した発信を行う場合には，連絡網を作成する必要はありません。

(2) お客様環境側で通知内容を定義する（コマンドまたは，APIを使用する場合）

本サービスへの通知の依頼は，本サービスに付属するコマンドを使用する，または，API が使用できます。お客様側のシステムから呼び出して使用します。

(a) 通報管理サービスのコマンドを配置し設定する

通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルより，コマンドを取得して，お客様の環境へ配置します。コマンド設定ファイルには，本サービスの契約時に発行した，通報管理サービスの接続先 URL，アカウント ID，パスワードなどの情報を設定します。

API を使用して通知を行う場合には，本設定は不要です。

(b) コマンド通知の内容を定義する

お客様側のシステムで通知する内容を決定し，連絡網への通知内容や各通信サービスへのコマンド通知を定義します。API を使用して通知を行う場合，API で通知内容を定義します。

(3) お客様環境側で通知内容を定義する（カスタムジョブを使用する場合）

本サービスへの通知の依頼は，本サービスに付属するカスタムジョブが使用できます。お客様側のシステムの JP1/AJS から呼び出して使用します。

(a) 通報管理サービスのカスタムジョブを配置し設定する。

通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルより，
カスタムジョブを取得して，お客様の環境へ配置します。
カスタムジョブは内部でコマンドを動作させるため，(2)に記載のコマンドの設定が必要となります。

(b) カスタムジョブで通知する内容を定義する

お客様側のシステムで通知する内容を決定し，JP1/AJS からカスタムジョブを使用して，連絡網への通知内容を定義します。

(4) お客様環境側で通知内容を定義する（受信メール連携を使用する場合）

本サービスへの通知の依頼を，メールにより行うことが可能です。お客様側のシステムや外部サービスなどから，本サービスへメールを送信し，メール内容により，連絡網を実行することが可能です。

(a) 受信メール連携のルールを定義する

メール内容に応じてフィルタ条件を設定し，連絡網への通知内容を定義します。

(5) お客様環境側で通知を実行する

(a) コマンドまたは，APIを使用する場合

任意のタイミングで，お客様側のシステムからコマンド通知を実行します。API を使用して通知を行う場合，API で通知を実行します。

(b) カスタムジョブを使用する場合

任意のタイミングで，お客様側の JP1/AJS からカスタムジョブを実行します。

(c) 受信メール連携を使用する場合

お客様側のシステムや他のサービスなどから，本サービス申し込み時に割り当てられた専用のメールアドレスへメールを送信します。

受信メール連携を使用する場合，本サービス申し込み時にお客様ごとに割り当てられた，専用のメールアドレス(※1)が必要となります。

※1：専用のメールアドレスは，本サービス申し込み時（契約時）に希望するお客様に割り当てを行います。契約時に希望せず，後から必要になった場合は，サポート窓口へお問い合わせください。

1.3 システムの構成

1.3.1 通報管理サービスの構成

連携可能な外部通信サービスも含めて記載した，本サービスの構成を以下に示します。

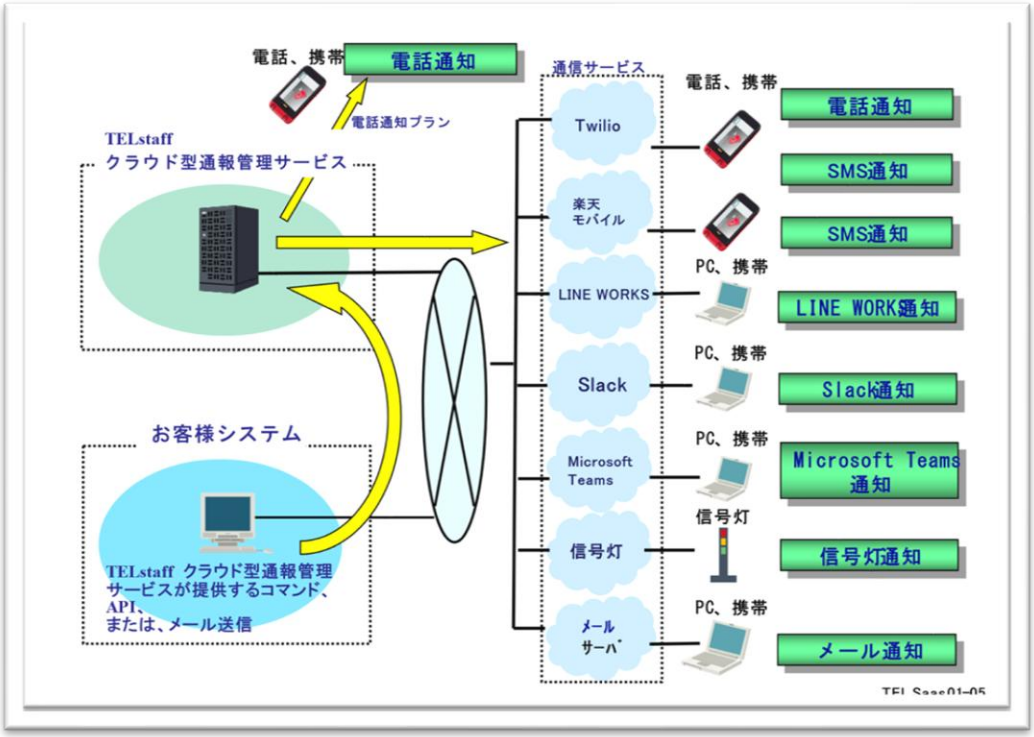


図 1.3-1 サービス構成

- お客様がご利用可能な通信サービスを選択して通知が可能です。各通信サービスとのご契約は，あらかじめお客様にて実施していただく必要があります。

(1) 電話通知

API サービスである Twilio を使用，または電話通知プランをご契約していただくことにより電話通知が可能です。お客様システムからのメッセージを電話（音声）で通知します。

(2) SMS通知

API サービスである Twilio，または楽天モバイルを使用して SMS 通知(※1)が可能です。お客様システムからのメッセージをショートメッセージで通知します。

※1：SMS 通知の送信可能なキャリアの情報，対応する文字の情報，分割送信のルール，制限の詳細，その他に関しては，Twilio，または楽天モバイルへお問い合わせください。

(3) LINE WORKS通知

企業向け LINE サービスである LINE WORKS への通知が可能です。お客様システムからのメッセージを LINE WORKS へ投稿します。

(4) Slack通知

コラボレーションサービスである Slack への通知が可能です。お客様システムからのメッセージを Slack へ投稿します。

(5) Microsoft Teams通知

コラボレーションプラットフォームである Microsoft Teams への通知が可能です。お客様システムからのメッセージを Microsoft Teams へ投稿します。

(6) 信号灯通知

信号灯通知プランをご契約していただくことによりネットワーク制御信号灯（クラウド対応）への通知が可能です。お客様システムからの通知を信号灯へ発信します。

対応する信号灯製品は以下になります。

・PATLITE 社製 NHV シリーズ（NHV4, NHV6）

・PATLITE 社製 NHB シリーズ（NHB4, NHB6）

(7) メール通知

お客様が準備したメールサーバを使用する場合：

お客様が準備したメールサーバを使用してメールを送信できます。

お客様システムからのメッセージをメールサーバへ送信します。

本サービスのメール送信機能を使用する場合：

本サービスが提供するメール送信機能を使用してメールを送信できます。

お客様システムからのメッセージを指定された宛先へ送信します。

1.4前提環境

通報管理サービスを使用するための前提について説明します。

1.4.1 お客様の環境に関して

お客様環境がオンプレミス環境，クラウド環境に関わらず，本章に記載の動作環境などの条件を満たし，本サービスとの通信が可能な環境の場合には，本サービスを利用していただくことが可能です。

1.4.2 動作環境

本サービスを使用する場合の動作環境を以下に示します。

表 1.4-1 各機能の動作環境

項目	動作環境
Web ブラウザ	お客様環境から本サービスが提供する画面（GUI）を操作する Web ブラウザと Web ブラウザを動作させるプラットフォームは以下となります。 [プラットフォーム] ・Windows 10 Pro 日本語版 ・Windows 11 Pro 日本語版 [Web ブラウザ] ・Windows 版 Google Chrome（148.0.7778.179 以降） ・Windows 版 Microsoft Edge（148.0.3967.83 以降）
コマンドを動作させるプラットフォーム	お客様環境から本サービスが提供するコマンドを動作させるプラットフォームは以下となります。 ・Windows 10 Pro 日本語版 ・Windows 11 Pro 日本語版 ・Windows Server 2016 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2019 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2022 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2025 Standard / Datacenter 日本語版 ・RedHat Enterprise Linux 8（8.6 以降） ・RedHat Enterprise Linux 9（9.0 以降）
カスタムジョブを動作させる JP1/AJS	カスタムジョブのジョブ定義を動作させる JP1/AJS は以下となります。 ・JP1/Automatic Job Management System 3 - View 12-00 以降 カスタムジョブのジョブ実行を動作させる JP1/AJS は以下となります。（Windows 版のみ動作が可能です） ・JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager 12-00 以降 ・JP1/Automatic Job Management System 3 - Agent 12-00 以降

カスタムジョブを動作させるプラットフォーム	カスタムジョブのジョブ定義を動作させるプラットフォームは以下となります。 ・Windows 10 Pro 日本語版 ・Windows 11 Pro 日本語版 ・Windows Server 2016 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2019 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2022 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2025 Standard / Datacenter 日本語版 カスタムジョブのジョブ実行を動作させるプラットフォームは以下となります。 ・Windows Server 2016 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2019 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2022 Standard / Datacenter 日本語版 ・Windows Server 2025 Standard / Datacenter 日本語版 ・RedHat Enterprise Linux 8（8.6 以降） ・RedHat Enterprise Linux 9（9.0 以降）
通信環境	お客様環境から本サービスが提供する Web 画面（GUI），コマンドまたは API またはカスタムジョブを使用するには，https 通信のプロトコルが有効な環境が必要となります。https 通信ができない場合，使用できません。 TLS に関しては，TLS1.2 のみをサポートしています。 通信環境の設定は，お客様ごとに環境（OS の設定，ファイヤーウォールの設定など）が異なりますので，お客様側の管理者へ問い合わせなどをおこない，本サービスとの通信が可能となるよう環境の整備・設定を行ってください。

動作環境に関連する注意事項を以下に記します。

- Chrome のスペルチェック機能が有効になっている場合（デフォルトで有効），GUI 画面の入力フィールドにスペル間違いを示す赤い下線が引かれることがあります。この機能を無効にするためには Chrome の以下の設定を変更してください。

  [設定]→[詳細設定]→[言語]→[スペルチェック]

- Web ブラウザが持つ再読み込み機能（F5 キーなど）には対応していません。
- Web ブラウザが持つページの移動機能（「前に戻る」など）には対応していません。
- コマンドが出力するログファイルに関して

  お客様環境でコマンドを動作させた場合，コマンドのログが出力されます。

  ログファイルの使用する最大ディスク容量の算出例を示します。

  ✧ 公開ログは 5M バイト(※1) × 2（ローテーション分を含む）となります。

  ※1：5M バイトはデフォルト設定での値で，コマンド設定ファイルのパラメタ値で変更が可能です。詳細は「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」を参照ください。

  ✧ デバッグログは，公開ログと同じサイズ，同じローテーション数で動作します。

1.4.3 本サービスと接続するお客様側のIPアドレスに関して

本サービスでは，セキュリティ対策の観点から接続可能な IP アドレスに制限を設けています。本サービスの申し込み時に，申請していただいた「お客様側の送信元 IP アドレス(※1)」からのみ，接続可能な状態としています。

お客様側システムの構成変更などにより，お客様側の送信元 IP アドレスが変更となる場合には，サポート窓口から「サービス申込内容変更」の申請を行い，送信元 IP アドレスを変更してください。変更申請が行われない場合，本サービスへの接続がエラーとなります。

※1：お客様側の送信元IPアドレスは，プロキシサーバ経由でアクセスする環境では，プロキシサーバのパブリック IP アドレスとなります。詳細に関しては，本サービスの「サービス新規申請書」または「サービス申込内容変更申請書」を参照ください。

1.4.4 本サービスと接続するお客様側のマシン時刻の設定に関して

本サービスの Web 画面（GUI），コマンド，API，カスタムジョブを使用する場合，操作を行うお客様環境のマシン時刻は，インターネット時刻（NTP サーバ）と同期している必要があります。マシン時刻が不正な場合，サインイン時に認証エラーが発生する場合があります。3 章 セットアップ「3.3 マシン時刻の設定」に，時刻を同期させる設定例を記載しています。

1.4.5 電話通知とSMS通知について

(1) Twilioを使用する場合

電話 API サービスである Twilio を使用して電話通知，SMS 通知を実施します。

Twilio への通知を行う場合には，お客様にて，Twilio とサービスのご契約や運用管理などが実施された利用可能な Twilio 環境を準備していただく必要があります。

Twilio からの電話通知は，電話回線と電話発信機器を使用した電話通知と動作が異なりますので，「4.3(1) Twilio へ発信する際の注意事項」「4.4 電話通知の操作と応答に関して」をご確認の上，ご使用ください。

また，あらかじめTwilioの情報を本サービスの接続先プロファイルに登録する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，「3.1(1) **Twilioへ発信する際の事前準備と必要な情報**」を参照ください。

(2) 電話通知プランをご契約の場合

電話通知プランの場合，お客様にて，外部通信サービスのご契約をしていただく必要はありません。電話通知プランでは SMS 通知は含まれません。

(3) 楽天モバイルを使用する場合

楽天モバイルの API サービス（Rakuten CPaaS SMS API）を使用して SMS 通知を実施します。

上記サービスを利用した SMS 通知を行う場合には，お客様にて，楽天モバイルとサービスのご契約や運用管理などが実施された利用可能な楽天モバイル環境を準備していただく必要があります。「4.3(4) 楽天モバイルへ発信する際の注意事項」をご確認の上，ご使用ください。

また，あらかじめ楽天モバイルの情報を本サービスの接続先プロファイルに登録する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，「3.1(5) **楽天モバイルへ発信する際の事前準備と必要な情報**」を参照ください。

1.4.6 LINE WORKSへの通知について

本サービスから LINE WORKS への通知を行う場合には，お客様にて，LINE WORKS とサービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な LINE WORKS 環境を準備していただく必要があります。

また，あらかじめ LINE WORKS の情報を本サービスの接続先プロファイルに登録する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，「3.1(2) LINE WORKS へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

1.4.7 Slackへの通知について

本サービスから Slack への通知を行う場合には，お客様にて，Slack とサービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な Slack 環境を準備していただく必要があります。

また，あらかじめ Slack の情報を本サービスの接続先プロファイルに登録する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，「3.1(3) Slack へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

1.4.8 Microsoft Teamsへの通知について

本サービスから Microsoft Teams への通知を行う場合には，お客様にて，Microsoft Teams とサービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な Microsoft Teams 環境を準備していただく必要があります。

また，あらかじめ Microsoft Teams の情報を本サービスの接続先プロファイルに登録する必要があります。事前準備に関しては，「3.1(4) Microsoft Teams へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

1.4.9 信号灯への通知について

本サービスからネットワーク制御信号灯（クラウド対応）への通知を行う場合には，信号灯通知プランのご契約が必要です。お客様にて，利用可能な信号灯を準備していただく

必要があります。

また，あらかじめ信号灯の設定および信号灯の情報を本サービスの接続先プロファイルに登録する必要があります。事前準備に関しては，「3.1(6) 信号灯へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

1.4.10 メール通知について

(1) お客様が準備したメールサーバを使用する場合

本サービスからメール通知を行う場合には，お客様にて，メールサーバを準備していただく必要があります。本サービスから，ネットワークを経由し，メールサーバにメールを送信します。メールサーバはインターネットからアクセス可能である必要があります。

対応するメールサーバのプロトコルはSMTP，SMTPS，SMTP+STARTTLSです。使用可能な認証方式は，SMTP-AUTH（PLAIN，LOGIN，CRAM-MD5）です。

また，あらかじめメールサーバの情報を本サービスの接続先プロファイルに設定する必要があります。

(2) 本サービスのメール送信機能を使用する場合

本サービスからメール通知を行う場合，本サービスが提供するメール送信機能を使用してメールを送信します。

メール送信機能は，本サービス申し込み時，または，変更申し込み時に，メール送信機能のご利用を申請されたお客様に限り，ご使用いただけます。使用する場合には，本サービス申し込み時の内容をご確認ください。

1.4.11 受信メール連携をご使用になる場合

受信メール連携は，本サービスが発行した専用のメールアドレス宛にメールを送信していただくことにより，通知を実行します。専用のメールアドレスは本サービスの申し込み時，または，変更申し込み時に発行が可能です。メールアドレスはお客様ごとに発行し，本サービス側で紐づけしています。

受信メール連携をご使用になる場合には，本サービスが発行する専用のメールアドレスの取得をお願いします。

2. TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能について説明します。

2.1　提供する機能

2.1 提供する機能

本サービスが提供する機能を説明します。

(1) Web画面

Web 画面で提供する機能は，以下となります。

(a) 接続先外部通信サービスや機器の情報を登録する機能

お客様で利用可能な外部通信サービスの情報を接続先の情報として登録する機能です。接続先の情報が未登録な通信サービスには，通知は行えません。

接続先は，メールサーバ，Twilio，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams，楽天モバイル，外部 API 連携（API 連携可能なサービス），信号灯です。

(b) 通知先ユーザを定義する機能

通知先となるユーザの情報を定義する機能です。各ユーザの通知メディア（通知手段）の情報を登録します。通知メディアと設定する内容は以下となります。

表 2.1-1 設定するユーザ情報

通知メディア	設定する内容	説明
電話通知	電話番号	Twilio を経由し，ユーザに電話通知を行います。(※1)
SMS 通知	電話番号	Twilio，または楽天モバイルを経由し，ユーザに SMS 通知を行います。
LINE WORKS への通知	LINE WORKS のメンバーアカウント	LINE WORKS へ通知内容を送信し，ユーザに LINE WORKS からの通知を行います。
Slack への通知	Slack のメンバーアカウント	Slack へ通知内容を送信し，ユーザに Slack からの通知を行います。
メール通知	メールアドレス	メールサーバへメール送信を依頼し，ユーザにメールを送信します。

- ユーザ情報に登録されていない任意の電話番号やメールアドレスなどへの通知は行えません。
- 登録可能なユーザ数は，本サービスの契約内容により決められています。登録可能なユーザ数，登録済のユーザ数は，Web 画面の「5.4 ライセンス表示画面」から確認が可能です。

※1：電話通知プランをご契約の場合，Twilio は経由せずユーザに電話通知を行います。

(c) 連絡網を定義する機能

通知先のユーザと通知メディア（通知手段）を組み合わせて，連絡網（連絡のルール）を定義します。

連絡網には，以下のような設定が可能です。

- 連絡網には，複数の通知先が定義できます。
- 定義した順番で通知が実施されます。

- 電話通知で受信者が話中などで通話を受信できない場合を想定し，繰り返しの設定が可能です。
- 電話通知で受信者が「確認操作を行った場合」，以降の通知先への通知を中止することが可能です。
- 電話通知で受信者が「確認操作を行った場合」，別の連絡網を動作させることが可能です。
- 電話通知で受信者が「確認操作を行った場合」，登録された外部サービスの API を実行することが可能です。
- 連絡網内の通知先ユーザが「確認操作を行わなかった場合」，別の連絡網を動作させることが可能です。
- 連絡網内の通知先ユーザが「確認操作を行わなかった場合」，登録された外部サービスの API を実行することが可能です。
- カレンダー・スケジュール機能と連動して，時間帯により特定の通知を抑止することが可能です。
- フィルタリング機能により，条件に合致する連絡網に対し「発信する」，「発信しない」を設定することが可能です。

(d) カレンダー・スケジュール機能

カレンダー機能はお客様にあわせた平日・休日を設定します。スケジュール機能ではお客様の運用などにあわせて，各通知メディアへの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。スケジュールは平日・休日のそれぞれが設定できます。

カレンダーとスケジュールを組み合わせて設定することで，平日・休日の各通知メディアの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。

(e) 受信メール連携ルールを定義する機能

本サービス宛の受信メールの内容を元に，通知を実行するための条件（フィルタ条件），実行する連絡網名，通知内容を定義します。

受信メール連携ルールには，以下のような設定が可能です。

- メールの「送信元メールアドレス」「メール件名」「メール内容」に含まれる文字列で，通知を実行するかどうかのフィルタ条件を定義します。
- 実行する通知は，登録済の連絡網から選択します。
- 通知内容には，受信したメールの内容を指定することも可能です。

(f) 発信履歴を集計する機能

発信履歴を集計する機能では，期間などを指定し，集計した結果をデータ表で参照することが可能です。

また，発信履歴を元に，連絡網の電話通知の発信順序を自動調整する機能も提供しています。

(g) 同一発信を集約・間引きする機能

同一発信を集約・間引きする機能では，連絡網による通知において指定された時間

内で同一の発信を集約・間引きすることが可能です。

集約では，最初の通知を受け付けてから指定された時間を待ってから実際の通知が行われます。その間の同一の通知は行われません。集約された件数が 1 件以上ある場合，通知文の先頭に以下の文言が追加されます。

「同一通知があり、N 件集約しました。」

そのためその分の通知文の最大文字数は減ることになるのでご注意ください。

間引きでは，最初の通知を行った後，指定された時間内の同一の通知は行われません。

(h) サブアカウントを発行及び管理する機能

本ドキュメントでは，契約時に発行されたアカウントを「管理者アカウント」，管理者アカウントにより発行されたアカウントを「サブアカウント」と呼ぶことにします。

管理者アカウントでは，サブアカウントを発行し，サブアカウント毎にユーザや連絡網などを定義することが可能です。ログは管理者アカウントとサブアカウントで共通です。サブアカウントで連絡網，ユーザまたは各プロファイルを定義する際，サブアカウント間で重複した名称を使用することはできません。サブアカウントでこれらの情報を定義する場合はサブアカウント名を付与するなどして、重複しないようにしてください。

管理者アカウントとサブアカウントでそれぞれできることの詳細は「5.13 サブアカウント一覧画面」を参照ください。

(i) ワンタイムパスワードを発行する機能

Web 画面（GUI）へサインインする際に，アカウントとパスワードによる認証に加え，ワンタイムパスワードによる認証を設定することが可能です。詳細は「5.5 アカウント設定画面」を参照ください。

(j) ロールによるリソース管理を行う機能

定義情報を通報リソースとして管理しロールや権限を付与することで，通報リソースの共有や制限を可能にします。ロールによるリソース管理を行う際の注意事項は「4.9 ロールによるリソース管理機能を使用する場合の注意事項」を参照してください。

通報リソースとして扱う定義情報

ユーザ，連絡網(※1)，Twilioプロファイル

(※1)連絡網は１つのリソースグループのみに登録できます。

ロールによるリソース管理を行う際に必要な設定

1. 管理者アカウントでログインし「5.7 リソース管理方法の変更画面」で「サブアカウントによるリソース管理」から「ロールによるリソース管理」に変更する。一度ログアウトし，再度管理者アカウントでログインしなおす。
   注：2026/9 以前から TELstaff クラウド型通報管理サービスを使用していた場合のみ実施。
2. 「5.8 ロール一覧」で任意のロールを作成し，サブアカウントを紐づける。
3. 「5.11 リソースグループ一覧」で任意のリソースグループを作成し，リソースを紐づける。

4. 「5.10 ロールへのリソース割り当て画面」でロールとリソースグループを紐づけ，権限を付与する。

(2) コマンド

お客様システムに本サービスが提供するコマンドを配置し，本サービスへ通知の依頼を行う場合に使用します。お客様システムと連動させ，任意のタイミングでコマンドを呼び出して通知の依頼を実行します。通知の依頼を行うコマンドだけでなく，運用管理で必要なコマンドも提供します。

(3) API

コマンドが提供する機能と，同等の処理が行える API を提供します。
API は，REST（Representational State Transfer）アーキテクチャスタイルの API です。
コマンドと同様に，お客様システムと連動させ，任意のタイミングで API を呼び出して通知の依頼を実行します。通知の依頼を行う API だけでなく，運用管理で必要な API も提供します。

(4) カスタムジョブ

お客様システムに本サービスが提供するコマンドとカスタムジョブを配置し， JP1/AJS のカスタムジョブとして，本サービスへの連絡網通知が実行可能となります。カスタムジョブでは，通知を依頼するだけでなく，その結果の取得まで行います。
カスタムジョブは，内部でコマンドを動作させていますので，コマンドの配置や設定も必要となります。
カスタムジョブの終了コードは通知依頼の成否だけでなく，通知依頼結果で終了コードが設定されます。詳細は「9.3.3 カスタムジョブの実行結果」を参照ください。

(5) 受信メール連携機能

本サービスが発行する専用のメールアドレス宛にメールを送信していただくことにより，通知を実行する機能です。
お客様が送信したメール内容（本サービス側では，受信したメールの内容）が「2.1(1)(e) 受信メール連携ルールを定義する機能」で定義されたフィルタ条件に一致した場合またはいずれの条件にも一致しなかった場合に，指定された連絡網を実行します。定義画面に関しては「5.44 受信メール連携一覧」「5.45 受信メール連携ルール画面」を参照ください。

(a) 送信元メールアドレスの検証方法

送信元のメールアドレス（From）は，お客様のシステム内だけでなく，外部サービスなどが送信元でも構いません。送信元は，SPF（Sender Policy Framework）により検証を行います。不正な送信元からのメールは，受信メール連携の対象から除外されます。

(b) 送信元が本サービスのメールの扱い

本サービスで受信したメールが，本サービスから送付されたものである場合，受信メール連携の対象から除外されます。

(c) スパムメール，ウイルスメールの扱い

本サービスで受信したメールが，スパムメールまたは，ウイルスメールと判断された

場合，受信メール連携の対象から除外されます。

(d) メール本文に関して

受信したメールの本文は，テキスト部がテキスト(Content-Type: text/plain)または HTML(Content-Type: text/html)で作成されたパートが対象となります。

(e) 文字コードに関して

受信したメールの文字エンコーディング(Content-Type ヘッダの charset フィールド)は，以下の方式のみサポートします。

・windwos-31j
・shift_jis
・shift-jis
・iso-2022-jp
・utf-8

上記以外の charset フィールドが指定された場合は，utf-8 として処理します。そのため，フィルタ条件の判定が正しく動作しない場合があります。

(f) フィルタ条件の項目に特殊文字を指定した場合

フィルタ条件の項目に記号などの特殊文字を指定した場合，メール送信元の文字エンコーディング方式によっては，条件に一致しないことがあります。記号などを含むメールを送信する場合で，かつ文字エンコーディング方式を指定可能な場合は，UTF-8 としてメールを送信することを推奨します。

(g) メールサイズに関して

受信できるメールのサイズは 30MB までとなります。30MB 以上のメールは，受信メール連携の対象から除外されます。

(h) 本サービスで受信したメールに関して

本サービスで受信したメールは，受信メール連携の処理を行った後，即時に削除します。保存は行いません。

(i) 発信制限に関して

受信メール連携から実行された通知も発信制限の対象となります。本サービスへ大量のメールを送信しないよう送信回数を制御してください。

発信制限の詳細に関しては，「4.1 発信制限に関して」を参照ください。

(j) 受信メール連携のルール定義に関して

受信メール連携ルールを定義する際，同じフィルタ条件で複数のルールを大量に定義しないでください。

1 通のメールを送信（本システム側では受信）することで，大量のルールが成立し，大量の連絡網を実行しようとした場合，すべての通知が実行されない可能性があります。

1 通のメールを送信（本システム側では受信）することで，成立する受信メール連携ルールは，5件以下としてください。

(6) メール送信機能

本サービスが提供するメール送信の機能を使用してメール送信を行います。お客様にて，メールサーバを準備していただく必要はありません。

メール送信機能を使用する場合には，本サービス申し込み時，または，変更申し込み時に，利用の申請をしていただく必要があります。申請していただいたお客様には，専用の送信元のメールアドレス（From）を割り当てお知らせします。利用の申請がない場合，メール送信機能は使用できません。

メール送信機能には，運用上の制限事項がありますので「4.8 メール送信機能を使用する場合の制限事項」の記載を必ずご確認ください。

(7) 操作証跡

画面上などで操作したログを記録します。操作証跡の記録対象は以下の通りです。

・Web 画面（GUI）へのサインイン及びサインアウト
・Web 画面（GUI）での登録，削除，変更，参照（一覧の参照以外）
・発信履歴レポート画面の参照
・コマンド&マニュアルのダウンロード
・一部のコマンド実行
tlscbase user import 通知先ユーザ定義登録コマンド
tlscbase user export 通知先ユーザ定義取得コマンド
tlscbase user delete 通知先ユーザ定義削除コマンド
tlscbase net import 連絡網定義登録コマンド
tlscbase net export 連絡網定義取得コマンド
tlscbase net delete 連絡網定義削除コマンド
tlscbase line roomcreate LINE WORKS トークルーム作成コマンド
tlscbase logget ログ取得コマンド

操作証跡のログは 1 年間分を保持し，コマンドにより取得可能です。詳細は「6.2.19 操作証跡取得コマンド」及び「10.3 操作証跡メッセージ一覧」を参照ください。管理者アカウントで操作証跡ログを取得した場合はすべてのアカウントの情報を取得します。サブアカウントで操作証跡ログを取得した場合は自身のサブアカウントの情報のみ取得します。

(8) 生成AI連携機能

生成 AI 連携機能は，外部の生成 AI と連携して，通知文を自動的に要約，和訳し，元の通知文に追記する機能です。その特性上，以下の点にご留意ください。

・要約，和訳結果は必ずしも正確性・完全性を保証するものではありません。
・入力内容の文脈や重要な情報が省略または改変される場合があります。
・要約，和訳結果に基づく判断・意思決定については，利用者ご自身の責任において行ってください。
・発信時に遅延が発生する可能性があります。

本機能を利用する場合，入力内容に含まれる機密情報や個人情報は生成 AI に引き渡され，連携する生成 AI の規約に基づき処理されます。十分にご確認の上，ご利用ください。

本機能の生成 AI 実行基盤は Amazon Bedrock です。動作検証済みモデルは Claude Sonnet 4.5 です。

生成 AI 連携機能が有効になっていても，下記場合には要約，和訳を行わず，元の通知文だけを発信します。

・外部の生成 AI との接続に失敗した場合
・生成 AI 環境からのレスポンス通知文が空の場合
・元となる通知文が 3,001 文字以上の場合

生成 AI 連携機能で対象となる発信は，連絡網発信の電話通知，メール通知（メール一括送信含む）です。

生成 AI 連携機能で使用するプロンプトを示します。ユーザによる変更はできません。

・system プロンプト

```
あなたは オンコール担当向け通知文を作成するアシスタントです。
入力として渡される元の通知文または、ログを分析し、電話通知・メール通知の
いずれにも転用できる汎用的な通知文を日本語で要約してください。
出力は必ず次の構成にしてください。

- 何が起きたかを簡潔に記述

共通ルール:
- 元のアラートに無い事実は作らない
- 具体的なホスト名/サービス名/件数があれば含める
- 冗長な前置きは禁止
- 最終回答は通知文のみ（補足説明は不要）
```

・user プロンプト

```
以下の通知文を要約してください
---
（原文）
---
```

3.セットアップ

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスを使用するための設定について説明します。

3.1 外部通信サービスへ通知するための設定

3.2 コマンド配置と設定ファイル

3.3 マシン時刻の設定

3.1 外部通信サービスへ通知するための設定

本サービスから，外部通信サービスへの通知の依頼を行うためには，お客様が使用する外部通信サービス側の情報を本サービス側にあらかじめ設定しておく必要があります。本章では，各外部通信サービスから取得する情報に関して説明します。

なお，本章で取得した情報は，5 章 Web 画面に記載した，各外部サービスの接続先プロファイル画面を使用し設定します。

(1) Twilioへ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) Twilioの状態を確認する

Twilio 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- 電話への通知(※1)
- SMS への通知（SMS への通知を行わない場合，確認は不要）

上記の操作が実施できない場合，電話通知，SMS 通知はエラー終了します。Twilio 側にて設定などを行い，上記の操作が可能な状態としてください。

(※1)：日本語で音声を再生する場合，Twilio の DEFAULT VOICE に「ja-JP」の値を設定してください。DEFAULT VOICE は Text-to-Speech 画面（Dashboard 画面の左メニューVoice から Settings メニューの Text-to-Speech をクリックすると開かれます。）から確認できます。

(b) Twilioから必要な情報を取得する

Twilio へ発信を行うためには，Twilio 側の情報が必要となります。Twilio を参照，または必要な情報を登録し，以下の情報を取得してください。

- AccountSID

  Twilio のユーザ名として扱われる，アカウント SID が必要となります。

- AuthToken

  Twilio のパスワードとして扱われる，AuthToken が必要となります。

- 発信元電話番号

  Twilio で購入した，発信元電話番号が必要となります。

- SMS 発信元電話番号

  SMS への通知を行う場合は，Twilio 側で取得した，SMS の発信が可能な電話番号が必要となります。

【以下の Functions と電話フローは Twilio への登録を行います】

- Functions を登録する

  Twilio へ Functions を登録します。登録する内容は，通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルに含まれるテンプレートを使用します。

登録した Functions は，電話フローの flow_end に設定します。

以下に，Functions 登録の概要を記載します。記載した Twilio の画面名や項目名は，2023 年 11 月時点での内容となります。詳細な内容に関しましては，Twilio へお問い合わせください。

1. Twilio へログインし，Dashboard 画面の左メニューから Functions and Assets をクリックします。Overview 画面から Create Service をクリックします。

2.サービス名に任意の名称を入力し Next ボタンを押下します。

3.Ceate your function ボタンを押下します。

4.Functions で，任意のパスを入力します。

5.Functions のコードを登録します。

Functions のテンプレートは，通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルの以下に配置されています。

¥extarnals¥twilio¥studio¥twilio_functions_for_telstaff.txt

このファイルをエディタで開き，全体をコピーして，貼り付け(※1)して，Save ボタンを押下します。

6. Deploy All ボタンを押下します。

- 電話フローを登録し FlowSid を取得する

Twilio の電話フローの FlowSid（SID）が必要です。電話フローの内容は，通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルに付属するテンプレートを使用します。

Twilio の Twilio Studio から電話フローを登録します。登録が完了すると，電話フローの FlowSid（SID）が取得可能となります。

以下に，Twilio Studio での電話フロー登録の概要を記載します。記載した Twilio の画面名や項目名は，2023 年 11 月時点での内容となります。詳細な内容に関しましては，Twilio へお問い合わせください。

1. Twilio へログインし，Dashboard 画面の左メニューから Studio をクリックします。Overview 画面から Create new Flow ボタンを押下します。

2. New Flow ダイアログで，任意の FLOW NAME を入力し，Next ボタンを押下します。次の画面で Import from JSON をクリックし，Next ボタンを押下します。

3. 次の JSON 編集のダイアログで，電話フローの JSON を登録します。

電話フローのテンプレートは，通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルの以下に配置されています。

¥extarnals¥twilio¥studio¥tels_app.json

このファイルをエディタで開き，全体をコピーして，JSON 編集のダイアログへ張り付け(※1)して，Next ボタンを押下します。

英語でメッセージを再生する場合，電話フローのテンプレートは

¥extarnals¥twilio¥studio¥tels_app_en.json

を使用してください。

4. Flow の Editor 画面が表示されます。フローの最後の「flow_end」部分をクリックします。RUN FUNCTION ダイアログが表示されるので，SERVICE の項目で，前項目で登録したサービス名を選択します。次に ENVIRONMENT で ui を選択します。次に FUNCTION 項目で，前項目で登録した Functions を選択し，Save ボタンを押下します。この時，画面上部の Publish ボタンが活性化されますので，続けて Publish ボタンを押下します。

5. Studio の Overview 画面に戻り，一覧から登録した電話フローを探して，SID 項目に表示されている値（FlowSid）をコピーします。

(※1)：Functions のテンプレート(twilio_functions_for_telstaff.txt)，電話フローのテンプレート(tels_app.json)の内容は変更せず使用してください。変更した場合，音声の読み上げやプッシュボタン操作ができなくなることがあります。変更して使用した場合，動作保証の対象外となります。

取得した以下の情報を Web 画面「5.18 Twilio プロファイル画面」から登録します。

- AccountSID
- AuthToken
- 発信元電話番号
- SMS 発信元電話番号
- 電話フローの FlowSid（SID）

(2) LINE WORKS へ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) LINE WORKS の状態を確認する

LINE WORKS 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- トークルームの作成
- トークルームへのメッセージ投稿
- メンバーへメッセージ通知

上記の操作が実施できない場合，LINE WORKS への通知はエラー終了します。LINE WORKS 側にて設定などを行い，上記の操作が可能な状態としてください。

(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する

LINE WORKS へ発信を行うためには，LINE WORKS の情報が必要となります。LINE WORKS の Developer Console 画面などを参照し，以下の情報を取得する，または必要な情報を登録してください。

- Bot No

  利用設定されている Bot No が必要です。トークルームへメッセージの投稿を行う場合，指定する Bot No の Bot があらかじめトークルームに招待されている必要があります。招待されていない Bot の Bot No を指定した場合，トークルームへのメッセージ投稿はエラーとなります。

LINE WORKS API のバージョン 1.0 の場合

- API ID
- Server API Consumer Key
- Server List ID（ID 登録タイプ）

  発行された ID を取得し，ID 登録タイプの認証キー（Server List Auth Key）ファイルもダウンロードします。

LINE WORKS API のバージョン 2.0 の場合

- Client ID
- Client Secret
- Service Account
- 発行された ID を取得し，登録したアプリの Private Key ファイルもダウンロードします。

取得した以下の情報を Web 画面「5.20　LINE WORKS プロファイル画面」から登録します。

- Bot No

LINE WORKS API のバージョン 1.0 の場合

- API ID
- Server API Consumer Key
- Server List ID
- ダウンロードした ID 登録タイプの認証キー（Server List Auth Key）ファイル

LINE WORKS API のバージョン 2.0 の場合

- Client ID
- Client Secret
- Service Account
- ダウンロードした，登録したアプリの Private Key ファイル

(3) Slackへ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) Slackの状態を確認する

Slack 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- チャンネルへの投稿
- メンバーへメッセージを送信

上記の操作が実施できない場合，Slack への通知はエラー終了します。Slack 側にて設定などを行い，上記の操作が可能な状態としてください。

(b) Slack から必要な情報を取得する

Slack へ発信を行うためには，Slack の情報が必要となります。Slack を参照する，または必要な情報を作成し，以下の情報を取得してください。

- App と Token

  Slack へ発信を行うためには，権限を付与し生成した Token（Bot User Oauth Access Token または Oauth Access Token）が必要となります。Token を生成する App がない場合，App から作成してください。また，チャンネルへの投稿を行う場合には，Token を生成した App をあらかじめ，チャンネルに追加しておく必要があります。

  Token に必要な権限に関して

  Token（Bot User Oauth Access Token または Oauth Access Token）に付与する権限に関して記載します。権限が不足している場合，Slack への発信はエラーとなります。

  ・ワークスペース内のチャンネルへの投稿
  chat:write
  files:write
  ・メンバーへのダイレクトメッセージの送信
  chat:write
  files:write
  im:write
  ・ワークスペースに参加しているメンバー一覧を取得
  users:read

  ※App の作成，Token の作成，チャンネルへの追加，Token への権限付与 の詳細に関しては，Slack へお問い合わせください

取得した以下の情報を Web 画面「5.22 Slack プロファイル画面」から登録します。

- Token

(4) Microsoft Teamsへ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) Microsoft Teams から必要な情報を取得する

Microsoft Teams へ発信を行うためには，投稿するチャネルに対応する Incoming Webhook の URL 情報を取得する必要があります。

- Microsoft Teams チャネルに対応する URL 情報

以下に，Microsoft Teams からの Incoming Webhook の URL 情報を取得する概要を記載します。
記載した Microsoft Teams の画面名や項目名は，2022 年 3 月時点での内容となります。
詳細な内容に関しましては，Microsoft Teams へお問い合わせください。

1. Microsoft Teams へログインし，投稿するチャネルを選択し，その他のオプションをクリックします。メニューから，コネクタを選択します。
2. チャネルのコネクタ画面で，Incoming Webhook の構成ボタンを押下します。Incoming Webhook の名前に任意の名前を指定し，作成ボタンを押下します。URL が表示されたらコピーして取得します。完了ボタンを押下します。

Incoming Webhook は 2024 年 10 月 1 日以降使用できなくなるため，代替手段として以下をご利用ください。

以下に，Microsoft Teams からの Workflows を設定し URL 情報を取得する概要を記載します。
記載した Microsoft Teams の画面名や項目名は，2026 年 8 月時点での内容となります。
詳細な内容に関しましては，Microsoft Teams へお問い合わせください。

1. Microsoft Teams へログインし，メッセージを投稿したいチャネルを選択，「…」から「ワークフロー」を選択します。
2. 「テンプレートから始める」で「Webhook アラートをチャネルに送信する」テンプレートを選択します。
3. ワークフローの「チャネルが所属するチーム」と「チャネル」に選択したチーム名およびチャネル名が表示されていることを確認し「保存」を 押下します。
4. 作成したワークフロー画面で「戻る」を押下します。
5. 作成したワークフローを選択し，「…」から「管理」を選択します。
6. ブラウザ上で「Power Automate」が起動し，作成したワークフローが表示されます。
7. ワークフローの「編集」を押下します。
8. ワークフローの「Initialize variable (Attachments)」と「Attachments is null」の間の「＋」を押下します。
9. 「アクションを追加する」で「Microsoft Teams」を選択します。
10. 「チャットまたはチャネルでメッセージを投稿する」を選択します。
11. 「投稿者」に「フローボット」，「投稿先」に「チャネル」，「チーム」と「チャネル」に投稿したいチーム，チャネルをそれぞれ指定します。「メッセージ」には任意のメッセージを入力してください。
12. 「チャットまたはチャネルでメッセージを投稿する」画面を閉じます。
13. ワークフロー末尾の「Attachments is null」を削除します。
14. ワークフローを保存し，「戻る」を押下します。
15. 作成したワークフローの「状況」が「オン」であることを確認してください。
16. Microsoft Teams に戻り，作成したワークフローを選択，「…」から「詳細」を選択します。
17. 「Webhook リンクをコピー」を押下し，Microsoft Teams チャネルに対応する URL

情報を取得します。

取得した以下の情報を Web 画面「5.24 Microsoft Teams プロファイル画面」から登録します。

- Microsoft Teams チャネルに対応する URL 情報

(5) 楽天モバイルへ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) 楽天モバイルの状態を確認する

楽天モバイル側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- SMS への通知

上記の操作が実施できない場合，楽天モバイルへの通知はエラー終了します。楽天モバイル側にて設定などを行い，上記の操作が可能な状態としてください。

(b) 楽天モバイルから必要な情報を取得する

楽天モバイルへ発信を行うためには，楽天モバイルの情報が必要となります。楽天モバイルを参照する，または必要な情報を作成し，以下の情報を取得してください。

- API KEY

  楽天モバイルのユーザ名として扱われる，API Key が必要となります。

- Secret

  楽天モバイルのパスワードとして扱われる，Secret が必要となります。

- fromID

  楽天モバイルで登録した，送信元 ID である fromID（発信元電話番号）が必要となります。

詳細な内容に関しましては，楽天モバイルへお問合せください。

取得した以下の情報を Web 画面「5.26 楽天モバイルプロファイル画面」から登録します。

- API KEY
- Secret
- fromID

(6) 信号灯へ発信する際の事前準備と必要な情報

※本サービスから信号灯への通知を行う場合には，信号灯通知プランのご契約が必要です。

(a) 信号灯の状態を確認する

信号灯側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- 各種ランプの点灯

上記の操作が実施できない場合，信号灯への通知はエラー終了します。信号灯側にて設定などを行い，上記の操作が可能な状態としてください。

【外部インターネットへの接続確認手順】

1. 「本体設定」タブの「インターネット接続確認」をクリックし，ホーム画面に移動する。
2. 接続先アドレスを入力する。
3. 「テスト実行」ボタンをクリックする。
4. ポップアップダイアログに接続結果が表示される。
5. 内容を確認し，「OK」ボタンをクリックする。

⇒接続に失敗した場合，製品本体がインターネットに接続されていないので，表示されたメッセージを確認し，対処してください。「4.3(5) 信号灯へ発信する際の注意事項」を参照ください。

(b) 信号灯の準備として必要な情報を取得する

信号灯へ発信を行うためには，信号灯の情報が必要となります。送付された案内書を参照し，以下の情報を取得してください。

- 接続先
- クライアント ID
- クライアント証明書
- クライアント秘密鍵
- ルート CA 証明書

詳細な内容に関しましては，サポート窓口へお問い合わせください

【接続設定手順】

1. 信号灯のコンソール画面にログインする。
2. 「クラウド設定」－「AWS 接続設定」にアクセスする。
3. 以下の設定項目に送付された案内書の情報を入力してください。
   ・接続先
   ・クライアント ID
   ※Subscribe トピック，Publish トピックは未入力にしてください
4. 以下の設定項目に送付された証明書をアップロードしてください。
   ・ルート CA 証明書
   「AmazonRootCA1.pem」という名前のファイルを選択します。
   ・クライアント証明書
   ファイル名の末尾が「certificate.pem.crt」のファイルを選択します。
   ・クライアント秘密鍵
   ファイル名の末尾が「private.pem.key」のファイルを選択します。
5. イベントログで接続を確認してください。
   信号灯のコンソール画面、左メニューの「管理」－「イベントログ」にアクセスする。
   イベントログの内容に「AWS CONNECTED」と表示されていると接続成功です。
   詳細は信号灯のマニュアル「AWS 接続設定をおこなう」をご参考ください。

取得した以下の情報を Web 画面「5.30 信号灯プロファイル画面」から登録します。

- クライアント ID

(7) メール発信する際の注意事項

(a) お客様が準備したメールサーバを使用する場合

メールサーバの情報は Web 画面「5.16 メールサーバ登録画面」から登録します。

- 使用するメールサーバはインターネットからアクセス可能である必要があります。
- メールサーバの対応可能なプロトコルは SMTP，SMTPS，SMTP+STARTTLS です。使用可能な認証方式は，SMTP-AUTH（PLAIN，LOGIN，CRAM-MD5）です。
- 送信メールの発信者情報（From:），送信者名（From）は「5.16 メールサーバ登録画面」で指定した「送信メールアドレス」「送信者名」が使用されます。
- 件名の内容は，コマンドではパラメタで，API ではリクエストデータで，カスタムジョブではジョブ定義で指定します。件名は，200 文字以内で指定します。

(b) 本サービスのメール送信機能を使用する場合

メール送信機能を使用する設定は Web 画面「5.16 メールサーバ登録画面」で設定します。

- 送信メールの発信者情報（From:）は，お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）が使用されます。
- 送信メールの送信者名（From）は「5.16 メールサーバ登録画面」で指定した「送信者名」が使用されます。
- 件名の内容は，コマンドではパラメタで，API ではリクエストデータで，カスタムジョブではジョブ定義で指定します。件名は，200 文字以内で指定します。

3.2 コマンド配置と設定ファイル

本サービスが提供するコマンドを使用して通知の依頼を行う場合，本サービスが提供するカスタムジョブを使用して通知の依頼を行う場合にも，お客様システム側にコマンドを配置し，設定ファイルに必要な値を設定する必要があります。コマンドは Windows 用と Linux 用がありますが，コマンドの使用例および，コマンドにて使用する設定ファイルに指定するフォルダ，ファイルパスは原則として Windows を基準に記載しています。Linux 上で使用する場合は読み替えてください。

(1) コマンド等の圧縮ファイルからコマンドと設定ファイルをコピーする

通報管理サービスよりダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルから，コマンド(Windows版：tlscbase.exe，Linux版：tlscbase) と コマンド設定ファイル(tlscbase.conf)のサンプルを上位フォルダも含めてコピーしてお客様環境へ配置します。

コマンド等の圧縮ファイルに含まれる代表的なフォルダを以下に示します。

```
saas_command.zip
├──cmd
│   ├──bin
│   │   └──tlscbase.exe
│   └──etc
│       └──tlscbase.conf
│
├──linux
│   ├──bin
│   │   └──tlscbase
│   └──etc
│       └──tlscbase.conf
│
├──custom_job
│   └──custom_job.zip
├──doc
│   └──telsaas_manual.pdf
└──externals
    └──twilio
        └──studio
            ├──tels_app.json
            ├──tels_app_en.json
            └──twilio_functions_for_telstaff.txt
```

点線で囲われた部分をフォルダも含めてコピーして配置します。

図 3.2-1 コマンド等の圧縮ファイルからコピーするフォルダ

配置先フォルダは任意のフォルダで構いませんが，コマンド実行時にログファイルを出力するためのフォルダ（Windows 版：¥var¥log フォルダ，Linux 版：var/log フォルダ）を作成します。ログフォルダには書き込み権限が必要です。

(2) コマンド設定ファイルを編集する

通報管理サービスよりダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルから，コピーして配置した，コマンド設定ファイル (tlscbase.conf)の内容を設定します。

ログの出力先や本サービスへのサインイン情報などをコマンド設定ファイル

(tlscbase.conf)に記載します。コマンド設定ファイルの文字コードは UTF-8 で記載し，BOM なしで作成してください。BOM 付きで作成する場合には，先頭に空行あるいはコメント行を入れてください。
以下，コマンド設定ファイルの内容に関して記載します。

表 3.2-1 コマンド設定ファイルの内容

セクション(※1)	キー(※1)	必須	設定内容
General	LogPath		コマンドが出力するログの出力フォルダ名を完全名で指定します。3～260 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。省略した場合，＜コマンドを配置したフォルダ＞¥var¥log フォルダへ出力します。
	LogSizeLimit		ログの最大サイズを指定します。1～9999 の値と単位を指定します。単位は数値に続けて KB または MB を指定します。単位を省略した場合，KB となります。省略時は 5120KB（5MB）です。ログサイズが上限に達した場合，1 世代バックアップを採取し，その後ログファイルの先頭からログを記録します。
	WebServer	○	本サービスの「接続先 URL」を指定します。 本サービス申し込み時にご連絡している，接続先 URL を指定します。 指定例）https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx 「https」で始まり，最後に「/」は付与しません。
	AuthUser	○	本サービスへサインインするための，「アカウント ID」を指定します。 （本サービス申し込み時にご連絡しています）
	SubAccount		サブアカウントで本サービスへサインインするためのサブアカウント名を指定します。サブアカウントは管理者アカウントが発行できます。
	AuthPass	○	本サービスへサインインするための，「パスワード」を指定します。 （本サービス申し込み時にご連絡していますが，パスワード変更を行った場合，変更後のパスワードを指定してください）
	RoomConfPath		LINE WORKS 用のトークルーム名とトークルーム ID の関連付けをしたルーム ID 記録ファイル名を完全名で指定します。3～260 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。省略した場合，＜コマンドを配置したフォルダ＞¥etc¥room.conf を使用します。
	ExecuteCount		REST API へのリクエストの実行回数です。REST API へのリクエストが失敗時にリクエストを実行する回数を 1 から 100 の間の数字で指定します。省略した場合の値は 1 です。
	SleepSecond		ExecuteCount の再送間隔(秒)を 0 から 100 の間の数字で指定します。省略した場合の値は 0 です。

セクション(※1)	キー(※1)	必須	設定内容
	Lang		コマンドが出力するログの言語を「Japanese」あるいは「English」から選択します。未指定あるいは「Japanese」「English」以外が指定されたときは「Japanese」が指定されたものとします。 また，コマンド引数エラー，コマンド設定ファイル誤りについてはLangの指定値に関わらず日本語で出力されます。
Http	RequestTimeout		コマンドを実行してからレスポンスが返るまでの最大待ち時間(秒)を5から86400の間の数字で指定します。省略した場合の値は180です。

※1：セクション名・キー名には，大文字・小文字の区別がありますので，大文字・小文字の誤りがないように設定してください。

設定例）tlscbase.conf

```
[General]
WebServer=https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx
AuthUser=user1011
AuthPass=passxxxxxxxxx
RoomConfPath=C:¥temp¥TELSaas¥etc¥room.conf
ExecuteCount=1
SleepSecond=10
```

(3) ルームID記録ファイルに関して

ルーム ID 記録ファイル(room.conf)は，トークルーム名とトークルーム ID の関連付けを記録するファイルです。

本ファイルは，LINE WORKS のトークルームへ投稿を行わない場合には，使用しません。

- LINE WORKS トークルームの作成を「6.2.15 LINE WORKS トークルーム作成コマンド」から実施した場合，本ファイルに自動的に作成した内容（トークルーム名，トークルーム ID）を追加します。
- LINE WORKS への通知でトークルームへの投稿を「6.2.4 LINE WORKS 投稿コマンド」から行なう場合，本ファイルを参照します。
- お客様側で既にご使用されているトークルームのトークルーム名とトークルーム ID が明確な場合，トークルーム名とトークルーム ID を本ファイルに記載することで，メッセージの投稿先として使用することが可能です。

  使用が可能なケースと条件：

  既に使用している LINE WORKS のトークルームがあり，且つ，トークルームのトークルーム名とトークルーム ID が明確な場合，LINE WORKS から取得したトークルーム名，トークルーム ID を本ファイルに記載します。

  トークルーム名とトークルーム ID が不明確な場合には，既に使用している LINE WORKS のトークルームへの投稿はできません。

本ファイルは ini ファイル形式で設定します。「;」（セミコロン），「#」（シャープ）から始まる行はコメントとして扱われますが，トークルーム作成コマンドを実行した場合，コメント行，空白行は削除されます。また，トークルーム名の並びはトークルーム名でソートされます。ルーム ID 記録ファイルの文字コードは，UTF-8 で記述してください。

既存のトークルームのトークルーム ID が不明確な場合，ルーム ID 記録ファイルの記載は不要ですが，トークルーム作成コマンドを実行して，投稿先のトークルームをあらかじめ作成しておく必要があります。

ルーム ID 記録ファイルは，以下のフォルダに配置します。

＜コマンドを配置したフォルダ＞¥etc¥room.conf

表 3.2-2　ルームID記録ファイルの内容

セクション	キー	設定内容
Room	ルーム名	LINE WORKS のトークルーム名をキーに設定し，トークルーム ID を値に設定します。 tlscbase コマンドで，トークルーム作成を行った場合，自動的にトークルーム名，トークルーム ID を追記します。

設定例）room.conf

```
[Room]
インフラ運用=18811311
お知らせ=18811322
```

3.3 マシン時刻の設定

本サービスの Web 画面（GUI），コマンド，API，カスタムジョブを使用する場合，操作を行うお客様環境のマシン時刻は，インターネット時刻（NTP サーバ）と同期している必要があります。インターネット時刻と同期していない場合，サインイン時に認証エラーが発生する場合があります。

OS の設定に応じてインターネット時刻と同期の設定をお願いします。以下に例として Windows10 の「インターネット時刻（NTP サーバ）」の設定例を示します。

設定例）

(1) スタートメニューの「設定」から「時刻と言語」を表示する。
(2)「インターネット時刻」のタブをクリックする。
(3)「設定の変更」ボタンを押下する。
(4)「インターネット時刻サーバと同期する」をチェックする。
(5)「サーバ」に NTP サーバ(※1)の URL を入力する。
(6)「今すぐ更新」のボタンを押下する。
(7)「OK」ボタンを押下し画面を閉じる。

※1：NTP サーバの URL に関しては，Windows10 標準の「time.windows.com」を指定する，もしくは，お客様システムで決められた NTP サーバの URL を指定してください。

4.運用上の留意事項

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスの運用上の留意事項について説明します。

4.1 発信制限に関して

4.2 性能に関して

4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して

4.4 電話通知の操作と応答に関して

4.5 通知文ファイルに関して

4.6 障害を考慮した運用方法と留意事項

4.7 調査用資料の採取

4.8 メール送信機能を使用する場合の制限事項

4.1 発信制限に関して

(1) 発信制限の内容

本サービスは，多くのユーザと資源を共有するサービスのため，発信制限が設けられています。

- 発信制限を解除することはできません。
- 発信制限の対象となった通知は破棄されます。本サービス側で保留や再実行は行いません。
- 発信制限が発生した場合，制限の内容が Web サービス側のログに出力されます。（ お客様環境のコマンド，カスタムジョブ側のログには，制限の内容は記録されません ）

  ログの内容は「6.2.18 ログ取得コマンド」または「7.2.20 ログ取得 API」を使用して取得してください。Web 画面（GUI）では参照できません。

  発信制限が発生した場合のログ：

  「1019-I {通知メディア} の発信を制限しました。SID:{SID} Limit:{limit}」

  メッセージの詳細に関しては「10.2 メッセージ一覧」を参照ください。
- 発信制限の対象となった通知は「5.47 発信履歴レポート画面」でレポートの対象外となります。

通知メディアごとの発信制限を以下に示します。

表 4.1-1 通知メディアごとの発信制限

通知メディア	発信制限（1 分間の通知件数）(※1)
電話通知	60 件／分
SMS 通知	60 件／分
LINE WORKS への通知	60 件／分
Slack への通知	60 件／分
Microsoft Teams への通知	60 件／分
信号灯への通知	60 件／分
メール通知	60 件／分(※2)
外部 API 連携での通知	60 件／分
メール一括送信での通知	60 件／分

※1：発信制限の件数は実際に発信したものだけをカウントします。
　　カレンダー・スケジュール機能での抑止や発信制限された発信はカウントしません。
※2：1 日または短時間に多くのメール通知を実行することはできません。

大量の通知が実行された場合など，発信制限の対象となった通知は破棄されます。このため，必要な通知が通知先に届かなくなる可能性があります。本サービス側で対処は行えませんので，通知を依頼するお客様のシステム側で「一定間隔に同じ内容を通知しない」や「不要な通知は実行しない」などの予防策を実施して通知回数を制御してください。

4.2 性能に関して

(1) 受信性能の内容

受信性能とは，本サービスが単位時間あたりの最大のリクエストの受け付けを行う性能を意味します。受信性能として，個別発信，連絡網発信を合わせて「60 件/分」の性能を保証します。

・個別発信時の場合，API サーバがリクエストを受け付けてから各通知メディアへのリクエストの送信開始までを指します。
例）60 件のリクエストが同時に実行されたとき，1 番目のリクエストの受け付けから最後のリクエストの各通知メディアへのリクエスト送信開始までを 1 分以内に処理します。

・連絡網発信時の場合，API サーバがリクエストを受け付け，連絡網発信の 1 番目の通知先へのリクエストの送信開始までを指します。
例）60 件のリクエストが同時に実行されたとき、1 番目のリクエストの受け付けから最後の連絡網発信リクエストの 1 番目の通知先へのリクエストの送信開始までを 1 分以内に処理します。
・アカウントメニューから「大量発信の集約、間引き」機能を実施した場合でも，受信性能は変わりません。

また，受信メール連携の受信性能を 1 通につき 1 ルール適用される条件で 60 件/分を保証します。
例）1 通につき 5 ルールが適用される条件では 12 件/分(60÷5=12)となります。

(2) 発信性能の内容

発信性能とは，本サービスとして単位時間あたりに発信できる性能を意味します。

発信性能は以下 1~3 の内，最も値が小さいものとなります。
1.本サービスとしての性能限界値
2.各外部通信サービスの制限値
3.発信制限の値
例）
1.本サービスとしての性能限界値:4 件/秒->240 件/分
2.外部通信サービスの制限値:14 件/秒->840 件/分
3.発信制限の値:60 件/分
の場合，3.の値が最も小さいため，発信性能は「60 件/分」となります。

本サービス全体の目安となる発信性能は「60 件/分」です。

4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して

外部通信サービス（Twilio，LINE WORKS，Slack, Microsoft Teams，楽天モバイル，信号灯）の注意事項に関して記載します。

(1) Twilio へ発信する際の注意事項

(a) Twilio の制限に関して

本サービスでは，Twilio 側で設けられた制限(※1)に関してチェックは行ないません。コマンドおよび API およびカスタムジョブの呼び出し側にて，Twilio 側の制限などを考慮し，通知の依頼を実行するようにしてください。

※1：2023 年 6 月時点で，以下の主な制限を確認しています。

●電話発信に関して

・1 契約あたり 1 秒 1 コールで発信の速度制限がある。

・1 契約あたり 1 秒につき 1 通話のスピードで処理される。

・短時間に大量のコールを行う場合には，事前に相談する必要がある（1 分間に 50 件を超えるような通話を数十分続ける場合や，100 件以上の発信を一斉に行う場合など）。

・事前に連絡をせず大量の通話を行なった場合，システムや電話キャリア側への影響を考慮し，アカウントが一時的に停止される場合がある。また，高負荷による障害解消に必要な費用は契約者の負担となる。

・読み上げるメッセージ内容は最大 3,000 ユニコード文字であり，日本語の場合，424 文字以下である。

各制限の詳細，その他の制限事項に関しては，Twilio へお問い合わせください。

●SMS 発信に関して

・文字数が多く分割送信された場合，分割された SMS が携帯電話側に届いたときの振る舞いは各キャリア，機器により異なる恐れがありますので，事前に十分テストを行ってください。

送信可能なキャリアの情報，対応する文字の情報，分割送信のルール，制限の詳細，その他に関しては，Twilio へお問い合わせください。

(2) LINE WORKS へ発信する際の注意事項

(a) LINE WORKS の制限に関して

本サービスでは，LINE WORKS 側で設けられた制限(※1)に関してチェックは行ないません。コマンドおよび API およびカスタムジョブの呼び出し側にて，LINE WORKS 側の制限などを考慮し，通知の依頼を実行するようにしてください。

※1：2024 年 6 月時点で，以下の制限を確認しています。

・メッセージ投稿，メッセージ送信するメッセージ文字列は，2,000 文字（半角・全角を問わず文字数）まで

・メッセージ投稿，メッセージ送信は 1 分間に 60 回（フリープランの場合）まで

・メッセージ投稿，メッセージ送信は 1 日に 20,000 回まで
・トークルーム名は，1,000 文字（半角・全角を問わず文字数）まで
各制限の詳細，その他の制限事項に関しては LINE WORKS へお問い合わせください。

(b) LINE WORKS の仕様に関して

本サービスでは，LINE WORKS 側の仕様（2024 年 6 月時点）により，以下の操作はできません。
・LINE (※2)のユーザが招待されているトークルームにメッセージを投稿することはできません。
・メンバーへのメッセージ通知で，LINE (※2)のユーザへメッセージを通知することはできません。
※2：LINE WORKS と LINE は，別のサービスであり，別のアプリケーションです。

(3) Slack へ発信する際の注意事項

(a) Slack の制限に関して

本サービスでは，Slack 側で設けられた制限(※1)に関して，チェックは行ないません。コマンドおよび API およびカスタムジョブの呼び出し側にて，Slack 側の制限などを考慮し，通知の依頼を実行するようにしてください。

※1：2024 年 6 月時点で，以下の制限を確認しています。
・チャンネルへのメッセージ投稿またはメンバーへのダイレクトメッセージの送信で，内部的に動作させる Slack API では，1 秒あたり 1 つのメッセージしか投稿できません。

この制限は動的に Slack で制御され，制限が解除されたように動作する場合もあります。制限に達した場合は，制限値を超えたことを示すエラーメッセージ「Too Many Requests」が出力されますので，間隔をあけて送信を実行してください。

各制限の詳細，その他の制限事項に関しては，Slack へお問い合わせください。

(4) 楽天モバイルへ発信する際の注意事項

(a) 楽天モバイル の制限に関して

本サービスでは，楽天モバイル側で設けられた制限(※1)に関して，チェックは行ないません。コマンドおよび API およびカスタムジョブの呼び出し側にて，楽天モバイル側の制限などを考慮し，通知の依頼を実行するようにしてください。

※1：2024 年 6 月時点で，以下の制限を確認しています。
・文字数が多く分割送信された場合，分割された SMS が携帯電話側に届いたときの振る舞いは各キャリア，機器により異なる恐れがありますので，事前に十分テストを行ってください。
・メッセージ投稿，メッセージ送信するメッセージ文字列は，660 文字（全角）まで
・メッセージ投稿，メッセージ送信は 1 日に 200 回まで

送信可能なキャリアの情報，対応する文字の情報，分割送信のルール，制限の詳細，その他に関しては，楽天モバイルへお問い合わせください。

(5) 信号灯へ発信する際の注意事項

(a) 信号灯 の制限に関して

本サービスでは，信号灯側で設けられた制限(※1)に関して，チェックは行ないません。

※1：2024 年 6 月時点で，以下の制限を確認しています。

・信号灯をインターネット接続する場合はプロキシ認証が不要なインターネット回線，またはLTE ドングルを使用してインターネットへ接続する必要があります。

【信号灯メッセージ確認手順】

1. 信号灯のコンソール画面，左メニューの「管理」－「イベントログ」にアクセスし，イベントログで接続を確認してください。

   イベントログの内容に「AWS CONNECTION_FAILED」または「AWS DISCONNECTED」と表示されているか確認してください。

   「AWS CONNECTION_FAILED」または「AWS DISCONNECTED」と表示されている場合，インターネットへの接続ができていない可能性があります。「3.1(6) 信号灯へ発信する際の事前準備と必要な情報」【外部インターネットへの接続確認手順】を実施し，外部インターネットへ接続できるか確認してください。

制限の詳細，その他に関しては，パトライト社へお問い合わせください。

4.4 電話通知の操作と応答に関して

(1) 電話発信の動作に関して

電話発信の動作などに関して，以下に記載します。

- 電話通知を開始した時点で，コマンドまたはAPIは，発信開始を示す戻り値で終了します。発信先が応答しない，話し中，応答ガイダンスの入力結果など，Twilio側の状況を取得するためには，コマンドまたはAPIで出力されたSidを元に「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」を発行して，発信結果を取得する必要があります。
- カスタムジョブの電話通知に関しては，発信結果を取得し，カスタムジョブの終了コードに結果を設定します。カスタムジョブの終了コードは通知依頼の成否だけでなく，通知依頼結果で終了コードが設定されます。詳細は「9.3.3 カスタムジョブの実行結果」を参照ください。
- 電話通知では，発信の受け付けから 2 分が経過した場合，タイムアウトになります。
- 通知メッセージの操作の応答ガイダンスは，「メッセージを再度聞き直す（操作ボタン：1 ）」「確認する（操作ボタン：2 ）」または「終了する（操作ボタン：# ）」のいずれかとなります。応答ガイダンスの内容は変更できません。
- 通知メッセージ読み上げ，および応答ガイダンスについて，任意のボタン操作でスキップ可能です（2025/9-10 末頃リリース）。Twilio 連携での電話発信を行う環境の場合，Twilio Studio での電話フローで「tels_app.json」もしくは「tels_app_en.json」の再登録が必要となります。
- 通知メッセージ読み上げ途中，または，応答ガイダンスの読み上げ途中に，電話を終了（電話を切る）した場合，２分間，応答が無くなります。後続の通知などがある場合，開始が遅れます。読み上げ途中に電話を終了（電話を切る）しないでください。
- 英単語や数字の読み上げに関して意図した通りに読みあげさせたい場合は，電話読み替え定義をご利用ください。詳細は「5.39 電話読み替え定義画面」を参照ください。
- 電話発信は，AEPE（TELstaff AE Professional Edition）で利用できるIP電話や，AEPE（TELstaff AE Professional Edition）または，AESE（TELstaff AE Standard Edition）でのトリガフォンを使用した電話発信と動作が異なります。

(a) Twilio連携での電話発信の動作に関して

- Twilio への電話通知では，「電話回線数」の概念が無いため，１つの電話通知が終了する前に，次の電話通知(※1)が実行されると，即時(※2)に次の電話通知も実行します。

  また，同じ電話番号に連続して電話通知を実行（前の通話が完了する前に，次の通知を実行）した場合，前の電話が本サービス以外の電話と通話中の間は，後続の電話通知は，話し中となります。前の電話が本サービスと通話中の間は，後続の電話通知は，「HTTP 409 エラー」となります。本サービスでは，同じ電話番

号に対して通話中の場合，電話通知を実行しないなどの制御は行いません。

※1：「次の電話通知」とは，電話発信中に新たに「6.2.1 電話発信コマンド」「6.2.7 連絡網発信コマンド」または「7.2.4 発信受付 API」で電話通知が実行されることを示します。

※2：「即時」にと記載していますが，本サービスには「4.1 発信制限に関して」に記載した発信制限がありますので，この制限の範囲内で電話通知を実行します。

- 日本語，英語での発信に対応していますが，海外への電話発信は保証されません。また日本国内のキャリア回線に対する動作確認を行っていますが，必要に応じて，本番運用前に TELstaff から通知先となる電話番号へ電話発信できることを確認してください。

(b) 電話通知プランでの電話発信の動作に関して

- 最大同時通話数は 2 件です。

  例えば，電話通知を含む連絡網を 10 件実行する場合，最初に発信される 2 件（最大同時通話数）の通話が終了すると，次の 2 件が実行されます。発信の受け付けから 2 分を経過した場合，残りの件数は「タイムアウト」となります。

  例）

  1. 電話通知を 10 件同時に発信
  2. 最大同時通話数分の発信 2 件の受け付けから通話終了までに 1 分経過
  3. 次の発信 2 件の受け付けから通話終了までに 1 分経過（1.の実行から 2 分が経過）
  4. 2.または 3.で発信されなかった残りの 6 件はタイムアウトとして処理

- 読み上げるメッセージ内容は 424 文字以下です。
- 同じ電話番号に連続して電話通知を実行（前の通話が完了する前に，次の通知を実行）した場合，後続の電話通知は，「タイムアウト」となります。本サービスでは，同じ電話番号に対して通話中の場合，電話通知を実行しないなどの制御は行いません。
- 発信先は日本国内のみになります。

(c) 電話通知の流れ

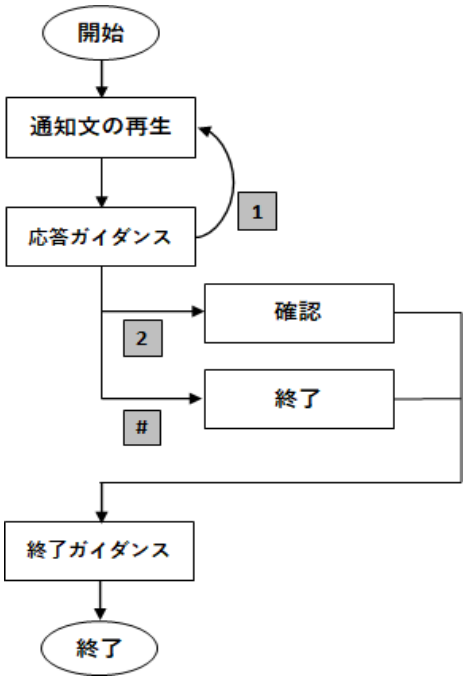


図 4.4-1 電話通知の流れ概要

(2) プッシュ入力操作

電話通知では，プッシュ入力を求めるガイダンスメッセージが流れます。ガイダンスに従いボタンを操作することでプッシュ入力を行ってください。

プッシュ入力すべき番号の桁数は「1 桁」です。1 桁以上の回数プッシュ入力をしても，規定桁数でプッシュ入力は終了します。規定桁数をプッシュしても次のガイダンスメッセージが流れない場合は，一部のプッシュ入力が検知できなかった可能性があります。このような場合，何かの番号をプッシュし（規定桁数を満たすことで入力を完結させ），その後のガイダンスメッセージに進めてください。

プッシュ入力は「10 秒間(※1)」以内に行う必要があります。プッシュ入力操作を行う前に時間が経過すると，不正な番号を入力した場合と同様の入力エラーと扱われます。プッシュ入力がエラーになった場合，「2 回(※1)」まで入力（初回を含めると 3 回）を繰り返すことができます。入力回数を超えると，電話回線を切断します。

なお，短い間隔でプッシュ入力を行うと，番号を検出できないことがあります。

注※1：プッシュ入力の待ち時間「10 秒間」，プッシュ入力の繰り返し回数「2 回」は変更できません。

(3) 通知メッセージ確認と受信操作

(a) 電話通知を受けたとき

電話受信者は通知メッセージを確認し，ガイダンスメッセージに従い以下に示す受信操作を行います。

表 4.4-1 通知メッセージの受信操作方法

受信操作	プッシュ入力値	動作
メッセージを再度聞き直す	1	再度メッセージを通知します。
通知内容を確認する	2	電話発信コマンドの場合(※1)： ・発信を終えます。 連絡網の場合(※2)： 「確認が取れたら中止する」が[OFF]の場合： ・連絡網の後続への通知を続行します。 「確認が取れたら中止する」が[ON]の場合： ・連絡網の後続への通知を中止します。
通知内容を確認せず， 終了する	#	電話発信コマンドの場合(※1)： ・発信を終えます。 連絡網の場合(※2)： ・連絡網の後続への通知を続行します。

※1：「6.2.1 電話発信コマンド」で電話通知する場合
※2：「6.2.7 連絡網発信コマンド」で電話通知を実行する場合

(4) 受信操作と応答結果

(a) 電話通知を受けたときの操作と応答結果

電話受信者の操作（受話しない場合も含む）に対する応答結果を以下に示します。

表 4.4-2 電話通知の応答結果（Twilioの場合）

受信者の操作，通知状況など	電話通知の応答結果（※2）
話し中	話し中（busy）
受信者がプッシュ操作して「#」(終了)を選択	終了操作が行われた（completed）
受信者がプッシュ操作して「2」(確認)を選択	確認操作が行われた（confirmed）
電話番号不正などで電話が通じないなど	エラー（failed）
発信中の場合	発信中（inprogress）
受信者がプッシュ操作をしない （留守番電話が受話した場合を含む）	入力エラー（input error）
受信者が電話に出ない(※1)	相手不在（no answer）
Twilio から応答がない	Twilio からの応答がタイムアウト（twilio timeout）

表 4.4-3 電話通知の応答結果（電話通知プランの場合）

受信者の操作，通知状況など	電話通知の応答結果（※2）
受信者がプッシュ操作して「#」(終了)を選択	終了操作が行われた（completed）
受信者がプッシュ操作して「2」(確認)を選択	確認操作が行われた（confirmed）
電話番号不正などで電話が通じないなど	エラー（failed）
発信中の場合	発信中（inprogress）
電話をかけたが応答がない（話し中，相手不在などの場合も含まれます）	応答がタイムアウト（twilio timeout）
同時通話の待ち時間中にタイムアウトした	応答がタイムアウト（timeout2）

注※1　一定時間以内に電話受信者が電話を受けない場合は，相手不在として扱います。呼

び出し時間は「60 秒間」です。呼び出し時間の変更はできません。

注※2　電話通知の応答結果は「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果です。連絡網の中に複数の電話通知が定義されている場合には，最終的な結果が「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得されます。

4.5 通知文ファイルに関して

通知文ファイルは，通知内容を記載してあらかじめ準備しておき，コマンドのパラメタに指定して使用します。

「6.2.1 電話発信コマンド」「6.2.2 SMS 発信コマンド」「6.2.3 メール発信コマンド」「6.2.4 LINE WORKS 投稿コマンド」「6.2.5 Slack 投稿コマンド」「6.2.6 Microsoft Teams 投稿コマンド」「6.2.7 連絡網発信コマンド」で使用します。

なお，API では，通知文ファイルは使用しません。API では JSON 形式のプロパティに通知内容を文字列で指定します。

(1) 通知文ファイルの規則

- 通知文ファイルには，固有の変数と環境変数が使用できます。各変数の詳細に関しては「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」を参照ください。
- 通知文ファイルに指定可能な文字数は 10,000 文字です。通知文ファイル中に変数が指定されている場合，変数の値を変換した変換後の文字数が 10,000 文字までとなります。

  10,000 文字を超えて指定した場合，10,000 文字を超えた部分を切り捨てます。
- 使用する外部通信サービスごとに文字数や文字コードなどの制限が異なりますが，本サービスではチェックを行いません。各通信サービスの制限の範囲内で通知文ファイルを作成してください。

(2) 通知文ファイルの作成例

(a) 通知文ファイル作成例（メール通知を除く通知文）

```
システムから通報がありましたのでお知らせします。
受け付け日時は，{%y/%m/%d %H:%M:%S} です。
夜間バッチ処理で障害の発生を検知しました。
状況を確認してください。
```

(b) メール送信の通知文ファイル作成例

```
システムから通報がありましたのでお知らせします。
受け付け日時は，{%y/%m/%d %H:%M:%S} です。
夜間バッチ処理で障害の発生を検知しました。
状況を確認してください。

発信者 通報管理サービス
```

4.6 障害を考慮した運用方法と留意事項

本サービスを使用した通知システムを運用する上での留意事項について，説明します。

(1) 発信の滞留・遅延リスク，発信制限を想定する

本サービスへの発信が大量に発信されないよう対策することを推奨します。

(a) 想定されるリスク

本サービスは受け付けた通知要求を順に処理していきます。実際の発信が完了するまでの間隔より短い間隔で通知要求を実行し続けると，通知要求が増加し続けてしまい，通知が滞留・遅延する可能性があります。

また，本サービスでは，「4.1 発信制限に関して」に記載した発信制限も設けていますので，通知の滞留・遅延・発信制限により，次のような事象につながります。

- 重要な通知が実行されるまで長い時間がかかる
- 滞留・遅延した通知が，その通知が必要な時期を過ぎても実施される（例：エラーを通知する電話通知が障害復旧後もかかってくる）
- 発信制限の対象となった通知は破棄され，通知する内容が伝わらない
- 外部通信サービスから接続を拒否される可能性がある

本サービスが受け付けた通知要求の件数は「発信情報件数問い合わせコマンド」または「発信情報件数問い合わせ API」で確認できます。「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の件数が確認可能です。詳細は「6.2.16 発信情報件数問い合わせコマンド」または「7.2.18 発信情報件数問い合わせ API」を参照ください。Web 画面では，件数の確認はできません。

(b) 対策方法

本サービスでは，大量の発信を抑止する機能はありません。通知を依頼するお客様のシステム側で「一定間隔は同じ内容を通知しない」や「不要な通知は実行しない」などの予防策を実施し通知回数を制御してください。

(2) 同一電話番号へ連続で発信すると話し中になる

Twilio への電話発信では，同一の電話番号に対して，複数の電話通知を実行することが可能です。

(a) 想定されるリスク

ある電話番号へ電話通知を実行中に，同一の電話番号への新しい通知が実行されると，前の電話通知の終了を待たず，電話通知が実行されます。この結果，後の電話通知は話し中の状態となり，「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果は「話し中（busy）」となり，次のような事象につながります。

- 電話通知が実行されたが「話し中」となり，通知する内容が伝わらない

(b) 対策方法

本サービスでは，同一の電話番号への通知を制御する機能はありません。通知を依頼するお客様のシステム側で，同一ユーザへ短時間での電話通知を制御してください。

連絡網で発信する場合には，連絡網の繰り返し回数（実行回数）（5.35(2)「実行回数」テキストフィールド（必須項目））を増やすなどの設定とあわせて電話通知を制御してください。

(3) 発信の受け付けから2分が経過するとタイムアウトになる

電話発信では，発信の受け付けから 2 分が経過するとタイムアウトとなります。

(a) 想定されるリスク

ある電話番号へ発信の受け付けから 2 分が経過するとタイムアウトとなり終了します。この結果，「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果は「タイムアウト（twilio timeout）」となり，次のような事象につながります。

- 電話通知が実行されたが「タイムアウト」となり，通知する内容が伝わらない

また，電話通知プランの場合，同時通話数の制限があるため，タイムアウトとなった電話通知は発信されません。例えば，電話通知を含む連絡網を 10 件実行する場合，最初に発信される 2 件（最大同時通話数）の通話で 2 分経過した場合，残りの 8 件は「タイムアウト」となります。この結果，「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果は「タイムアウト 2（timeout2）」，発信履歴レポートの失敗理由では「完了タイムアウト 2」となり，次のような事象につながります。

- 電話通知が実行されたが「タイムアウト 2」となり，いくつかの通知が行われない

(b) 対策方法

連絡網で発信する場合には，連絡網の繰り返し回数（実行回数）（5.35(2)「実行回数」テキストフィールド（必須項目））を増やす設定をしてください。

(c) Twilioと電話通知プランの切り替え目安

タイムアウト 2（timeout2）の対象となる電話通知の利用が多い場合， 電話通知プランからお客様にて Twilio とご契約しての利用をご検討ください。

(4) 障害の要因が外部通信サービス側にある場合

本サービスから通知を外部通信サービス側へ依頼した時，外部通信サービス側の要因で通知が失敗する可能性があります。外部通信サービス側に要因がある場合，本サービス側では対処方法はありません。お客様と外部通信サービスの間で，問題解決を行ってください。

4.7 調査用資料の採取

本サービスのコマンド，カスタムジョブが上手く動作しない場合など，問い合わせを行う場合には，以下に記載する資料を取得し，問い合わせ内容（状況や現象，発生時刻など）とあわせて，サポート窓口へ送付してください。

【採取していただく情報】

1. お客様環境側のコマンドのログ情報
2. 「ログ取得コマンド」で取得したログ情報
3. 「連絡網定義取得コマンド」で取得した連絡網定義の情報
4. 「通知先ユーザ定義取得コマンド」で取得したユーザ定義の情報
5. カスタムジョブをご使用の場合，ジョブ実行の非公開ログ（ジョブ実行 ＜配置フォルダ＞¥manager¥log ）の内容

※カスタムジョブをご使用の場合にも，上記 1～4 コマンドの情報が必要となりますので取得をお願いします。

(1) お客様環境側のコマンドのログファイルの採取

コマンドのログ情報の採取は，3 章「3.2(2) コマンド設定ファイルを編集する」の LogPath キーで設定したフォルダに出力されますので，すべてのログファイルを採取してください。

コマンド設定ファイルの設定例

```
[General]
LogPath=C:¥temp¥TELSaas¥command¥log
LogSizeLimit=512KB
・
・
```

上記の例では，C:¥temp¥TELSaas¥command¥log フォルダにログファイルが出力される設定です。このフォルダに出力された，すべてのログファイルを採取してください。

(2) 「ログ取得コマンド」で取得したログファイルの採取

ログ取得コマンドは，6 章 コマンドの「6.2.18 ログ取得コマンド」を動作させて取得します。コマンドプロンプトを管理者として起動し，ログ取得コマンドを動作させます。公開ログと非公開のシステムログの両方を採取してください。

Web 画面では，ログ取得はできません。

ログ取得コマンドの動作例

```
cd C:¥temp¥TELSaas¥bin          ...tlscbaseコマンドの配置フォルダ
tlscbase logget > C:¥temp¥TELSaas¥cbaselog.txt
tlscbase logget -d > C:¥temp¥TELSaas¥cbasedbglog.txt
```

上記の例では，公開ログを C:¥temp¥TELSaas¥cbaselog.txt にリダイレクトし出力，非公開のシステムログを C:¥temp¥TELSaas¥cbasedbglog.txt にリダイレクトし出力しています。

(3) 連絡網定義の情報採取

本サービスの連絡網を使用していない場合，採取は不要です。

連絡網定義の採取は，6 章 コマンドの「6.2.13 連絡網定義取得コマンド」を動作させて取得します。コマンドプロンプトを管理者として起動し，連絡網定義取得コマンドを動作させて採取してください。

Web 画面では，すべての連絡網定義情報の取得はできませんので，連絡網定義取得コマンドを実行ください。

連絡網定義取得コマンドの動作例

```
cd C:¥temp¥TELSaas¥bin      ...tlscbaseコマンドの配置フォルダ
tlscbase net export > C:¥temp¥TELSaas¥cbasenet.txt
```

上記の例では，すべての連絡網定義を C:¥temp¥TELSaas¥cbasenet.txt にリダイレクトし出力しています。

(4) ユーザ定義の情報採取

ユーザ定義の採取は，6 章 コマンドの「6.2.10 通知先ユーザ定義取得コマンド」を動作させて取得します。コマンドプロンプトを管理者として起動し，通知先ユーザ定義取得コマンドを動作させて採取してください。

Web 画面では，すべてのユーザ定義情報の取得はできませんので，通知先ユーザ定義取得コマンドを実行ください。

通知先ユーザ定義取得コマンドの動作例

```
cd C:¥temp¥TELSaas¥bin      ...tlscbaseコマンドの配置フォルダ
tlscbase user export > C:¥temp¥TELSaas¥cbaseuser.txt
```

上記の例では，すべての連絡網定義を C:¥temp¥TELSaas¥cbaseuser.txt にリダイレクトし出力しています。

(5) その他の情報採取に関して

お問い合わせの内容により，上記以外の情報を取得していただく場合があります。あらかじめご了承ください。

4.8 メール送信機能を使用する場合の制限事項

メール送信機能は，本サービスが提供するメール送信の機能を使用してメール送信を実行する機能です。お客様にて，メールサーバを準備していただく必要はありません。

本サービスは，多くのユーザと資源を共有するサービスのため，メール送信機能では，以下に記載する制限事項があります。制限事項に同意していただけない場合は，メール送信機能は使用せずに，お客様にてメールサーバを準備していただく方式でメールの送信を実行してください。

(1) 不正な宛先への通知，苦情メールとして登録された通知に関して

不正な宛先（存在しないメールアドレス）へメール通知を３回実施すると，３回目に，お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）を無効化します。

苦情メールとして登録された（本サービスから送信されたメールが苦情メールとして登録されている）メール通知を行った場合，即時(※1)に，お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）を無効化します。

無効化されたことにより，すべてのメール通知は受付されますが，通知の結果はエラーとなります。不正な宛先への通知，苦情メールとして登録された通知は行わないでください。

※１：１回でも苦情メールとして登録されたメール通知を実行した場合を示します。回数の猶予なく，即時にお客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）が無効化されます。

不正な宛先へのメール通知の例）

- テストのため，架空のメールアドレスへメールを送信する
- ユーザ定義でメールアドレスの登録を誤り，結果的に不正な宛先へメールを送信してしまった場合

苦情メールの例）

- 本サービスから送信されたメールをプロバイダー等に苦情メールとして報告すること

お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）が無効化された場合には，メール送信機能の無効化を解除したい旨をサポート窓口へご連絡ください。本サービスで解除の作業を実施します。解除の作業が完了するまでは，すべてのメール通知は受付されますが，通知の結果はエラーとなります。

(2) 送信元メールアドレス（From）に関して

お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）は，任意のメールアドレスへの変更はできません。

また，受信を許可するメールアドレスの設定が必要な場合，お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）の受信許可の設定をお願いいたします。

送信元のメールアドレス（From）は，送信専用のためメールを受信することはできません。

(3) 1日または短時間に多くのメールを送信する

メール送信機能で，メール通知を行う場合，1日または短時間に多くのメールを送信することはできません。本サービスは，多くのユーザと資源を共有しておりますので，ご理解をお願いいたします。

4.9 ロールによるリソース管理機能を使用する場合の注意事項

リソース管理方法を「ロールによるリソース管理」に変更する場合，または利用する際に留意いただきたい項目について示します。

(1) 「サブアカウントによるリソース管理」から変更する場合

- 5.7 リソース管理方法の変更画面で，「サブアカウントによるリソース管理」から「ロールによるリソース管理」に変更する場合，一度「ロールによるリソース管理」に変更すると「サブアカウントによるリソース管理」に戻すことはできません。

- 「ロールによるリソース管理」に変更すると，サブアカウントに登録されている下記情報は削除されます。サブアカウントに登録されている通知先ユーザ定義，連絡網定義は，「ロールによるリソース管理」に変更する前に事前に取得し，「ロールによるリソース管理」に変更後に登録しなおしてください。通知先ユーザ定義，連絡網定義以外は，事前に情報を保持してください。なお管理者アカウントに登録されている情報は削除されません。

連絡網，ユーザ，ユーザグループ，プロファイル（Twilio，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams，楽天モバイル，外部API連携，信号灯），電話読み替え定義，連絡網発信フィルタ，受信メール連携ルール

- 5.7 リソース管理方法の変更画面で，「サブアカウントによるリソース管理」から「ロールによるリソース管理」に変更する場合，サブアカウントに登録されている情報は削除されるため，登録済みの内容によっては応答に時間がかかる場合があります。削除が完了するまで，しばらくお待ちください。
  また情報が不整合となる可能性があるため，削除が完了し応答が返ってくるまで，画面，コマンド，API で情報の登録，取得，および削除を行わないでください。

- 「サブアカウントによるリソース管理」から「ロールによるリソース管理」に変更した後，管理者アカウントで再度ログインしなおしてください。再ログインしなおすまで，リソースの管理方法は変更されません。

- 「サブアカウントによるリソース管理」では、管理者アカウント、サブアカウントごとに各リソースの上限値まで設定できましたが、「ロールによるリソース管理」では、すべてのアカウントで各リソースを共通に扱うよう上限値も含め見直しています。
  「ロールによるリソース管理」へ変更する前に、各リソースの上限値が不足しないかを確認してください。各リソースの上限値については、5 章 Web 画面の各画面を参照してください。

(2) サブアカウントでログインした際中にリソースへの権限が変更になった場合

再度ログインしなおしてください。再ログインしなおすまで，変更後の権限は有効になりません。

(3) 複数の管理アカウントによる同時操作について

複数の管理者アカウントによる下記画面の同時操作は行わないでください。

5.7 リソース管理方法の変更画面
5.8 ロール一覧
5.9 ロールへのサブアカウント割り当て画面
5.10 ロールへのリソース割り当て画面
5.11 リソースグループ一覧
5.12 リソースグループ定義画面

5. Web画面

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスの Web 画面について説明します。

5.1 サインイン画面

5.2 メイン画面

5.3 パスワード変更画面

5.4 ライセンス表示画面

5.5 アカウント設定画面

5.6 APIキー設定画面

5.7 リソース管理方法の変更画面

5.8 ロール一覧

5.9 ロールへのサブアカウント割り当て画面

5.10 ロールへのリソース割り当て画面

5.11 リソースグループ一覧

5.12 リソースグループ定義画面

5.13 サブアカウント一覧画面

5.14 電話通知利用情報画面

5.15 大量発信の集約、間引き画面

5.16メールサーバ登録画面

5.17 Twilioプロファイル一覧

5.18 Twilioプロファイル画面

5.19 LINE WORKSプロファイル一覧

5.20 LINE WORKSプロファイル画面

5.21 Slackプロファイル一覧

5.22 Slackプロファイル画面

5.23 Microsoft Teamsプロファイル一覧

5.24 Microsoft Teamsプロファイル画面
5.25 楽天モバイルプロファイル一覧
5.26 楽天モバイルプロファイル画面
5.27 外部API連携プロファイル一覧
5.28 外部API連携プロファイル画面
5.29 信号灯プロファイル一覧
5.30 信号灯プロファイル画面
5.31 信号灯ステータス画面
5.32 ユーザ一覧
5.33 ユーザ定義画面
5.34 連絡網一覧
5.35 連絡網定義画面
5.36 カレンダーダイアログ
5.37 スケジュールダイアログ
5.38 電話読み替え定義一覧
5.39 電話読み替え定義画面
5.40 通知文テンプレート一覧
5.41 通知文テンプレート画面
5.42 連絡網発信フィルター覧
5.43 連絡網発信フィルタ定義画面
5.44 受信メール連携一覧
5.45 受信メール連携ルール画面
5.46 生成AI連携設定画面
5.47 発信履歴レポート画面

5.1サインイン画面

サインインする手順を次に示します。

1. Web ブラウザを起動し，通報管理サービスの URL にアクセスします。
   指定例）https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/
   「https」で始まり，最後に「/」を付与します。

   ※表示される言語を指定する場合，通報管理サービスの URL にクエリ「lang」を設定してください。クエリ「lang」の設定がない場合，日本語で表示されます。
   指定例）
   日本語表示　https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/?lang=ja
   クエリ「lang」に ja を設定します。省略時は日本語で表示されます。
   英語表示　https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/?lang=en
   クエリ「lang」に en を設定します。

2. サインイン画面で，［アカウント ID］［パスワード］を入力したあと，［SIGN IN］ボタンをクリックします。

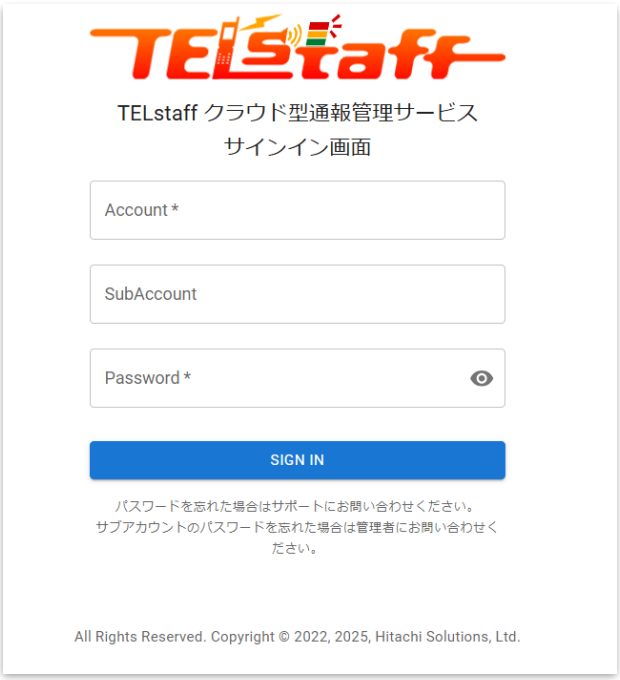


図 5.1-1 サインイン画面

- 通報管理サービスの URL，アカウント ID，パスワード（仮パスワード）は，本サービス申し込み時にご連絡しています。
- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- サインイン後，同一画面を開いた状態で 1 時間以上経過すると再度サインインが必要となる場合があります。

(1) 「Account」テキストフィールド（必須項目）

本サービスの申し込み時に発行した，アカウント ID を入力します。アカウント ID の大文字・小文字は区別しません。

(2) 「Sub Account」テキストフィールド

サブアカウントでサインインする場合のみ，サブアカウントを入力します。サブアカウントは管理者アカウントが発行できます。サブアカウントの大文字・小文字は区別しません。管理者アカウントでサインインする場合は，指定不要です。

(3) 「Password」テキストフィールド（必須項目）

アカウント ID またはサブアカウントのパスワードを入力します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(4) 「SIGN IN」ボタン

サインインを実行します。パスワードを数回（回数は不定）連続で誤ったとき，一時的なロックアウトが開始されます。一時的なロックアウトが開始された後は，パスワードを初回よりも少ない回数（回数は不定）誤るだけで，再び一時的なロックアウトが行われます。

最初の一時的なロックアウト時間は 1 秒から始まり，試行が失敗するたびに時間が倍増され，最終的に約 15 分まで一時的なロックアウトが行われます。一時的なロックアウト中の試行は無視されます。一時的なロックアウト解除後，次の試行に失敗すると新しい一時的なロックアウトが前回の 2 倍の時間で実施されます。

試行せずに 15 分間待つと，一時的なロックアウトが解除されます。

5.1.1 ワンタイムパスワード画面

ワンタイムパスワードを設定した場合に表示されます。

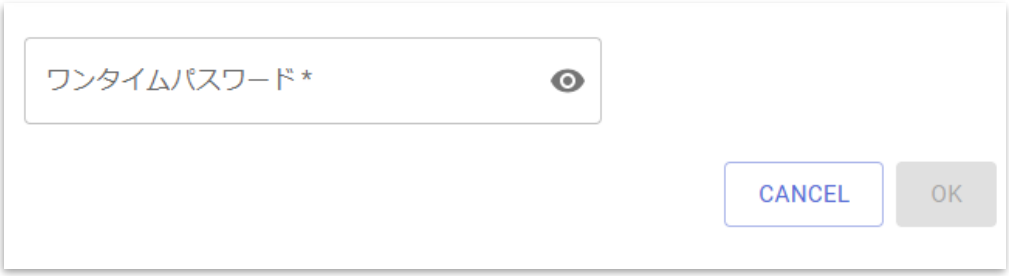


図 5.1-2 ワンタイムパスワード画面

(1) 「ワンタイムパスワード」テキストフィールド

ワンタイムパスワードを登録した際に紐付けたアプリケーションに表示されるワンタイムパスワードを入力します。

5.2 メイン画面

サインインに成功すると，以下のメイン画面を表示します。
画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示される「アカウントメニュー」，画面左側の「サイドバー」，画面中央の「ページ内容」で構成されています。

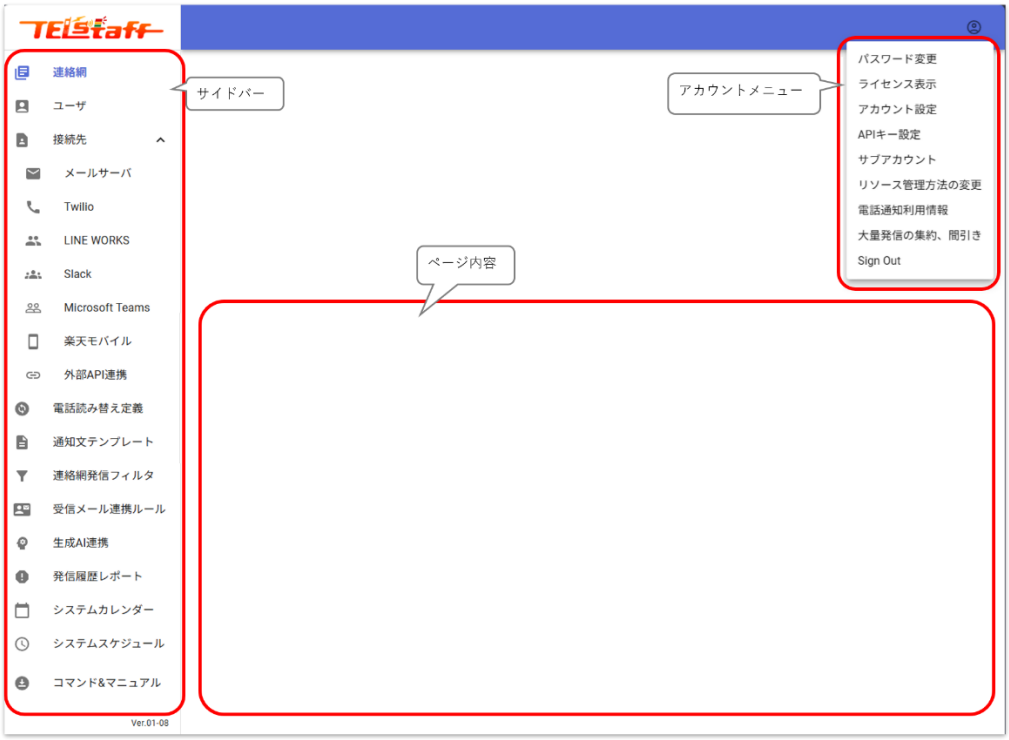


図 5.2-1 メイン画面

- 中央の「ページ内容」部分に各画面の内容を表示します。初期表示は連絡網一覧を表示します。任意の画面を初期表示することはできません。
- Web ブラウザが持つ再読み込み機能（F5 キーなど）には対応していません。本サービスのすべての Web 画面・ダイアログともに対応していませんので，使用しないでください。
- Web ブラウザが持つページの移動機能（「前に戻る」など）には対応していません。本サービスのすべての Web 画面・ダイアログともに対応していませんので，使用しないでください。
- 本サービスのすべての Web 画面・ダイアログの入力項目には，スクリプトタグは入力できません。入力した場合，「SAVE」ボタンの押下時にエラーとなります。

アカウントメニュー（画面右上アカウントアイコンをクリックで表示）

(1) **「パスワード変更」**

パスワード変更画面を表示します。

(2) **「ライセンス表示」**

ライセンス表示画面を表示します。

(3) **「アカウント設定」**
アカウント設定画面を表示します。

(4) **「APIキー設定」**
API キー設定画面を表示します。

(5) **「サブアカウント」**
サブアカウント一覧画面を表示します。

(6) **「リソース管理方法の変更」**
リソース管理方法の変更画面を表示します。管理者アカウントでログインした際に表示されます。

(7) **「ロール」**
ロール一覧画面を表示します。管理者アカウントでログインし，かつ「リソース管理方法の変更画面」で「ロールによるリソース管理」を選択した際に表示されます。

(8) **「リソースグループ」**
リソースグループ一覧画面を表示します。管理者アカウントでログインし，かつ「リソース管理方法の変更画面」で「ロールによるリソース管理」を選択した際に表示されます。

(9) **「電話通知利用情報」**
電話通知利用情報画面を表示します。電話通知プラン契約が無い場合，もしくは契約期間外の場合は表示されません。

(10) **「大量発信の集約、間引き」**
大量発信の集約、間引き画面を表示します。

(11) 「Sign Out」
サインアウトし，サインイン画面に戻ります。

サイドバー（画面左側メニュー）

(12) **「連絡網」**
連絡網一覧を表示します。

(13) **「ユーザ」**
ユーザ一覧を表示します。

(14) **「接続先」**
各外部通信サービスの接続先情報を登録するサブメニューを表示します。

(a)「メールサーバ」
メールサーバ登録画面を表示します。
(b)「Twilio」
Twilio プロファイル一覧を表示します。
(c)「LINE WORKS」
LINE WORKS プロファイル一覧を表示します。
(d)「Slack」

Slack プロファイル一覧を表示します。

(e)「Microsoft Teams」

Microsoft Teams プロファイル一覧を表示します。

(e)「楽天モバイル」

楽天モバイルプロファイル一覧を表示します。

(f)「外部 API 連携」

外部 API 連携プロファイル一覧を表示します。

(e)「信号灯」

信号灯プロファイル一覧を表示します。信号灯通知プラン契約が無い場合，もしくは契約期間外の場合は表示されません。

(15) **「電話読み替え定義」**

電話読み替え定義一覧を表示します。

(16) **「通知文テンプレート」**

通知テンプレート一覧を表示します。

(17) **「連絡網発信フィルタ」**

連絡網発信フィルター一覧を表示します。

(18) **「受信メール連携ルール」**

受信メール連携一覧を表示します。

(19) **「生成AI連携」**

生成 AI 連携設定画面を表示します。

(20) **「発信履歴レポート」**

発信履歴レポート画面を表示します。

(21) **「システムカレンダー」**

システム共通のカレンダーダイアログを表示します。

(22) **「システムスケジュール」**

システム共通のスケジュールダイアログを表示します。

(23) **「コマンド&マニュアル」**

押下すると，コマンド，カスタムジョブやマニュアル等を圧縮した zip ファイルをダウンロードします。

※「コマンド&マニュアル」を押下すると，別の画面へ遷移することなく zip ファイルのダウンロードが開始します。

5.3 パスワード変更画面

パスワード変更画面は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［パスワード変更］のクリックで表示されます。



図 5.3-1 パスワード変更画面

- パスワードは任意のタイミングで変更が可能です。
- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「サブアカウント」**ドロップダウンリスト

パスワードを変更したいサブアカウントを選択します。管理者アカウントのパスワードを変更する場合は，「(指定なし)」を選択します。

(2) **「現在のパスワード」**テキストフィールド（必須項目）

現在のパスワードを指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

サブアカウントドロップダウンリストで任意のサブアカウントを選択した場合は，本テキストフィールドの名称は「管理者のパスワード」になります。サブアカウントのパスワードを変更する場合は，本テキストフィールドに管理者アカウントのパスワードを指定してください。

(3) **「新規パスワード」**テキストフィールド（必須項目）

新しいパスワードを 8 文字以上，128 文字以内で指定します。パスワードには，制御文字を除く印字可能な ASCII 文字，UNICODE 文字，半角空白が使用可能です。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(4) **「新規パスワードの確認」**テキストフィールド（必須項目）

新規パスワードと同じ文字列を指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(5) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網一覧へ戻ります。

(6) 「SAVE」ボタン

変更内容を保存し，連絡網一覧へ戻ります。

5.4 ライセンス表示画面

ライセンス表示画面は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［ライセンス表示］のクリックで表示されます。契約済のライセンス情報，有効期限，ユーザ数の情報を表示します。

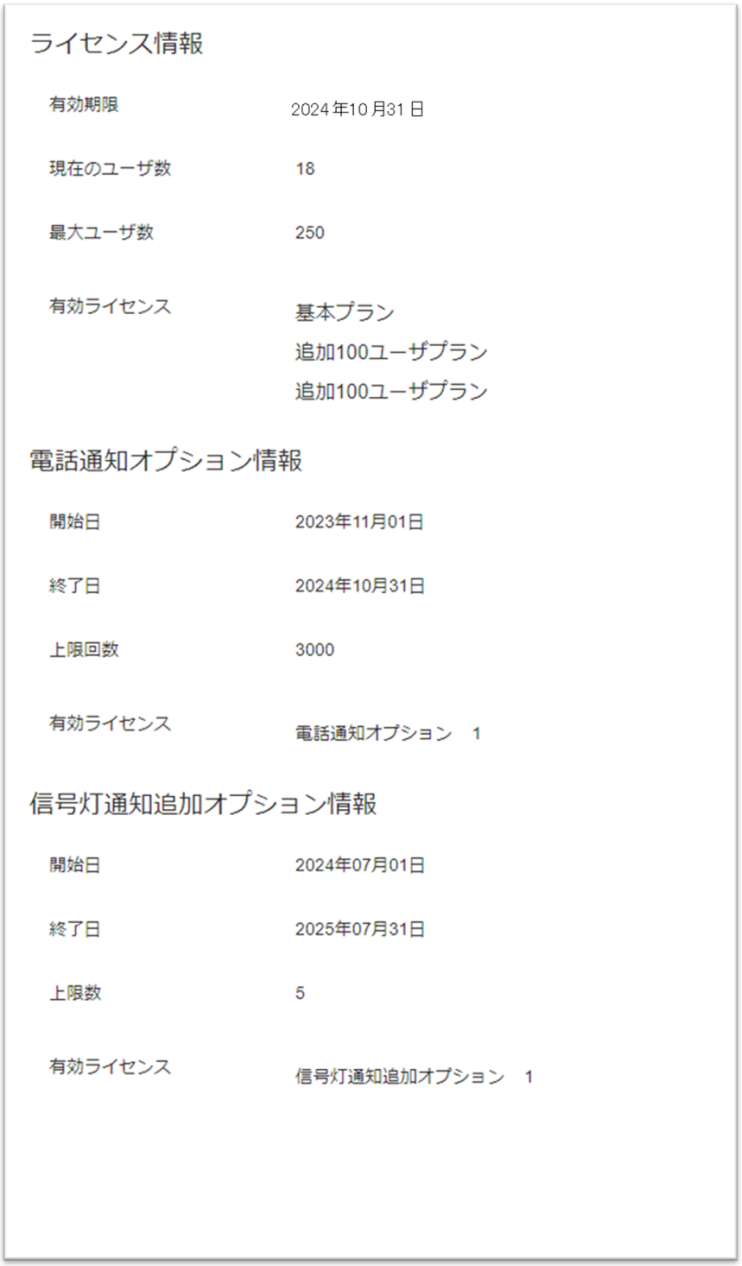


図 5.4-1 ライセンス表示画面（表示例）

(1) 「有効期限」

本サービスの契約期間の満了日を表示します。本サービスの契約更新の手続きを行った場合には，手続きの完了後に有効期限が更新されます。

(2) 「現在のユーザ数」

ユーザ情報に登録されているユーザ数を表示します。

(3) 「最大ユーザ数」

契約済みのライセンスで登録可能なユーザ数を表示します。

(4) 「有効ライセンス」（ライセンス情報）

現在契約済みのライセンス情報を表示します。

(5) 「開始日」（電話通知プラン）

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における，有効な電話通知プランのライセンスの契約開始年月を表示します。

(6) 「終了日」（電話通知プラン）

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における，有効な電話通知プランのライセンスの契約期間の満了日を表示します。

(7) 「上限回数」（電話通知プラン）

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における，有効な電話通知プランのライセンスの上限回数を全て合わせた回数を表示します。

(8) 「有効ライセンス」（電話通知プラン）

登録済みの電話通知プランにおけるライセンス情報を表示します。

(9) 「開始日」（信号灯通知プラン）

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における，有効な信号灯通知プランのライセンスの契約開始年月を表示します。

(10) 「終了日」（信号灯通知プラン）

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における，有効な信号灯通知プランのライセンスの契約期間の満了日を表示します。

(11) 「上限数」（信号灯通知プラン）

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における，有効な信号灯通知プランの信号灯の数を表示します。

(12) 「有効ライセンス」（信号灯通知プラン）

登録済みの信号灯通知プランにおけるライセンス情報を表示します。

5.5 アカウント設定画面

アカウント設定画面は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［アカウント設定］のクリックで表示されます。ログの言語設定，タイムゾーン設定の情報を表示します。

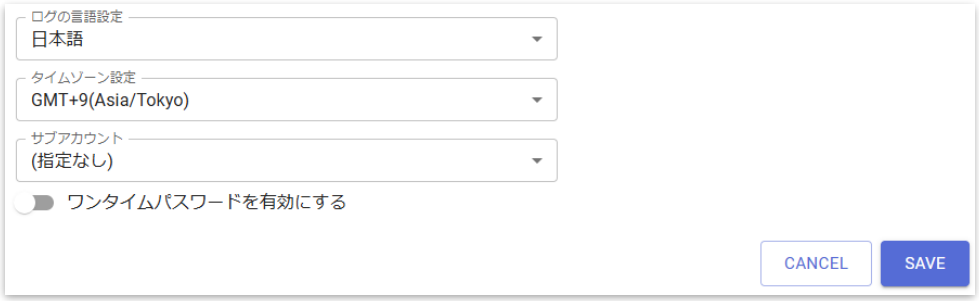


図 5.5-1 アカウント設定画面（表示例）

(1) 「ログの言語設定」

本サービスが出力するログの言語設定を「日本語」「English」から選択します。

(2) 「タイムゾーン設定」

タイムゾーン設定を選択します。この設定は本サービスのタイムゾーン設定（ログ，スケジュール，カレンダー，メールの送信日時，レポート）に適用されます。

(3) 「ワンタイムパスワードを有効にする」スイッチ

Web 画面（GUI）にサインインする際にワンタイムパスワードを使用したい場合は「ON（使用する）」を選択します。ワンタイムパスワードを使用しない場合は「OFF（使用しない）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。

(4) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網一覧へ戻ります。

(5) 「SAVE」ボタン

変更内容を保存し，連絡網一覧へ戻ります。

5.5.2 ワンタイムパスワード登録画面

「ワンタイムパスワードを有効にする」スイッチに「ON（使用する）」を選択して SAVE ボタンを押下すると表示されます。



図 5.5-2 ワンタイムパスワード登録画面

(1) 「ワンタイムパスワード用QR」画像

ワンタイムパスワードを登録したいアプリケーションに QR コードを読み込ませ，ワンタイムパスワードを登録します。

ワンタイムパスワードは RFC4226 及び RFC6238 の規約に従います。動作確認済みのアプリケーションは，「Google Authenticator」と「Microsoft Authenticator」です。登録する際はこれらのアプリケーションの使用を推奨します。

管理者アカウントでワンタイムパスワードを登録し，アプリケーションが使用できなくなった場合はサポート窓口にお問い合わせください。

サブアカウントでワンタイムパスワードを登録し，アプリケーションが使用できなくなった場合は管理者にお問い合わせください。

5.6 APIキー設定画面

API キー設定画面は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［API キー設定］のクリックで表示されます。あらかじめ API キーを設定しておくことで，「発信受付API」および「連絡網発信API」の前処理としてサインインAPIを，後処理としてサインアウト API を実行する必要がなくなります。

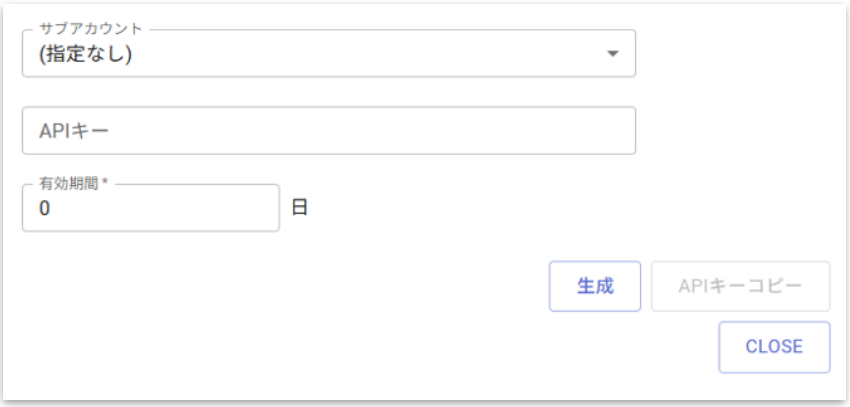


図 5.6-1 APIキー設定画面（APIキー未登録の場合）



図 5.6-2 APIキー設定画面（APIキー登録済みの場合の表示例）

- API キーはアカウント（管理者アカウント，サブアカウント）ごとに，生成します。

(1) 「サブアカウント」ドロップダウンリスト

管理者アカウントの画面のみ表示される項目です。操作，参照するサブアカウントを選択します。管理者アカウントの API キーを操作，参照する場合は「（指定なし）」を選択します。初期値は「（指定なし）」です。

(2) 「APIキー」テキストフィールド

API キー登録済みの場合，発行済み API キーを表示します。本テキストフィールドの値は変更できません。API キー認証を行う API ではリクエストヘッダ「Authorization」に，この API キー文字列を指定します。

(3) 「有効期間」テキストフィールド（必須項目）

新規に発行するAPIキーの有効期間を日数で指定します。「0」を指定した場合は無期限とし，最大で366日まで指定可能です。初期値は「0」です。

API キー登録済みの場合は表示しません。

(4) 「有効期間」フィールド

発行済み API キーの有効期限を表示します。有効期限に「0」を指定した場合，「無期限」と表示します。表示された有効期限の当日中まで使用できます。

API キー未登録の場合は表示しません。

(5) 「生成」ボタン

API キーを新規に発行します。

(6) 「APIキーコピー」ボタン

発行済みAPIキーをクリップボードにコピーします。

(7) 「削除」ボタン

登録済みAPIキーを削除します。

(8) 「CLOSE」ボタン

API キー設定画面を閉じ，連絡網一覧画面に戻ります。

5.7リソース管理方法の変更画面

リソース管理方法の変更画面は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［リソース管理方法の変更］のクリックで表示されます。リソースの管理方法を，サブアカウントによる管理からロールによる管理に変更できます。

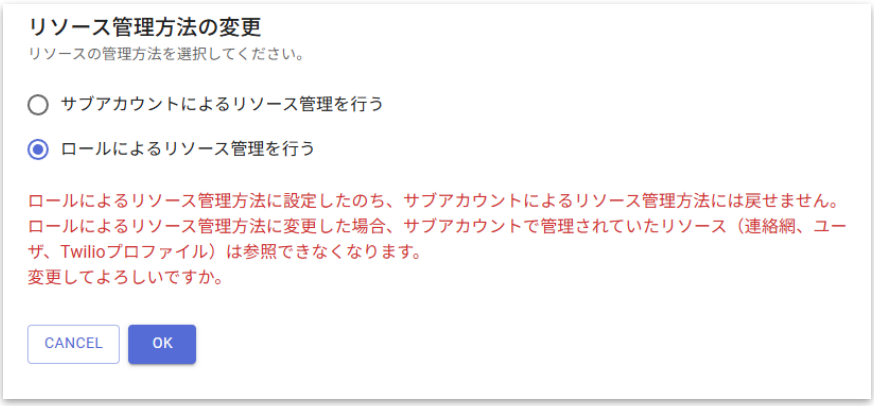


図 5.7-1 リソース管理方法の変更画面

- 一度「ロールによるリソース管理」に変更すると「サブアカウントによるリソース管理」に戻すことはできません。
- 「ロールによるリソース管理」に変更すると，サブアカウントに登録されている下記情報は削除されます。サブアカウントに登録されている通知先ユーザ定義，連絡網定義は，「ロールによるリソース管理」に変更する前にコマンドや API で事前に取得し，「ロールによるリソース管理」に変更後に登録しなおしてください。通知先ユーザ定義，連絡網定義以外は，事前に情報を残してください。なお管理者アカウントに登録されている情報は削除されません。

連絡網，ユーザ，ユーザグループ，プロファイル（Twilio，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams，楽天モバイル，外部API連携，信号灯），電話読み替え定義，連絡網発信フィルタ，受信メール連携ルール

(1) 「サブアカウントによるリソース管理を行う」ラジオボタン

サブアカウントによるリソース管理を行う場合に指定します。

(2) 「ロールによるリソース管理を行う」ラジオボタン

ロールによるリソース管理を行う場合に指定します。

ロールによるリソース管理方法に変更した場合，サブアカウントによるリソース管理方法には戻せません。

(3) 「CANCEL」ボタン

変更内容を破棄し，連絡網一覧へ戻ります。

(4) 「OK」ボタン

変更内容を保存し，連絡網一覧へ戻ります。

5.8ロール一覧

ロール一覧は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［ロール］のクリックで表示されます。ロール一覧情報を表示します。
アカウントメニュー［ロール］は，管理者アカウントでログインし，かつリソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合に表示されます。

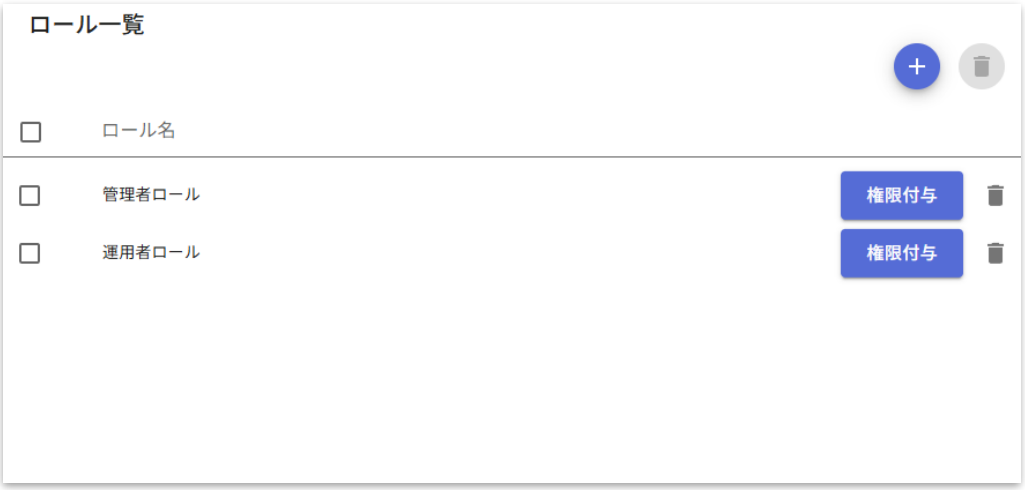


図 5.8-1 ロール一覧

- 登録可能なロール数は 100 件です。

(1) 「ロール一覧」リスト

登録済みロール一覧を示します。ロール名をクリックするとロールへのサブアカウント割り当て画面を表示します。
ロール名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のロールを個別に削除できます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

ロールを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規でロールへのサブアカウント割り当て画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとロール一覧リストでチェックしたロールを一括で削除します。

(4) 「権限付与」ボタン

ロールへの権限付与を行うロールへのリソース割り当て画面を表示します。

5.9ロールへのサブアカウント割り当て画面

ロールへのサブアカウント割り当て画面では，ロールに割り当てるサブアカウントについて設定します。



図 5.9-1 ロールへのサブアカウント割り当て画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「ロール名」テキストフィールド**（必須項目）

新規のロールを定義する場合，ロール名を 100 文字以内で指定します。既存のロールを表示したときは変更できません。ロール名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。ロール名は他のロールと重複できません。ロール名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「割り当て可能なサブアカウント」リスト**

割り当て可能なサブアカウントを表示します。

(3) **「→」ボタン**

「割り当て可能なサブアカウント」リストで選択されたサブアカウントを，割り当て済みサブアカウント一覧に追加します。

割り当て済みサブアカウント一覧には最大 100 個まで，サブアカウントの指定が可能です。100 個に達した場合，「→」ボタンは非活性となります。

(4) 「割り当て済みサブアカウント」リスト

ロールに割り当てたサブアカウントの一覧を表示します。

(5) 「←」ボタン

割り当て済みサブアカウント一覧から，サブアカウントを解除します。ロール割り当てが解除されたサブアカウントは，ロールで許可されていたリソースへのアクセス権も失われます。

(6) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，ロール一覧に戻ります。

(7) 「SAVE」ボタン

ロールへのサブアカウント割り当て情報を登録し，ロール一覧に戻ります。

5.10　ロールへのリソース割り当て画面

ロールへのリソース割り当て画面では，ロールに割り当てるリソースグループおよびアクセス権について設定します。



図 5.10-1 ロールへのリソース割り当て画面

(1) **「ロール名」テキストフィールド**（必須項目）

リソースを割り当てるロール名を表示します。

(2) **「割り当て可能なリソースグループ」リスト**

割り当て可能なリソースグループを表示します。

(3) **「→」ボタン**

「割り当て可能なリソースグループ」リストで選択されたリソースグループを，割り当て済みリソースグループ一覧に追加します。5.10.1 アクセス権の付与ダイアログが表示され，リソースグループの割り当てとアクセス権付与を行います。

割り当て済みリソースグループ一覧には最大 100 個まで，リソースグループの指定が可能です。100 個に達した場合，「→」ボタンは非活性となります。

(4) **「割り当て済みリソースグループ」リスト**

ロールにアクセス権が付与されているリソースグループの一覧を表示します。

(5) **「←」ボタン**

割り当て済みリソースグループ一覧から，リソースグループおよびアクセス権を解除します。

(6) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，ロール一覧に戻ります。

(7) 「SAVE」ボタン

ロールへのリソースグループ割り当て情報およびアクセス権を登録し，ロール一覧に戻ります。

5.10.1 アクセス権の付与ダイアログ

「ロールへのリソース割り当て画面」の「割り当て可能なリソースグループ」リストで，当該ロールに割り当てたいリソースグループを選択し「→」ボタンをクリックした時，表示されます。



図 5.10-2 アクセス権の付与ダイアログ

(1) **付与する権限**（必須項目）

当該ロールに割り当てるリソースグループに対し，付与する権限を指定します。

(a)「編集」ラジオボタン

選択されたリソースグループへの編集権限を付与する場合にチェックします。編集権限ではリソースグループへのリソースの追加，編集，参照，削除ができます。

(b)「参照」ラジオボタン

選択されたリソースグループへの参照権限を付与する場合にチェックします。参照権限ではリソースグループに割り当てられているリソース情報の参照のみできます。

(c)「一覧参照」ラジオボタン

選択されたリソースグループに割り当てられているリソースの一覧を参照できます。一覧参照では名称の確認および通知時においてその内容を参照できます。たとえば，Twilio の各接続先プロファイルの設定内容は参照させずに，その接続先プロファイルを用いて発

報したい場合などに選択します。

(2) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，ロールへのリソース割り当て画面へ戻ります。

(3) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，ロールへのリソース割り当て画面へ戻ります。

5.11　リソースグループ一覧

リソースグループ一覧は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［リソースグループ］のクリックで表示されます。リソースグループ一覧情報を表示します。

アカウントメニュー［リソースグループ］は，管理者アカウントでログインし，かつリソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合に表示されます。

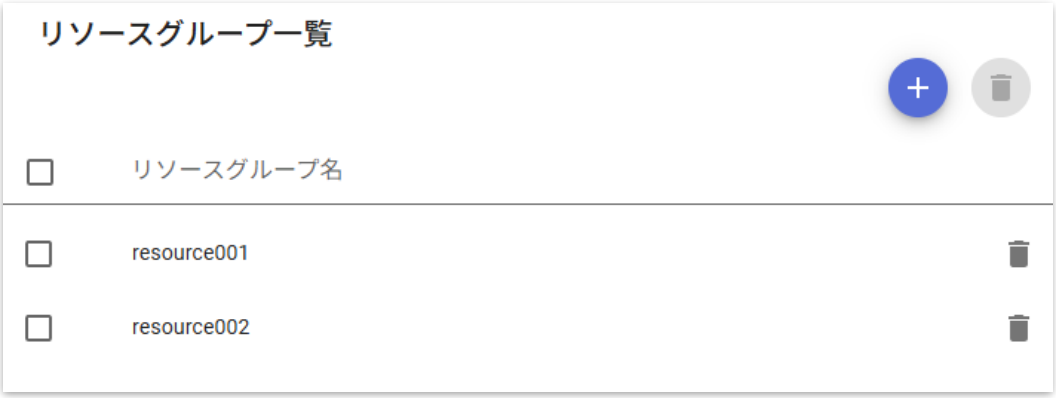


図 5.11-1 リソースグループ一覧

- 登録可能なリソースグループ数は 100 件です。

(1) 「リソースグループ一覧」リスト

登録済みリソースグループ一覧を示します。リソースグループ名をクリックするとリソースグループ定義画面を表示します。

リソースグループ名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のリソースグループを個別に削除できます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

リソースグループを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規でリソースグループ定義画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとリソースグループ一覧リストでチェックしたリソースグループを一括で削除します。

5.12　リソースグループ定義画面

リソースグループ定義画面では，当該リソースグループに割り当てるリソースについて設定します。



図 5.12-1 リソースグループ定義画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「リソースグループ名」テキストフィールド（必須項目）

新規のリソースグループ名を定義する場合，リソースグループ名を 100 文字以内で指定します。既存のリソースグループを表示したときは変更できません。リソースグループ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。リソースグループ名は他のリソースグループ名と重複できません。リソースグループ名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「リソース種別」選択リスト

リソースグループに追加したいリソース種別を選択します。選択したリソース種別に応じたリソースがリソース一覧リストに表示されます。

(3) 「ユーザグループ」ドロップダウンリスト

リストから選択されたユーザグループのユーザをユーザ一覧へ表示します。リソース種

別にユーザを選択した場合のみ，このドロップダウンリストが表示されます。

(4) 「リソース」一覧リスト

リソースグループに割り当てるリソースをチェックボックスで選択します。

(5) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，リソースグループ一覧に戻ります。

(6) 「SAVE」ボタン

リソースをリソースグループへ割り当て，リソースグループ一覧に戻ります。

5.13　サブアカウント一覧画面

管理者アカウントでサインインした場合，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［サブアカウント］のクリックで表示されます。サブアカウント一覧情報を表示します。



図 5.13-1 サブアカウント一覧画面（表示例）

- サブアカウントは 100 アカウントまで登録が可能です。

(1) **「サブアカウント一覧」リスト**

登録済みサブアカウント一覧を示します。サブアカウント名とそのサブアカウントが追加したユーザ数を表示します。

サブアカウント名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のサブアカウントを個別に削除できます。

(2) **「プラス」アイコンボタン**

サブアカウントを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規でサブアカウント設定画面を表示します。

(3) **「ゴミ箱」アイコンボタン**

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとサブアカウント一覧リストでチェックしたサブアカウントを一括で削除します。

5.13.2 サブアカウント設定画面

サブアカウント一覧画面のプラスアイコンボタンをクリックした時に表示されます。

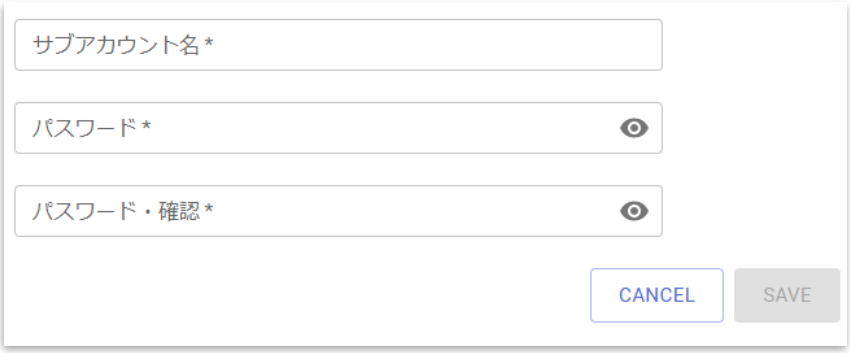


図 5.13-2 サブアカウント設定画面

- パスワードは「5.3 パスワード変更画面」にて変更が可能です。
- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「サブアカウント名」**テキストフィールド（必須項目）

サブアカウント名を指定します。1 文字以上，16 文字以下で半角英小文字，半角数字が入力可能です。

(2) **「パスワード」**テキストフィールド（必須項目）

パスワードを 8 文字以上，128 文字以内で指定します。パスワードには，制御文字を除く印字可能な ASCII 文字，UNICODE 文字，半角空白が使用可能です。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

セキュリティを保つためパスワードは管理者アカウントと同じパスワードを指定しないでください。

(3) **「パスワード・確認」**テキストフィールド（必須項目）

パスワードと同じ文字列を指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(4) **「CANCEL」ボタン**

すべての変更内容を破棄し，サブアカウント一覧へ戻ります。

(5) **「SAVE」ボタン**

変更内容を保存し，サブアカウント一覧へ戻ります。

(6) **管理者アカウントとサブアカウントの画面表示について**

管理者アカウントとサブアカウントで参照できる画面と差異を以下に記載します。

表 5.13-1　管理者アカウントとサブアカウントの画面表示

画面名	管理者アカウント（サブアカウントによるリソース管理の場合）	管理者アカウント（ロールによるリソース管理の場合）	サブアカウント（サブアカウントによるリソース管理の場合）	サブアカウント（ロールによるリソース管理の場合）
サインイン画面	○	○	○	○
パスワード変更画面	○	○	○(*4)	○(*4)
ライセンス表示画面	○	○	○	○
アカウント設定画面	○	○	○(*3)	○(*3)
API キー設定画面	○	○	○(*4)	○(*4)
サブアカウント一覧画面	○	○	×	×
リソース管理方法の変更画面	○	○	×	×
ロール一覧	×	○	×	×
ロールへのサブアカウント割り当て画面	×	○	×	×
ロールへのリソース割り当て画面	×	○	×	×
リソースグループ一覧	×	○	×	×
リソースグループ定義画面	×	○	×	×
電話通知利用情報画面	○	○	○	○
大量発信の集約、間引き画面	○	○	×	×
メールサーバ登録画面	○	○	×	×
Twilio プロファイル一覧	○(*1)	○	○	○(*5)
Twilio プロファイル画面	○	○	○	○(*5)
LINE WORKS プロファイル一覧	○(*1)	○	○	○(*6)
LINE WORKS プロファイル画面	○	○	○	×
Slack プロファイル一覧	○(*1)	○	○	○(*6)
Slack プロファイル画面	○	○	○	×
Microsoft Teams プロファイル一覧	○(*1)	○	○	○(*6)
Microsoft Teams プロファイル画面	○	○	○	×
楽天モバイルプロファ	○(*1)	○	○	○(*6)

画面名	管理者アカウント（サブアカウントによるリソース管理の場合）	管理者アカウント（ロールによるリソース管理の場合）	サブアカウント（サブアカウントによるリソース管理の場合）	サブアカウント（ロールによるリソース管理の場合）
イルー覧				
楽天モバイルプロファイル画面	○	○	○	×
外部 API 連携プロファイルー覧	○(*1)	○	○	○(*6)
外部 API 連携プロファイル画面	○	○	○	×
信号灯プロファイルー覧	○(*1)	○	○	○(*6)
信号灯プロファイル画面	○	○	○	×
信号灯ステータス画面	○	○	○(*2)	○
ユーザー覧	○(*1)	○	○	○(*5)
ユーザ定義画面	○	○	○	○(*5)
連絡網一覧	○(*1)	○	○	○(*5)
連絡網定義画面	○	○	○	○(*5)
(システム)カレンダーダイアログ	○	○	×	×
(システム)スケジュールダイアログ	○	○	×	×
電話読み替え定義一覧	○(*1)	○	○	×
電話読み替え定義画面	○	○	○	×
通知文テンプレートー覧	○	○	×	×
通知文テンプレート画面	○	○	×	×
連絡網発信フィルター覧	○(*1)	○	○	×
連絡網発信フィルタ定義画面	○	○	○	×
受信メール連携一覧	○(*1)	○	○	○(*6)
受信メール連携ルール画面	○	○	○	×
生成 AI 連携設定画面	○	○	×	×
発信履歴レポート画面	○	○	○(*2)	○(*2)

凡例)

○…表示される。

×…表示されない（サブアカウントでは使用できない）。

*1…管理者アカウントでサインインした場合は，「サブアカウント」選択ドロップダウンリストを表示します。管理者アカウントは，選択したサブアカウント内で定義された範

囲の情報を参照及び編集できます。ドロップダウンリストを指定しない場合，管理者アカウントのみが操作可能な情報を参照及び編集できます。

*2…サブアカウントでサインインした場合は，自身のサブアカウントに関連する情報のみ表示します。

*3…サブアカウントでサインインした場合は，ワンタイムパスワードの設定項目のみ表示します。

*4…サブアカウントでサインインした場合は，サブアカウントドロップダウンリストは表示されません。

*5…サブアカウントでサインインした場合は，権限が付与されている情報のみ表示します。

*6…サブアカウントでサインインした場合は，一覧参照のみ可能です。

5.14　電話通知利用情報画面

電話通知利用情報画面は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［電話通知利用情報］のクリックで表示されます。対象範囲における期間内合計発信回数，発信上限値，月ごとの発信回数を表示します。

※電話通知プラン契約が無い場合，もしくは契約期間外の場合は表示されません。



図 5.14-1 電話通知利用情報画面

(1) **「表示範囲」**

電話通知利用情報を表示する範囲を選択します。

(2) **「期間内合計発信回数表」**

指定した期間内で発信された回数の合計値と，期間内での発信上限値を表示します。

(3) **「発信回数表」**

指定した期間内で発信された回数の月ごとの値を表形式で表示します。期間については，1年固定ではなく，指定した期間内すべてを表示します。

5.15　大量発信の集約、間引き画面

大量発信の集約、間引き画面は，画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー［大量発信の集約、間引き］のクリックで表示されます。集約・間引きを実行するか，集約・間引きを実行する場合に同一内容と判断する条件を設定します。



図 5.15-1 大量発信の集約、間引き画面

- 集約・間引きされたことを検証する場合，お客様自身で通知文を保存していただくことが必要となります。

(1) 「集約・間引き設定」ドロップダウンリスト

大量発信の集約，間引きに対する設定を行います。同一の通知を集約する場合は「同一通知を集約する」を，同一の通知を間引きする場合は「同一通知を間引きする」を，集約も間引きも行わない場合は「同一通知を集約・間引きしない」をそれぞれ選択してください。

(2) 「待機時間(秒)」（(1)で「同一通知を集約する」，または「同一通知を間引きする」を選択した場合必須項目）

集約，または間引きの対象とする通知の時間を 10～600 秒の中から設定します。(1)で「同一通知を集約する」を選択した場合は「集約待機時間」，「同一通知を間引きする」を選択した場合は「間引き時間」を設定します。

(3) 「通知文の比較方法」

集約，または間引きを実行する場合の比較方法を設定します。

「完全に一致したものだけを対象とする」を選択した場合，通知文の内容が完全に同一の場合のみ集約，または間引きの対象とします。

「以下のケースは無視する」を選択した場合，集約，または間引きの対象としない条件を「大文字・小文字の区別は行わない」「日時の比較は行わない」から設定することができます。

「大文字・小文字の区別は行わない」をチェックした場合，同一の内容かどうか比較する際に大文字と小文字の違いを無視します。半角英文字，全角英文字が対象となります。

「日時の比較は行わない」をチェックした場合，同一の内容かどうか比較する際に日時のパターン文字の違いを無視します。対象となる日時のパターンを以下に示します。

・日付

yyyymmdd
yyyy-mm-dd
yyyy/mm/dd
yyyy 年 mm 月 dd 日

・時刻

HH:MM:SS[.sss]
HH 時 MM 分 SS 秒[.sss]

yyyy は西暦の年，mm は月，dd は日，HH は時，MM は分，SS は秒，sss はミリ秒をそれぞれ意味します。[.sss]の箇所は，存在しなくとも時刻パターンとして認識されます。

5.16　メールサーバ登録画面

サイドバーの「接続先」から「メールサーバ」をクリックしたとき，メールサーバの情報を登録するメールサーバ登録画面を表示します。



図 5.16-1 メールサーバ登録画面

- メール通知を行う場合，登録は必須です。
- メールサーバの情報は複数個の登録はできません。１つのメールサーバの情報を登録します。
- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「サービスのメールサーバを使用する」スイッチ**（必須項目）

お客様が準備したメールサーバを使用する場合には「OFF（使用しない）」を選択します。本サービスが提供するメール送信機能を使用してメールを送信する場合には「ON（使用する）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。

あらかじめ，本サービス申し込み時，または，変更申し込み時に，メール送信機能のご利用を申請されたお客様に限り「ON（使用する）」を選択してください。

メール送信機能のご利用を申請されていないお客様が「ON（使用する）」を選択し，メール通知を実行した場合，メール通知は受付されますが，通知の結果はエラーとなります。

「ON（使用する）」を選択した場合，(7)「送信者名」のみが入力可能です。

(2) **「サーバ名・IPアドレス」テキストフィールド**（(1)をOFFにした場合，必須項目）

使用するメールサーバを 512 文字以内で指定します。指定するメールサーバはインターネットからアクセス可能である必要があります。

(3) **「プロトコル」セレクトフィールド**（(1)をOFFにした場合，必須項目）

通信プロトコルを「SMTP」「SMTPS」「SMTP+STARTTLS」から選択します。これ以外のプロトコルには対応していません。初期値は「SMTP」です。

(4) **「サーバ証明書を検証する」スイッチ**（(1)をOFFにした場合，必須項目）

通信プロトコルに「SMTPS」「SMTP+STARTTLS」を選択したときでメールサーバから提示されるサーバ証明書の検証をおこなうかどうかを指定します。初期値は「OFF（検証を行わない）」です。「SMTP」を選択した場合には本項目の設定は無視されます。

サーバ証明書は，証明機関（認証局）で署名された証明書である必要があります。自己証明書は使用できません。自己証明書を使用するインターネットからアクセス可能なメールサーバを使用する場合には，本スイッチを「OFF（検証を行わない）」と設定してください。

(5) **「ポート番号」テキストフィールド**（(1)をOFFにした場合，必須項目）

メールサーバへの通信ポート番号を 1～65535 の範囲内で指定します。半角数字で入力してください。初期値は 25 です。

(6) **「送信元メールアドレス」テキストフィールド**（(1)をOFFにした場合，必須項目）

本サービスでメールを発信するときに使用する，発信者情報（From）を 512 文字以内で指定します。

(7) **「送信者名」テキストフィールド**

本サービスでメールを発信するときに使用する，送信者名（From）を 64 文字以内で指定します。

(8) **「メール送信に認証が必要」スイッチ**（(1)をOFFにした場合，必須項目）

メール送信に SMTP-AUTH（PLAIN，LOGIN，CRAM-MD5）の認証が必要なときに「ON」にします。初期値は「OFF（認証は行わない）」です。

(9) **「アカウント名」テキストフィールド**（(1)をOFF，(8)をONにした場合，必須項目）

メール送信に認証が必要なとき，認証用のアカウント名を 512 文字以内で指定します。

(10) **「パスワード」テキストフィールド**（(1)をOFF，(8)をONにした場合，必須項目）

メール送信に認証が必要なとき，認証用アカウントのパスワードを 512 文字以内で指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(11)「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網一覧に戻ります。

(12)「SAVE」ボタン

メールサーバの登録を保存し，連絡網一覧に戻ります。

5.17　Twilioプロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「Twilio」をクリックしたとき，登録済み Twilio プロファイルの一覧を表示します。電話通知プランの契約有無，契約期間によらず，プロファイル一覧の追加及び削除を行うことが可能です。



図 5.17-1 Twilioプロファイル一覧（表示例）

- 電話通知プランを契約していない場合，Twilio への通知（電話通知，SMS 通知）を行う際は，１つ以上の Twilio プロファイルの登録が必要です。また，複数の Twilio プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 100 件です。
- 登録された Twilio プロファイルは，ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので，ユーザ定義や連絡網定義の前に Twilio プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロファイル一覧」リスト

登録済み Twilio プロファイル一覧を示します。プロファイル名をクリックすると Twilio プロファイル画面を表示します。

プロファイル名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合，該当する Twilio への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

Twilio プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で Twilio プロファイル画面を表示します。ロールによるリソース管理方法を選択しているとき，管理者アカウントでログイン時は常に操作可能，サブアカウントでログイン時は編集権限が付与されている場合に操作可能です。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとプロファイル一覧リストでチェックした Twilio プロファイルを一括で削除します。ロールによるリソース管理方法を選択しているとき，管理者アカウントでログイン時は常に操作可能，サブアカウントでログイン時は編集権限が付与されている場合に操作可能です。

5.18　Twilioプロファイル画面

Twilio プロファイル画面では，電話通知，SMS 通知で使用する Twilio 側の情報を登録します。電話通知プランの契約有無，契約期間によらず，プロファイルの追加及び編集を行うことが可能です。

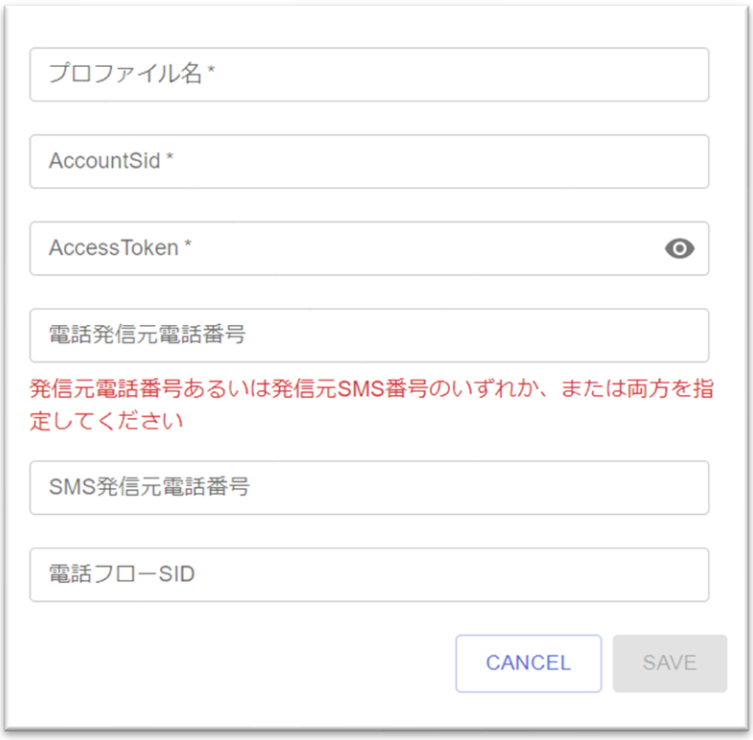


図 5.18-1 Twilioプロファイル画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「プロファイル名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合，プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「AccountSid」テキストフィールド（必須項目）

Twilio から取得した AccountSid を 64 文字以内で指定します。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(3) 「AccessToken」テキストフィールド（必須項目）

Twilio から取得した AccessToken を 64 文字以内で指定します。テキストボックス右端

の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(4) 「電話発信元電話番号」テキストフィールド

Twilio で購入した電話発信元電話番号を国際電話番号形式（E.164）で指定します。

E.164 電話番号形式の例）03-XXX-YYYY の場合 +813XXXYYYY

本テキストフィールドは「SMS 発信元電話番号」を指定した場合（電話通知を行わず，SMS 通知のみを行う場合）には省略可能です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(5) 「SMS発信元電話番号」テキストフィールド

Twilio で購入した SMS 発信元電話番号を国際電話番号形式（E.164）で指定します。

E.164 電話番号形式の例）03-XXX-YYYY の場合 +813XXXYYYY

本テキストフィールドは「電話発信元電話番号」を指定した場合（SMS 通知を行わず，電話通知のみを行う場合）には省略可能です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(6) 「電話フローSID」テキストフィールド

Twilio に登録した本システム用の Twilio Studio フローSID を 64 文字以内で指定します。本テキストフィールドは「電話発信元電話番号」を指定した場合，必須です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(7) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，Twilio プロファイル一覧に戻ります。

(8) 「SAVE」ボタン

Twilio プロファイルの情報を登録し，Twilio プロファイル一覧に戻ります。

5.19　LINE WORKSプロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「LINE WORKS」をクリックしたとき，登録済み LINE WORKS プロファイルの一覧を表示します。



図 5.19-1 LINE WORKSプロファイル一覧（表示例）

- LINE WORKS への通知を行う場合には，１つ以上の LINE WORKS プロファイルの登録が必要です。また，複数の LINE WORKS プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 100 件です。
- 登録された LINE WORKS プロファイルは，ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので，ユーザ定義や連絡網定義の前に LINE WORKS プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロファイル一覧」リスト

登録済み LINE WORKS プロファイル一覧を示します。プロファイル名をクリックすると LINE WORKS プロファイル画面を表示します。

プロファイル名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合，該当する LINE WORKS への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

LINE WORKS プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で LINE WORKS プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとプロファイル一覧リストでチェックした LINE WORKS プロファイルを一括で削除します。

5.20 LINE WORKSプロファイル画面

LINE WORKS プロファイル画面では，LINE WORKS への通知で使用する LINE WORKS 側の情報を登録します。

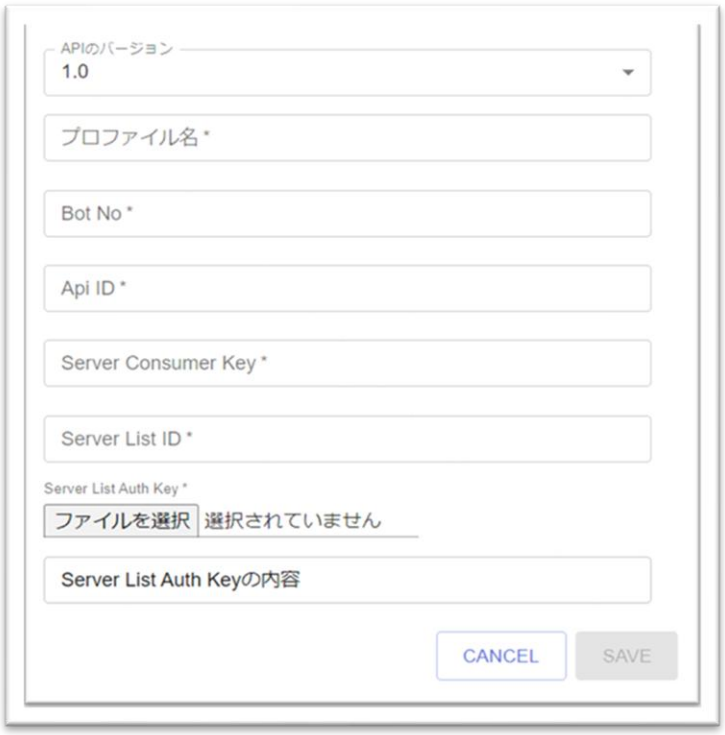


図 5.20-1 LINE WORKSプロファイル画面（APIのバージョン1.0）

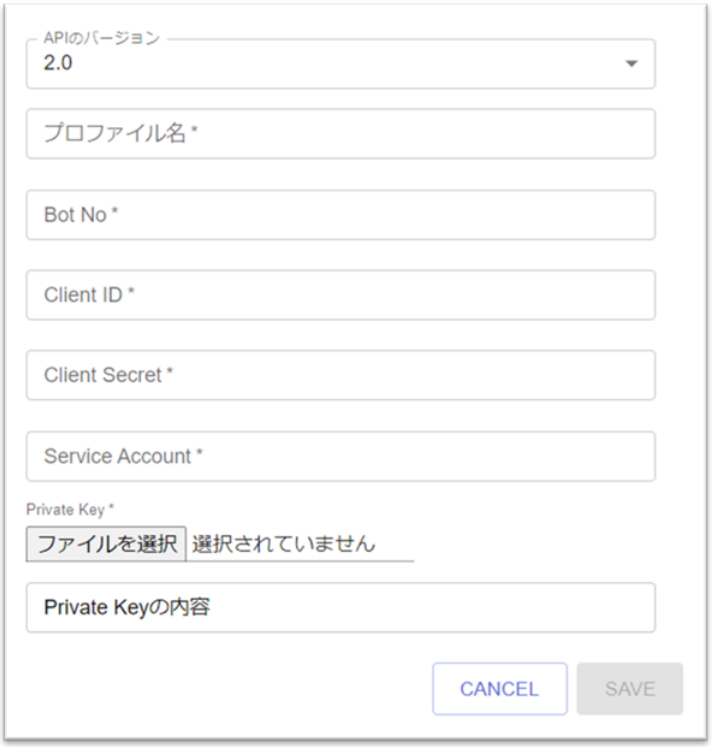


図 5.20-2 LINE WORKSプロファイル画面（APIのバージョン2.0）

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「APIのバージョン」

LINE WORKSのAPIで使用するバージョンについて「1.0」か「2.0」から選択します。「1.0」を選択した場合図 5.20-1 LINE WORKSプロファイル画面（APIのバージョン1.0）の項目，「2.0」を選択した場合図 5.20-2 LINE WORKS プロファイル画面（API のバージョン2.0）の項目が表示されます。

(2) 「プロファイル名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合，プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(3) 「Bot No」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKSから取得したBot No を 1～2147483647の範囲の数値で指定します。半角数字で入力してください。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(4) 「Api ID」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKSから取得したApi ID を32文字以内で指定します。LINE WORKSからの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(5) 「Server Consumer Key」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKSから取得したServer Consumer Key を64文字以内で指定します。LINE WORKSからの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(6) 「Server List ID」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Server List ID を 64 文字以内で指定します。LINE WORKSからの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(7) 「Server List Auth Key」ファイル選択フィールド（必須項目）

LINE WORKSからあらかじめダウンロードしておいた Server List Auth Key ファイル（ID登録タイプの認証キー）を「ファイルを選択」ボタンを押下し，ファイル選択のダイアログから選択し指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(8) 「Server List Auth Keyの内容」

選択された Server List Auth Key ファイルの内容を表示します。

(9) 「Client ID」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Client ID を 32 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(10) 「Client Secret」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Client Secret を 32 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(11) 「Service Account」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Service Account を 64 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(12) 「Private Key」ファイル選択フィールド（必須項目）

LINE WORKS で登録したアプリの Private Key ファイルを「ファイルを選択」ボタンを押下し，ファイル選択のダイアログから選択し指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(13) 「Private Keyの内容」

選択された Private Key ファイルの内容を表示します。

(14) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，LINE WORKS プロファイル一覧に戻ります。

(15) 「SAVE」ボタン

LINE WORKS プロファイルの情報を登録し，LINE WORKS プロファイル一覧に戻ります。

5.21 Slackプロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「Slack」をクリックしたとき，登録済み Slack プロファイルの一覧を表示します。



図 5.21-1 Slackプロファイル一覧（表示例）

- Slack への通知を行う場合には，1 つ以上の Slack プロファイルの登録が必要です。また，複数の Slack プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 100 件です。
- 登録された Slack プロファイルは，ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので，ユーザ定義や連絡網定義の前に Slack プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロファイル一覧」リスト

登録済み Slack プロファイル一覧を示します。プロファイル名をクリックすると Slack プロファイル画面を表示します。

プロファイル名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合，該当する Slack への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

Slackプロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で Slack プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとプロファイル一覧リストでチェックした Slack プロファイルを一括で削除します。

5.22 Slackプロファイル画面

Slack プロファイル画面では，Slack への通知で使用する Slack 側の情報を登録します。

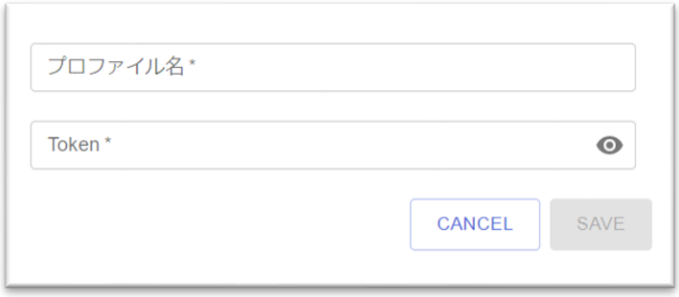


図 5.22-1 Slackプロファイル画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「プロファイル名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合，プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「Token」テキストフィールド（必須項目）

Slack から取得した Token を 200 文字以内で指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。Slack からの情報取得に関しては「3.1(3)(b) Slack から必要な情報を取得する」を参照ください。

(3) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，Slack プロファイル一覧に戻ります。

(4) 「SAVE」ボタン

Slack プロファイルの情報を登録し，Slack プロファイル一覧に戻ります。

5.23 Microsoft Teamsプロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「Microsoft Teams」をクリックしたとき，登録済み Microsoft Teams プロファイルの一覧を表示します。



図 5.23-1 Microsoft Teamsプロファイル一覧（表示例）

- Microsoft Teams への通知を行う場合には，１つ以上の Microsoft Teams プロファイルの登録が必要です。また，複数の Microsoft Teams プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 100 件です。
- 登録された Microsoft Teams プロファイルは，ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので，ユーザ定義や連絡網定義の前に Microsoft Teams プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロファイル一覧」リスト

登録済み Microsoft Teams プロファイル一覧を示します。プロファイル名をクリックすると Microsoft Teams プロファイル画面を表示します。

プロファイル名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合，該当する Microsoft Teams への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

Microsoft Teams プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で Microsoft Teams プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとプロファイル一覧リストでチェックした Microsoft Teams プロファイルを一括で削除します。

5.24 Microsoft Teamsプロファイル画面

Microsoft Teams プロファイル画面では，Microsoft Teams への通知で使用する Microsoft Teams 側の情報を登録します。

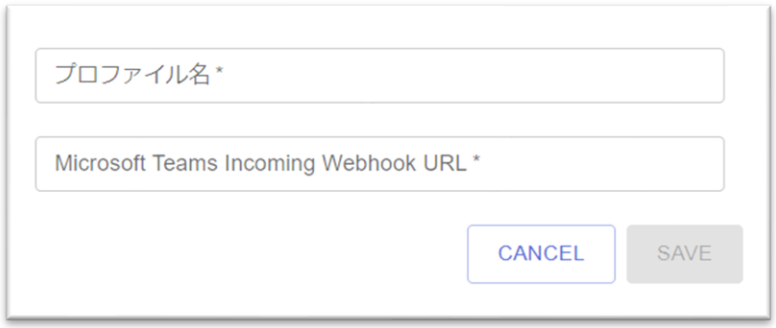


図 5.24-1 Microsoft Teamsプロファイル画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「プロファイル名」テキストフィールド**（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合，プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「Microsoft Teams Incoming Webhook URL」テキストフィールド**（必須項目）

Microsoft Teams から取得した Incoming Webhook URL を 1,000 文字以内で指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。Microsoft Teams からの情報取得に関しては「3.1(4)(a) Microsoft Teams から必要な情報を取得する」を参照ください。

(3) **「CANCEL」ボタン**

すべての変更内容を破棄し，Microsoft Teams プロファイル一覧に戻ります。

(4) **「SAVE」ボタン**

Microsoft Teams プロファイルの情報を登録し，Microsoft Teams プロファイル一覧に戻ります。

5.25　楽天モバイルプロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「楽天モバイル」をクリックしたとき，登録済み楽天モバイルプロファイルの一覧を表示します。



図 5.25-1 楽天モバイルプロファイル一覧（表示例）

- 楽天モバイルへの通知を行う場合には，１つ以上の楽天モバイルプロファイルの登録が必要です。また，複数の楽天モバイルプロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 100 件です。
- 登録された楽天モバイルプロファイルは，ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので，ユーザ定義や連絡網定義の前に楽天モバイルプロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロファイル一覧」リスト

登録済み楽天モバイルプロファイル一覧を示します。プロファイル名をクリックすると楽天モバイルプロファイル画面を表示します。

プロファイル名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合，該当する楽天モバイルへの通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

楽天モバイルプロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で楽天モバイルプロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとプロファイル一覧リストでチェックした楽天モバイルプロファイルを一括で削除します。

5.26　楽天モバイルプロファイル画面

楽天モバイルプロファイル画面では，楽天モバイルへの通知で使用する楽天モバイル側の情報を登録します。

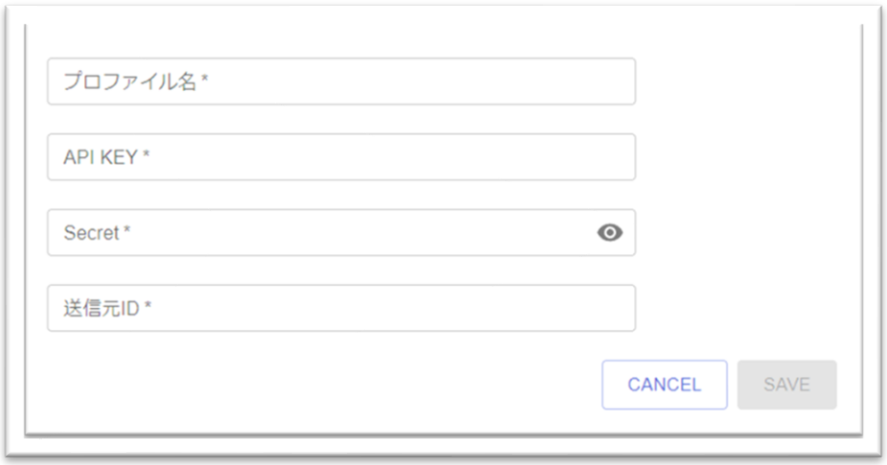


図 5.26-1 楽天モバイルプロファイル画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「プロファイル名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合，プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「API KEY」テキストフィールド（必須項目）

楽天モバイルから取得した API KEY を 64 文字以内で指定します。

(3) 「Secret」テキストフィールド（必須項目）

楽天モバイルから取得した API KEY のシークレットを 512 文字以内で指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(4) 「送信元ID」テキストフィールド（必須項目）

楽天モバイルから取得した取得した送信元 ID を 20 文字以内で指定します。

(5) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，楽天モバイルプロファイル一覧に戻ります。

(6) 「SAVE」ボタン

楽天モバイルプロファイルの情報を登録し，楽天モバイルプロファイル一覧に戻ります。

5.27　外部API連携プロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「外部 API 連携」をクリックしたとき，登録済み外部 API 連携プロファイルの一覧を表示します。



図 5.27-1 外部API連携プロファイル一覧（表示例）

- 外部 API への通知を行う場合には，１つ以上の外部 API 連携プロファイルの登録が必要です。また，複数の外部 API 連携プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 100 件です。
- 登録された外部 API 連携プロファイルは，連絡網定義で参照しますので，連絡網定義の前に外部 API 連携プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロファイル一覧」リスト

登録済み外部 API 連携プロファイル一覧を示します。プロファイル名をクリックすると外部 API 連携プロファイル画面を表示します。

プロファイル名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルが各連絡網で使用されている場合，該当する外部 API 実行は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

外部 API 連携プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で外部 API 連携プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとプロファイル一覧リストでチェックした外部 API 連携プロファイルを一括で削除します。

5.28　外部API連携プロファイル画面

外部 API 連携プロファイル画面では，外部 API 実行時に使用する外部 API の情報を登録します。

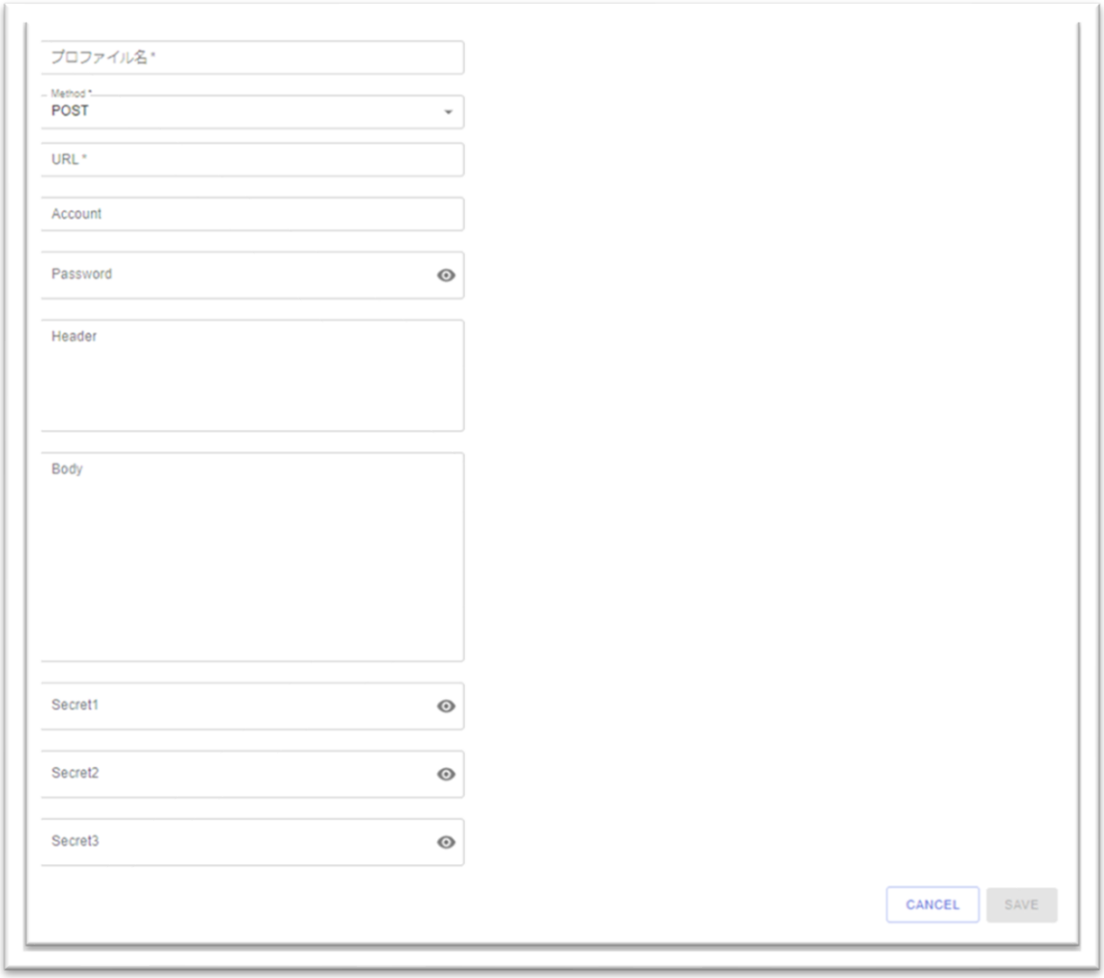


図 5.28-1 外部API連携プロファイル画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「プロファイル名」テキストフィールド**（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合，プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「Method」ドロップダウンリスト**（必須項目）

外部 API リクエスト送信時の HTTP リクエストメソッドを選択します。

(3) 「URL」テキストフィールド（必須項目）

外部 API リクエスト送信先の URL を 1000 文字以内で指定します。URL は http または https から始まる文字列で指定します。また，クエリパラメータを指定可能です。

(4) 「Account」テキストフィールド

外部 API 実行時に Basic 認証が必要な場合，アカウント名を 64 文字以内で指定します。

(5) 「Password」テキストフィールド

外部 API 実行時に Basic 認証が必要な場合，パスワードを 256 文字以内で指定します。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(6) 「Header」テキストフィールド

外部 API 実行時に独自のヘッダーが必要な場合，「ヘッダー名：値」の形式で 512 文字以内で指定します。値は「Secret1～3」テキストフィールド値を「{secretN}」変数として指定，または登録済み変数値（「Body」テキストフィールド参照）を指定することが可能です。なお Content-Type ヘッダ，Accept ヘッダは無視されます。

ヘッダー指定の例)

```
Authorization: Beare {secret1}
X-External-API-Header: {secret2}
X-External-API-Header2: 値
```

(7) 「Body」テキストフィールド

外部 API 実行時の Body の内容を JSON 形式，5000 文字以内で指定します。値は「Secret1～3」テキストフィールド値を「{secretN}」変数として指定，または登録済み変数値を指定することが可能です。別途連絡網発信コマンド，または連絡網発信 API で指定された変数を指定することが可能です。指定した文字列が JSON 書式に違反する場合，外部 API 実行時にエラーとなります。

●登録済み変数値

ヘッダー値，または Body テキストフィールドであらかじめ通報管理サービス内で登録されている以下の変数名を変数として使用することが可能です。

・{confirmed_user_name}：確認操作を行った通知先ユーザ名

・{net_name}：連絡網名

・{net_sid}：連絡網発信識別子

・{net_content}：連絡網通知文（メール通知文）

連絡網確認時 API プロファイルで指定された場合，確認操作を行った通知先ユーザ名，連絡網名，連絡網発信識別子，連絡網通知文（メール通知文）に置き換えられます。未確認時 API プロファイルで指定された場合は置き換えられません。

なお変数名「confirmed_user_name」，「net_name」，「net_sid」，「net_content」と同名が連絡網発信コマンドあるいは連絡網発信 API で変数名として使用された場合は，連絡網発信コマンドあるいは連絡網発信 API で使用された変数名を優先します。

(8) 「Secret1～3」テキストフィールド

プロファイル上で隠したい文字列値を 1000 文字以内で指定します。ここで指定された値は Header テキストフィールド，Body テキストフィールドの変数として指定できます。変数名は「secretN」（secret の大文字・小文字は区別されます。N は 1～3）とします。テキストボックス右端の［パスワード表示］ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

値には以下に示す文字は使用できません。

″ { } & ; :

(9) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，外部 API 連携プロファイル一覧に戻ります。

(10) 「SAVE」ボタン

外部 API 連携プロファイルの情報を登録し，外部 API 連携プロファイル一覧に戻ります。

表 5.28-1 外部API連携プロファイル設定例

プロファイル名	ApiProfile001
Method	POST
URL	http://xxx
Account	user001
Password	User001pass
Header ※1	Authorization: Beare {secret1}

Body ※2	{
	"params" : {
	"key" : "{secret2}",
	"message" : "post message",
	"reifoo" : "{foo}",
	"reibar" : "{bar}"
	}
	}

Secret1	secretKey1
Secret2	secretKey2abc

連絡網発信コマンドで指定されたファイルの設定値

```
foo=aaaaa
bar=bbbbb
```

※1：この場合，外部 API 実行時，Header に指定されている{secret1}は Secret1 設定値の secretKey1 に置き換わり実行されます。

※2：この場合，外部 API 実行時，Body に指定されている{secret2}は Secret2 設定値の secretKey2abc ，{foo}は連絡網発信コマンドで指定された aaaaa，{bar}は連絡網発信コマンドで指定された bbbbb に置き換わり実行されます。

5.29 信号灯プロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「信号灯」をクリックしたとき，登録済み信号灯プロファイルの一覧を表示します。

※信号灯通知プラン契約が無い場合，もしくは契約期間外の場合は表示されません。



図 5.29-1 信号灯プロファイル一覧（表示例）

- 信号灯への通知を行う場合には，１つ以上の信号灯プロファイルの登録が必要です。また，複数の信号灯プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 500 件です。
- 登録された信号灯プロファイルは，ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので，ユーザ定義や連絡網定義の前に信号灯プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロファイル一覧」リスト

登録済み信号灯プロファイル一覧を示します。プロファイル名をクリックすると信号灯プロファイル画面を表示します。

プロファイル名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合，該当する信号灯への通知は失敗します。

(2) 「ステータス」ボタン

クリックすると信号灯ステータス画面を表示します。

(3) 「プラス」アイコンボタン

信号灯プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で信号灯プロファイル画面を表示します。

(4) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとプロファイル一覧リストでチェック

した信号灯プロファイルを一括で削除します。

5.30 信号灯プロファイル画面

信号灯プロファイル画面では，信号灯への通知で使用する信号灯側の情報を登録します。
※信号灯通知プラン契約が無い場合，もしくは契約期間外の場合は表示されません。



図 5.30-1信号灯プロファイル画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「プロファイル名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合，プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「クライアントID」テキストフィールド（必須項目）

信号灯ごとに固定の値を 127 文字以下で指定します。値はサポート窓口からの案内書に記載されています。

(3) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，信号灯プロファイル一覧に戻ります。

(4) 「SAVE」ボタン

信号灯プロファイルの情報を登録し，信号灯プロファイル一覧に戻ります。

5.31　信号灯ステータス画面

信号灯ステータス画面は，信号灯プロファイル一覧の「ステータス」ボタンをクリックすると表示されます。

※信号灯通知プラン契約が無い場合，もしくは契約期間外の場合は表示されません。



図 5.31-1 信号灯ステータス画面

(1) **「信号灯プロファイル」ドロップダウンリスト（必須項目）**

ステータスを確認したい信号灯プロファイルを選択します。

(2) **「更新」ボタン**

本ボタンを押下することで，表示されている信号灯ステータス画面を更新します。

(3) **「ステータス表」**

対象の信号灯のステータスを表示します。

表示項目は，「クライアント ID」「情報取得日時」「最新状態（赤，黄，緑，青，白，ブザー）」となります。

5.32 ユーザー覧

サイドバーから「ユーザ」をクリックしたとき，ユーザー覧を表示します。

ユーザー覧では，登録済みユーザー覧を表示します。ユーザ定義の登録，更新，削除で使用します。

なお，ユーザ定義の操作では，接続先情報（メールサーバ，Twilio プロファイル，LINE WORKS プロファイル，Slack プロファイル，楽天モバイルプロファイル）を参照しますので，ユーザ定義の操作を行う前に，接続先情報の登録を行ってください。

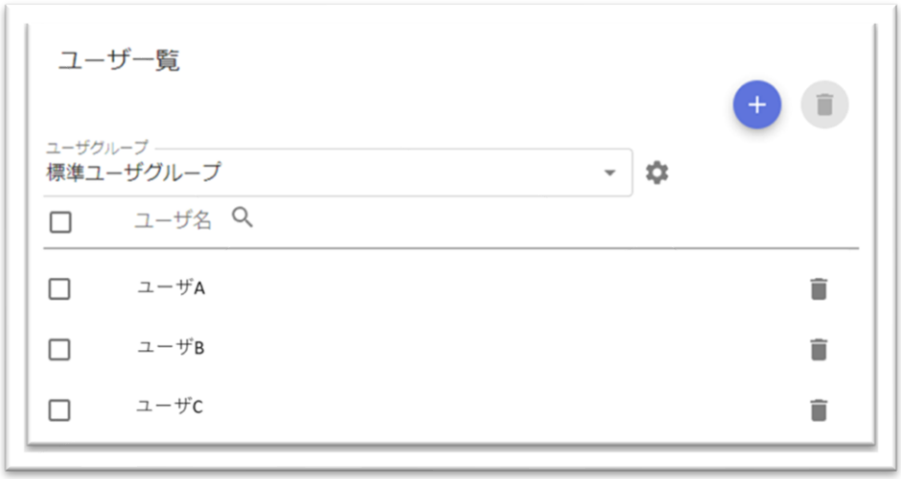


図 5.32-1 ユーザー覧（表示例）

- 登録可能なユーザ数は本サービスを契約されたプランにより決まります。「5.4 ライセンス表示画面」を表示して確認が可能です。
- ユーザグループ 1 つにつき 1000 ユーザまで登録が可能です。
- 登録可能なユーザグループ数は 1000 件です。

(1) 「ユーザグループ」ドロップダウンリスト

リストから選択されたユーザグループのユーザをユーザー覧へ表示します。

(2) 「ユーザグループ設定」ボタン

ユーザグループの追加，削除を選択するメニューを表示するボタンです。リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，サブアカウントでのログイン時では表示されません。

ユーザグループを追加する場合，メニューから「追加」をクリック後表示されるユーザグループ作成ダイアログへ追加するユーザグループの名前を入力してください。ユーザグループ作成ダイアログについては「5.32.1 ユーザグループ作成ダイアログ」を参照ください。

ユーザグループを削除する場合，削除するユーザグループをユーザグループドロップダウンリストで選択後，メニューから「削除」をクリックしてください。選択したユーザグループとそのユーザグループに所属するユーザがすべて削除されます。

(3) 「ユーザ検索」ボタン

ユーザを検索する場合に使用します。ボタンをクリックすると表示されるユーザ検索ダイアログへ検索するユーザ名を入力してください。ユーザ検索ダイアログについては「5.32.2 ユーザ検索ダイアログ」を参照ください。

(4) 「ユーザー覧」リスト

登録済みユーザ一覧を示します。ユーザ名をクリックするとユーザ定義画面を表示します。

ユーザ名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のユーザを個別に削除できます。削除したユーザが連絡網で使用されている場合，そのユーザへの通知は失敗しますが，連絡網の通知は続行されます。

(5) 「プラス」アイコンボタン

ユーザを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規でユーザ定義画面を表示します。ロールによるリソース管理方法を選択しているとき，管理者アカウントでログイン時は常に操作可能，サブアカウントでログイン時は編集権限が付与されている場合に操作可能です。

(6) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックするとユーザ一覧リストでチェックした連絡網を一括で削除します。ロールによるリソース管理方法を選択しているとき，管理者アカウントでログイン時は常に操作可能，サブアカウントでログイン時は編集権限が付与されている場合に操作可能です。

5.32.1 ユーザグループ作成ダイアログ

ユーザ一覧画面のユーザグループ設定ボタンから「追加」をクリックした時，表示されます。



図 5.32-2 ユーザグループ作成ダイアログ

(1) 「ユーザグループ名」テキストフィールド

作成するユーザグループの名前を入力します。既に登録済みのユーザグループ名の場合エラーメッセージが表示されます。ユーザグループ名を 100 文字以内で指定します。ユー

ザグループ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。ユーザグループ名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

5.32.2 ユーザ検索ダイアログ

ユーザ一覧画面のユーザ検索ボタンをクリックした時，表示されます。



図 5.32-3 ユーザ検索ダイアログ

(1) 「ユーザ名」テキストフィールド

検索するユーザの名前を入力します。入力されたユーザ名と部分一致したユーザとそのユーザが所属するユーザグループが最大 100 件まで表示されます。検索結果の一覧の表示順は名称の昇順とします。ユーザ名をクリックするとユーザ定義画面を表示します。また，ユーザグループをクリックするとユーザ検索ダイアログを閉じ，クリックしたユーザグループを選択した状態でユーザ一覧画面を表示します。

5.33 ユーザ定義画面

ユーザ定義画面では，ユーザグループ，該当のユーザが使用可能な通知先の情報（電話番号，SMS 番号，メールアドレス，LINE WORKS のアカウント ID，Slack のメンバー名など）のユーザ情報を定義します。

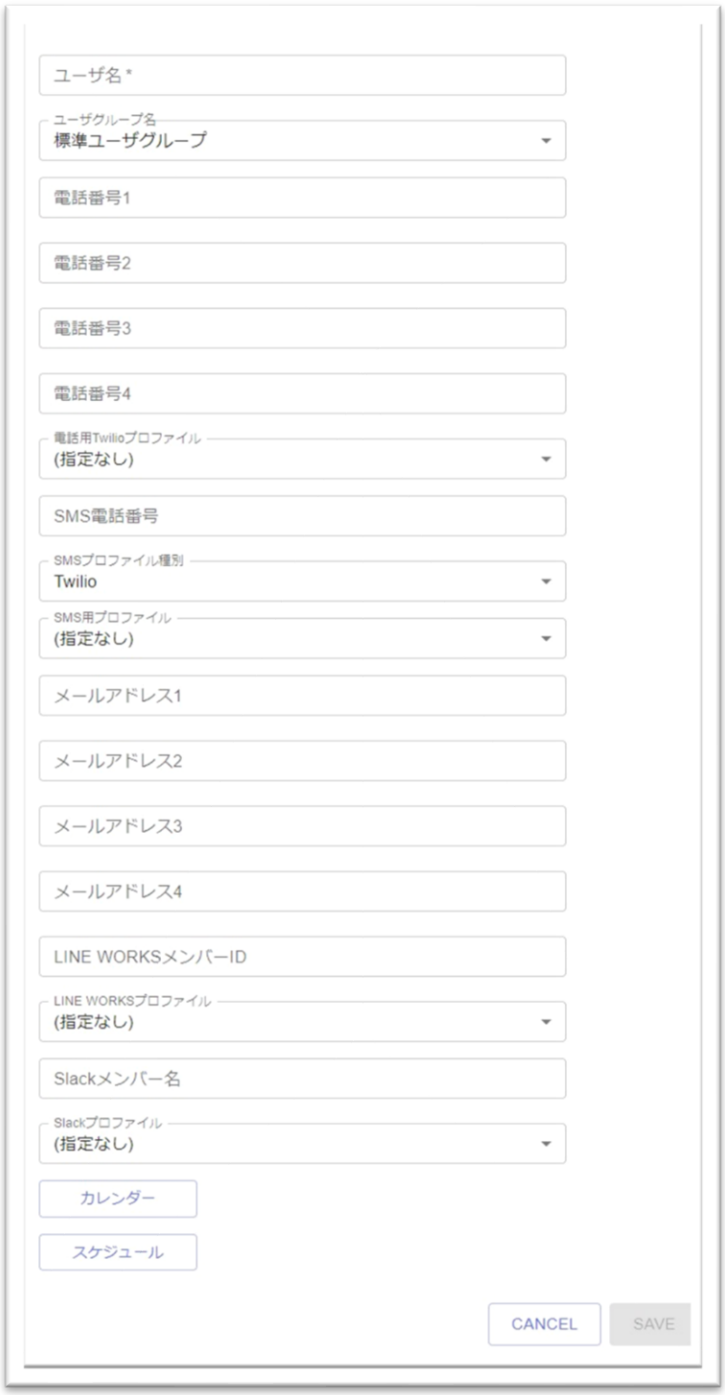


図 5.33-1 ユーザ定義画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「ユーザ名」テキストフィールド**（必須項目）

新規のユーザを定義する場合，ユーザ名を 100 文字以内で指定します。既存のユーザを表示したときは変更できません。ユーザ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。ユーザ名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「ユーザグループ」ドロップダウンリスト**

作成または編集するユーザが属するユーザグループを指定します。編集するユーザでは設定されているユーザグループが表示され，新規ユーザを編集している場合や，ユーザグループが存在しないバージョンで作成したユーザは標準ユーザグループが指定されています。

(3) **「電話番号１～４」テキストフィールド**

電話通知用の電話番号を 1～4 で指定します。電話番号は E.164 電話番号形式，0ABJ 番号形式あるいは 0A0 番号形式の 16 文字以内で指定します。0ABJ 番号，0A0 番号で指定したときは登録後 E.164 番号形式で表示されます。

電話番号形式の例）

E.164 電話番号形式の例）03-XXX-YYYY の場合：+813XXXYYYY

0ABJ 番号形式の例）03-XXX-YYYY の場合：03-XXX-YYYY

0A0 番号形式の例）090-XXX-YYYY の場合：090-XXX-YYYY

電話通知の動作は，電話１へ発信し「確認」「終了」の操作が行われない場合には，電話２へ発信し「確認」「終了」操作が行われない場合には，電話３へ発信し「確認」「終了」操作が行われない場合には，電話４へ発信します。発信する電話の順序は，変えられません。

(4) **「電話用Twilioプロファイル」ドロップダウンリスト**（電話番号を指定した場合，必須項目。ただし，電話通知プラン契約期間中は指定任意）

電話通知する際，どの Twilio プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Twilio のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.18 Twilio プロファイル画面」で登録された，Twilio のプロファイルが表示されます。

電話通知プラン契約期間中，電話番号を指定した状態でこの項目を指定しない場合，Twilio プロファイルを使用せず電話発信を行います。

(5) **「SMS電話番号」テキストフィールド**

SMS 通知用の電話番号を指定します。電話番号は E.164 電話番号形式，0ABJ 番号形式あるいは 0A0 番号形式の 16 文字以内で指定します。0ABJ 番号，0A0 番号で指定したときは登録後 E.164 番号形式で表示されます。

電話番号形式の例は「電話番号１～４」を参照ください。

(6) 「SMSプロファイル種別」ドロップダウンリスト

SMS 通知する際，どのプロファイル種別を使用して通知を実施するかを「Twilio」「楽天モバイル」から選択します。

(7) 「SMS用プロファイル」ドロップダウンリスト（SMS電話番号を指定した場合，必須項目）

SMS 通知する際，どの Twilio プロファイル，または楽天モバイルプロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Twilio のプロファイルはあらかじめ「5.18 Twilio プロファイル画面」で登録された，Twilio のプロファイルがリスト表示されます。楽天モバイルのプロファイルはあらかじめ「5.26 楽天モバイルプロファイル画面」で登録された，楽天モバイルのプロファイルがリスト表示されます。

(8) 「メールアドレス１～４」テキストフィールド

メール通知用のメールアドレスを 1～4 で指定します。メールアドレスは 512 文字以内で指定してください。1～4 を複数指定した場合，それらのメールアドレスすべてを To 指定にしたメール通知を行います。

本テキストフィールドにはメールアドレスのみを記載してください。また，本テキストフィールドには，単一のメールアドレスを指定してください。１つのテキストフィールドに複数のメールアドレスは指定できません。

(9) 「LINE WORKSメンバーID」テキストフィールド

LINE WORKS への通知で使用する LINE WORKS のメンバーアカウント ID を 512 文字以内で指定します。指定するアカウント ID は LINE WORKS 側であらかじめメンバーアカウントとして登録されている必要があります。

(10) 「LINE WORKSプロファイル」ドロップダウンリスト（LINE WORKSメンバーIDを指定した場合，必須項目）

LINE WORKS へ通知する際，どの LINE WORKS プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。LINE WORKS のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.20 LINE WORKS プロファイル画面」で登録された，LINE WORKS のプロファイルが表示されます。

(11) 「Slackメンバー名」テキストフィールド

Slack への通知で使用する Slack のメンバー名を 1,000 文字以内で指定します。Slack のメンバー名は Slack 側のメンバーの「氏名」を指定します。「表示名」ではありません。指定するメンバー名は Slack 側であらかじめメンバーとして登録されている必要があります。

(12) 「Slackプロファイル」ドロップダウンリスト（Slackメンバー名を指定した場合，必須項目）

Slack へ通知する際，どの Slack プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Slack のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.22 Slack プロファイル画面」で登録された，Slack のプロファイルが表示されます。

(13) 「カレンダー」ボタン

カレンダーダイアログを表示します。定義中のユーザが「システムカレンダー」と異なるカレンダーを使用したい場合に指定します。ユーザが使用するカレンダーの情報を指定します。カレンダーダイアログについては「5.36 カレンダーダイアログ」を参照ください。

(14)「スケジュール」ボタン

スケジュールダイアログを表示します。定義中のユーザが「システムスケジュール」と異なるスケジュールを使用したい場合に指定します。ユーザが使用するスケジュールの情報を指定します。スケジュールダイアログについては「5.37 スケジュールダイアログ」を参照ください。

(15)「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，ユーザ一覧へ戻ります。

(16)「SAVE」ボタン

変更内容を登録し，ユーザ一覧へ戻ります。

5.34 連絡網一覧

サイドバーから「連絡網」をクリックしたとき，連絡網一覧を表示します。また，サインインに成功した場合の初期表示でも連絡網一覧を表示します。

連絡網一覧では，登録済み連絡網一覧を表示します。連絡網定義の登録，更新，削除で使用します。

なお，連絡網定義の操作では，接続先情報（メールサーバ，Twilio プロファイル，LINE WORKS プロファイル，Slack プロファイル，Microsoft teams プロファイル，楽天モバイルプロファイル，信号灯プロファイル）とユーザ定義情報を参照しますので，連絡網定義の操作を行う前に，接続先情報とユーザ定義情報の登録を行ってください。



図 5.34-1 連絡網一覧（表示例）

- 登録可能な連絡網数は 500 件です。

(1) 「連絡網一覧」リスト

登録済み連絡網一覧を示します。連絡網名をクリックするとその連絡網の定義画面を表示します。

連絡網名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行の連絡網を個別に削除できます。削除した連絡網がエスカレーション先連絡網として指定されている場合，連絡網の実行に失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

連絡網を新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で連絡網定義画面を表示します。ロールによるリソース管理方法を選択しているとき，管理者アカウントでログイン時は常に操作可能，サブアカウントでログイン時は編集権限が付与されている場合に操作可能です。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックすると連絡網一覧リストでチェックした連絡網を一括で削除します。ロールによるリソース管理方法を選択しているとき，管理者ア

カウントでログイン時は常に操作可能，サブアカウントでログイン時は編集権限が付与されている場合に操作可能です。

5.35　連絡網定義画面

連絡網定義画面では，通知先，電話通知の確認時の動作，エスカレーション先の連絡網，カレンダーやスケジュールなどを設定し連絡網を定義します。



図 5.35-1 連絡網定義画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「連絡網名」テキストフィールド（必須項目）

新規の連絡網を定義する場合，連絡網の名前を 100 文字以内で指定します。既存の連絡網を表示したときは変更できません。連絡網名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。連絡網名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「実行回数」テキストフィールド（必須項目）

連絡網全体の実行回数を 1～30 の範囲で指定します。半角数字で入力してください。初期値は 1 です。2 以上を指定した場合でも成功した通知先へは繰り返しは行いません。（連絡網例 1 参考）

電話発信などで，受信者が話し中や電話に出ないなどの場合に，2以上を指定する事で，通知を繰り返して実行することが可能です。1 の場合，繰り返しは行いません。

連絡網の繰り返しの間隔は 60 秒です。

連絡網例 1）

連絡網の設定値

実行回数：2

通知先：a（Teams）⇒b(メール)⇒c（電話）

連絡網全体の実行 1 回目

a：発信あり→成功

b：発信あり→成功

c：発信あり→操作なし（電話通知の「確認」または「保留」の操作をしていない）

連絡網の設定値，連絡網全体の実行 1 回目が上記の場合，連絡網全体の実行 2 回目では下記のように c にのみ発信されます。

連絡網全体の実行 2 回目

a：発信なし（実行 1 回目に成功しているため）

b：発信なし（実行 1 回目に成功しているため）

c：発信あり

(3) 「確認がとれたら中止する」スイッチ（必須項目）

電話発信で受信者が「確認」操作を行ったときに，後続の通知先への通知を行う（続行する）のか，行わない（中止する）のかを指定します。初期値は「ON（確認がとれたら後続の通知先への通知を行わない（中止する））」です。

(4) 「ユーザグループ」ドロップダウンリスト

利用可能な通知先に表示するユーザのユーザグループを指定します。

(5) 「ユーザ検索」テキストフィールド

利用可能な通知先ユーザの検索文字列を指定します。検索文字列は通知先ユーザの部分一致したユーザのみを「利用可能な通知先」ツリービューの[ユーザ]に表示します。ワイルドカードなど正規表現（メタキャラクタ）を指定した検索は行えません。

(6) 「利用可能な通知先」ツリービュー

通知先として利用可能な通知先ユーザ，利用可能な通知メディアをツリービューで表示します。

通知先ユーザはユーザグループドロップダウンリストで指定したユーザグループに属するユーザ，かつあらかじめ「5.33 ユーザ定義画面」で登録したユーザ一覧とユーザの通知可能な通知メディアが表示されます。管理者アカウントでもサブアカウントをまたがった通知先ユーザを指定することはできません。

- ユーザに電話番号 1～4 の登録があった場合でも，本ツリービューでは「電話」の表示のみです。
- ユーザにメールアドレス 1～4 の登録があった場合でも，本ツリービューでは「メール」の表示のみです。
- 同一ユーザの同一通知メディアを 2 つ以上通知先一覧に追加することはできません。

通知メディアの「LINE WORKS」「Slack」「Microsoft Teams」は，ユーザへの通知ではなく，指定するトークルームまたはチャンネルへの通知となります。LINE WORKS を選択し「→」ボタンを押下したとき「5.35.2 LINE WORKS トークルーム設定ダイアログ」を表示します。Slack を選択し「→」ボタンを押下したときは「5.35.3 Slack チャンネル設定ダイアログ」を表示します。Microsoft Teams を選択し「→」ボタンを押下したときは「5.35.4 Microsoft Teams 設定ダイアログ」を表示します。

信号灯通知プランを契約中の場合，通知メディアの「信号灯」を選択可能です。信号灯を選択し「→」ボタンを押下したとき「5.35.5 信号灯通知設定ダイアログ」を表示します。

通知メディアの「外部 API 連携」は，ユーザへの通知ではなく，指定した外部 API 連携プロファイルを使用した外部 API への通知となります。外部 API 連携を選択し「→」ボタンを押下したとき「5.35.6 外部 API 連携設定ダイアログ」を表示します。

通知メディアの「メール一括送信」は，To，Cc，Bcc の宛先を指定したユーザへのメール通知となります。メール一括送信を選択し「→」ボタンを押下したとき「5.35.7 メール一括送信設定ダイアログ」を表示します。

(7) 「→」ボタン

「利用可能な通知先」ツリービューで選択された，通知先ユーザの通知メディアまたは，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams，信号灯（信号灯通知プラン契約時）の通知メディアを通知先一覧に追加します。

通知先一覧には最大 20 個まで，通知先の指定が可能です。20 個に達した場合，「→」ボタンは非活性となります。

(8) 「通知先」リスト

指定された通知先の一覧（通知先一覧）を表示します。通知の順序は，リストの上から下の順となります。

(9) 「↑」ボタン

通知先一覧でチェックボックスがつけられた通知先の位置を 1 つ上に移動します。チェックが付いていないとき，または 2 つ以上のチェックが付けられたときは非活性になりま

す。

(10)「↓」ボタン

通知先一覧でチェックボックスがつけられた通知先の位置を 1 つ下に移動します。チェックが付いていないとき，または 2 つ以上のチェックが付けられたときは非活性になります。

(11)「削除」ボタン

通知先一覧でチェックボックスがつけられた通知先を通知先一覧から削除します。チェックが付いていないときは非活性になります。

(12)「確認時エスカレーション先連絡網名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが電話による「確認」操作を行った場合，別の連絡網への発信を行う場合に，その連絡網名をリストから選択します。リストには，登録済の連絡網（定義中の自連絡網を除く）が表示されます。エスカレーション先への通知文は，エスカレーション元で指定されたものと同じ内容の文章が使用されます。

ロールによるリソース管理を行う場合，同一リソースグループに割り当てられている連絡網をエスカレーション先として指定可能です。

●無限ループ防止のお願い

２つの連絡網で，エスカレーション先連絡網名を以下のように定義した場合，

無限ループが発生します。以下のような定義の登録は行わないようお願いします。

・連絡網定義「A001」のエスカレーション先：B001

・連絡網定義「B001」のエスカレーション先：A001

上記のように定義し，連絡網を実行した場合

A001 ⇒ B001 ⇒ A001 ⇒ B001 .... 無限ループが発生します。

(13)「未確認時エスカレーション先連絡網名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが「確認」操作を行わなかった場合(※1)，別の連絡網への発信を行う場合に，その連絡網名をリストから選択します。リストには，登録済の連絡網（定義中の自連絡網を除く）が表示されます。エスカレーション先への通知文は，エスカレーション元で指定されたものと同じ内容の文章が使用されます。

※１：連絡網内に電話通知が未定義（電話通知がない）の場合には，「確認」操作が行われることはありませんので，本ドロップダウンリストに指定した，別の連絡網への発信が常に実行されることになります。

また，連絡網定義内に電話通知が定義されており「確認」操作を行った場合でも「確認がとれたら中止する」が「OFF」のときには，別の連絡網への発信が実行されます。

●無限ループ防止のお願い

(11)「確認時エスカレーション先連絡網名」を参照ください。

(14)「確認時外部API実行プロファイル名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが電話による「確認」操作を行った場合，外部 API の実行を行う場合に，その外部 API 実行プロファイル名をリストから選択します。リストには，登録済の外部 API 連携プロファイル名が表示されます。

(15)「未確認時外部API実行プロファイル名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが「確認」操作を行わなかった場合(※1)，外部 API の実行を行う場合に，その外部 API 実行プロファイル名をリストから選択します。リストには，登録済の外部 API 連携プロファイル名が表示されます。

※１：連絡網内に電話通知が未定義（電話通知がない）の場合には，「確認」操作が行われることはありませんので，本ドロップダウンリストに指定した，外部 API が常に実行されることになります。

また，連絡網定義内に電話通知が定義されており「確認」操作を行った場合でも「確認がとれたら中止する」が「OFF」のときには，外部 API が実行されます。

(16)「カレンダー」ボタン

カレンダーダイアログを表示します。「システムカレンダー」と異なるカレンダーを使用したい場合に指定します。定義中の連絡網で使用するカレンダー情報を指定します。カレンダーダイアログについては「5.36 カレンダーダイアログ」を参照ください。

(17)「スケジュール」ボタン

スケジュールダイアログを表示します。「システムスケジュール」と異なるスケジュールを使用したい場合に指定します。定義中の連絡網で使用するスケジュール情報を指定します。スケジュールダイアログについては「5.37 スケジュールダイアログ」を参照ください。

(18)「連絡網テスト実行」ボタン

現在保存されている連絡網を実行します。通知文は「[notifysaas] からの連絡です」という固定文です。連絡網実行が成功した場合，成功を示すダイアログが表示されます。

新規連絡網編集時は非活性となります。

(19)「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網一覧に戻ります。

(20)「COPY」ボタン

連絡網をコピーします。コピー後の連絡網の名称は 5.35.1 連絡網コピーダイアログで指定します。サブアカウントによるリソース管理を行う場合，本ボタンは表示されません。

(21)「SAVE」ボタン

連絡網の情報を登録し，連絡網一覧に戻ります。なお，通知先が 1 つも指定されていない場合でも，登録は可能です。

5.35.1 連絡網コピーダイアログ

コピー先連絡網名を指定します。

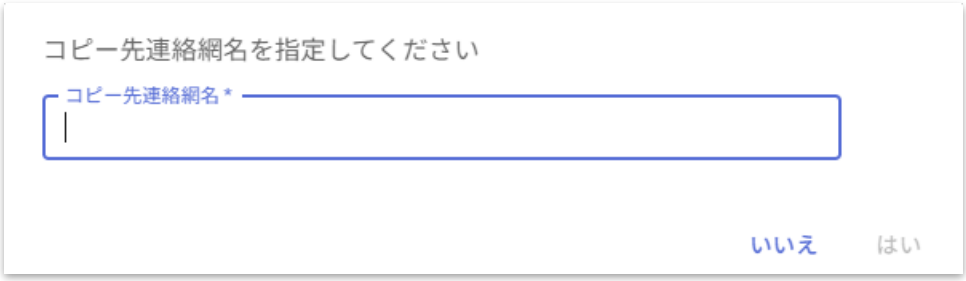


図 5.35-2 連絡網コピーダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「コピー先連絡網名」テキストフィールド**（必須項目）

新規の連絡網を定義する場合，連絡網の名前を 100 文字以内で指定します。連絡網名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。連絡網名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「いいえ」ボタン**

コピー先連絡網を保存せず，連絡網定義画面に戻ります。

(3) **「はい」ボタン**

コピー先連絡網を保存して，連絡網定義画面に戻ります。

5.35.2 LINE WORKSトークルーム設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で LINE WORKS を選択し，「→」ボタンをクリックした時，表示されます。利用可能な通知先で LINE WORKS を選択した場合，指定は必須です。

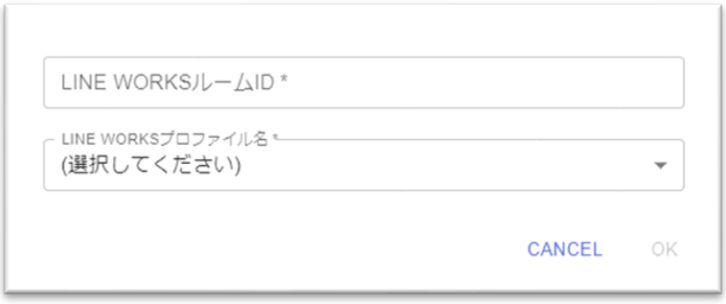


図 5.35-3 LINE WORKSトークルーム設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「LINE WORKSルームID」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS へ通知する際，どのトークルームへ通知するかを指定します。通知先の LINE WORKS のトークルーム ID を 64 文字以内で指定します。（LINE WORKS のトークルーム名ではありません）

LINE WORKS のトークルーム ID は，以下の (a)，(b) または (c) の方法で取得してください。

(a) LINE WORKS トークルーム作成コマンドを動作させ，新規にトークルームを作成し，記録されたトークルーム ID を使用する。

「6.2.15 LINE WORKS トークルーム作成コマンド」を動作させ，トークルームを作成します。次に，ルーム ID 記録ファイル (room.conf)を参照し，作成したトークルームのトークルーム ID を取得します。

ルーム ID 記録ファイル (room.conf)の詳細に関しては「3.2(3)ルーム ID 記録ファイルに関して」を参照ください。

(b) LINE WORKS トークルーム作成 API を動作させ，新規にトークルームを作成し，API のレスポンスからトークルーム ID を取り出して使用する。

「7.2.17 LINE WORKS トークルーム作成 API」を動作させ，トークルームを作成します。API 成功時のレスポンス(resp_linecreateroom.json)を解析し，トークルーム ID を取得します。

API 成功時のレスポンス (resp_linecreateroom.json) の詳細に関しては「8.1(28)resp_linecreateroom.json」を参照ください。

(c) お客様側で既にご使用されているトークルームのトークルーム ID が明確な場合

何らかの方法で，お客様側でご使用されているトークルームのトークルーム ID を入手している場合には，入手済のトークルーム ID を使用してください。

(2) 「LINE WORKSプロファイル名」ドロップダウンリスト（必須項目）

LINE WORKS へ通知する際，どの LINE WORKS プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。LINE WORKS のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.20 LINE WORKS プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。

(3) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，連絡網定義画面へ戻ります。

(4) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，連絡網定義画面へ戻ります。

5.35.3 Slackチャンネル設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で Slack を選択し，「→」ボタンをクリックした時，表示されます。利用可能な通知先で Slack を選択した場合，指定は必須です。

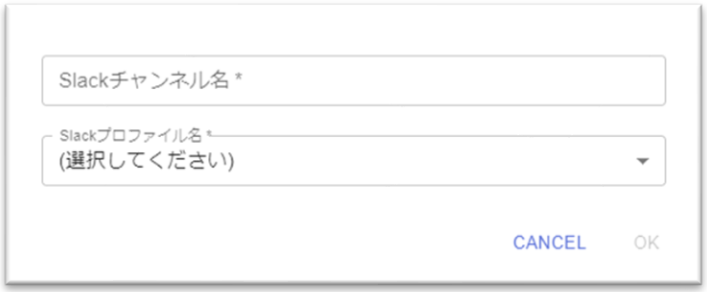


図 5.35-4 Slackチャンネル設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「Slackチャンネル名」テキストフィールド（必須項目）

Slack へ通知する際，どのチャンネルへ通知するかを指定します。通知先の Slack のチャンネル名を 160 文字以内で指定します。

(2) 「Slackプロファイル名」ドロップダウンリスト（必須項目）

Slack へ通知する際，どの Slack プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Slack のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.22 Slack プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。

(3) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，連絡網定義画面へ戻ります。

(4) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，連絡網定義画面へ戻ります。

5.35.4 Microsoft Teams設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で Microsoft Teams を選択し，「→」ボタンをクリックした時，表示されます。利用可能な通知先で Microsoft Teams を選択した場合，指定は必須です。

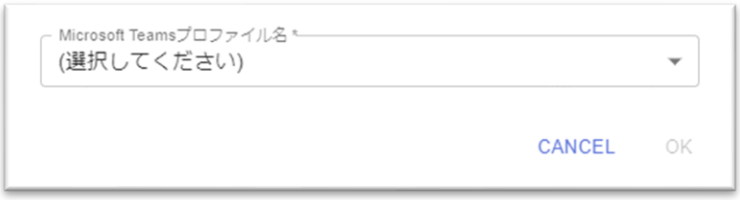


図 5.35-5 Microsoft Teams設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「Microsoft Teamsプロファイル名」ドロップダウンリスト（必須項目）

Microsoft Teams へ通知する際，Microsoft Teams プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Microsoft Teams のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.24Microsoft Teams プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。

(2) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，連絡網定義画面へ戻ります。

(3) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，連絡網定義画面へ戻ります。

5.35.5 信号灯通知設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で信号灯を選択し，「→」ボタンをクリックした時，表示されます。利用可能な通知先で信号灯を選択した場合，指定は必須です。



図 5.35-6 信号灯通知設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「信号灯プロファイル名」ドロップダウンリスト**（必須項目）

信号灯へ通知する際，どの信号灯プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。信号灯のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.30 信号灯プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。

(2) **「赤」ドロップダウンリスト**

信号灯へ通知する際，赤色のランプをどのような動作で通知を実施するかを指定します。動作は「変化なし」「消灯」「点灯」「点滅 1」「点滅 2」「点滅 3」「点滅 4」から選択可能です。

(3) **「黄」ドロップダウンリスト**

信号灯へ通知する際，黄色のランプをどのような動作で通知を実施するかを指定します。動作は「変化なし」「消灯」「点灯」「点滅 1」「点滅 2」「点滅 3」「点滅 4」から選択可能です。

(4) **「緑」ドロップダウンリスト**

信号灯へ通知する際，緑色のランプをどのような動作で通知を実施するかを指定します。動作は「変化なし」「消灯」「点灯」「点滅 1」「点滅 2」「点滅 3」「点滅 4」から選択可能です。

(5) 「青」ドロップダウンリスト

信号灯へ通知する際，青色のランプをどのような動作で通知を実施するかを指定します。動作は「変化なし」「消灯」「点灯」「点滅 1」「点滅 2」「点滅 3」「点滅 4」から選択可能です。

(6) 「白」ドロップダウンリスト

信号灯へ通知する際，白色のランプをどのような動作で通知を実施するかを指定します。動作は「変化なし」「消灯」「点灯」「点滅 1」「点滅 2」「点滅 3」「点滅 4」から選択可能です。

(7) 「ブザー」ドロップダウンリスト

信号灯へ通知する際，ブザーをどのような動作で通知を実施するかを指定します。動作は「変化なし」「停止」「パターン 1」「パターン 2」「パターン 3」「パターン 4」「パターン 5」から選択可能です。

(8) 「自動的に消灯する」チェックボックス

チェックを入れた場合，上記で指定した動作を自動的に消灯するよう設定します。

(9) 「消灯までの待ち時間」テキストボックス

信号灯へ通知した際の動作を自動的に消灯するまでの時間を秒数で指定します。自動的に消灯するチェックボックスへチェックを入れた場合，必須項目です。待ち時間の指定範囲は 1 以上 120 以下です。

(10) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，連絡網定義画面へ戻ります。

(11) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，連絡網定義画面へ戻ります。

5.35.6 外部API連携設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で外部 API 連携を選択し，「→」ボタンをクリックした時，表示されます。利用可能な通知先で外部 API 連携を選択した場合，指定は必須です。

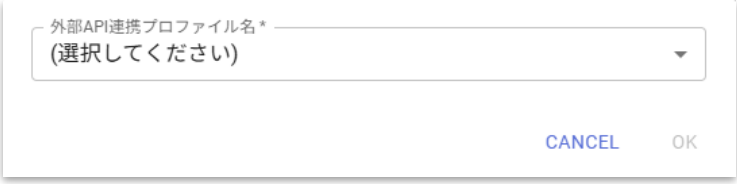


図 5.35-7 外部API連携設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

- 連絡網の通知先として外部 API 連携を指定した場合は登録済み変数値の{confirmed_user_name}は使用できません。

(1) 「外部API連携プロファイル名」ドロップダウンリスト（必須項目）

外部 API 連携を使用して通知する際，使用する外部 API 連携プロファイルを指定します。リストにはあらかじめ「5.28 外部 API 連携プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。

(2) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，連絡網定義画面へ戻ります。

(3) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，連絡網定義画面へ戻ります。

5.35.7 メール一括送信設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先でメール一括送信を選択し，「→」ボタンをクリックした時，表示されます。利用可能な通知先でメール一括送信を選択した場合，指定は必須です。

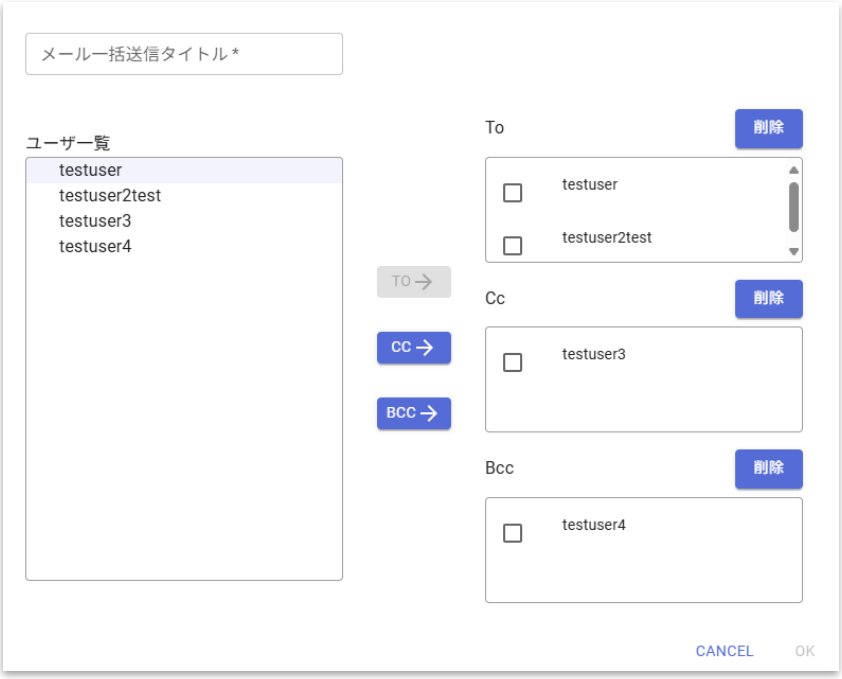


図 5.35-8 メール一括送信設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- メールサーバ登録画面で「サービスのメールサーバを使用する」を選択した場合，送信可能なメールアドレスは最大 50 個までです。

(1) **「メール一括送信タイトル」テキストフィールド**（必須項目）

メール一括送信のタイトルを 100 文字以内で指定します。メール一括送信のタイトルには以下に示す文字は使用できません。またメール一括送信のタイトルの先頭文字に「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。メール一括送信タイトルには以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「ユーザー覧」リスト**

メールの送信先に指定可能なユーザ一覧を表示します。

ユーザは連絡網定義画面のユーザグループドロップダウンリストで指定したユーザグループに属し，メールアドレスが設定されているユーザのみ表示します。ユーザの表示順は名称の昇順です。

ユーザの名称が長い場合は省略表示されます。またユーザ名にはツールチップを表示します。

(3) **「TO→」ボタン**

「ユーザ一覧」リストで選択された通知先ユーザをメール送信先一覧（To）に追加します。いずれかのメール送信先一覧に追加済みのユーザは追加することはできません。メール送信先一覧（To）が 20 個に達した場合，「TO→」ボタンは非活性になります。

(4) **「CC→」ボタン**

「ユーザ一覧」リストで選択された通知先ユーザをメール送信先一覧（Cc）に追加します。いずれかのメール送信先一覧に追加済みのユーザは追加することはできません。メール送信先一覧（Cc）が 20 個に達した場合，「CC→」ボタンは非活性になります。

(5) **「BCC→」ボタン**

「ユーザ一覧」リストで選択された通知先ユーザをメール送信先一覧（Bcc）に追加します。いずれかのメール送信先一覧に追加済みのユーザは追加することはできません。メール送信先一覧（Bcc）が 20 個に達した場合，「BCC→」ボタンは非活性になります。

(6) **「メール送信先一覧」リスト（To）**

登録済みのメール送信先ユーザ（To）を表示します。メール送信先一覧に登録できるメール送信先ユーザは最大 20 個までです。

(7) **「削除」ボタン（To）**

メール送信先一覧リスト（To）でチェックボックスがつけられたメール送信先ユーザを削除します。チェックが付いていないときは非活性になります。

(8) **「メール送信先一覧」リスト（Cc）**

登録済みのメール送信先ユーザ（Cc）を表示します。メール送信先一覧に登録できるメール送信先ユーザは最大 20 個までです。

(9) 「削除」ボタン（Cc）

メール送信先一覧リスト（Cc）でチェックボックスがつけられたメール送信先ユーザを削除します。チェックが付いていないときは非活性になります。

(10)「メール送信先一覧」リスト（Bcc）

登録済みのメール送信先ユーザ（Bcc）を表示します。メール送信先一覧に登録できるメール送信先ユーザは最大 20 個までです。

(11)「削除」ボタン（Bcc）

メール送信先一覧リスト（Bcc）でチェックボックスがつけられたメール送信先ユーザを削除します。チェックが付いていないときは非活性になります。

(12)「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，連絡網定義画面へ戻ります。

(13)「OK」ボタン

編集内容を保存して，連絡網定義画面へ戻ります。

5.36 カレンダーダイアログ

カレンダーダイアログでは，お客様の運用にあわせて休日の設定が可能です。以下の３種類のカレンダーを提供します。

- システムカレンダー

  お客様ごとのシステムカレンダーです。初期値は土曜日，日曜日が休日となります。祝日は休日となっていません。

  サイドバーの「システムカレンダー」をクリックしたとき，カレンダーダイアログを表示します。

- ユーザカレンダー

  ユーザごとに設定することが可能なカレンダーです。初期値はシステムカレンダーの値を表示します。ユーザカレンダーを登録後に，システムカレンダーの内容を変更しても，登録済のユーザカレンダーの内容は変更されません。

  ユーザ定義登画面で「カレンダー」ボタンを押下したとき，カレンダーダイアログを表示します。

- 連絡網カレンダー

  連絡網ごとに設定することが可能なカレンダーです。初期値はシステムカレンダーの値を表示します。連絡網カレンダーを登録後に，システムカレンダーの内容を変更しても，登録済の連絡網カレンダーの内容は変更されません。

  連絡網定義画面で「カレンダー」ボタンを押下したとき，カレンダーダイアログを表示します。

通知時にどのカレンダーを適用するかの優先順位は，
ユーザカレンダー　＞　連絡網カレンダー　＞　システムカレンダー
の順番となります。

例１）ユーザカレンダーと連絡網カレンダーの設定がある場合，
　　ユーザカレンダーが適用されます。
例２）ユーザカレンダーも連絡網カレンダーも設定がない場合，
　　システムカレンダーが適用されます。

●システムカレンダーの操作に関して

システムカレンダーを操作する場合には，ユーザ定義画面の操作，連絡網定義画面の操作は行わないようにしてください。同時に操作を行った場合は，登録操作のタイミングにより，システムカレンダーの内容が，ユーザカレンダーや連絡網カレンダーに反映されない場合があります。



図 5.36-1 システムカレンダーダイアログ



図 5.36-2 ユーザカレンダーダイアログ



図 5.36-3 連絡網カレンダーダイアログ



図 5.36-4 連絡網カレンダーダイアログ（指定例）

(1) 「カレンダータイトル」

カレンダーのタイトルを表示します。「システムカレンダー」「ユーザカレンダー」「連絡網カレンダー」のいずれかを表示します。

(2) 「休日とする曜日」（日～土）チェックボタン

特定の曜日を休日にする場合は，休日にする曜日のチェックを ON にします。解除する場合は，チェックを OFF にします。特定の曜日の休日設定，解除はすべての月に反映されます。システムカレンダーの初期値は，土日を休日としています。祝日は休日となっていません。任意の日付を休日に設定するには，(3)「休日とする日付」を使用し設定してください。

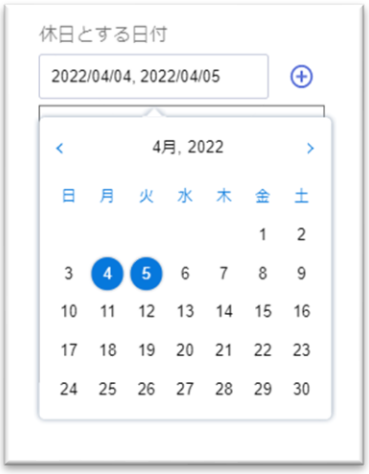
(3) 「休日とする日付」「YYYY/MM/DD」年月日選択フィールド，「プラス」アイコンボタン

任意の日付を休日に設定する場合に使用します。

「YYYY/MM/DD」フィールドをクリックすると，カレンダーが表示されるので休日とする日付を選択（クリックして青色リバース）し，「プラス」アイコンボタンを押下することで「休日とする日付」リストに追加します。カレンダーの複数の日付を選択することが可能です。日付の直接入力できません。過去の日付は登録できません。また，(4)「休日としない日付」に設定した日付は登録できません。

「休日とする日付」リストには最大 50 個まで，休日とする日付の指定が可能です。50 個に達した場合，「プラス」アイコンボタンは非活性となります。

例）2022/04/04，202204/05 を休日とする場合



・「<」ボタンで前月，「>」ボタンで次月を表示
・月部分をクリックすると，月ダイアログが表示され，選択した年月のカレンダーを表示
・年部分をクリックすると，年ダイアログが表示され，選択した年月のカレンダーを表示

「プラス」アイコンボタンを押下し，休日が追加されたリスト



(4) 「休日とする日付」リスト，「ゴミ箱」アイコンボタン

(2)「休日とする曜日」以外の任意の休日をリスト表示します。

休日をやめる場合には，該当する日付のチェックボタンをチェックして，「ゴミ箱」アイコンボタンを押下して，リストから削除します。

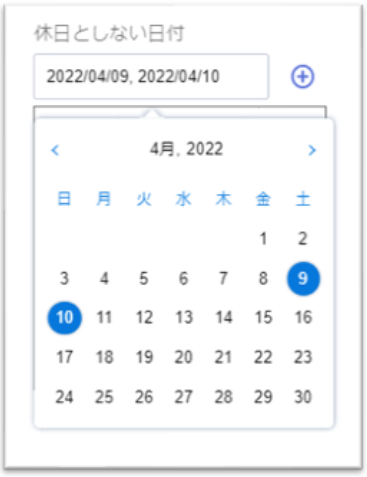
(5) 「休日としない日付」「YYYY/MM/DD」年月日選択フィールド，「プラス」アイコンボタン

(2)「休日とする曜日」で指定した曜日から，任意の日付を除外（平日に設定）する場合に使用します。

「YYYY/MM/DD」フィールドをクリックすると，カレンダーが表示されるので休日を解除する日付を選択（クリックして青色リバース）し，「プラス」アイコンボタンを押下することで「休日としない日付」リストに追加します。日付の選択時に複数の日付が選択可能です。日付の直接入力できません。過去の日付は登録できません。また，「休日とする日付」に設定した日付は登録できません。

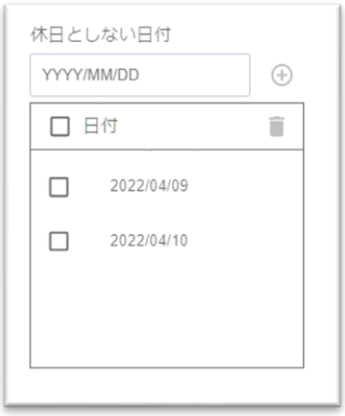
「休日としない日付」リストには最大 50 個まで，休日としない日付の指定が可能です。50 個に達した場合，「プラス」アイコンボタンは非活性となります。

例）2022/04/09，202204/10 を休日から除外する場合



・「<」ボタンで前月，「>」ボタンで次月を表示
・月部分をクリックすると，月ダイアログが表示され，選択した年月のカレンダーを表示
・年部分をクリックすると，年ダイアログが表示され，選択した年月のカレンダーを表示

「プラス」アイコンボタンを押下し，除外する日が追加されたリスト



(6) 「休日としない日付」リスト，「ゴミ箱」アイコンボタン

「休日とする曜日」から，除外（平日に設定）する日付をリスト表示します。

除外をやめる（休日に戻す）場合には，該当する日付のチェックボタンをチェックして，「ゴミ箱」アイコンボタンを押下して，リストから削除します。

(7) 「削除」ボタン

「ユーザカレンダー」もしくは「連絡網カレンダー」を削除する場合に使用します。

なお，「システムカレンダー」は削除できませんので，「削除」ボタンは表示されません。

(8) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，カレンダーダイアログを閉じます。

(9) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，カレンダーダイアログを閉じます。

5.37 スケジュールダイアログ

スケジュールダイアログでは，お客様の運用にあわせて各通知メディアへの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。スケジュールは平日用，休日用のそれぞれが設定可能です。カレンダーダイアログとあわせて設定することで，平日・休日の各通知メディアへの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。

本サービスでは，以下の３種類のスケジュールを提供します。

- システムスケジュール

  お客様ごとのシステムスケジュールです。初期値では抑止する時間帯の設定はされていません。

  サイドバーの「システムスケジュール」をクリックしたとき，スケジュールダイアログを表示します。

- ユーザスケジュール

  ユーザごとに設定するスケジュールです。初期値はシステムスケジュールの値です。ユーザスケジュールを登録後にシステムスケジュールの内容を変更しても，登録済のユーザスケジュールの内容は変更されません。

  ユーザ定義登画面で「スケジュール」ボタンを押下したとき，スケジュールダイアログを表示します。

- 連絡網スケジュール

  連絡網ごとに設定するスケジュールです。初期値はシステムスケジュールの値です。連絡網スケジュールを登録後にシステムスケジュールの内容を変更しても，登録済の連絡網スケジュールの内容は変更されません。

  連絡網定義画面で「スケジュール」ボタンを押下したとき，スケジュールダイアログを表示します。

発信時にどのスケジュールを適用するかの優先順位は，
ユーザスケジュール　＞　連絡網スケジュール　＞　システムスケジュール
の順番となります。

例１）ユーザスケジュールと連絡網スケジュールの設定がある場合，
　　ユーザスケジュールが適用されます。

例２）ユーザスケジュールも連絡網スケジュールも設定がない場合，
　　システムスケジュールが適用されます。

●システムスケジュールの操作に関して

システムスケジュールを操作する場合には，ユーザ定義画面の操作，連絡網定義画面の操作は行わないようにしてください。同時に操作を行った場合は，登録操作のタイミングにより，システムスケジュールの内容が，ユーザスケジュールや連絡網スケジュールに反映されない場合があります。

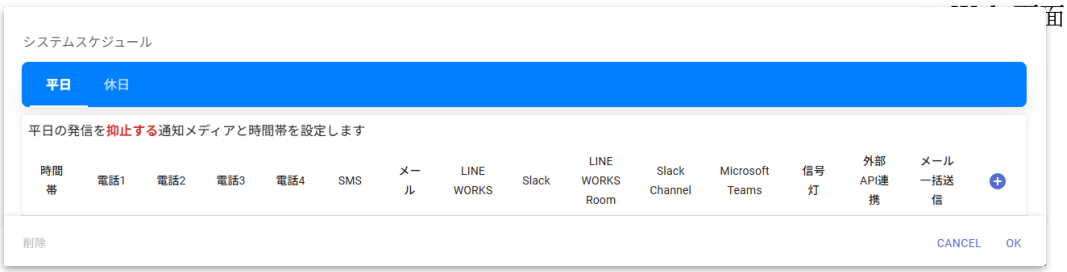


図 5.37-1 システムスケジュールダイアログ

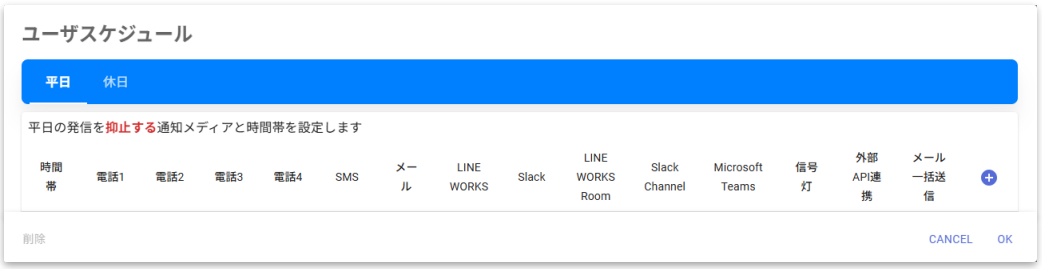


図 5.37-2 ユーザスケジュールダイアログ

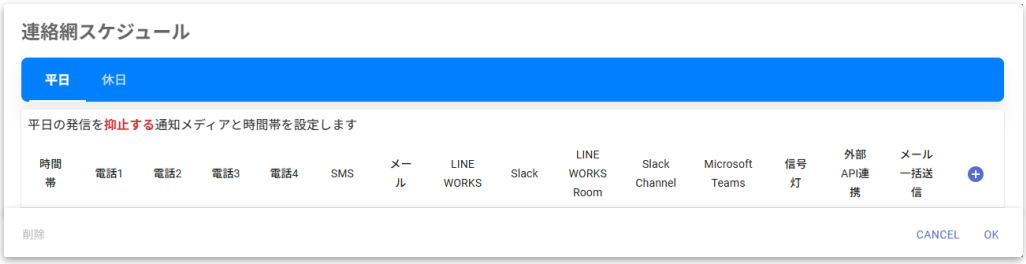


図 5.37-3 連絡網スケジュールダイアログ

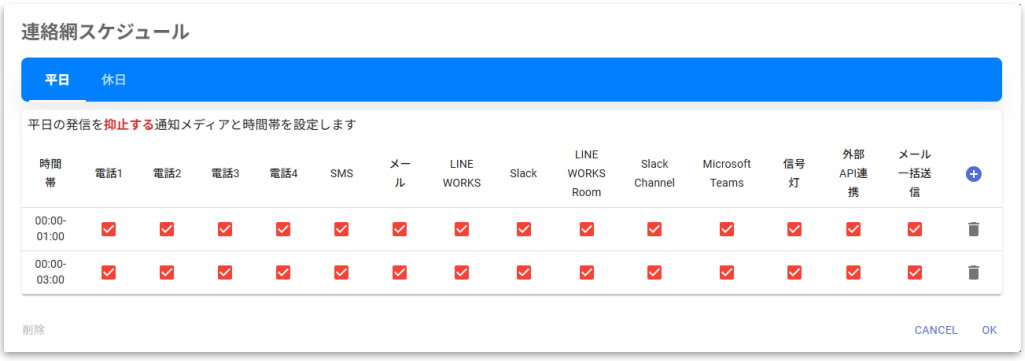


図 5.37-4 連絡網スケジュールダイアログ（指定例）

- 「プラス」アイコンボタンを押下し，抑止の開始時間，終了時間，通知メディアを選択し，抑止する通知メディアと時間帯を設定します。複数の設定が登録可能です。
- 同一の時間帯で，複数の抑止は登録できません。（開始時間，終了時間のいずれかが異なっていれば，同一の時間帯とは見なされません）
- 誤った時間帯を登録した場合（時間帯を修正したい場合），時間帯のみの変更はできませんので，該当の設定を「ゴミ箱」アイコンボタンで削除し，あらためて「プラス」アイコンボタンで追加からやり直しください。
- 抑止時間に該当する通知が実行された場合，該当の通知は抑止されます。抑止されたことを示すメッセージがログに出力されます。ログの取得の関しては

「6.2.18 ログ取得コマンド」または「7.2.20 ログ取得 API」を使用して取得してください。Web 画面（GUI）では参照できません。

ユーザスケジュールで抑止された場合のログ：

「1017-I 通知先ユーザの {通知メディア} の発信を抑止しました。SID … 」

システムスケジュール，連絡網スケジュールで抑止された場合のログ：

「1018-I {通知メディア} の発信を抑止しました。SID … 」

メッセージの詳細に関しては「10.2 メッセージ一覧」を参照ください。

なお，お客様環境のコマンド側のログには，抑止された通知の内容は記録されません。

(1) 「スケジュールタイトル」

スケジュールのタイトルを表示します。「システムスケジュール」「ユーザスケジュール」「連絡網スケジュール」のいずれかを表示します。

(2) 「平日」「休日」ボタン

スケジュール表示の平日と休日の切り替えを行います。平日と休日は別々の設定になります。

(3) 「プラス」アイコンボタン

抑止の開始時間，終了時間を設定するスケジュール時刻ダイアログを表示します。

「時間帯と通知メディア」一覧には最大 10 個まで，スケジュール時刻の指定が可能です。10 個に達した場合，「OK」ボタンは非活性となります。



図 5.37-5 スケジュール時刻ダイアログ

■スケジュール時刻ダイアログの説明

(a)「開始時間」テキストフィールド

抑止を開始する時刻を「HH:MM」形式で指定します。右側のタイムボタンをクリックすると時刻の選択リスト（時間ピッカー）がポップアップされます。

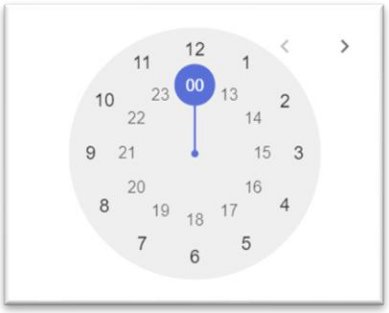


図 5.37-6 時間ピッカー

時間ピッカーはマウスでクリックすることにより表示されている時刻を選択することができます。時間ピッカーで選択した時分が「開始時間」テキストフィールドに反映されます。

(b)「終了時間」テキストフィールド

抑止を終了する時刻を「HH:MM」形式で指定します。右側のタイムボタンをクリックすると時刻の選択リスト（時間ピッカー）がポップアップされます。

●終了時間の秒の扱いに関して

「00:00」と入力した場合，00:00:59.999（00:01 未満の扱い）で処理します。

「00:59」と入力した場合，00:59:59.999（01:00 未満の扱い）で処理します。

指定例１）00:00～03:00 未満を抑止する場合

開始時間 00:00　終了時間 02:59

指定例２）00:00～24:00 未満を抑止する場合（１日中，抑止する場合）

開始時間 00:00　終了時間 23:59

※開始時間に関しては「00:00」と入力した場合，00:00:00.000 で処理します。終了時間のような，秒の扱いはありません。

●開始時間と終了時間の関係

終了時間よりも，遅い開始時間を指定した場合，エラーとなります。

指定例）夜間から翌朝の間，抑止したい場合

開始時間 21:00　終了時間 08:59　…本指定はエラーとなる。

上記を回避する設定例）00:00 を区切りに，２つの設定を登録する

１つ目：開始時間 21:00　終了時間 23:59

２つ目：開始時間 00:00　終了時間 08:59

※一覧表示では，時間の小さい順でソートし表示されます。

(c)「CANCEL」ボタン

編集内容を反映せず，スケジュール時刻ダイアログを閉じます。

(d)「OK」ボタン

編集内容を「時間帯と通知メディア」一覧に反映し，スケジュール時刻ダイアログを閉じます。

「時間帯と通知メディア」一覧には，すべての通知メディアをチェックした状態（すべて抑止する設定）で追加します。抑止しない通知メディアがある場合，チェックを外してください。

(4) 「時間帯と通知メディア」一覧

発信を抑止する通知メディアと時間帯の一覧を表示します。一覧の表示は，時間の小さい順でソートして表示します。任意の順番で表示はできません。

なお，(9)「OK」ボタンを押下した時，「通知メディア」チェックボタンが 1 つもチェックされてない抑止設定がある場合，設定は不要と判断し，該当する抑止設定を「時間帯と通知メディア」一覧から削除します。

(5) 「通知メディア」チェックボタン

抑止する通知メディアをチェックします。抑止したくない通知メディアに関しては，チェックを外してください。ユーザ固有の設定（電話 1，電話 2，電話 3，電話 4，SMS，メール，LINE WORKS，Slack）以外の項目は，ユーザスケジュールで設定しても無視されます。

表 5.37-1 通知メディアの説明

名称	通知メディア	説明
電話 1	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 1 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
電話 2	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 2 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
電話 3	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 3 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
電話 4	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 4 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
SMS	ユーザへの SMS 通知	ユーザ情報の SMS 電話で指定された番号への SMS 通知を抑止する場合にチェックします。
メール	ユーザへのメール通知	ユーザ情報のメールアドレス 1 ～ 4 で指定されたアドレスへのメール通知を抑止する場合にチェックします。
LINE WORKS	ユーザへの LINE WORKS への通知	ユーザ情報の LINE WORKS で指定された LINE WORKS メンバーアカウントへの通知を抑止する場合にチェックします。
Slack	ユーザへの Slack への通知	ユーザ情報の Slack で指定された Slack メンバーへの通知を抑止する場合にチェックします。
LINE WORKS Room	LINE WORKS のトークルームへの通知	LINE WORKS のトークルームへの通知を抑止する場合にチェックします。

名称	通知メディア	説明
Slack Channel	Slack のチャンネルへの通知	Slack のチャンネルへの通知を抑止する場合にチェックします。
Microsoft Teams	Microsoft Teams のチャンネルへの通知	Microsoft Teams のチャンネルへの通知を抑止する場合にチェックします。
信号灯	信号灯への通知	信号灯への通知を抑止する場合にチェックします。 ※信号灯通知プラン契約時のみ表示
外部 API 連携	外部 API 連携登録先への通知	連絡網の通知先として指定された外部 API 連携通知を抑止する場合にチェックします。
メール一括送信	ユーザへのメール通知	メール一括送信による通知を抑止する場合にチェックします。

(6) 「ゴミ箱」アイコンボタン

「時間帯と通知メディア」一覧から，抑止の設定を削除する場合に使用します。

(7) 「削除」ボタン

「ユーザスケジュール」もしくは「連絡網スケジュール」を削除する場合に使用します。

なお，「システムスケジュール」は削除できませんので，「削除」ボタンは表示されません。

(8) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して，スケジュール画面を閉じます。

(9) 「OK」ボタン

編集内容を保存して，スケジュール画面を閉じます。

5.38　電話読み替え定義一覧

サイドバーの「電話読み替え定義」をクリックしたとき，電話読み替え定義の一覧を表示します。電話発信の際，固有名詞などの用語に対し，正しく読むための文字列を指定します。

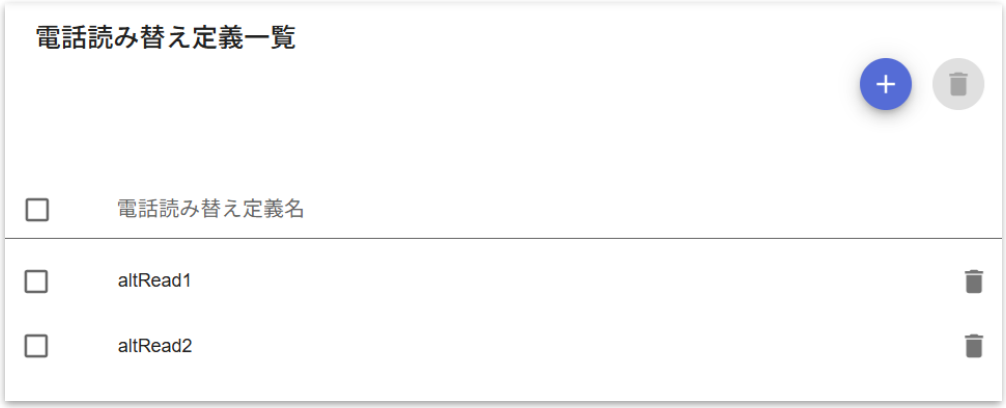


図 5.38-1 電話読み替え定義一覧（表示例）

- 登録可能なフィルタの数は 100 件です。

(1) 「電話読み替え定義一覧」リスト

登録済みの電話読み替え定義の一覧を示します。一覧に表示される項目は，読み替え前の用語です。

電話読み替え定義をクリックすると電話読み替え定義画面を表示します。フィルタ名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のルールを個別に削除できます。

読み替え前文字列が長い順に，電話読み替え定義を表示，電話読み替えルールを適用します。同じ長さの文字列は辞書順に表示，適用します。

例）下記の順で電話読み替えルールが定義済みの場合に，例に示す文章を読み替えた動作について示します。

1.「読み替え前：TELstaff」⇒「読み替え後：テルスタッフ」
2.「読み替え前：staff」⇒「読み替え後：要員」
3.「読み替え前：TEL」⇒「読み替え後：電話」

読み替え前文章

発信を受け付けました。担当者 A さんに TEL してください。至急，staff を招集してください。発信者 TELstaff

読み替え後文章

発信を受け付けました。担当者 A さんに電話してください。至急，要員を招集してください。発信者テルスタッフ

- 「TELstaff」という文字列は，読み替え前の文字列が長い順から優先的に読み替えられるため「テルスタッフ」と読み替えます。
- 「staff」という文字列を「スタッフ」に読み換えます。
- 「TEL」という文字列を「電話」に読み換えます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

電話読み替え定義を新規登録する場合に使用します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

電話読み替え定義一覧でチェックされた電話読み替え定義を削除します。

5.39 電話読み替え定義画面

電話読み替え定義一覧画面で「プラス」ボタンをクリックしたとき，電話読み替え定義画面を表示します。電話通知において，通知文で指定された特定の文字列を読み替え後の文字列に置き換える定義を設定します。

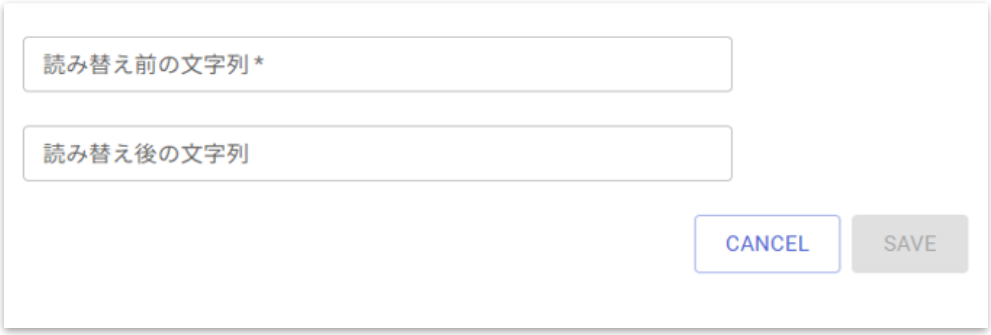


図 5.39-1 電話読み替え定義画面

(1) 「読み替え前」テキストフィールド（必須項目）

読み替え前の文字列を 100 文字以内で指定します。

(2) 「読み替え後」テキストフィールド（必須項目）

読み替え後の文字列を 100 文字以内で指定します。

(3) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，電話読み替え定義一覧に戻ります。

(4) 「SAVE」ボタン

電話読み替え定義を登録し，電話読み替え定義一覧に戻ります。

5.40　通知文テンプレート一覧

サイドバーの「通知文テンプレート」をクリックしたとき，通知文テンプレートの一覧を表示します。通知に使用する通知文テンプレートを設定できます。
通知文テンプレートを使用することで，通知文ファイルを事前に作成しなくても通知できるようになります。

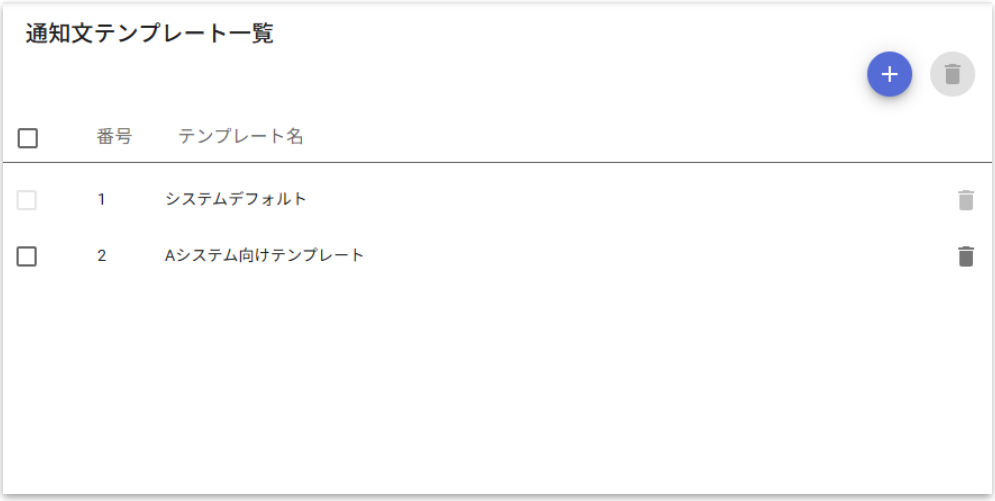


図 5.40-1 通知文テンプレート一覧（表示例）

- 登録可能な通知文テンプレートの数は 20 件です。
- テンプレート番号 1 のテンプレートは，システムデフォルトのテンプレートであるため，編集できますが削除はできません。

(1) 「通知文テンプレート一覧」リスト

登録済みの通知文テンプレート一覧を示します。通知文テンプレート名をクリックすると通知文テンプレート画面を表示します。フィルタ名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行の通知文テンプレートを個別に削除できます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

通知文テンプレートを新規登録する場合に使用します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックすると通知文テンプレート一覧リストでチェックした通知文テンプレートを一括で削除します。

5.41　通知文テンプレート画面

通知文テンプレート一覧画面で「プラス」ボタンをクリックしたとき，通知文テンプレート画面を表示します。通知文のテンプレートを設定します。

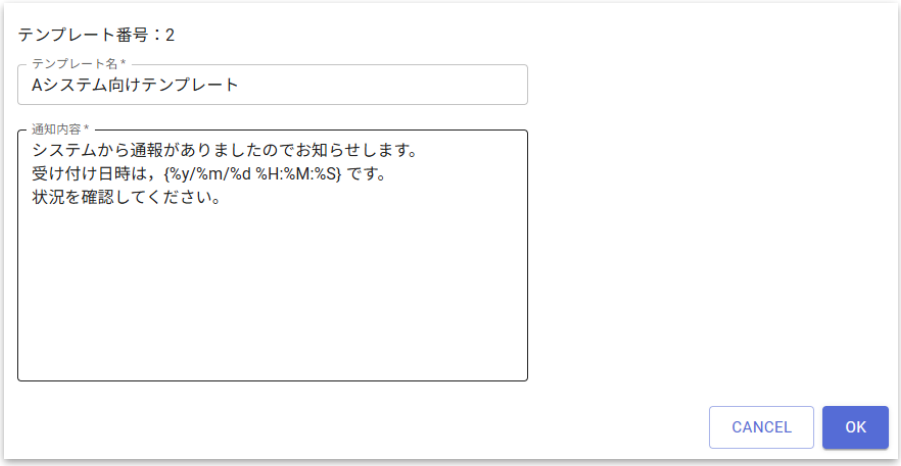


図 5.41-1 通知文テンプレート画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) **「テンプレート名」テキストフィールド**（必須項目）

テンプレート名を 100 文字以内で指定します。テンプレート名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。テンプレート名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「通知内容」テキストフィールド**（必須項目）

テンプレートとして通知される通知文を 1000 文字以内で指定します。
通知文テンプレート文字列には以下の変数を指定可能です。

・日時書式変数：詳細は 6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数を参照してください。

・{%N}変数：テンプレート文字列中に変数を含めたい場合，変数名{%N}の値を指定します。N は 1～10 の範囲で指定可能です。指定可能な文字数は最大 100 文字です。100 文字を超えて指定した場合は 100 文字で切り捨てられます。

システムデフォルトであるテンプレート(番号 1)は下記いずれかの場合に使用されます。

・連絡網発信時にテンプレート番号として「1」を指定した場合。

・「1」以外を指定したが，そのテンプレート番号が未定義の場合。

システムデフォルトのテンプレートの通知文：

> システムから通報がありましたのでお知らせします。
> 受け付け日時は，{%y/%m/%d %H:%M:%S} です。
> 状況を確認してください。

(3) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，通知文テンプレート一覧に戻ります。

(4) 「SAVE」ボタン

通知文テンプレートを登録し，通知文テンプレート一覧に戻ります。

5.42　連絡網発信フィルター一覧

サイドバーの「連絡網発信フィルタ」をクリックしたとき，連絡網発信フィルタの一覧を表示します。フィルタリング機能により，条件に合致する連絡網に対し「発信する」，「発信しない」を設定することが可能です。



図 5.42-1 連絡網発信フィルター一覧（表示例）

- 登録可能なフィルタの数は 20 件です。

(1) 「連絡網発信フィルター一覧」リスト

登録済みの連絡網発信フィルタの一覧を示します。連絡網発信フィルタ名をクリックすると連絡網発信フィルタ定義画面を表示します。優先度が高い順に上から，連絡網発信フィルタを表示します。

フィルタ名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のルールを個別に削除できます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

連絡網発信フィルタを新規登録する場合に使用します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

連絡網発信フィルター一覧でチェックされた連絡網発信フィルタを削除します。

(4) 「優先順位編集」ボタン

連絡網発信フィルタの優先度を変更する優先順位編集ダイアログを表示します。

5.42.2 連絡網発信フィルタ優先順位編集ダイアログ

連絡網発信フィルタ画面の「優先順位編集」ボタンをクリックしたとき，連絡網発信フィルタ優先順位を編集するダイアログを表示します。



図 5.42-2 連絡網発信フィルタ優先順位編集ダイアログ（表示例）

(1) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網発信フィルタ画面に戻ります。

(2) 「SAVE」ボタン

連絡網発信フィルタの優先順位の設定を反映し，連絡網発信フィルタ画面に戻ります。

別ユーザにより連絡網発信フィルタが追加または削除されていた場合，優先順位の設定は行われず，連絡網発信フィルタ画面に戻ります。その場合，再度，連絡網発信フィルタ優先順位編集ダイアログで優先順位を設定してください。

5.43 連絡網発信フィルタ定義画面

連絡網発信フィルタ画面で「プラス」ボタンをクリックしたとき，連絡網発信フィルタ定義画面を表示します。フィルタリングする連絡網の条件，および条件に合致した場合に「発信する」，「発信しない」を設定します。



図 5.43-1 連絡網発信フィルタ定義画面

(1) **「連絡網フィルタ名」テキストフィールド**（必須項目）

新規の連絡網発信フィルタ名を定義する場合，連絡網発信フィルタの名前を 100 文字以内で指定します。既存の連絡網発信フィルタを表示したときは変更できません。連絡網発信フィルタ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。連絡網発信フィルタ名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) **「連絡網名」テキストフィールド**

連絡網名に含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。大文字・小文字，全角・半角を区別します。

複数の連絡網名を指定したい場合，半角セミコロンで区切り指定します。その際，区切り文字を含めて合計で 1000 文字以内となるよう指定します。複数の連絡網名を指定した場合，いずれかの連絡網名に合致すれば，このフィルタ条件を適用します（OR 条件）。

(3) **「通知内容」テキストボックス**（必須項目）

通知文，メール件名のいずれかに含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。大文字・小文字，全角・半角を区別します。

複数の項目を指定したい場合，半角セミコロンで区切り指定します。その際，区切り文字を含めて合計で 1000 文字以内となるよう指定します。複数の項目を指定した場合，いずれかの項目に合致すれば，設定したフィルタ条件を適用します（OR 条件）。

連絡網発信時に，通知メディア毎の通知文を下記方法で指定した場合，デフォルトの通知文である「[notifysaas] からの連絡です」が通知内容の文字列に設定されます。

コマンドの場合

・「-f 通知文ファイル名」を指定しない　かつ

・「--f* 各通知文ファイル」を 1 つ以上指定する　かつ

・全項目の「--f* 各通知文ファイル」を指定しない

API の場合

・「(15) netnotify.json」でいずれかの通知文を指定しない

デフォルトの通知文に含まれる文字列を条件に指定した場合，意図せず条件に合致する場合があるためご注意ください。

(4) 「連絡網名」に対する「正規表現を使用する」スイッチ

連絡網名に対する条件を指定する際，正規表現を使用したい場合は「ON（使用する）」を選択します。正規表現を使用しない場合は「OFF（使用しない）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。正規表現を使用する場合，指定できる正規表現は 1 件です。

(5) 「通知内容」に対する「正規表現を使用する」スイッチ

通知内容に対する条件を指定する際，正規表現を使用したい場合は「ON（使用する）」を選択します。正規表現を使用しない場合は「OFF（使用しない）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。正規表現を使用する場合，指定できる正規表現は 1 件です。

(6) 「フィルタ適用時の動作」ラジオボタン

連絡網発信フィルタ適用時の動作について，「発信する」，「発信しない」のいずれかを指定します。

(7) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網発信フィルタ定義画面に戻ります。

(8) 「SAVE」ボタン

連絡網発信フィルタの定義を登録し，連絡網発信フィルタ定義画面に戻ります。

5.44　受信メール連携一覧

サイドバーの「受信メール連携ルール」をクリックしたとき，登録済みの受信メール連携ルールの一覧を表示します。



図 5.44-1 受信メール連携一覧（表示例）

- 登録可能な受信メール連携ルールの数は 100 件です。

(1) 「受信メール連携一覧」リスト

登録済みの受信メール連携ルールの一覧を示します。ルール名をクリックすると受信メール連携ルール画面を表示します。

ルール名の右側の［ゴミ箱］アイコンボタンでその行のルールを個別に削除できます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

受信メール連携ルールを新規登録する場合に使用します。上部の［プラス］アイコンボタンをクリックすると新規で受信メール連携ルール画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の［ゴミ箱］アイコンボタンをクリックすると受信メール連携一覧リストでチェックした受信メール連携ルールを一括で削除します。

(4) 「上記条件に当てはまらない場合のルール」

受信メール連携ルールで定義したいずれのルールにもマッチしなかった際に連絡網を実行したい場合に条件を設定します。

5.45　受信メール連携ルール画面

受信メール連携ルール画面は，本サービスで受信したお客様からのメール内容に応じ，フィルタ条件と実行する連絡網，通知内容を定義する画面です。

受信メールの検証方法などに関しては，「2.1(5)受信メール連携機能」を参照ください。



図 5.45-1 受信メール連携ルール画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- フィルタ条件の項目は「送信元メールアドレス」「メール件名」「メール本文」の３項目です。フィルタ条件は，１つ以上を設定してください。すべて省略した場合「SAVE」できません。複数の項目に条件を指定した場合，AND 条件（すべての条件に一致した場合，成立）となります。
- 「正規表現を使用する」スイッチがオフの場合，フィルタ条件の項目には，ワイルドカードなど正規表現（メタキャラクタ）は指定できません。
- フィルタ条件の項目に，記号などの特殊文字を指定した場合，メール送信元の文字エンコーディング方式によっては，条件に一致しないことがあります。
- フィルタ条件が成立した場合，実行する連絡網を「呼び出し先連携網名」に指定し，通知する内容を「通知内容」と「通知内容（メール件名）」（メール通知が含まれる場合）に指定します。
- 「上記条件に当てはまらない場合のルール」を設定する場合，フィルタ条件の項目「送信元メールアドレス」「メール件名」「メール本文」には，連絡網を実行

しない条件を設定してください。

- 「上記条件に当てはまらない場合のルール」では，何も連絡網を実行しない場合は当該ルールを削除（未定義の状態に）してください。
- 「上記条件に当てはまらない場合のルール」で，必ず連絡網を実行する場合は「送信元メールアドレス」欄の正規表現スイッチをオンにし「(?!.*)」を設定します。「メール件名」「メール本文」欄の正規表現スイッチはオフにし何も設定しないでください。
- 「上記条件に当てはまらない場合のルール」では，ルール名は表示されず，代わりに「通知しない場合の条件を指定してください」ラベルが表示されます。
- サブアカウントで受信メール連携を使用する場合，サブアカウント用のメールアドレスはラベル付きのメールアドレス（メールアドレスのエイリアス）を指定する必要があります。
  例）受信メール連携用に発行されたメールアドレスが「user@example.com」でサブアカウントが「sub1」の場合は「user+sub1@example.com」宛てにメールを送信します。
- リソース管理方法が「サブアカウントによるリソース管理」となっている際に，サブアカウント用のメールアドレスに CC，BCC で送信した場合，管理者アカウントの受信メール連携用のルールに従い通知を行います。
- リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている際に，サブアカウント用のメールアドレスに送信した場合，管理者アカウントの受信メール連携用のルールに従い通知を行います。
- 使用可能な正規表現は下記を参照ください。ただし「(?s)」を除く「(?」から始まる拡張記法は使用できません。
  https://docs.python.org/ja/3.14/library/re.html
  ※URL は 2026 年 8 月時点のものです。
- メール件名に改行を含むメールを条件に合致させたい場合，「メール件名」テキストフィールドの先頭に「(?s)」と記載してください。
- RFC に準拠していないメールは，本機能で連携できない場合があります。

(1) 「ルール名」テキストフィールド（必須項目）

新規のルールを登録する場合，ルール名を 100 文字以内で指定します。既存のルールを表示したときは変更できません。ルール名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。ルール名には以下に示す文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「送信元メールアドレス」テキストフィールド

送信元メールアドレス（From）に含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。含まれる文字列を比較するため，必ずしも，完全なメールアドレスを指定する必要はありません。正規表現を使用しない場合は半角セミコロン区切りで複数の文字列を最大 20 個まで指定できます。空文字は指定できません。複数の文字列が指定された場合，どれかひとつが一致すればこのフィルタ条件が成立となります。大文字・小文字は区別せず比較します。全角・半角は区別して比較します。

「メール件名」「メール本文」にも指定がある場合，AND 条件（指定した，すべての項目が成立した場合）で成立となります。

(3) 「送信元メールアドレス」に対する「正規表現を使用する」スイッチ

送信元メールアドレス（From）に対する条件を指定する際，正規表現を使用したい場合は「ON（使用する）」を選択します。正規表現を使用しない場合は「OFF（使用しない）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。

(4) 「メール件名」テキストフィールド

メール件名（Subject）に含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。含まれる文字列を比較するため，必ずしも，件名の全文を指定する必要はありません。正規表現を使用しない場合は半角セミコロン区切りで複数の文字列を最大 20 個まで指定できます。空文字は指定できません。複数の文字列が指定された場合，どれかひとつが一致すればこのフィルタ条件が成立となります。大文字・小文字，全角・半角は区別して比較します。

「送信元メールアドレス」「メール本文」にも指定がある場合，AND 条件（指定した，すべての項目が成立した場合）で成立となります。

(5) 「メール件名」に対する「正規表現を使用する」スイッチ

メール件名（Subject）に対する条件を指定する際，正規表現を使用したい場合は「ON（使用する）」を選択します。正規表現を使用しない場合は「OFF（使用しない）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。

(6) 「メール本文」テキストフィールド

メール本文に含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。含まれる文字列を比較するため，必ずしも，本文の全文を指定する必要はありません。正規表現を使用しない場合は半角セミコロン区切りで複数の文字列を最大 20 個まで指定できます。空文字は指定できません。複数の文字列が指定された場合，どれかひとつが一致すればこのフィルタ条件が成立となります。大文字・小文字，全角・半角は区別して比較します。

「送信元メールアドレス」「メール件名」にも指定がある場合，AND 条件（指定した，すべての項目が成立した場合）で成立となります。

メール本文の範囲：

マルチパートメール（テキスト形式や HTML 形式，添付ファイルなどの複数のデータ形式を内包したメール）の場合，Content-Type ヘッダの値が text/plain または text/html であるパートをメール本文として扱います。

例えば，メールに添付されたテキストファイルの内容は，メール本文として扱いますが，ワードやエクセルのファイル，Outlook のメールメッセージファイル（拡張子 .msg）などは，メール本文として扱いません。

(7) 「メール本文」に対する「正規表現を使用する」スイッチ

メール本文に対する条件を指定する際，正規表現を使用したい場合は「ON（使用する）」を選択します。正規表現を使用しない場合は「OFF（使用しない）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。

(8) **「呼び出し先連絡網名」ドロップダウンリスト**（必須項目）

受信したメールの内容が，指定されたすべてのフィルタ条件（「送信元メールアドレス」「メール件名」「メール本文」）が成立した場合，実行する連絡網名をリストから選択します。リストには，登録済の連絡網が表示されます。

(9) **「通知内容」テキストフィールド**（必須項目）

通知内容を 10,000 文字以内で指定します。変数が指定されている場合，変数の値を変換した変換後の文字数が 10,000 文字を超えた場合，10,000 文字を超えた部分を切り捨てます。

通知内容には，受信メールの内容が引き継げるように，以下の変数が使用できます。

~MailFrom~　：受信メールの送信元メールアドレス（From）に置き換えます。

~MailSubject~　：受信メールのメール件名（Subject）に置き換えます。

~MailBody~　：受信メールの本文に置き換えます。

上記の変数は，本項目のみで指定が可能です。

＜外部 API 連携機能との連携＞

メール本文に特定のキーワードから始まる XML 書式の値を記載することで，XML に記載された「キー」「値」を連絡網実行時の「api_env」パラメータに渡し，外部 API へ連携することが可能です。

記載例

```
<notifysaas_api_env>
    <key1>value1</key1><key2>value2</key2>
    <key3>value1</key3>
     :
</notifysaas_api_env>
```

notifysaas_api_env：外部 API 連携に必要な情報を記載する開始宣言（１行で記載する必要があります）

/notifysaas_api_env：外部 API 連携に必要な情報を記載する終了宣言（１行で記載する必要があります）

key1,key2,key3…：外部 API 連携に渡すキーと値のペア。キーを XML タグ，値を XML テキストに任意の数記載可能です。タグ名は 32 文字，値（テキスト）は 1000 文字以内で指定します。（タグ名とテキストの記載形式　<タグ名>テキスト</タグ名>）

注意事項

・<notifysaas_api_env>～</notifysaas_api_env>に記載された内容はメール受信連携時に通知文には含めません

・XML 書式が不正な場合は外部 API 連携で情報が渡されません

・以下のケースはそのタグを無視します

　タグ名，テキストの禁止文字: :;"{}& が指定されている

　タグ名，テキストが上限を超えている

・テキストに XML としてエスケープする必要がある文字はエスケープ文字を指定してください。エスケープしない場合はそのタグが無視されたり，内容全体が無視されたりする場

合があります。

エスケープする必要がある文字	エスケープ文字
"	"
'	'
<	<
>	>
&	&

・タグ名の先頭に使用できる文字は，半角英字，全角ひらがな，全角カタカナ，漢字，_(アンダースコア）です。

２文字目以降は先頭文字に加えて，半角数字，-（ハイフン），.（ピリオド）が使用可能です。

(10)「通知内容（メール件名）」テキストフィールド

呼び出し先連絡網にメール通知が含まれている場合，メール件名の指定が可能です。メール件名を 200 文字以内で指定します。変数が指定されている場合，変数の値を変換した変換後の文字数が 200 文字を超えた場合，200 文字を超えた部分を切り捨てます。

通知内容には，受信メールの内容が引き継げるように，以下の変数が使用できます。

~MailSubject~ ：受信メールのメール件名（Subject）に置き換えます。

上記の変数は，本項目のみで指定が可能です。

本項目を省略した場合，メール件名には「[notifysaas] ルール名」が使用されます

(11)「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，受信メール連携一覧に戻ります。

(12)「SAVE」ボタン

受信メール連携ルールの情報を登録し，受信メール連携一覧に戻ります。

5.46　生成AI連携設定画面

生成 AI 連携設定画面では，生成 AI 連携機能の有効化および生成 AI との接続情報を登録します。

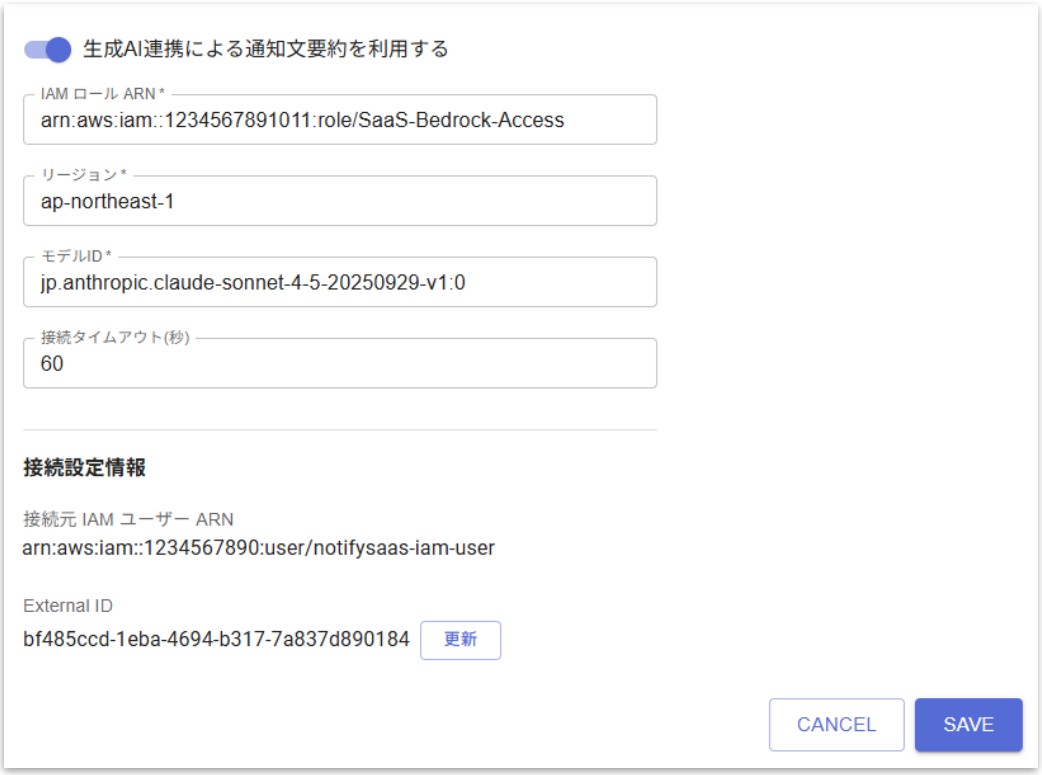


図 5.46-1 生成AI連携接続先設定画面

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「生成AI連携による通知文要約を利用する」スイッチ

生成 AI 連携による通知文要約を利用する場合，「ON」を指定してください。一度設定を行ったあと生成 AI 連携機能を無効化したい場合，「OFF」を指定してください。

(2) 「IAM ロール ARN」テキストフィールド（必須項目）

Amazon Bedrock を実行する IAM ロールの Amazon リソースネーム（ARN）を最大 2048 文字以内で指定してください。指定可能な文字は下記です。

半角英数字 ： / ． _ @ + − =

(3) 「リージョン」テキストフィールド（必須項目）

Amazon Bedrock のリージョンを最大 15 字以内で指定してください。リージョン名は AWS のリージョン名に沿って指定してください。

(4) 「モデルID」テキストフィールド（必須項目）

Amazon Bedrock のモデル ID または推論プロファイル ID を 256 字以内で指定してください。動作確認済みのモデル ID および推論プロファイル ID 以外については動作保証の対象外となります。

(5) 「接続タイムアウト(秒)」テキストフィールド

生成 AI 接続時のタイムアウトを 1～60 の範囲の数値で指定してください。

(6) 「接続元IAMユーザーARN」フィールド

本サービスのアクセス元となる IAM ユーザーARN を表示します。

(7) 「External ID」フィールド

お客様環境の Amazon Bedrock を実行する，IAM ロールの条件に設定する，外部 ID を表示します。本値を，お客様環境の Amazon Bedrock に指定してください。

更新ボタンを押すことで，External ID を変更できます。External ID を変更した場合，「SAVE」ボタンを押下してください。

(8) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網一覧画面に戻ります。

(9) 「SAVE」ボタン

生成 AI 連携設定情報を登録し，連絡網一覧画面に戻ります。

5.47　発信履歴レポート画面

発信履歴レポート画面では，期間などを指定し，集計した「通知一覧レポート」をデータ表で表示します。また，発信履歴を元に，連絡網の電話通知の発信順序を自動調整する機能も提供しています。発信履歴レポートは 2 年間分の情報を保持します。

発信履歴レポート画面の先頭項目「レポート種別」のドロップダウンリストを選択して，表示する画面を選択します。

「レポート種別」ドロップダウンリスト

表示するレポートの種別は「通知一覧レポート」「電話通知レポート」の 2 種類です。初期値は「通知一覧レポート」です。

表 5.47-1　レポートの種類

名称	説明
通知一覧レポート	通知内容の一覧を「データ表」に表示します。内容には，発信日時，連絡網名，通知メディア，通知先ユーザ，結果などを表示します。 通知内容は，CSV ダウンロードのみで表示します。
電話通知レポート	電話通知の一覧を「データ表」に表示します。内容には，ユーザ名，連絡網名，電話番号，成功回数，失敗回数，失敗割合を表示します。

5.47.1 通知一覧レポート

レポート種別で「通知一覧レポート」を選択した場合，表示します。



図 5.47-1 通知一覧レポート画面（表示例）

- レポート期間（開始，終了）を入力すると，発信履歴を検索し「データ表」に結果を表示します。

(1) 「レポート範囲」ドロップダウンリスト

表示するレポートの範囲を「月」または「日」から選択します。任意の単位での集計は行えません。選択した値のレポートを即時に作成し表示します。

(2) 「開始」～「終了」テキストフィールド

集計する期間を指定します。指定された値のレポートを即時に作成して表示します。

・レポート範囲が「月」の場合：

開始年月(YYYY/MM)，終了年月(YYYY/MM)を設定します。

指定期間の最大は，3 か月以内で指定します。

・レポート範囲が「日」の場合：

開始年月日(YYYY/MM/DD)，終了年月日(YYYY/MM/DD)を設定します。

指定期間の最大は，90 日以内で指定します。

テキストフィールドをクリックするとカレンダー（デートピッカー）がポップアップされますので，年月または年月日を選択して指定することが可能です。

(3) 「更新」ボタン

本ボタンを押下することで，表示されている発信履歴レポート画面を更新します。

(4) 「CSVダウンロード」ボタン

本ボタンを押下することで，上記の項目で指定された条件の全レコードを CSV 形式のファイルでダウンロードします。

(5) 「データ表」

対象のレポート内容を一覧で表示します。項目名部分をクリックすることで表示順序（ソート順序）を変更することが可能です。

表示項目は，「識別子」「発信開始日時」「発信完了日時」「連絡網発信識別子」「連絡網名」「連絡網繰り返し回数」「通知メディア」「通知先ユーザ名」「宛先」「結果」「失敗理由」「接続元 IP アドレス」「トリガー元」となります。

5.47.2 電話通知レポート

レポート種別で「電話通知レポート」を選択した場合，表示します。

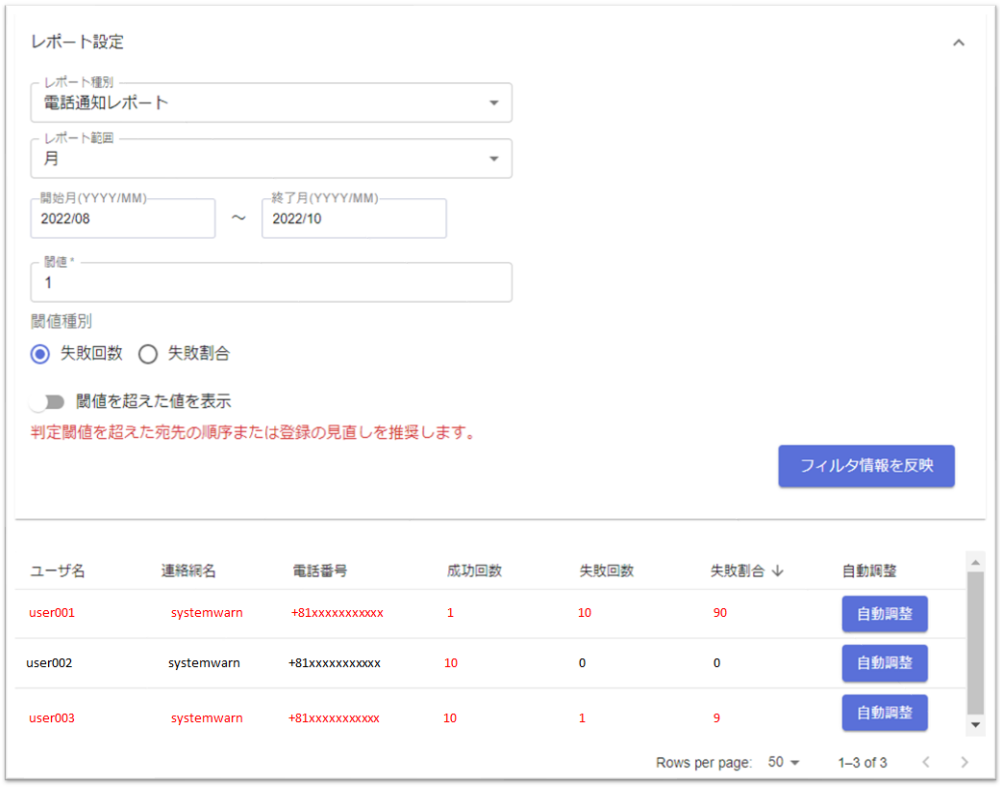


図 5.47-2 電話通知レポート画面（表示例）

- 入力が必須の項目に関しては，「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- レポート期間（開始，終了），閾値，閾値種別を入力し，フィルタ条件を反映のボタンを押下することで，電話通知の発信履歴を検索し「データ表」に結果を表示します。
- データ表から，発信順序を操作するユーザを探します。失敗回数や失敗割合が高いユーザほど，電話通知で発信順序を下げた方が良いユーザと判断できますが，お客様の都合により優先するユーザは異なりますので，ニーズに合わせてデータ表を参照ください。
- 上記の表示例では，user001 の失敗回数が 10 回，失敗割合が 90% と高いため，発信順序を下げた方が良いユーザと判断できます。
- 自動調整ボタンを押下することで，該当ユーザの電話通知の発信順序を，該当連絡網の一番最後の通知先に変更します。

(1) 「レポート範囲」ドロップダウンリスト

表示するレポートの範囲を「月」または「日」から選択します。任意の単位での集計は行えません。

(2) 「開始」～「終了」テキストフィールド

集計する期間を指定します。

・レポート範囲が「月」の場合：

開始年月(YYYY/MM)，終了年月(YYYY/MM)を設定します。

指定期間の最大は，3 か月以内で指定します。

・レポート範囲が「日」の場合：

開始年月日(YYYY/MM/DD)，終了年月日(YYYY/MM/DD)を設定します。

指定期間の最大は，90 日以内で指定します。

テキストフィールドをクリックするとカレンダー（デートピッカー）がポップアップされますので，年月または年月日を選択して指定することが可能です。

(3) **「閾値」テキストフィールド**（必須項目）

閾値種別が「失敗回数」の場合，0 から 9999999999 までの数値（回数）を指定します。

閾値種別が「失敗割合」の場合，0 から 100 までの数値（%）を指定します。

初期値は 1 です。

(4) **「閾値種別」ラジオボタン**

「失敗回数」または「失敗割合」から選択します。初期値は「失敗回数」です。

(5) **「閾値を超えた値を表示」スイッチ**

閾値以上の値のみを表示するかどうかを指定します。初期値は「OFF（超えていない値も表示する）」です。

(6) **「フィルタ条件を反映」ボタン**

本ボタンを押下することで，上記の項目で指定された条件のレポートを表示します。

(7) **「データ表」**

対象のレポート内容を一覧で表示します。表示項目は，「ユーザ名」「連絡網名」「電話番号」「成功回数」「失敗回数」「失敗割合」です。

閾値以上のデータは赤文字で表示します。

表示されるデータは，発信履歴から作成しているため，削除した連絡網定義 や 連絡網から削除したユーザの値でも，条件に含まれている場合には表示されます。

(8) **「自動調整」ボタン（データ表の各行の右端に表示）**

該当ユーザの電話通知の発信順序を，該当連絡網の一番最後の通知先に変更します。

「自動調整」ボタンの押下後，確認ダイアログが表示され「OK」を押下すると，変更が実施されます。

・該当ユーザの電話通知が既に連絡網の一番最後に設定されている場合

「このユーザは既に連絡網の一番最後の通知先に設定されています。」のメッセージが表示されます。

・該当連絡網が存在しない場合

「自動調整対象連絡網が存在しません。」のメッセージが表示されます。

・該当連絡網に該当ユーザの電話通知が存在しない場合

「自動調整対象の通知先設定がありません。」のメッセージが表示されます。

6.コマンド

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するコマンドインターフェースについて説明します。

6.1 コマンド一覧

6.2 通報管理サービスのコマンド（tlscbase）

6.2.1 電話発信コマンド（tlscbase tel notify）

6.2.2 SMS発信コマンド（tlscbase sms notify）

6.2.3 メール発信コマンド（tlscbase mail notify）

6.2.4 LINE WORKS投稿コマンド（tlscbase line notify）

6.2.5 Slack投稿コマンド（tlscbase slack notify）

6.2.6 Microsoft Teams投稿コマンド（tlscbase teams notify）

6.2.7 連絡網発信コマンド（tlscbase net notify）

6.2.8 発信結果問い合わせコマンド（tlscbase inquiry notify）

6.2.9 通知先ユーザ定義登録コマンド（tlscbase user import）

6.2.10 通知先ユーザ定義取得コマンド（tlscbase user export）

6.2.11 通知先ユーザ定義削除コマンド（tlscbase user delete）

6.2.12 連絡網定義登録コマンド（tlscbase net import）

6.2.13 連絡網定義取得コマンド（tlscbase net export）

6.2.14 連絡網定義削除コマンド（tlscbase net delete）

6.2.15 LINE WORKSトークルーム作成コマンド（tlscbase line roomcreate）

6.2.16 発信情報件数問い合わせコマンド（tlscbase inquiry count）

6.2.17 発信情報削除コマンド（tlscbase delete notify）

6.2.18 ログ取得コマンド（tlscbase logget）

6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数

6.1 コマンド一覧

本サービスが提供するコマンドを以下に示します。

表 6.1-1 コマンド一覧

コマンド名	説明	発信機能	運用管理機能
tlscbase tel notify	電話発信コマンド	○	－
tlscbase sms notify	SMS 発信コマンド	○	－
tlscbase mail notify	メール発信コマンド	○	－
tlscbase line notify	LINE WORKS 投稿コマンド	○	－
tlscbase slack notify	Slack 投稿コマンド	○	－
tlscbase teams notify	Microsoft Teams 投稿コマンド	○	－
tlscbase net notify	連絡網発信コマンド	○	－
tlscbase inquiry notify	発信結果問い合わせコマンド	－	○
tlscbase user import	通知先ユーザ定義登録コマンド	－	○
tlscbase user export	通知先ユーザ定義取得コマンド	－	○
tlscbase user delete	通知先ユーザ定義削除コマンド	－	○
tlscbase net import	連絡網定義登録コマンド	－	○
tlscbase net export	連絡網定義取得コマンド	－	○
tlscbase net delete	連絡網定義削除コマンド	－	○
tlscbase line roomcreate	LINE WORKS トークルーム作成コマンド	－	○
tlscbase inquiry count	発信情報件数問い合わせコマンド	－	○
tlscbase delete notify	発信情報削除コマンド	－	○
tlscbase logget	ログ取得コマンド	－	○
tlscbase traceget	操作証跡取得コマンド	－	○

[記号] ○:コマンドの機能を表します。

6.2 通報管理サービスのコマンド（tlscbase）

本サービスの tlscbase コマンドは，通報管理サービスよりダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルからコピーし配置して，お客様環境から通知の依頼などを行う場合に使用します。配置方法と必要な設定に関しては「3.2 コマンド配置と設定ファイル」を参照ください。

(1) tlscbaseコマンド共通事項

(a) 本サービスとの通信に関して

tlscbase コマンドと本サービスは通信プロトコルを使用し，通知の依頼などを実施します。tlscbase コマンドを動作させる環境では，https 通信のプロトコルが有効で，かつ本サービスとの接続が可能な環境が必要となります。https 通信ができない場合，本サービスとの接続が不可能は場合には，tlscbase コマンドはエラー終了します。

TLS に関しては，TLS1.2 のみをサポートしています。

通信環境の設定は，お客様ごとに環境（OS の設定，ファイヤーウォールの設定，プロキシサーバの設定など）が異なりますので，必要な際はお客様側のシステム管理者へ問い合わせをおこない，本サービスとの通信が可能となるよう環境の整備を実施してください。

(b) プロキシサーバ設定

tlscbase コマンドが本サービスにアクセスする際，プロキシサーバを経由する場合には，OS のシステム環境変数にプロキシサーバの情報を設定します。なお，認証方法は，BASIC 認証のみサポートしています。

以下に，Windows の環境変数の設定例を記載します。

例 1）ユーザ認証なしの場合

http[s]://プロキシサーバ名[:ポート番号]

設定例）

```
HTTP_PROXY= http://proxy_addr:8080
HTTPS_PROXY= http://proxy_addr:8080
```

例 2）ユーザ認証ありの場合

http[s]://ユーザ名:パスワード@プロキシサーバ名[:ポート番号]

設定例）

```
HTTP_PROXY=http://user:pass@proxy_addr:8080
HTTPS_PROXY=http://user:pass@proxy_addr:8080
```

※上記の設定例に記載した構文，ユーザ名，パスワード，プロキシサーバアドレス，ポート番号は例であり，架空の値です。また，HTTP_PROXY や HTTPS_PROXY の設定（必要かどうかを含め）に関しても，お客様側のシステム管理者へ問い合わせを行い，ご使用の環境に適した値を設定してください。

(c) その他注意事項

- tlscbase コマンドを実行するには，実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- tlscbase コマンドを実行する場合は，完全パスで指定するか，環境変数の PATH 設定をしてください。
- ファイル完全名に空白文字が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定する必要があります。
- コマンドの引数に空白文字が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）で引数を囲んで指定する必要があります。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数を有効とします。
- tlscbase コマンドのログは，3 章「3.2(2) コマンド設定ファイルを編集する」の LogPath キーで設定したフォルダ配下に「コマンド実行記録ログ(tlscbase.log)」が出力されます。
- コマンドの戻り値が 2 で終了した場合，リトライできる可能性があります。
- コマンドが出力するログの時刻はシステムで設定されたタイムゾーンとなります。

Windows 版の場合

- Windows サービスの延長でコマンドを実行する場合は，ネットワークドライブ上のファイルは指定できません。
- ファイル名を指定するコマンドにおいては，Windows 外部デバイスファイル（Windows 予約デバイスファイル）の名前は指定できません。

Linux 版の場合

- ファイル名の大文字・小文字は区別されます。
- tlscbase コマンドを実行する場合は，ユーザの実行権限を付与してください。
- コマンドを実行するユーザが var/log ディレクトリに対して書き込み権限が必要です。

(2) コマンド設定ファイルに関して

tlscbase コマンドを使用するためには，あらかじめ設定ファイルに必要事項を記載しておく必要があります。コマンド設定ファイル(tlscbase.conf)の設定内容に関しては，3 章 セットアップの「3.2(2) コマンド設定ファイルを編集する」を参照ください。

6.2.1 電話発信コマンド

(1) 機能

電話 API サービスを使用し，電話発信の依頼を実行します。

(2) 形式

```
tlscbase tel notify
        -u ユーザ名
        -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
        --index { 1 | 2 | 3 | 4 }
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

電話発信を行う通知先のユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は，あらかじめ，ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには，電話発信は行えません。

例）-u ユーザ A

(b) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を音声通知します。通知メッセージ中には「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(c) ---index 電話番号１～４

通知先ユーザのユーザ定義情報に登録された電話番号 1～4 のうち，発信する電話番号を指定します。1～4 のいずれかの値を 1 つだけ指定します。1～4 の複数の指定はできません。

(d) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると Windows 版では SJIS が，Linux 版では UTF8 が使用されます。

(e) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(f) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合，コマンドの戻り値は 1 となります。また，指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合，コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容，外部通信サービス側の注意事項に関しては，「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-1 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
    “ok”: true,
    “sid”: “TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx“
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。発信先が応答しない，話し中などで相手との通知が成功しない場合でも，戻り値は 0 になります。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ：ユーザ A へ，”cbmsg-501.txt” の内容を電話通知する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容
「こちらは，バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase tel notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt --index 1
```

6.2.2 SMS発信コマンド

(1) 機能

電話API サービスである Twilio または楽天モバイル を使用し，SMS 発信の依頼を実行します。

(2) 形式

```
tlscbase sms notify
        -u ユーザ名
        -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

SMS 発信を行う発信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は，あらかじめ，ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには，SMS 発信は行えません。

例）-u ユーザ A

(b) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を SMS で通知します。通知メッセージ中には「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(c) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると Windows 版では SJIS が，Linux 版では UTF8 が使用されます。

(d) —profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合，コマンドの戻り値は 1 となります。また，指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合，コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容，外部通信サービス側の注意事項に関しては，「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-2 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
    “ok”: true,
    "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ「ユーザ A」へ，"cbmsg-501.txt"の内容を SMS 発信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容
「こちらは，バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase sms notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.3 メール発信コマンド

(1) 機能

メールサーバ情報に登録されたメールサーバに，メール送信の依頼を実行します。

(2) 形式

```
tlscbase mail notify
        -u ユーザ名
        -s メール件名
        -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ --mailattach 添付ファイル名[+添付ファイル名[+添付ファイル名]] ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

メール送信を行う送信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は，あらかじめ，ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには，メール発信は行えません。

指定したユーザのユーザ情報に登録されたすべてのメールアドレス（ユーザ定義情報のメールアドレス１～４）に送信します。

例）-u ユーザ A

(b) -s メール件名

メールの件名を指定します。200 文字以内で指定します。

(c) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容をメールにて送信します。通知メッセージ中には「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等

に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(d) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると Windows 版では SJIS が，Linux 版では UTF8 が使用されます。

(e) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(f) --mailattach 添付ファイル名[+添付ファイル名[+添付ファイル名]]

メールに添付する添付ファイルを完全パス名で指定します。添付ファイルは「+」区切りで最大 3 つまで指定可能です。各添付ファイルの最大サイズは 5M バイトです。添付ファイル名に文字「+」を含めることはできません。パス名に半角スペースが含まれている場合は本引数の全体を「"」で括ってください。

例）--mailattach "C:¥tmp¥test.png+C:¥temp folder¥sample.txt"

(g) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合，コマンドの戻り値は 1 となります。また，指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合，コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容，外部通信サービス側の注意事項に関しては，「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-3 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
    “ok”: true,
    ″sid″: ″TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx″
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ「ユーザ A」へ，件名「障害情報」で，"cbmsg-501.txt"の内容をメール送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容
「こちらは，バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase mail notify -u ユーザA -s ″障害情報″ -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.4 LINE WORKS投稿コマンド

(1) 機能

LINE WORKS のメンバーまたはトークルームへメッセージの発信を依頼します。

(2) 形式

```
tlscbase line notify
        { -u ユーザ名 | { --room トークルーム名 | --roomID トークルームID }
          --line_profile LINE WORKSプロファイル名 }
        -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

メッセージを送信する送信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。

指定するユーザ名は，あらかじめ，ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには投稿できません。

ユーザ名を使用する場合，LINE WORKS プロファイル名はユーザ情報登録時に紐づけられているため，指定する必要はありません。

例）-u ユーザ A

(b) { --room トークルーム名 | --roomID トークルームID } --line_profile LINE WORKSプロファイル名 }

メッセージを送信する LINE WORKS の「トークルーム名」または「トークルーム ID」を指定します。「トークルーム名」または「トークルーム ID」を指定する場合は，同時に LINE WORKS プロファイル名を指定します。指定する LINE WORKS プロファイルに登録された Bot No は，投稿を行うトークルームに招待されている必要があります。

例 1）トークルーム名の場合

--room お知らせ --line_profile LWProf1

例 2）トークルーム ID の場合

--roomID 728226 --line_profile LWProf1

(c) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。通知メッセージ中には「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(d) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると Windows 版では SJIS が，Linux 版では UTF8 が使用されます。

(e) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(f) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合，コマンドの戻り値は 1 となります。また，指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合，コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容，外部通信サービス側の注意事項に関しては，「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-4 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
    “ok”: true,
    ”sid”: ”TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx”
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1：

ユーザ「ユーザ A」へ，"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容
「こちらは，バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日}{%H 時%M 分%S 秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase line notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

例 2：

トークルーム名「お知らせ」へ，LINE WORKS プロファイル名「LWProf1」を使用し，"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

```
tlscbase line notify --room お知らせ --line_profile LWProf1 -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.5 Slack投稿コマンド

(1) 機能

Slack のメンバーまたはチャンネルへメッセージの発信を依頼します。

(2) 形式

```
tlscbase slack notify
    { -u ユーザ名 | --name チャンネル名 --slack_profile Slackプロファイル名 }
    -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
    [ --profile プロファイルファイル名 ]
    [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

メッセージを送信する送信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は，あらかじめ，ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには投稿できません。

ユーザ名を使用する場合，Slackプロファイル名はユーザ情報登録時に紐づけられているため，指定する必要はありません。

例）-u ユーザ A

(b) --name チャンネル名 --slack_profile Slackプロファイル名

メッセージを送信する Slack のチャンネル名を指定します。チャンネル名を指定する場合は，同時に Slack プロファイル名を指定します。指定する Slack プロファイルに登録された Token には，必要な権限が付与されている必要があります。

例）--name お知らせ --slack_profile SProf1

(c) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。通知メッセージ中には「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに

関して」を参照ください。

(d) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると Windows 版では SJIS が，Linux 版では UTF8 が使用されます。

(e) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(f) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合，コマンドの戻り値は 1 となります。また，指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合，コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容，外部通信サービス側の注意事項に関しては，「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-5 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
    “ok”: true,
    ”sid”: ”TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx”
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明

0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1：

ユーザ「ユーザ A」へ，"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容
「こちらは，バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase slack notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

例 2：

チャンネル名「おしらせ」へ，Slack プロファイル名「SProf1」を使用し，"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

```
tlscbase slack notify --name お知らせ --slack_profile SPprof1 -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.6 Microsoft Teams投稿コマンド

(1) 機能

Microsoft Teams のチャネルに対して Incoming Webhook を使用してメッセージの発信を依頼します。

(2) 形式

```
tlscbase teams notify
        --teams_profile Microsoft Teamsプロファイル名
        -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --teams_profile Microsoft Teamsプロファイル名

メッセージを送信する Microsoft Teams プロファイル名を指定します。

例）--teams_profile TProf1

(b) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。通知メッセージ中には「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

Microsoft Teams のチャネルに対し，投稿するメッセージは，Markdown(マークダウン)記法で記述する必要があります。Markdown(マークダウン)記法されていない場合，Microsoft Teams の仕様により，改行などが削除されます。詳細に関しては，Microsoft Teams へお問い合わせください。

(c) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると Windows 版では SJIS が，Linux 版では UTF8 が使用されます。

(d) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合，コマンドの戻り値は 1 となります。また，指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合，コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容，外部通信サービス側の注意事項に関しては，「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-6 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力

		します。

出力例

```
{
    “ok”: true,
    ″sid″: ″TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx″
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

Microsoft Teams プロファイル名「TProf1」を使用し，"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容
「こちらは，バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase teams notify --teams_profile TProf1 -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.7 連絡網発信コマンド

(1) 機能

連絡網に対して発信を行います。

(2) 形式

tlscbase net notify
--ni 連絡網名
{ [-f 通知文ファイル名]
[--fv 電話通知文ファイル]
[--fb SMS通知文ファイル]
[--fm メール通知文ファイル]
[--fl LINE WORKS通知文ファイル]

```
    [ --fs Slack通知文ファイル ]
    [ --ft Microsoft Teams通知文ファイル ] |
    --templateNo テンプレート番号 [--tv1 変数値 --tv2 変数値... ] }
[ --subject メール通知のメール件名 ]
[ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
[ --profile プロファイルファイル名 ]
[ --ae API実行変数ファイル名 ]
[ --mailattach 添付ファイル名[+添付ファイル名[+添付ファイル名]] ]
[ -h ]
```

(3) 引数

(a) --ni 連絡網名

発信を開始する連絡網名を指定します。

(b) -f 通知文ファイル名

共通で使用する通知メッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。

-f オプションと，--fv，--fb など通知メディア個別の通知文を指定するオプションは組み合わせて使用することができます。組み合わせて使用した場合，個別の指定がない場合は共通の設定を使用し，--fv，--fb など個別に指定した場合は個別指定を優先します。

通知メッセージ中には「6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。以降の通知文ファイルについても同様です。

--templateNo オプションと同時には指定できません。

(c) --fv 電話通知文ファイル

電話発信で通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(d) --fb SMS通知文ファイル

SMS 発信で通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(e) --fm メール通知文ファイル

メールで通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(f) --fl LINE WORKS通知文ファイル

LINE WORKS へ通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(g) --fs Slack通知文ファイル

Slack へ通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(h) --ft Microsoft Teams通知文ファイル

Microsoft Teams へ通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(i) --subject メール通知のメール件名

メールで通知する際のメールの件名を指定します。200 文字以内で指定します。連絡網の通知先にメールが含まれていない場合は無視されます。

(j) --fenc { SJIS | UTF8 }

通知文ファイルの文字コードを指定します。省略するとWindows版ではSJISが，Linux版では UTF8 が使用されます。

通知文ファイルを複数指定する場合，各通知ファイルの文字コードを同じにする必要があります。

(k) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(l) --ae API実行変数ファイル名

外部 API 連携に使用する API 実行変数ファイルを完全名で指定します。「キー=値」の組み合わせで指定します。キーの名前は 32 文字以内，値は 1000 文字以内で指定してください。API 実行変数ファイルには環境変数を設定可能です。環境変数の設定については「6.2.20(2)環境変数」を参照ください。

例：

--ae C:¥tmp¥val.txt

```
foo=aaaaa
bar=bbbbb
```

(m) --mailattach 添付ファイル名[+添付ファイル名[+添付ファイル名]]

メールに添付する添付ファイルを完全パス名で指定します。添付ファイルは「+」区切りで最大 3 つまで指定可能です。各添付ファイルの最大サイズは 5M バイトです。添付ファイル名に文字「+」を含めることはできません。パス名に半角スペースが含まれている場合は本引数の全体を「"」で括ってください。

例）--mailattach "C:¥tmp¥test.png+C:¥temp folder¥sample.txt"

(n) --templateNo テンプレート番号 [--tv1 変数値 --tv2 変数値...]

事前に定義したテンプレートの通知文を指定します。テンプレート番号に指定可能な数字は 1～20 です。-f, --fv, --fb, --fm, --fl, --fs, --ft オプションと同時には指定できません。

テンプレート文字列中に変数を含めたい場合，変数名{%N}の値を指定します。例えば{%1}は[--tv1]と指定してください。N は 1～10 の範囲で指定可能です。

例）-- templateNo 2

-- templateNo 11 --tv1 "hostA" --tv2 "筐体温度が閾値を超過しています"

(o) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- (b)の通知文ファイルを指定した場合，(c)～(h)の各通知文ファイルの指定を省略できます。
- (b)～(h)の各通知文ファイルをすべて省略することはできません。
- 連絡網の通知先に必要な通知文ファイルの指定を省略したとき，または，通知文ファイルの内容が空文字の場合には，「[notifysaas] からの連絡です」が通知文に設定されます。
- 連絡網の通知先にメールがあり，メール通知のメール件名を省略したとき，または，メールの件名が空文字の場合には，「[notifysaas] からの連絡です」がメールの件名に設定されます。
- 発信制限の内容，外部通信サービス側の注意事項に関しては，「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-7 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
    “ok”: true,
    "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。

1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

連絡網名「連絡網 A」を使用し，"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容
「こちらは，バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase net notify --ni 連絡網A -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.8 発信結果問い合わせコマンド

(1) 機能

発信結果問い合わせでは，発信識別子を用いて各発信の発信結果を取得します。

(2) 形式

```
tlscbase inquiry notify
        --sid 発信識別子
        [ --ni 連絡網名 ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --sid 発信識別子

発信時に出力された発信識別子（sid）を指定します。

(b) --ni 連絡網名

連絡網による発信結果を取得する場合に連絡網名を指定します。

(c) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(d) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。

出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。status 値の詳細は「8.1(27) resp_inquiry_ok.json」を参照ください。

表 6.2-8 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
sid	string	指定された発信識別子または連絡網発信識別子を出力します。
status	string	問い合わせを行った時点の発信の状態を出力します。

出力例

```
{
    "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx",
    "status": "confirmed"
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

発信識別子「TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx」の現在の状態を確認する。

```
tlscbase inquiry notify --sid TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx
```

6.2.9 通知先ユーザ定義登録コマンド

(1) 機能

ユーザ定義情報の登録(インポート)を行います。複数のユーザ定義情報をまとめて登録する場合や，ある特定のユーザ定義情報を更新する場合などに使用します。

(2) 形式

```
tlscbase user import
        -f ユーザ定義ファイル
        [ --user_group ユーザグループ名 ]
        [ --resource_group リソースグループ名 ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -f ユーザ定義ファイル

JSON 形式のユーザ定義情報「8.1(60) users.json」を格納したファイルを完全名で指定します。ユーザ定義ファイルは UTF-8 で記述する必要があります

(b) --user_group ユーザグループ名

ユーザ定義を登録するユーザグループ名を指定します。未指定の場合，標準のユーザグループに登録します。この引数で指定した値と users.json 内の user_group プロパティの値が一致しているユーザグループのみが登録対象になります。

(c) --resource_group リソースグループ名

ユーザ定義を登録するリソースグループを指定します。リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合に使用可能です。コマンドを実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

(d) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

・ユーザ定義ファイル(users.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。

- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザが，すでに登録済みの場合，上書きして登録する。
- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザが，登録されていない場合，追加して登録する。
- 登録済のユーザ定義情報と -f で指定したユーザ定義ファイル(users.json)のユーザ情報を一致させる（登録済のユーザ定義をすべて削除し，-f で指定したユーザ定義ファイルの情報を登録する）。

詳細は「8.1(60)　users.json」を参照ください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に登録可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に登録可能です。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ定義 “c:¥temp¥users001.json"　の内容を登録(インポート)する。

```
tlscbase user import -f c:¥temp¥users001.json
```

6.2.10 通知先ユーザ定義取得コマンド

(1) 機能

登録されたユーザ定義の取得(エクスポート)を行います。

(2) 形式

tlscbase user export

[--name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...] | --user_group ユーザ定

義を取得するユーザグループ名]
[--resource_group リソースグループ名]
[--profile プロファイルファイル名]
[-h]

(3) 引数

(a) --name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...]

取得する通知先ユーザ名を指定します。複数取得する場合は通知先ユーザ名をコロン(:)で区切り指定します。本オプションを省略したときは標準のユーザグループまたは指定したユーザグループからすべての登録済み通知先ユーザを取得します。

(b) --user_group ユーザ定義を取得するユーザグループ名

ユーザ定義を取得するユーザグループを指定します。未指定の場合は標準のユーザグループから取得します。

(c) --resource_group ユーザ定義を取得するリソースグループ名

ユーザ定義を取得するリソースグループを指定します。リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合に使用可能です。コマンドを実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

(d) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- --name で複数の通知先ユーザを指定した場合で，指定された通知先ユーザがひとつでも存在しない場合，コマンドは失敗します。
- リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に取得可能，サブアカウントでの実行時は権限が付与されている場合に取得可能です。また--name で複数の通知先ユーザ名を指定した場合，指定された通知先ユーザへの権限が一つでも不足している場合，コマンドは失敗します。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に通知先ユーザ情報をJSON形式で出力します。出力されるJSON形式は「8.1(60) users.json」です。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

すべてのユーザ定義を取得し，取得した情報を"C:¥temp¥users_export.json"にリダイレクトする。

```
tlscbase user export > c:¥temp¥users_export.json
```

6.2.11 通知先ユーザ定義削除コマンド

(1) 機能

指定されたユーザ定義情報を削除します。

(2) 形式

tlscbase user delete
[--name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...] | --user_group ユーザ定義を削除するユーザグループ名]]
[--profile プロファイルファイル名]
[-h]

(3) 引数

(a) --name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...]

削除する通知先ユーザ名を指定します。複数削除する場合は通知先ユーザ名をコロン(:)で区切り指定します。

本オプションを省略したときは標準のユーザグループまたは指定したユーザグループからすべての登録済み通知先ユーザの定義を削除します。削除したユーザ定義情報を復旧する方法はありません。

(b) --user_group ユーザ定義を削除するユーザグループ名

ユーザ定義を削除するユーザグループを指定します。未指定の場合は標準のユーザグループのユーザを削除します。

(c) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(d) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- --name で複数の通知先ユーザ名を指定した場合，指定された通知先ユーザが一つでも存在しない場合，コマンドは失敗します。
- リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に削除可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に削除可能です。また--name で複数の通知先ユーザ名を指定した場合，指定された通知先ユーザへの権限が一つでも不足している場合，コマンドは失敗します。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1：

すべてのユーザ定義情報を削除する。

```
tlscbase user delete
```

例 2：

指定した「ユーザ 1」「ユーザ 2」のユーザ定義情報を削除する。

```
tlscbase user delete --name ユーザ1:ユーザ2
```

6.2.12 連絡網定義登録コマンド

(1) 機能

連絡網定義情報の登録(インポート)を行います。複数の連絡網定義情報をまとめて登録する場合や，ある特定の連絡網定義情報を更新する場合などに使用します。

(2) 形式

```
tlscbase net import
        -f 連絡網定義ファイル
        [ --resource_group リソースグループ名 ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -f 連絡網定義ファイル

JSON 形式の連絡網定義情報「8.1(16) networks.json」を格納したファイルを完全名で指定します。連絡網定義ファイルは UTF-8 で記述する必要があります。

(b) --resource_group リソースグループ名

連絡網定義を登録するリソースグループを指定します。リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合に使用可能です。コマンドを実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

(c) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(d) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

・連絡網定義ファイル(networks.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。

- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網がすでに登録済みの場合，上書きして登録する。
- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網が登録されていない場合，追加して登録する。
- 登録済の連絡網定義情報と -f で指定した連絡網定義ファイル(networks.json)の連絡

網情報を一致させる（登録済の連絡網定義をすべて削除し，-f で指定した連絡網定義ファイルの情報を登録する）。

詳細は「8.1(16) networks.json」を参照ください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に登録可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に登録可能です。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

連絡網定義"networks.json"の内容を登録(インポート)する。

```
tlscbase net import -f c:¥temp¥networks.json
```

6.2.13 連絡網定義取得コマンド

(1) 機能

登録された連絡網定義の取得(エクスポート)を行います。

(2) 形式

```
tlscbase net export
        [ --ni 連絡網名1[:連絡網名2:...]]
        [ --resource_group リソースグループ名 ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --ni 連絡網名1[:連絡網名2:...]

取得する連絡網名を指定します。複数取得する場合は連絡網名をコロン(:)で区切り指定します。本オプションを省略したときはすべての登録済み連絡網を取得します。

(b) --resource_group リソースグループ名

連絡網定義を取得するリソースグループを指定します。リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合に使用可能です。コマンドを実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

(c) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(d) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- --ni で複数の連絡網名を指定した場合で，指定された連絡網がひとつでも存在しない場合，コマンドは失敗します。
- リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に取得可能，サブアカウントでの実行時は権限が付与されている場合に取得可能です。また--ni で複数の連絡網名を指定した場合，指定された連絡網への権限が一つでも不足している場合，コマンドは失敗します。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に連絡網定義情報をJSON形式で出力します。出力されるJSON形式は「8.1(16) networks.json」です。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

すべての連絡網定義を取得し，取得した情報を"C:¥temp¥networks_export.json"にリダイレクトする。

```
tlscbase net export > c:¥temp¥networks_export.json
```

6.2.14 連絡網定義削除コマンド

(1) 機能

指定された連絡網定義の削除を行います。

(2) 形式

```
tlscbase net delete
        [ --ni 連絡網名1[:連絡網名2:...]]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --ni 連絡網名1[:連絡網名2:...]

削除する連絡網名を指定します。複数削除する場合は連絡網名をコロン(:)で区切り指定します。本オプションを省略したときはすべての登録済み連絡網を削除します。削除した連絡網定義を復旧する方法はありません。

(b) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(c) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- --ni で複数の連絡網名を指定した場合，指定された連絡網が一つでも存在しない場合，コマンドは失敗します。
- リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に削除可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に削除可能です。また--ni で複数の連絡網名を指定した場合，指定された連絡網への権限が一つでも不足している場合，コマンドは失敗します。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1：

すべての連絡網定義を削除する。

```
tlscbase net delete
```

例 2：

指定した連絡網定義を削除する。

```
tlscbase net delete --ni 連絡網1:連絡網2
```

6.2.15 LINE WORKSトークルーム作成コマンド

(1) 機能

LINE WORKS に指定した Bot を含むトークルームを作成します。

本コマンドで作成したトークルームの情報は，ルーム ID 記録ファイルに記録されます。ルーム ID 記録ファイルに関しては「3.2(3) ルーム ID 記録ファイルに関して」を参照ください。

(2) 形式

```
tlscbase line roomcreate
        --name トークルーム名
        --accounts アカウント名1[,アカウント名2,... ]
        --line_profile LINE WORKSプロファイル名
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --name トークルーム名

作成するトークルームの名前を 1～64 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。トークルーム名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f)
```

(b) --accounts アカウント名1[,アカウント名2,...]

作成するトークルームに追加する LINE WORKS のメンバーアカウントを ID で指定します。アカウントは最低でも1アカウントの指定が必要です。アカウントはLINE WORKS側であらかじめメンバーアカウントとして登録されている必要があります。

(c) --line_profile LINE WORKSプロファイル名

LINE WORKS プロファイル画面で登録した，LINE WORKS プロファイル名を指定します。指定された LINE WORKS プロファイルの Bot No に対応する Bot をトークルームに招待するために使用します。

(d) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

LINE WORKS の仕様により，トークルームへメッセージ投稿が行われるまでは，作成したトークルームを参照することができません。作成した直後に参照しても該当するトークルームは表示されませんので，ご注意ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に情報をJSON形式で出力します。
出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-9 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
roomid	string	作成されたトークルームのルームIDを出力します。

出力例

```
{
    "roomid": "67315361"
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。

1	作成が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	作成が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

トークルーム「ルーム 1」を作成する。トークルームに追加するアカウントは 2 名，LINE WORKS プロファイルには「プロファイル A」を指定する。

```
tlscbase line roomcreate --name ルームA --accounts user01@works-01:user02@works-01 --
line_profile プロファイルA
```

6.2.16 発信情報件数問い合わせコマンド

(1) 機能

発信情報件数問い合わせでは，発信情報の件数を返します。発信情報には，「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の情報が保管されており，指定された期日と組み合わせて発信情報の件数を返します。

(2) 形式

```
tlscbase inquiry count
        [ -a ]
        [ --after yyyymmddHHMMSS ]
        [ --before yyyymmddHHMMSS ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -a

全ての発信情報件数（「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」）をカウントの対象とする場合に指定します。本オプションを省略すると「未完了（発信中と未発信）」の発信情報件数のみがカウントの対象となります。

本オプションは「--after」，「--before」オプションと組み合わせて使用可能です。

(b) --after yyyymmddHHMMSS

指定した日時以降（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報件数をカウントする場合に日時を指定します。yyyymmddHHMMSS では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2 桁，秒 2 桁を連結した日時を指定します。

「-a」オプションを指定しない場合は，「未完了（発信中と未発信）」の発信情報件数のみをカウントの対象とします。

(c) --before yyyymmddHHMMSS

指定した日時以前（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報件数をカウントする場合に日時を指定します。yyyymmddHHMMSS では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2 桁，秒 2 桁を連結した日時を指定します。

「-a」オプションを指定しない場合は，「未完了（発信中と未発信）」の発信情報件数のみをカウントの対象とします。

■--after と--before の両方を指定した場合

例 1）--after に，--before より前の日時を指定した場合，--after から--before までの範囲の値が取得されます。（ after ＜-----＞ before ）

例 2）--after に，--before より後の日時を指定した場合，--before 以前の値 と --after 以降の値 の両方の値が取得されます。（ ---＞ before と after ＜--- ）

(d) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合，標準出力に情報をJSON形式で出力します。
出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-10 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
count	数値	指定した条件を満たす発信情報件数を出力します。

出力例

```
{
    "count": 2
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

2022 年 3 月 31 日 10 時 30 分 45 秒以降に発信受付された，未完了の件数を確認する。

```
tlscbase inquiry count --after 20220331103045
```

6.2.17 発信情報削除コマンド

(1) 機能

発信情報削除では，発信情報を削除します。発信情報には，「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の情報が保管されており，指定された期日と組み合わせて発信情報を削除します。

(2) 形式

```
tlscbase delete notify
        [ -a ]
        [ --after yyyymmddHHMMSS ]
        [ --before yyyymmddHHMMSS ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -a

全ての発信情報件数（「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」）を削除対象とする場合に指定します。本オプションを省略すると「完了済」の発信情報のみを削除対象とします。

本オプションは「--after」，「--before」オプションと組み合わせて使用可能です。

(b) --after yyyymmddHHMMSS

指定した日時以降（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報を削除する場合に日時を指定します。yyyymmddHHMMSS では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2

桁，秒 2 桁を連結した日時を指定します。
「-a」オプションを指定しない場合は，「完了済」の発信情報件数のみを削除対象とします。

(c) --before yyyymmddHHMMSS

指定した日時以前（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報を削除する場合に日時を指定します。yyyymmddHHMMSS では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2 桁，秒 2 桁を連結した日時を指定します。
「-a」オプションを指定しない場合は，「完了済」の発信情報件数のみを削除対象とします。

■--after と--before の両方を指定した場合
例 1）--after に，--before より前の日時を指定した場合，--after から--before までの範囲の値が削除されます。（ after ＜-----＞ before ）
例 2）--after に，--before より後の日時を指定した場合，--before 以前の値 と --after 以降の値 の両方の値が削除されます。（ ---＞ before と after ＜--- ）

(d) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

2022 年 3 月 1 日 10 時 30 分 45 秒以前に発信受付された発信情報を削除する。

```
tlscbase delete notify --before 20220301103045
```

6.2.18 ログ取得コマンド

(1) 機能

発信や登録などが行われた際の動作ログの情報を取得します。

(2) 形式

```
tlscbase logget
        [ -d ]
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ --after yyyymmddHHMM ]
        [ --before yyyymmddHHMM ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -d

非公開のシステムログを取得する場合に指定します。本オプションを指定しないときは公開ログを取得します。

(b) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(c) --after yyyymmddHHMM

指定した日時以降（指定した日時を含む）のログを取得する場合に日時を指定します。yyyymmddHHMM では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2 桁を連結した日時を指定します。

(d) --before yyyymmddHHMM

指定した日時以前（指定した日時を含む）のログを取得する場合に日時を指定します。yyyymmddHHMM では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2 桁を連結した日時を指定します。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

コマンド成功時，標準出力にログ情報を出力します。出力例を以下に示します。

出力例

```
2022-03-19 14:15:50.139 1005-I 連絡網を登録しました。ID:連絡網A
```

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1：

公開ログを取得し，取得した情報を"C:¥temp¥open.log"にリダイレクトする。

```
tlscbase logget > C:¥temp¥open.log
```

例 2：

非公開のシステムログを取得し，取得した情報を"C:¥temp¥system.log"にリダイレクトする。

```
tlscbase logget -d > C:¥temp¥system.log
```

6.2.19 操作証跡取得コマンド

(1) 機能

操作証跡のログ情報を取得します。

(2) 形式

```
tlscbase traceget
        [ --profile プロファイルファイル名 ]
        [ --after yyyymmddHHMM ]
        [ --before yyyymmddHHMM ]
        [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(b) --after yyyymmddHHMM

指定した日時以降（指定した日時を含む）のログを取得する場合に日時を指定します。yyyymmddHHMM では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2 桁を連結した日時を指定します。

(c) --before yyyymmddHHMM

指定した日時以前（指定した日時を含む）のログを取得する場合に日時を指定します。yyyymmddHHMM では，西暦年 4 桁，月 2 桁，日 2 桁，時 2 桁，分 2 桁を連結した日時を指定します。

(d) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 出力をファイルにリダイレクトした場合，ファイルの文字コードは UTF-8 になります。文字コード UTF-8 のファイルを CSV 形式として Excel で開くと文字化けして表示される場合がありますので BOM をつけて保存するなどしてください。

(5) 標準出力

コマンド成功時，標準出力にログ情報を出力します。出力例を以下に示します。

出力例

```
2024/10/04 11:20:33.242,管理者,,サインイン,,,x,192.1.1.1
```

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻

	り値が 1 は，引数の誤り，指定したファイルのエラー，予期しないエラーを示します。
2	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

操作証跡ログを取得し，取得した情報を"C:¥temp¥open.log"にリダイレクトする。

```
tlscbase traceget > C:¥temp¥open.log
```

6.2.20 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数

通知文ファイルのメッセージ中に使用できる変数に関して記載します。固有の変数と環境変数が使用可能です。

(1) 固有の変数

以下の固有の変数が使用可能です。固有の変数の値は，お客様システム側の値となります。

表 6.2-11 通知文ファイル中に使用可能な固有の変数

変数名	説明
{日付時刻書式文字列}	コマンド受付日時を表す日付時刻書式文字列。 指定可能な書式識別子は「表 6.2-12 日付時刻書式文字列」を参照。

表 6.2-12 日付時刻書式文字列

書式識別子	変換方法
%y	西暦年（4 桁）に置き換えます。
%m	月（01～12）に置き換えます。
%b	月（英語短縮型）Jan, Feb, Mar, Apr, May, Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec に置き換えます。
%d	日（01～31）に置き換えます。
%H	時刻（00～23）に置き換えます。
%M	分（00～59）に置き換えます。
%S	秒（00～60）に置き換えます。
%s	ミリ秒（000～999）に置き換えます。

（例）受付日時が 2022 年 2 月 10 日 12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒の場合

書式文字列の指定	置換後の値
受付日時：{%y 年%m 月%d 日}	受付日時：2022 年 02 月 10 日
受付日時：{%m/%d/%y}	受付日時：02/10/2022
受付日時：{%b %d %H:%M:%S %y}	受付日時：Feb 10 12:53:32 2022

書式文字列の指定	置換後の値
受付日時：{%H 時%M 分%S 秒%s ミリ秒}	受付日時：12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒
受付日時：{%H:%M:%S.%s}	受付日時：12:53:32.824

(2) 環境変数

通知文ファイルまたは API 実行変数ファイルのメッセージ中に環境変数値を埋め込む場合，環境変数名を%で括って指定可能です。環境変数の値は，お客様システム側の値となります。

(例) %USERNAME%

(a) 環境変数の使用時の注意事項

環境変数を使用する場合，次の注意事項があります。

- 環境変数を使用する場合，コマンドの実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- コマンドを Windows サービス経由で実行する場合は，ユーザ環境変数は置換されません。システム環境変数のみが置換されます。
- 環境変数名が環境変数として登録されていない場合は，置換されません。
- メッセージ中の環境変数名は%（半角パーセント文字）で囲んで指定し，同一変数名が複数箇所指定されていた場合は同じ変数値に置き換わります。
- 環境変数名の大文字・小文字は区別しません。全角・半角の区別は行います。
- 変数名では半角 260 文字，変数値では半角 1,023 文字が長さの上限です。変数名が長すぎる場合，その環境変数は扱えません。変数値が長すぎる場合，半角 1,023 文字まで変換してそれ以降を切り捨てます。

7.API

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供する REST API について説明します。

7.1 API一覧

7.2 通報管理サービスのAPI

7.2.1 サインインAPI

7.2.2 サインアウトAPI

7.2.3 サインイントークン更新API

7.2.4 発信受付API

7.2.5 発信問い合わせAPI

7.2.6 連絡網発信API

7.2.7 連絡網発信結果取得API

7.2.8 通知先ユーザ定義登録API

7.2.9 通知先ユーザ定義取得API

7.2.10 通知先ユーザ定義削除API

7.2.11 ユーザグループ登録API

7.2.12 ユーザグループ取得API

7.2.13 ユーザグループ削除API

7.2.14 連絡網定義登録API

7.2.15 連絡網定義取得API

7.2.16 連絡網定義削除API

7.2.17 LINE WORKSトークルーム作成API

7.2.18 発信情報件数問い合わせAPI

7.2.19 発信情報削除API

7.2.20 ログ取得API

7.1 API一覧

本サービスが提供する API を以下に示します。

表 7.1-1 API一覧

API 名	説明
サインイン API	通報管理サービスへサインインします。
サインアウト API	通報管理サービスからサインアウトします。
サインイントークン更新 API	サインイン中のトークンを更新します。
発信受け付け API	各外部通信サービスへの発信要求を行います。
発信問い合わせ API	発信状況や発信結果の問い合わせを行います。
連絡網発信 API	連絡網への発信要求を行います。
連絡網発信結果取得 API	連絡網の発信結果の問い合わせを行います。
通知先ユーザ登録 API	通知先ユーザを登録します。
通知先ユーザ取得 API	通知先ユーザを取得します。
通知先ユーザ定義削除 API	通知先ユーザを削除します。
ユーザグループ定義登録 API	ユーザグループを登録します。
ユーザグループ定義取得 API	ユーザグループを取得します。
ユーザグループ定義削除 API	ユーザグループを削除します。
連絡網定義登録 API	連絡網定義を登録します。
連絡網定義取得 API	連絡網定義を取得します。
連絡網定義削除 API	連絡網定義を削除します。
LINE WORKS トークルーム作成 API	LINE WORKS のトークルームを作成します。
発信情報件数問い合わせ API	発信情報の件数を問い合わせします。
発信情報削除 API	発信情報の削除を行います。
ログ取得 API	ログを取得します。

7.2 通報管理サービスのAPI

本サービスが提供する API は，REST（Representational State Transfer）アーキテクチャスタイルの API です。HTTP1.1 に準拠しています。

(1) 通信方式

API が使用する通信プロトコルについて，次に示します。

(a) 通信プロトコル

お客様環境と本サービスの Web サーバとの通信で使用するプロトコルは，https です。バージョンは，1.1 をサポートしています。

(b) 認証

サインイン時の認証は，アカウント名，パスワードです。以降の処理では，サインインで取得したトークンを使用します。認証方式は Bearer トークン認証です。

事前に API キーを発行し，API 発行毎にサインイン API を呼び出すことなく目的の API 呼び出すことも可能です。対応している API は「発信受付 API」，および「連絡網発信 API」です。

(2) API発行の流れ

以下の例を参考にして，API の発行を実施してください。

使用例）（ サインイン ⇒ 発信受付 ⇒ 発信結果問い合わせ ⇒ サインアウト の場合）

・サインイン API を発行する

…レスポンスの JSON (resp_signin.json)から id_token を取り出し，以降の API 発行の認証情報として Authorization ヘッダに指定します。

API キーを発行済みで，かつ実行する API が「発信受付 API」，もしくは「連絡網発信 API」の場合，サインイン API の発行は不要です。その場合，Authorization ヘッダに発行済みの API キーを指定します。

・発信受付 API を発行する

…レスポンスの JSON (resp_notify_ok.json)から Sid を取り出します。Sid は，発信問い合わせ API で使用します。

・発信問い合わせ API を発行する

…レスポンスの JSON (resp_inquiry_ok.json)の status を取り出して，発信結果を確認してください。

・サインアウト API を発行する

…サインアウトを発行すると，サインインで取得された id_token は無効化されます。

API キーを発行済みで，かつ実行する API が「発信受付 API」，もしくは「連絡網発信 API」場合，サインアウト API の発行は不要です。

各 API には，リクエスト形式，リクエストデータが決められています。各 API の説明と必要な JSON プロパティを操作し，API を発行してください。

サンプルスクリプト（Python によるサンプルスクリプトです。サインインし，連絡網を実行します）

```
import json
import time
import requests
import uuid
import argparse
import logging
import os

"""
 本ツールは連絡網実行の一連の流れをテストします

 ----------------------------
 例)必要なパッケージをインストールする
 $ pip install requests
    :
 ----------------------------

 ----------------------------
 例)実行する
 $ python apitest.py -n test1 -a testuser01 -p pass01xxxx
    :
 ----------------------------

引数:
     -n, --ni:       実行する連絡網名
     -a, --account:  saas アカウント名
     -p, --password: saas アカウント名のパスワード
"""

SERVER='https://notify-saas-xxxxx.hitachi-solutions.co.jp'

def post(url, json_data, headers):
     """post

     Request Post Method.

     :param url: post URL
     :param data: post body
     :param headers: http-header

     :return: http response
     """
     logger = logging.getLogger('main')
     logger.info(f'POST {url}')
     r = requests.post(url, data=json_data, headers=headers)
     return r
```

```
def main():
    logging.basicConfig(level=logging.INFO)
    logger = logging.getLogger('main')
    logger.debug('start')

    parser = argparse.ArgumentParser()
    parser.add_argument("-n",    '--ni',    action='store',    dest='net_name',
required=True)
    parser.add_argument("-a",  '--account',  action='store',  dest='account',
required=True)
    parser.add_argument("-p", '--password', action='store', dest='password',
required=True)
    args = parser.parse_args()

    server = SERVER

    ### サインイン
    login = {
        "account": args.account,
        "password": args.password ,
        "X-NotifySaaS-Notify-Account": args.account
    }
    headers = {
        "content-Type": "application/json"
    }
    url = server + '/api/v1/signin'
    r = post(url, json.dumps(login), headers)
    if r.status_code != requests.codes.ok:
        logger.error(f'failed to singin.({str(r)}, {r.text})')
        return

    resp = r.json()

    ### 連絡網実行
    id_token = resp['id_token']
    access_token = resp['access_token']
    headers = {
        "content-Type": "application/json",
        "Authorization": "Bearer " + id_token,
        "X-NotifySaaS-Notify-Account": args.account
    }
    body = {
        "request_id": str(uuid.uuid4()),
        "tel_content": "テストです"
    }

    url = server + f'/api/v1/net/{args.net_name}/execute'
    r = post(url, json.dumps(body), headers)
    if r.status_code != requests.codes.ok:
        logger.error(f'failed to notify to net.({str(r)}, {r.text})')
        return

    logger.info(f'{args.net_name} execution.')
    resp = r.json()
```

```
    logger.info(f'{resp["sid"]}')

    logger.info('ended.')

    return

if __name__ == '__main__':
    main()
```

(3) 各API共通の記載事項

(a) リクエスト形式

各 API の説明でクエスト形式の書式に「*host*」の記載があります。

例）サインイン API の場合

```
POST https://host/api/v1/signin
```

host 部分に指定する値に関しては，本サービス申し込み時にご連絡している「接続先 URL」のホストの値を指定してください。
　指定例）https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/api/v1/signin

(b) ヘッダについて

各 API を実行する場合は，HTTP ヘッダに，ヘッダ名「X-NotifySaaS-Notify-Account」，値にサインイン API で指定するアカウント名を指定してください。

(c) 発信内容の指定に関して

各 API で指定する発信内容は，10,000 文字までの文字数制限があります。10,000 文字を超えて，指定した場合，API がエラー終了します。なお，各外部通信サービスで制限された文字数に関しては，各 API ではチェックしません。各通信サービスの制限の範囲内で発信内容を作成してください。

(d) 注意事項

API のリクエスト URI，リクエストパラメタ，リクエストボディは UTF-8 で記述し，URI，リクエストパラメタは URL エンコードされている必要があります。

7.2.1 サインインAPI

(1) 機能

サインインを行います。サインインが成功した場合，レスポンスとして認証情報を返します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/signin
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

・signin.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	サービス拒否(サービスの有効期限が切れている)
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_signin.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

本 API で取得した認証情報(resp_signin.json)の id_token の値を，以降に発行する API の認証情報として Authorization ヘッダに指定する必要があります。

例：

```
Authorization: Bearer evJra...
```

認証情報(resp_signin.json)の id_token, access_token は 3600 秒（60 分）有効です。有効期限後は使用できません。有効期限を延長する場合には 「7.2.3 サインイントークン更新 API」を発行することで，有効期限が延長されます。

7.2.2 サインアウトAPI

(1) 機能

サインアウトを行います。サインインで取得したトークンを無効にします。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/signout
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

・signout.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.3 サインイントークン更新API

(1) 機能

サインイントークンの更新を行います。サインインで取得したトークンは，3600 秒（60 分）有効です。有効期限を延長する必要がある場合，本 API を使用します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/refresh_token
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

・refresh_token.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	サービス拒否(サービスの有効期限が切れている)
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_signin.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.4 発信受付API

(1) 機能

発信受付 API では（電話，SMS，メール，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams）各種の発信要求を行います。発信受付が成功した場合，レスポンスとして sid を返します。sid はのちの発信問い合わせ API で使用します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/notify
```

APIキー認証の場合

```
POST https://host/api/v1/apikey/notify
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

発信する通知（電話，SMS，メール，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams）ごとに，

以下のいずれかの JSON プロパティを使用して指定します。
・telnotify.json
・smsnotify.json
・mailnotify.json
・linenotify.json
・slacknotify.json
・teamsnotify.json
JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

各発信に関しては，発信事項や各外部通信サービス側の注意事項など「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」に記載された内容をご確認の上でご使用ください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	発信要求が成功したことを意味します
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_notify_ok.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

本 API で取得した(resp_notify_ok.json)の sid の値は，発信問い合わせ API で使用します。

7.2.5 発信問い合わせAPI

(1) 機能

発信状況の問い合わせを行います。発信受付 API で取得した sid を使用して，該当発信の状況をレスポンスに返します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/notify/?sid={sid}
```

(3) リクエストパラメタ

sid： 発信受付 API で取得した発信識別子(sid)を指定します。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
404	指定された発信識別子(sid)が見つからない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_inquiry_ok.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.6 連絡網発信API

(1) 機能

連絡網発信 API では連絡網の発信要求を行います。連絡網発信が開始された場合，レスポンスとして sid を返します。sid はのちの連絡網発信結果取得 API で使用します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/net/{id}/execute
```

APIキー認証の場合

```
POST https://host/api/v1/apikey/net/{id}/execute
```

(3) リクエストパラメタ

id： 発信要求を行う，連絡網名を指定します。

(4) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

・netnotify.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(5) 注意事項

連絡網に定義された各発信に関しては，発信事項や各外部通信サービス側の注意事項など「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」に記載された内容をご確認の上でご使用ください。

(6) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	発信を開始したことを意味します
401	認証失敗
404	指定された連絡網名が見つからない
422	Validation error

(7) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_notify_ok.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

本 API で取得した(resp_notify_ok.json)の sid の値は，発信問い合わせ API で使用します。

7.2.7 連絡網発信結果取得API

(1) 機能

連絡網の発信結果の問い合わせを行います。連絡網の名称と連絡網発信 API で取得した sid を使用して，該当連絡網の結果をレスポンスに返します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/net/{id}/execute?sid={sid}
```

(3) リクエストパラメタ

id ：発信結果を取得する，連絡網名を指定します。
sid：連絡網発信 API で取得した発信識別子(sid)を指定します。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_inquiry_ok.json

200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.8 通知先ユーザ定義登録API

(1) 機能

ユーザ定義情報の登録(インポート)を行います。複数のユーザ情報をまとめて登録する場合に使用が可能です。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/user/?userGroup={userGroup}&resourceGroup={resourceGroup}
```

(3) リクエストパラメタ

resourceGroup: リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，登録対象のリソースグループを指定します。API を実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

userGroup： ユーザ情報を登録するユーザグループを指定します。
指定しなかった場合は，標準のユーザグループに登録します。

(4) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

・users.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(5) 注意事項

・ユーザ定義ファイル(users.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。userGroup に指定されたユーザグループの範囲で動作します。

- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザがすでに登録済みの場合，上書きして登録する。
- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザが登録されていない場合，追加して登録する。
- ユーザ定義ファイル(users.json)で指定したユーザ情報と登録済みのユーザ情報を一致させる（登録済のユーザ定義をすべて削除して，-f で指定したユーザ定義ファイルの情報で書き換える）。

詳細は「8.1(60) users.json」を参照ください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に登録可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に登録可能です。

(6) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	ユーザ登録数またはユーザグループの上限に達したので登録できない
403	リソースグループに対して権限がない
403	他のリソースグループに同名のユーザが存在する
403	同名のユーザが存在する
404	指定したユーザグループが存在しない
422	Validation error

(7) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.9 通知先ユーザ定義取得API

(1) 機能

登録されたユーザ定義情報の取得(エクスポート)を行います。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/user/?userGroup={userGroup}&resourceGruop={resourceGroup}
GET https://host/api/v1/user/{userName}
GET https://host/api/v1/user/?contain={contain}
```

(3) リクエストパラメタ

userGroup： 登録されているユーザを全て取得するユーザグループを指定します。
指定しなかった場合は，標準のユーザグループから取得します。

resourceGroup： リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，取得対象のリソースグループを指定します。API を実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

userName： 取得するユーザ名を指定します。指定しなかった場合は，
標準ユーザグループまたは指定したユーザグループに属するすべてのユーザ定義情報を取得します。

contain： 指定された文字列を含むユーザとそのユーザが属するユーザグループ情報を最大 100 件まで返します。空白を指定した場合全てのユーザから最大 100 件まで返却します。userName または userGroup とは同時に指定できません。

(4) 注意事項

・userName には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に取得可能，サブアカウントでの実行時は権限が付与されている場合に取得可能です。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
400	指定されたパラメタが誤っている
401	認証失敗
403	リソースグループに対して権限がない
404	指定されたユーザ名またはユーザグループが見つからない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_users.json（userName省略時，contain指定時） users.json（userName指定時）
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.10 通知先ユーザ定義削除API

(1) 機能

指定されたユーザ定義情報を削除します。

(2) リクエスト形式

```
DELETE https://host/api/v1/user/?userGroup={userGroup}
DELETE https://host/api/v1/user/{userName}
```

(3) リクエストパラメタ

userGroup：登録されているユーザを全て削除するユーザグループを指定します。
指定しなかった場合は，標準ユーザグループから削除します。

userName：削除するユーザ名を指定します。指定しなかった場合は，
ユーザグループに所属するすべてのユーザ定義情報を削除します。

(4) 注意事項

・userName には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウ

ントでの実行時は常に削除可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に削除可能です。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
400	指定されたパラメタが誤っている
401	認証失敗
403	権限のないユーザを削除しようとした
404	指定したユーザグループが存在しない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.11 ユーザグループ登録API

(1) 機能

ユーザグループ情報の登録(インポート)を行います。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/userGroup/
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

・user_groups.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗

403	ユーザグループ登録数の上限に達したため登録できない
403	権限のない操作
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.12 ユーザグループ取得API

(1) 機能

登録されたユーザグループ定義情報の取得(エクスポート)を行います。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/userGroup/
GET https://host/api/v1/userGroup/{userGroup}
```

(3) リクエストパラメタ

userGroup： 登録されているユーザグループを指定します。
指定しなかった場合は，すべてのユーザグループを取得します。

(4) 注意事項

userGroup には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
404	指定されたユーザ名またはユーザグループが見つからない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_user_groups.json（userGroup省略時） user_groups.json（userGroup指定時）
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.13 ユーザグループ削除API

(1) 機能

指定されたユーザグループ定義情報を削除します。

(2) リクエスト形式

```
DELETE https://host/api/v1/userGroup/
DELETE https://host/api/v1/userGroup/{userGroup}
```

(3) リクエストパラメタ

userGroup：指定されたユーザグループと，それに属するユーザを全て削除します。
指定しなかった場合は，標準ユーザグループ以外のすべてのユーザグループ情報を削除します。

(4) 注意事項

userGroup には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
400	指定されたパラメータが誤っている
401	認証失敗
403	権限のない操作
404	指定したユーザグループが存在しない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.14 連絡網定義登録API

(1) 機能

連絡網定義情報の登録(インポート)を行います。複数の連絡網情報をまとめて登録する場合に使用が可能です。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/net/
```

(3) リクエストパラメタ

resourceGroup: リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，登録対象のリソースグループを指定します。API を実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

(4) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

・networks.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(5) 注意事項

・連絡網定義ファイル(networks.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。

- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網がすでに登録済みの場合，上書きして登録する。
- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網が登録されていない場合，追加して登録する。
- 連絡網定義ファイル(networks.json)で指定した連絡網定義情報と登録済みの連絡網定義情報を一致させる（登録済の連絡網定義をすべて削除して，-f で指定した連絡網定義ファイルの情報で書き換える）。

詳細は「8.1(16) networks.json」を参照ください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に登録可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に登録可能です。

(6) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	連絡網登録数の上限に達したため登録できない
403	リソースグループに対して権限がない
403	他のリソースグループに同名の連絡網が存在する
403	同名の連絡網が存在する

403	リソースグループが見つからない
422	Validation error

(7) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.15 連絡網定義取得API

(1) 機能

登録された連絡網定義情報の取得(エクスポート)を行います。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/net/
GET https://host/api/v1/net/{id}
```

(3) リクエストパラメタ

id：取得する連絡網名を指定します。指定しなかった場合は，すべての連絡網定義情報を取得します。

resourceGroup：リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，取得対象のリソースグループを指定します。API を実行するアカウントがサブアカウントの場合，省略できません。

(4) 注意事項

・id には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に取得可能，サブアカウントでの実行時は権限が付与されている場合に取得可能です。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	リソースグループに対して権限がない
404	指定された連絡網名が見つからない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_networks.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.16 連絡網定義削除API

(1) 機能

指定された連絡網定義情報の削除を行います。

(2) リクエスト形式

```
DELETE https://host/api/v1/net/
DELETE https://host/api/v1/net/{id}
```

(3) リクエストパラメタ

id：削除する連絡網名を指定します。指定しなかった場合は， すべての
連絡網定義情報を削除します。

(4) 注意事項

・id には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

・リソース管理方法が「ロールによるリソース管理」となっている場合，管理者アカウントでの実行時は常に削除可能，サブアカウントでの実行時は編集権限が付与されている場合に削除可能です。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	権限のない連絡網を削除しようとした
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.17 LINE WORKSトークルーム作成API

(1) 機能

LINE WORKS に指定したトークルームを作成します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/line/createroom
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

・linecreateroom.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

LINE WORKS の仕様により，作成したトークルームは，トークルームへメッセージ投稿が行われるまでは，参照することができません。作成した直後に参照しても該当するトークルームは表示されませんので，ご注意ください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_linecreateroom.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.18 発信情報件数問い合わせAPI

(1) 機能

発信情報件数問い合わせ API では，発信情報の件数を返します。発信情報には，「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の情報が保管されており，指定された期日の発信情報件数を返します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/notifycount
```

(3) リクエストパラメタ

all：

完了，未完了をカウントする場合は True を，未完了のみをカウントするときは False を指定する

before：

指定した日時以前に受け付けた発信数をカウントする場合に日時を指定します。
指定する日時は yyyymmddHHMMSS の形式で指定します。

after：

指定した日時以降に受け付けた発信数をカウントする場合に日時を指定します。
指定する日時は yyyymmddHHMMSS の形式で指定します。

tz：

before，after の日時のタイムゾーン名を IANA 管理のタイムゾーン名で指定します。
省略時は日本時間として扱います。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_inquiry_count.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.19 発信情報削除API

(1) 機能

発信情報削除 API では，発信情報を削除します。発信情報には，「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の情報が保管されており，指定された sid または，指定された期日の発信情報を削除します。

(2) リクエスト形式

```
DELETE https://host/api/v1/notify/
```

```
DELETE https://host/api/v1/notify?sid={sid}
```

(3) リクエストパラメタ

sid：特定の sid の発信情報を削除するときに指定します。
本パラメタ指定時にはリクエストデータは不要です。

(4) リクエストデータ

Content-Type:application/json

・delete_notify.json
本パラメタ指定時にはリクエストパラメタは不要です。

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(5) 注意事項

なし。

(6) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(7) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.20 ログ取得API

(1) 機能

発信や登録などが行われた際の動作ログの情報を取得します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/logget?message={True|False}
```

(3) リクエストパラメタ

message：
取得するログ種別を指定します。True の場合は公開ログを取得し，False の場合は非公開システムログを取得します。

after：
指定した日時以降のログを取得する場合に日時を指定します。指定する日時は yyyymmddHHMM の形式で指定します。（省略可: 省略した場合は残っているログの最古から）

before：
指定した日時以前のログを取得する場合に日時を指定します。指定する日時は yyyymmddHHMM の形式で指定します。（省略可: 省略した場合は最新のログまで）
ログの取得範囲が残っているログの範囲外を示している場合は取得可能な範囲で取得します。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

8. JSONプロパティ

この章では，TELstaff クラウド型通報管理サービスの JSON プロパティについて説明します。

8.1 通報管理サービスのJSON

8.1 通報管理サービスのJSON

通報管理サービスが提供するコマンド，API のリクエストおよびレスポンスのデータ形式は，JSON 形式のプロパティを使用しています。各 JSON プロパティの内容を記載します。

JSON プロパティは以下の形式で記載します。

```
JSONプロパティ名:
 Type     : JSON型
 required : 必須プロパティはTrueと記載しています
 default  : デフォルトの値(必須プロパティには省略値はありません)
 range    : [最小値，最大値]
```

JSON 型 ：JSON プロパティの型を指定します。
required ：必須プロパティであることを示します。
default ：プロパティを省略したときの省略値を示します。デフォルト値があるものは登録時に未指定の場合でも出力対象となります。
range ：型で指定した値の最小値，最大値を示します。文字列の場合は文字列の長さ，数値の場合は値，配列の場合は要素数の範囲を示します。

使用する型名は以下です。

型名	説明
string	文字列の型です。二重引用符で値全体を囲みます。
number	数値の型です。半角の数字とピリオドを使い，10進数で値を指定します。
bool	真偽値の型です。「Yes」か「No」を選択するもので，Yesの場合True，Noの場合はFalseを指定します。
null	ヌル値(値が空である)を表現する型です。
string[]	複数のstring型の値を一つにまとめた型です。複数のstring型をカンマで区切って並べ，全体を[]で囲みます。
number[]	複数のnumber型の値を一つにまとめた型です。複数のnumber型をカンマで区切って並べ，全体を[]で囲みます。
bool[]	複数のbool型の値を一つにまとめた型です。複数のbool型をカンマで区切って並べ，全体を[]で囲みます。
object	オブジェクトを指定する型です。１つ以上のプロパティをカンマで区切って並べ，全体を{}で囲います。
object[]	複数のobject型の値を一つにまとめた型です。複数のobject型をカンマで区切って並べ，全体を[]で囲みます。

(1) calendar.json

カレンダー定義のリクエスト型です。

書式

```
week:
    type: bool[]          # (*1)参照
    default: [false, true, true, true, true, true, false]
weekday:
    type: string[]        # (*2)参照
    default: []
```

```
    range[0, 50]
holiday:
    type: string[]        # (*3)参照
    default: []
    range[0, 50]
```

- (*1)要素 0 を日曜日，要素 6 を土曜日とし，平日は true，休日は false とします。
- (*2)特定日を平日とする際にその日付を yyyymmdd 形式で指定します。week よりも優先されます。
- (*3)特定日を休日とする際にその日付を yyyymmdd 形式で指定します。week よりも優先されます。

使用例

以下の例は日曜日と土曜日を休日とし，さらに「2021/10/22」と「2021/11/22」を休日とします。

```
{
    "week": [false, true, true, true, true, true, false],
    "weekday": [],
    "holiday": ["20211022", "2021122"]
}
```

(2) delete_notify.json

発信情報削除のリクエスト型です。削除するキュー（レコード）の情報を指定します。

書式

```
all:
  type: bool      # 未完了および完了したレコードを削除する場合はtrueを，
                    完了のみ削除するときはfalseを指定
  required: True
before:
  type: string    # 指定した日時以前に受け付けた発信レコードを削除する場合に
                    日時を指定
  default: null
after:
  type: string    # 指定した日時以降に受け付けた発信レコードを削除する場合に
                    日時を指定
  default: null
tz:
  type: string    # before, afterプロパティのタイムゾーンをIANA管理の
                    タイムゾーン名で指定
  default: Asia/Tokyo
```

- before，after に指定する日時は yyyymmddHHMMSS の形式で指定します。

使用例

以下の例は 2020/12/1 00:00:00～2020/12/31 23:59:59 に受け付けた発信のうち完了したレコードを削除します。

```
{
    "all": false,
    "after": "20201201000000",
    "before": "20201231235959",
```

```
    "tz": "Asia/Tokyo"
}
```

(3) exapinotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。外部 API 連携へ通知する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string                # "exapiv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object                # 「(17) notify_exapi.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "exapiv2",
    "parameters": {
        "apiProfile": "Aサービス連携"
            : （以下省略）
    }
}
```

(4) lampnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。信号灯へ通知する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string                # "lampv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object                #「(18) notify_lamp.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "lampv2",
    "parameters": {
        "lampProfile": "保守用信号灯"
            : （以下省略）
    }
}
```

(5) linecreateroom.json

LINE WORKS トークルーム作成のリクエスト型です。作成するトークルームの情報を指定します。

書式

```
name:
  type: string          # 作成するトークルーム名を指定
  required: True
  range[1, 1000]
accountIDs:
  type: string[]        # トークルームに参加させるメンバーのIDを指定(*1)
  required: True
  range: [1, 8].range[0, 512]
lineProfile:
  type: string          # LINE WORKSプロファイル名を指定
  required: True
  range[1, 100]
```

・　トークルーム名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f)
```

・　(*1) メンバーの ID は 1～8 個まで指定可能で，1 つのメンバーID は 512 文字以内で指定します。

使用例

```
{
    "name": "トークルーム",
    "accountIDs": ["test00@works-xxxx", "test01@works-xxxx"],
    "lineProfile": "保守チーム"
}
```

(6) linenotify.json

LINE WORKS への発信のリクエスト型です。LINE WORKS への発信情報を指定します。

書式

```
request_id:
    type: string          # 発信毎に一意となる文字列を指定（省略可）
    default: null         例:UUID
    range[0, 256]
parameters:
    type: object          #「(8) linenotifyv2_detail.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "parameters": {
        "type": "line",
        "user": "ユーザA",
        "content": "この内容を投稿します"
    }
}
```

(7) linenotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。LINE WORKS のメンバーへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string                # "linev2"固定
    required: True
parameters:
    type: string                #「(23) notify_user.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "linev2",
    "parameters": {
        "name": "ユーザA"
    }
}
```

(8) linenotifyv2_detail.json

LINE WORKS への発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
    type: string            # "line"固定
    required: True
user:
    type: string            # 通知先ユーザ名を指定
    range[0, 100]
roomid:
    type: string            # LINE WORKSトークルームIDを指定
    range[0, 64]
content:
    type: string            # 発信内容を指定
    required: True
lineProfile:
    type: string            # LINE WORKSプロファイル名を指定
    range[1, 100]
```

- user あるいは roomid のいずれかを指定する必要があります。両方同時には指定できません。
- roomid を指定する場合は同時に LINE WORKS プロファイル名を指定する必要があります。user を指定する場合は LINE WORKS プロファイル名の指定は不要です。

使用例 1

```
{
    "type": "line",
    "user": "ユーザA",
    "content": "この内容を投稿します"
```

```
}
```

使用例 2

```
{
    "type": "line",
    "roomid": "63836238",
    "content": "この内容を投稿します",
    "lineProfile": "LWProfile1"
}
```

(9) lineroom_notify.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。LINE WORKS のトークルームへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string          # "lineroomv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object          #「(19) notify_line_room.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "lineroomv2",
    "parameters": {
        "roomID": "63836238",
        "lineProfile": "LWProfile1"
    }
}
```

(10) mailgrpnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。メール一括送信へ通知する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string                # "mailgrpv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object                #「(20) notify_mailgrp.json」型を指定
    required: True
```

- to, cc, bcc のすべてのプロパティを空にすることはできません。
- 同じユーザを to, cc, bcc に重複して指定することはできません。

使用例

```
{
```

```
    "type": "mailgrpv2",
    "parameters": {
        "title": "営業1係",
        "to": ["taro", "hanako"],
        "cc": ["jiro"],
        "bcc": ["john"]
    }
}
```

(11) mailnotify.json

メールへの発信のリクエスト型です。メールの発信情報を指定します。

書式

```
request_id:
    type: string          # 発信毎に一意となる文字列を指定（省略可）
    default: null         例:UUID
    range[0, 256]
parameters:
    type: object          #「(13) mailnotifyv2_detail.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "parameters": {
        "type": "mail",
        "user": "ユーザA",
        "subject": "障害通知",
        "content": "この内容を投稿します"
    }
}
```

(12) mailnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。メール送信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string          # "mailv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object          #「(23) notify_user.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "mailv2",
    "parameters": {
        "name": "ユーザA"
    }
```

```
}
```

(13) mailnotifyv2_detail.json

メールへの発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
    type: string            # "mail"固定
    required: True
user:
    type: string            # 通知先ユーザ名を指定
    required: True
    range[0, 100]
subject:
    type: string            # メールの件名を指定
    required: True
    range[0, 200]
content:
    type: string            # 発信内容を指定
    required: True
    range[0, 10000]
```

使用例 1

```
{
    "type": "mail",
    "user": "ユーザA",
    "subject": "障害通知",
    "content": "この内容を投稿します"
}
```

(14) net.json

連絡網の登録で使用するリクエスト型の一部です。1 つの連絡網の情報を指定します。

書式

```
name: string
    type: string        # 連絡網名を指定
    required: True
    range: [1, 100]
tryCount:
    type: number        # 連絡網の繰り返し回数を指定
    range: [1, 30]
    default: 1
cancelWhenConfirmed:
    type: bool          # 「確認が取れたら中止する」を指定
    default: False
confirmd_escalation:
    type: string        # 「確認時エスカレーション先連絡網名」を指定
    default: null
    range[0, 100]
completed_escalation:
    type: string        # 「未確認時エスカレーション先連絡網名」を指定
```

```
    default: null
    range[0, 100]
notifications:
    type: object[]       # (*1)参照
    required: True
    range[0, 20]
calendar:
    type: object[]       # 「(1) calendar.json」を指定
    default: null
schedule:
    type: object[]       # 「(39) schedule.json」を指定
    default: null
confirmed_api:
    type: string         # 「確認時外部API実行プロファイル名」を指定
    default: null
    range[0, 100]
completed_api:
    type: string         # 「未確認時外部API実行プロファイル名」を指定
    default: null
    range[0, 100]
```

- (*1) 以下のいずれかを指定します。配列として複数指定可能です。
  「(3) exapinotifyv2.json」
  「(4) lampnotifyv2.json」
  「(7) linenotifyv2.json」
  「(9) lineroom_notify.json」
  「(10) mailgrpnotifyv2.json」
  「(12) mailnotifyv2.json」
  「(43) slackchannel_notify.json」
  「(45) slacknotifyv2.json」
  「(48) smsnotifyv2.json」
  「(51) teamsnotifyv2.json」
  「(54) telnotifyv2.json」
- 連絡網名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字
連絡網名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。
```

使用例

```
{
    "name": "連絡網A",
    "tryCount": 2,
    "cancelWhenConfirmed": false,
    "confirmd_escalation": "確認時連絡網B",
    "completed_escalation": "未確認時連絡網C",
    "confirmed_api": "ExtAPI1",
    "completed_api": "ExtAPI2",
    "notifications": [{
        "type": "mailv2",
        "parameters": {
            "name": "ユーザA"
```

```
        }
    },{
        "type": "telv2",
        "parameters": {
            "name": "ユーザB"
        }
    }],
    "calendar": {
        "week": [false, true, true, true, true, true, false],
        "weekday": [],
        "holiday": ["20211022", "2021122"]
    },
    "schedule": {
        "tel1": [{
            "isWeekday": true,
            "start": "00:00",
            "end": "08:45"
        }]
    }
}
```

(15) netnotify.json

連絡網発信 API のリクエスト型です。

書式

```
tel_content:
    type: string          # 連絡網内の電話発信の内容を指定
    default: null
    range[0, 10000]
sms_content:
    type: string          # 連絡網内の電話発信の内容を指定
    default: null
    range[0, 10000]
mail_subject:
    type: string          # 連絡網内のメール発信時の件名を指定
    default: null
    range[0, 200]
mail_content:
    type: string          # 連絡網内のメール発信の内容を指定
    default: null
    range[0, 10000]
line_content:
    type: string          # 連絡網内のLINE WORKSへの発信の内容を指定
    default: null
    range[0, 10000]
slack_content:
    type: string          # 連絡網内のSlackへの発信の内容を指定
    default: null
    range[0, 10000]
teams_content:
    type: string          # 連絡網内のMicrosoft Teamsへの発信の内容を指定
    default: null
    range[0, 10000]
api_env:
    type: dict            # [str, str]の辞書型を指定 例: {'k1': 'v1', 'k2': 'v2'}
    default: null         ※キーの名前（例：k1,k2の値）は32文字以内で指定してください
```

```
request_id:
    type: string            # 発信毎に一意となる文字列を指定（省略可）
    default: null           例:UUID
    range[0, 256]

template_no:
    type: integer           # テンプレート番号
    default: 0
    range[1, 20]

template_values:
    type: string[]          # テンプレート中の変数値の値を文字列配列あるいはnullで指定
    default: []             # 配列番号0が{%1}に置換されます。
    range[0, 9]
```

- 連絡網の通知先メディアの通知文が指定されていないときは「[notifysaas] からの連絡です」のメッセージを通知します。
- 連絡網にメール通知があり，mail_subject が指定されていない（空文字列含む）ときは「[notifysaas] からの連絡です」をメールの件名とします。
- api_env には外部 API 連携の変数を設定します。
- template_no が指定されていた場合，他の通知文プロパティは無視されます。
- template_no を指定しない場合で，template_values を指定した場合は template_values は無視されます。
- template_values の要素の文字列の最大長は 100 文字。100 文字を超えた場合は切り捨てられます。

使用例

```
{
    "tel_content": "電話発信メッセージです",
    "sms_content": "SMS発信メッセージです",
    "mail_subject": "メールの件名です",
    "mail_content": "メールの本文です",
    "line_content": "LINE WORKS発信メッセージです",
    "slack_content": "Slack発信メッセージです",
    "teams_content": "Microsoft Teams発信メッセージです",
    "api_env": {
        "foo": "aaaaa",
        "bar": "bbbbb"
    }
}
```

(16) networks.json

連絡網情報定義の登録のリクエスト型です。

書式

```
mirroring:
    type: bool              # 全ての連絡網情報をリクエストと一致させるか(*1)
    default: False
networks:
    type: object[]          # 「(14) net.json」の 配列を指定
    required: True
```

・ (*1)mirroring オプションを false にした場合は networks 内にある連絡網情報のみを更新または存在しない場合は登録します。 mirroring オプションを true にした場合は全連絡網情報を削除後，networks 内の情報を登録します。

使用例）連絡網 A, 連絡網 B, 連絡網 C の 3 個の定義が登録済の場合

例 1）networks に連絡網 A の内容のみを設定し，mirroring オプションを false を指定した場合

…連絡網 A の内容が更新される。

例 2）networks に連絡網 A の内容のみを設定し，mirroring オプションを true を指定した場合

…連絡網 A の内容が更新され，連絡網 B, 連絡網 C は削除される。

例 3）networks に連絡網 D の内容のみを設定し，mirroring オプションを false を指定した場合

…連絡網 D の内容が追加される。

例 4）networks に連絡網 D の内容のみを設定し，mirroring オプションを true を指定した場合

…連絡網 D の内容が追加され，連絡網 A, 連絡網 B, 連絡網 C は削除される。

使用例

```
{
    "mirroring": false,
    "networks": [{
        "name": "連絡網A",
        "tryCount": 2,
        "cancelWhenConfirmed": false,
        "confirmd_escalation": "確認時連絡網A",
        "completed_escalation": "未確認時連絡網A",
        "notifications": [{
            "type": "mailv2",
            "parameters": {
                "name": "ユーザA1"
            }
        },{
            "type": "telv2",
            "parameters": {
                "name": "ユーザA2"
            }
        }]
    },{
        "name": "連絡網B",
        "tryCount": 5,
        "cancelWhenConfirmed": true,
        "confirmd_escalation": "確認時連絡網B",
        "completed_escalation": "未確認時連絡網B",
        "notifications": [{
            "type": "slackv2",
            "parameters": {
                "name": "ユーザB1"
            }
        },{
            "type": "telv2",
```

```
            "parameters": {
                "name": "ユーザB2"
            }
        }]
    }]
}
```

(17) notify_exapi.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。外部 API 連携へ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
apiProfile:
    type:   string          # 登録済み外部APIプロファイル名
    range[1, 100]
```

使用例

```
{
    "apiProfile": "Aサービス連携"
}
```

(18) notify_lamp.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。信号灯へ通知する詳細情報を指定します。

書式

```
lampProfile:
    type: string            # 信号灯プロファイル名を指定
    default: null
    range[1, 100]
led_red:
    type: number            # 信号灯「赤」の点灯方式を指定
    default: 9                (0,1,2,3,4,5,9から指定)
led_yellow:
    type: number            # 信号灯「黄」の点灯方式を指定
    default: 9                (0,1,2,3,4,5,9から指定)
led_green:
    type: number            # 信号灯「緑」の点灯方式を指定
    default: 9                (0,1,2,3,4,5,9から指定)
led_blue:
    type: number            # 信号灯「青」の点灯方式を指定
    default: 9                (0,1,2,3,4,5,9から指定)
led_white:
    type: number            # 信号灯「白」の点灯方式を指定
    default: 9                (0,1,2,3,4,5,9から指定)
buz_pattern:
    type: number            # 信号灯「ブザー」の鳴動方式を指定
    default: 9                (0,1,2,3,4,5,9から指定)
auto_off:
    type: bool              # 自動消灯機能を使用する
```

```
    required: True              (Falseの場合は使用しない)
    default: False
auto_off_time:
    type: number              # 自動消灯機能を使用する
    required: False           (1～120で指定, auto_offがFalseの場合は使用しない)
    range[1,120]
```

使用例

```
{
    "lampProfile": "保守用信号灯",
    "led_red": 9,
    "led_yellow": 9,
    "led_green": 9,
    "led_blue": 1,
    "led_white": 0,
    "buz_pattern": 9,
    "auto_off": true,
    "auto_off_time": 20
}
```

(19) notify_line_room.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。LINE WORKS のトークルームへ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
roomID:
    type: string              # LINE WORKSトークルームIDを指定
    default: null
    range[0, 64]
lineProfile:
    type: string              # LINE WORKSプロファイル名を指定
    default: ""
    range[1, 100]
```

使用例

```
{
    "roomID": "63836238",
    "lineProfile": "LWProfile1"
}
```

(20) notify_mailgrp.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。メール一括送信へ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
title:
    type: string              # メール一括送信名
    range[1, 100]
to:
```

```
    type: string[]          # toで送信するユーザー一覧
    default:    []
    range[0, 20]
cc:
    type: string[]          # ccで送信するユーザー一覧
    default: []
    range[0, 20]
bcc:
    type: string[]          # bccで送信するユーザー一覧
    default: []
    range[0, 20]
```

使用例

```
{
    "title": "営業1係",
    "to": ["taro", "hanako"],
    "cc": ["jiro"],
    "bcc": ["john"]
}
```

(21) notify_slack_channel.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。Slack のチャンネルへ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
channel:
    type: string            # 通知先Slackチャンネル名を指定
    default: null
    range[0, 160]
slackProfile:
    type: string            # Slackプロファイル名を指定
    default: ""
    range[1, 100]
```

使用例

```
{
    "channel": "お知らせ",
    "slackProfile": "SlackProfile1"
}
```

(22) notify_teams.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。Microsoft Teams のチャネルへ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
teamsProfile:
    type: string            # Microsoft Teamsプロファイル名を指定
    default: null
    range[1, 100]
```

使用例

```
{
    "teamsProfile": "TeamsProfile1"
}
```

(23) notify_user.json

通知先ユーザを指定するリクエスト型です。各通知でユーザを指定する場合に使用します。

書式

```
name:
    type:   string              # 通知先ユーザ名を指定
    required: True
    range[1, 100]
```

使用例

```
{
    "name": "ユーザA"
}
```

(24) refresh_token.json

「7.2.3 サインイントークン更新 API」で使用するリクエスト型です。サインイン API で取得したトークンを更新（リフレッシュ）します。

書式

```
refresh_token:
    type: string        # サインインAPIで取得した refresh_token 値
    required: True
```

使用例

```
{
    refresh_token": "eyji...."
}
```

(25) resp_error.json

HTTP のステータスコードが 422 以外のときに返すレスポンス型です。

書式

```
detail:
    type: string                # エラー内容
```

使用例

```
{
    "detail": "エラー内容"
}
```

(26) resp_inquiry_count.json

「7.2.18 発信情報件数問い合わせ API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
count:
    type: number                # 発信数
```

使用例

```
{
    "count": 5
}
```

(27) resp_inquiry_ok.json

「7.2.5 発信問い合わせ API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
sid:
    type: string                # 発信識別子
status:
    type: string                # 発信状況
```

使用例

```
{
    "sid": "TSNotify-yyyymmdd.HHMMSS-5661846b-b5ad-4cc4-b74a-5b5f6d4b2f14",
    "status": "confirmed"
}
```

status の値は，通知メディア毎に変わります。

表 8.1-1 電話発信の状態一覧（Twilioの場合）

status の値	意味
busy	話し中を意味します。
completed	終了操作が行われたことを意味します。（プッシュ操作で「#」を押下）
confirmed	確認操作が行われたことを意味します。（プッシュ操作で「2」を押下）
failed	エラーを意味します。
inprogress	発信中を意味します。
input error	入力エラーを意味します。
no answer	相手不在を意味します。
twilio timeout	Twilio からの応答がタイムアウトしたことを意味します。

表 8.1-2 電話発信の状態一覧（電話通知プランの場合）

status の値	意味
completed	終了操作が行われたことを意味します。（プッシュ操作で「#」を押下）
confirmed	確認操作が行われたことを意味します。（プッシュ操作で「2」を押下）
failed	エラーを意味します。
inprogress	発信中を意味します。

status の値	意味
twilio timeout	応答がタイムアウトしたことを意味します。（話し中，相手不在などの場合も含まれます）
timeout2	同時通話の待ち時間中にタイムアウトしたことを意味します。

表 8.1-3　SMS発信の状態一覧

status の値	意味
failed	エラーを意味します。
delivered	上位キャリアまでの送達が確認されたことを意味します。
inprogress	発信中を意味します。
sent	直近のキャリアまで送達したことを意味します。
twilio timeout	Twilio からの応答がタイムアウトしたことを意味します。

表 8.1-4　メール，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams発信の状態一覧

status の値	意味
completed	投稿（メールの場合，送信）されたことを意味します。
failed	エラーを意味します。
inprogress	発信中を意味します。

表 8.1-5　連絡網発信の状態一覧

status の値	意味
completed	完了を意味します。
confirmed	確認されたので中断したことを意味します。
inprogress	発信中を意味します。

(28) resp_linecreateroom.json

「7.2.17 LINE WORKS トークルーム作成 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
roomID:
    type: string                # 作成されたトークルームID
```

使用例

```
{
    "roomID": "82817104"
}
```

(29) resp_net.json

連絡網定義情報の取得のレスポンス型の一部です。

書式

```
name: string
    type: string                # 連絡網名
    required: True
    range: [1, 100]
```

使用例

```
{
    "name": "連絡網1"
}
```

(30) resp_networks.json

「7.2.15 連絡網定義取得 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
networks:
    type: object[]              # 「(29) resp_net.json」の配列
    required: True
```

使用例

```
{
    "networks": [{
        "name": "連絡網1"
    },{
        "name": "連絡網2",
    }]
}
```

(31) resp_notify_ok.json

「7.2.4 発信受付 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
ok:
    type: bool
sid:
    type: string                # 発信識別子
```

使用例

```
{
    "ok": true,
    "sid": "TSNotify-yyyymmdd.HHMMSS-5661846b-b5ad-4cc4-b74a-5b5f6d4b2f14"
}
```

(32) resp_signin.json

「7.2.1 サインイン API」成功時の認証情報を返すレスポンス型です

書式

```
id_token:
    type: string    # IDトークン。この値を各APIのAuthorizationヘッダに指定
expire:
    type: number    # IDトークンの有効期限(秒)
refresh_token:
```

```
    type: string    # IDトークンの更新用トークン(*1)
access_token:
    type: string    # アクセストークン。サインアウト時に使用
```

・ (*1) ID トークン有効期限を超えて，サインインの状態を維持する場合，このトークンを使用して「7.2.3 サインイントークン更新 API」を動作させ，トークンを更新する必要があります。

使用例

```
{
    "id_token": "eyJra...",
    "expire": 3600,
    "refresh_token": "eyJj...",
    "access_token": "eyJx..."
}
```

(33) resp_user_groups.json

「7.2.12 ユーザグループ取得 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
userGroups:
    type: object[]          # 「(56) user_group.json」の 配列
```

使用例

```
{
    "userGroups": [
        {
            "name": "営業1課"
        },
        {
            "name": "営業2課"
        }
    ]
}
```

(34) resp_user_search.json

ユーザグループ一覧の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
users:
    type: object[]          # 「(58) user_search.json」の 配列
```

使用例

```
{
    [{
        "name": "ユーザA",
        "user_group": "ユーザグループ1"
        },{
        "name": "ユーザB",
```

```
        "user_group": "ユーザグループ1"
    }]
}
```

(35) resp_user.json

ユーザ定義情報の取得のレスポンス型の一部です。

書式

```
name:
    type:   string          # ユーザ名
    required: True
    range[1, 100]

user_group:
    type:   string          # ユーザグループ名
    default:    ""
    range[1, 100]

phoneNumber1:
    type:   string          # 電話番号1
    default:    ""
    range[0, 16]

phoneNumber2:
    type:   string          # 電話番号2
    default:    ""
    range[0, 16]

phoneNumber3:
    type:   string          # 電話番号3
    default:    ""
    range[0, 16]

phoneNumber4:
    type:   string          # 電話番号4
    default:    ""
    range[0, 16]

phoneTwilioProfile:
    type:   string          # 電話発信で使用するTwilioプロファイル名
    default:    ""
    range[0, 100]

smsNumber:
    type:   string          # SMS番号
    default:    ""
    range[0, 16]

smsTwilioProfile:
    type:   string          # SMS発信で使用するTwilioプロファイル名
    default:    ""
    range[0, 100]
```

```
mailAddrs:
    type:   string[]        # メールアドレス
    default:    []
    range[0, 4].range[0, 512]

lineAccount:
    type:   string          # LINE WORKSメンバーID
    default:    ""
    range[0, 512]

lineProfile:    string
    type:   string          # LINE発信で使用するLINEプロファイル名
    default:    ""
    range[0, 100]

slackAccount:
    type:   string          # Slackメンバー名
    default:    ""
    range[0, 1000]

slackProfile:
    type:   string          # Slack発信で使用するSlackプロファイル名
    default:    ""
    range[0, 100]
```

使用例

```
{
    "name":         "taro",
    "user_group": "ユーザグループ1",
    "phoneNumber1": "+81xxxxyyyy",
    "phoneTwilioProfile":  "twilio_define_for_phone",
    "smsNumber":    "+81xxxxyyyy",
    "smsTwilioProfile":    "twilio_define_for_sms",
    "mailAddrs":    ["taro@example.com", "taro@example.net"],
    "lineAccount":  "taro@works-xxxx",
    "lineProfile":  "line_define",
    "slackAccount": "taro",
    "slackProfile": "slack_profile"
}
```

(36) resp_users.json

「7.2.9 通知先ユーザ定義取得 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
users:
    type: object[]          # 「(59) user.json」の 配列
```

使用例

```
{
    "users": [
        {
```

```
            "name": "ユーザA",
            "user_group": "ユーザグループ1",
            "phoneNumber1": "+81xxxxyyyy",
            "phoneTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "smsNumber":    "+81xxxxyyyy",
            "smsTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "mailAddrs":    ["taro@example.com", "taro@example.net"],
            "lineAccount":  "taro@works-xxxx",
            "lineProfile":  "LWProfile1",
            "slackAccount": "taro",
            "slackProfile": "SlackProfile"
        },
        {
            "name": "ユーザB",
            "user_group": "ユーザグループ1",
            "phoneNumber1": "+81xxxxyyyy",
            "phoneTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "smsNumber":    "+81xxxxyyyy",
            "smsTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "mailAddrs":    ["hanako@example.com", "hanako@example.net"],
            "lineAccount":  "hanako@works-xxxx",
            "lineProfile":  "LWProfile1",
            "slackAccount": "hanako",
            "slackProfile": "SlackProfile"
        }
    ]
}
```

(37) resp_validation_err.json

HTTP のステータスコードが 422 のときに返すレスポンス型です。

書式

```
detail:
    type: object[]            # 「(38) resp_validation_err_detail.json」型
```

使用例

```
{
    "detail": [
        {
            "loc": [ "body","parameters","index" ],
            "msg": "must be 1 to 4",
            "type": "assertion_error"
         }
    ]
}
```

(38) resp_validation_err_detail.json

HTTP のステータスコードが 422 のときに返すレスポンス型の一部です。

書式

```
loc:
```

```
    type: string[]              # 不正なパラメタ位置
msg:
    type: string                # エラー内容
type:
    type: string                # エラータイプ
```

使用例

```
{
    "loc": [ "body","parameters","index" ],
    "msg": "must be 1 to 4",
    "type": "assertion_error"
}
```

(39) schedule.json

スケジュール定義のリクエスト型です。

書式

```
tel1:
    type: object[]     # 電話番号1のスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
tel2:
    type: object[]     # 電話番号2のスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
tel3:
    type: object[]     # 電話番号3のスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
tel4:
    type: object[]     # 電話番号4のスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
sms:
    type: object[]     # SMSのスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
mail:
    type: object[]     # メールのスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
line:
    type: object[]     # LINE WORKS(メンバー発信)のスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
lineRoom:
    type: object[]     # LINE WORKS(トークルーム発信)のスケジュールを指定(*1)(*2)
    default: []
   range[0, 20]
slack:
    type: object[]     # Slack(メンバー発信)のスケジュールを指定(*1)
    default: []
   range[0, 20]
slackChannel:
    type: object[]     # Slack(チャンネル発信)のスケジュールを指定(*1)(*2)
```

```
    default: []
   range[0, 20]
teams:
    type: object[]     # Microsft Teamsのスケジュールを指定(*1)(*2)
    default: []
   range[0, 20]
lamp:
    type: object[]     # 信号灯のスケジュールを指定(*1)(*2)
    default: []
   range[0, 20]
exapi:
    type: object[]     # 外部API連携のスケジュールを指定(*1)(*2)
    default: []
   range[0, 20]
mailgrp:
    type: object[]     # メール一括送信のスケジュールを指定(*1)(*2)
    default: []
   range[0, 20]
```

- (*1) 「(40) schtime.json」の形式で指定します。
- (*2) ユーザ定義のスケジュールでは本プロパティは無効となります。
- 各配列の要素数は平日(isWeekday が true)が 10 まで，休日(isWeekday が false)が 10 までのそれぞれで最大数の個数制限があります。

使用例

```
{
    "tel1": [
        {
            "isWeekday": true,
            "start": "00:00",
            "end": "08:45"
        },{
            "isWeekday": true,
            "start": "20:00",
            "end": "23:59"
        }
    ],
    "tel2": [],
    "tel3": [],
    "tel4": [],
    "sms": [
        {
            "isWeekday": true,
            "start": "00:00",
            "end": "08:45"
        },{
            "isWeekday": true,
            "start": "20:00",
            "end": "23:59"
        }
    ],
    "mail": [],
    "line": [],
    "lineRoom": [],
    "slack": [],
```

```
    "slackChannel": [],
    "teams": [],
    "lamp": [],
    "exapi": [],
    "mailgrp": []
}
```

(40) schtime.json

スケジュール定義のリクエスト型の一部です。

書式

```
isWeekday:
    type: bool              # true: 平日, false: 休日
    default: False
start:
    type: string            # スケジュール開始時刻(HH:MM形式であること)
    required: True
end:
    type: string            # スケジュール終了時刻(HH:MM形式であること)
    required: True
```

- スケジュールの開始時刻は終了時刻より前でなければなりません。
- 開始時刻は指定した時刻の 0 秒から開始され，終了時刻は指定した時刻の分が終わる時刻までとなります。

使用例

```
{
    "isWeekday": true,
    "start": "00:00",
    "end": "08:45"
}
```

(41) signin.json

「7.2.1 サインイン API」で使用するリクエスト型です。

書式

```
account:
    type: string            # アカウント名
    required: True
subaccount:
    type: string            # サブアカウント名
password:
    type: string            # パスワード
    required: True
    range[8, 128]
```

使用例

```
{
    "account": "taro",
    "subaccount": "sub1",
    "password": "password"
}
```

(42) signout.json

「7.2.2 サインアウト API」で使用するリクエスト型です。

書式

```
access_token:
    type: string                # サインインAPIで取得した access_token 値
    required: True
```

使用例

```
{
    "access_token": "eyji...."
}
```

(43) slackchannel_notify.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。Slack のチャンネルへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string          # "slackchannelv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object          #「(21) notify_slack_channel.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "slackchannelv2",
    "parameters": {
        "channel": "お知らせ",
        "slackProfile": "SlackProfile1"
    }
}
```

(44) slacknotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。Slack への発信情報を指定します。

書式

```
request_id:
    type: string          # 発信毎に一意となる文字列を指定（省略可）
    default: null         例:UUID
    range[0, 256]
parameters:
    type: object          #「(46) slacknotifyv2_detail.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "parameters": {
        "type": "slack",
        "user": "ユーザA",
        "content": "この内容を投稿します"
    }
}
```

(45) slacknotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。Slack のメンバーへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string                # "slackv2"固定
    required: True
parameters:
    type: string                #「(23) notify_user.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "slackv2",
    "parameters": {
        "name": "ユーザA"
    }
}
```

(46) slacknotifyv2_detail.json

Slack への発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
    type: string            # "slack"固定
    required: True
user:
    type: string            # 通知先ユーザ名を指定
    range[0, 100]
channel:
    type: string            # Slackチャンネル名を指定
    range[0, 160]
content:
    type: string            # 発信内容を指定
    required: True
    range[1, 10000]
slackProfile:
    type: string            # Slackプロファイル名を指定
    range[1, 100]
```

・ user あるいは channel のいずれかを指定する必要があります。両方同時には指定でき

ません。

・ channel を指定する場合は同時に Slack プロファイル名を指定する必要があります。user を指定する場合は Slack プロファイル名の指定は不要です。

使用例 1

```
{
    "type": "slack",
    "user": "ユーザA",
    "content": "この内容を投稿します"
}
```

使用例 2

```
{
    "type": "slack",
    "channel": "お知らせ",
    "content": "この内容を投稿します",
    "slackProfile": "SlackProfile1"
}
```

(47) smsnotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。SMS 発信情報を指定します。

書式

```
request_id:
    type: string          # 発信毎に一意となる文字列を指定（省略可）
    default: null         例:UUID
    range[0, 256]
parameters:
    type: object          #「(49) smsnotifyv2_detail.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "parameters": {
        "type": "sms",
        "user": "ユーザA",
        "content": "この内容を投稿します"
    }
}
```

(48) smsnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。SMS 発信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string          # "smsv2"固定
    required: True
parameters:
```

```
    type: object          #「(23) notify_user.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "smsv2",
    "parameters": {
        "name": "ユーザA"
    }
}
```

(49) smsnotifyv2_detail.json

SMS 発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
    type: string            # "sms"固定
    required: True
user:
    type: string            # 通知先ユーザ名を指定
    required: True
    range[0, 100]
content:
    type: string            # 発信内容を指定
    required: True
    range[0, 10000]
```

使用例 1

```
{
    "type": "sms",
    "user": "ユーザA",
    "content": "この内容を投稿します"
}
```

(50) teamsnotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。Microsoft Teams への発信情報を指定します。

書式

```
request_id:
    type: string          # 発信毎に一意となる文字列を指定（省略可）
    default: null         例:UUID
    range[0, 256]
parameters:
    type: object          #「(51) teamsnotifyv2.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "parameters": {
        "type": "teams",
        "content": "この内容を投稿します",
        "teamsProfile": "TeamsProfile1"
    }
}
```

(51) teamsnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。Microsoft Teams のチャネルへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string          # "teamsv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object          #「(22) notify_teams.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "teamsv2",
    "parameters": {
        "teamsProfile": "TeamsProfile1"
    }
}
```

(52) teamsnotifyv2_detail.json

Microsoft Teams への発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
    type: string            # "teams"固定
    required: True
content:
    type: string            # 発信内容を指定
    required: True
    range[0, 10000]
teamsProfile:
    type: string             # Teamsプロファイル名を指定
    required: True
    range[1, 100]
```

使用例 1

```
{
    "type": "teams",
    "content": "この内容を投稿します",
    "teamsProfile": "TeamsProfile1"
}
```

(53) telnotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。電話発信情報を指定します。

書式

```
request_id:
    type: string          # 発信毎に一意となる文字列を指定（省略可）
    default: null         例:UUID
    range[0, 256]
parameters:
    type: object          #「(55) telnotifyv2_detail.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "parameters": {
        "type": "tel",
        "user": "ユーザA",
        "index": 1,
        "content": "この内容を投稿します"
    }
}
```

(54) telnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(14) net.json」のリクエスト型の一部です。電話発信する情報を指定します。

書式

```
type:
    type: string          # "telv2"固定
    required: True
parameters:
    type: object          #「(23) notify_user.json」型を指定
    required: True
```

使用例

```
{
    "type": "telv2",
    "parameters": {
        "name": "ユーザA"
    }
}
```

(55) telnotifyv2_detail.json

電話発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
    type: string            # "tel"固定
```

```
    required: True
user:
    type: string            # 通知先ユーザ名を指定
    required: True
    range[0, 100]
index:
    type: number            # (*1)参照
    required: True
    range[1, 4]
content:
    type: string            # 発信内容を指定
    required: True
    range[0, 10000]
```

・ (*1) ユーザの電話番号 1～4 の電話番号を 1～4 の間で指定します。

使用例

```
{
    "type": "tel",
    "user": "ユーザA",
    "index": 1,
    "content": "この内容を投稿します"
}
```

(56) user_group.json

ユーザグループ登録のリクエスト型です。作成するユーザグループの情報を指定します。

書式

```
name:
  type: string          # 作成するユーザグループ名を指定
  required: True
  range[1, 100]
```

・ ユーザグループ名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字
ユーザグループ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。
```

使用例

```
{
    "name": "ユーザグループ"
}
```

(57) user_groups.json

ユーザグループ定義情報取得のリクエスト型です。

書式

```
userGroups:
    type: object[]          # 「(56) user_group.json」の 配列を指定
```

使用例

```
{
    "userGroups": [
        {
            "name": "営業1課"
        },
        {
            "name": "営業2課"
        }
    ]
}
```

(58) user_search.json

ユーザグループ一覧のレスポンス型です。

書式

```
name:
    type: string          # ユーザ名
user_group:
    type: string          # ユーザグループ名
```

使用例

```
{
    "name": "ユーザA",
    "user_groups": "ユーザグループ1"
}
```

(59) user.json

ユーザ定義情報の登録のリクエスト型の一部です。1つのユーザ定義情報を指定します。

書式

```
name:
    type: string          # ユーザ名を指定
    required: True
    range[1, 100]
user_group:
    type: string          # ユーザグループ名を指定
    default: ""
    range[1, 100]
phoneNumber1:
    type: string          # 電話番号1をE.164形式, 16文字以内で指定
    default: ""
    range[0, 16]
phoneNumber2:
    type: string          # 電話番号2をE.164形式, 16文字以内で指定
    default: ""
    range[0, 16]
phoneNumber3:
    type: string          # 電話番号3をE.164形式, 16文字以内で指定
    default: ""
```

```
    range[0, 16]
phoneNumber4:
    type: string          # 電話番号4をE.164形式, 16文字以内で指定
    default: ""
    range[0, 16]
phoneTwilioProfile:
    type: string          # 電話発信で使用するTwilioプロファイル名を指定
    default: ""
    range[0, 100]
smsNumber:
    type: string          # SMS番号をE.164形式, 16文字以内で指定
    default: ""
    range[0, 16]
smsProfileType:
    type: number          # SMS発信する際に使用するサービスを指定
    default: 0
    range[0, 1]
smsTwilioProfile:
    type: string          # SMS発信で使用するTwilioプロファイル名を指定
    default: ""
    range[0, 100]
mailAddrs:
    type: string[]        # メールアドレスを指定(*1)
    default: []
    range[0, 4].range[0, 512]
lineAccount:
    type: string          # LINE WORKSのメンバーIDを指定
    default: ""
    range[0, 512]
lineProfile: string
    type: string          # LINE WORKSプロファイル名を指定
    default: ""
    range[0, 100]
slackAccount:
    type: string          # Slackメンバー名を指定
    default: ""
    range[0, 1000]
slackProfile:
    type: string          # Slackプロファイル名を指定
    default: ""
    range[0, 100]
calendar:
    type: object          # 「(1) calendar.json」を指定
    default: null
schedule:
    type: object          # 「(39) schedule.json」を指定
    default: null
```

・　ユーザ名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00～0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字
ユーザ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。
```

・　(*1) メールアドレスは 4 つまで, 1 つのメールアドレスは 512 文字以内で指定しま

す。

使用例

```
{
    "name": "ユーザA",
    "user_group": "ユーザグループA",
    "phoneNumber1": "+81xxxxyyyy",
    "phoneTwilioProfile": "TwlioProfile1",
    "smsNumber": "+81xxxxyyyy",
    "smsProfileType": 0,
    "smsTwilioProfile": "TwlioProfile1",
    "mailAddrs": ["taro@example.com", "taro@example.net"],
    "lineAccount": "taro@works-xxxx",
    "lineProfile": "LWProfile1",
    "slackAccount": "taro",
    "slackProfile": "SlackProfile"
}
```

(60) users.json

ユーザ定義情報の登録のリクエスト型です。

書式

```
mirroring:
    type: bool              # 全てのユーザ情報をリクエストと一致させるか(*1)
    default: False
users:
    type: object[]          # 「(59) user.json」の 配列を指定
    required: True
```

・ (*1)mirroring オプションを false にした場合は users 内にあるユーザ情報のみを更新または存在しない場合は登録します。 mirroring オプションを true にした場合は全ユーザ情報を削除後，users 内の情報を登録します。

使用例）UserA, UserB, UserC の３名が登録済の場合

例１）users に UserA の内容のみを設定し，mirroring オプションを false を指定した場合

…UserA の内容が更新される。

例２）users に UserA の内容のみを設定し，mirroring オプションを true を指定した場合

…UserA の内容が更新され，UserB, UserC は削除される。

例３）users に UserD の内容のみを設定し，mirroring オプションを false を指定した場合

…UserD の内容が追加される。

例４）users に UserD の内容のみを設定し，mirroring オプションを true を指定した場合

…UserD の内容が追加され，UserA, UserB, UserC は削除される。

使用例

```
{
    "mirroring": false,
    "users": [
```

```
        {
            "name": "ユーザA",
            "user_group": "ユーザグループA",
            "phoneNumber1": "+81xxxxyyyy",
            "phoneTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "smsNumber":    "+81xxxxyyyy",
            "smsProfileType": 0,
            "smsTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "mailAddrs":    ["taro@example.com", "taro@example.net"],
            "lineAccount":  "taro@works-xxxx",
            "lineProfile":  "LWProfile1",
            "slackAccount": "taro",
            "slackProfile": "SlackProfile"
        },
        {
            "name": "ユーザB",
            "user_group": "ユーザグループA",
            "phoneNumber1": "+81xxxxyyyy",
            "phoneTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "smsNumber":    "+81xxxxyyyy",
            "smsProfileType": 0,
            "smsTwilioProfile": "TwlioProfile1",
            "mailAddrs":    ["hanako@example.com", "hanako@example.net"],
            "lineAccount":  "hanako@works-xxxx",
            "lineProfile":  "LWProfile1",
            "slackAccount": "hanako",
            "slackProfile": "SlackProfile"
        }
    ]
}
```

9.カスタムジョブ

この章では，TELstaff クラウド方通報管理サービスが提供するカスタムジョブについて説明します。

9.1 カスタムジョブの機能

9.2 カスタムジョブの導入

9.3 カスタムジョブの操作説明

9.4 カスタムジョブ実行時の注意事項

9.1 カスタムジョブの機能

本サービスが提供するカスタムジョブは，JP1/AJS から本サービスへ連絡網の発信を可能とします。

(1) カスタムジョブの構成

カスタムジョブは，以下の ジョブ定義 と ジョブ実行 で構成されています。

(a) ジョブ定義

JP1/AJS - View と連携し，通報管理サービスのカスタムジョブを定義します。発信する連絡網の名称，通知内容などを定義します。定義した情報は，JP1/AJS のカスタムジョブとして保存されます。

ジョブ定義で定義可能な発信は，連絡網発信のみとなります。また，指定する連絡網はあらかじめ，本サービスの連絡網を定義する機能を使用して登録しておく必要があります。

(b) ジョブ実行

ジョブ定義で保存された通報管理サービスのカスタムジョブを JP1/AJS - Manager または JP1/AJS - Agent と連動し，本サービスに対して実行（連絡網発信とその結果の問い合わせ）します。ジョブ実行の内部では，連絡網発信コマンドの実行，発信結果問い合わせコマンドを実行します。コマンド操作を意識することなく，連絡網発信とその結果の取得が可能となります。

9.2 カスタムジョブの導入

通報管理サービスのカスタムジョブは，通報管理サービスのコマンドを内部で動作させ処理を実現しています。このため，コマンドの動作に必要なセットアップを実施し，その後，カスタムジョブの配置を行います。

(1) コマンドのダウンロード，配置，コマンド設定ファイルの編集

カスタムジョブのジョブ実行を動作させるためには，コマンドが動作することが前提となりますので，必ず，コマンドのダウンロード，配置，コマンド設定ファイルの編集を実施してください。

コマンドのダウンロード，配置，コマンド設定ファイルの編集に関しては，「3.2 コマンド配置と設定ファイル」を参照ください。

(2) ダウンロードしたファイルからカスタムジョブを取り出す

通報管理サービスよりダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルから，カスタムジョブの圧縮ファイル(custom_job.zip) をコピーして展開します。

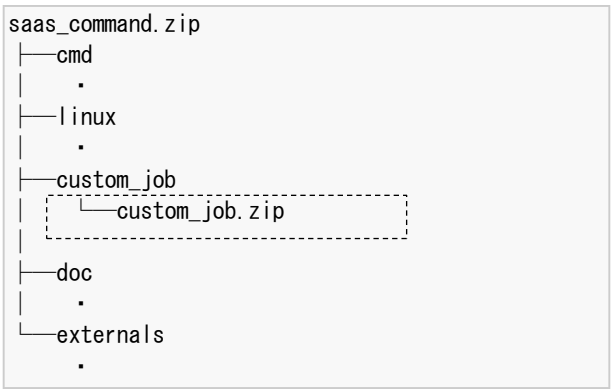


図 9.2-1 コマンド等の圧縮ファイルからコピーする圧縮ファイル

カスタムジョブの圧縮ファイル(custom_job.zip) を展開した内容を以下に示します。

```
custom_job.zip
 ├──Windows
 │ ├──manager
 │ │    ├──log
 │ │    ├──Modules
 │ │    ├──TEL_SAAS_Execution.cmd
 │ │    ・
 │ │
 │ └──view
 │      ├──custom
 │      │   └──CUSTOM_PC_TEL_SAAS.gif
 │      ├──TEL_SAAS_Define.cmd
 │      ・
 └Linux
   ├──manager
   │    ├──log
   │    ├──TEL_SAAS_Execution.sh
   │    ・
   │
   └──view
        ├──custom
        │   └──CUSTOM_PC_TEL_SAAS_LN.gif
        ├──TEL_SAAS_Define.cmd
        ・
```

図 9.2-2 圧縮ファイル(custom_job.zip)の内容

(3) カスタムジョブ定義の配置

カスタムジョブの圧縮ファイル(custom_job.zip) を展開した内容から，view フォルダ以下をすべてコピーし，JP1/AJS - View が動作する PC の任意のフォルダにコピーします。

JP1/AJS - View が接続する JP1/AJS - Manager が
Windows 版の場合
＜任意のフォルダ＞¥custom_job.zip¥Windows¥view

Linux 版の場合
＜任意のフォルダ＞¥custom_job.zip¥Linux¥view

(4) カスタムジョブ実行の配置

カスタムジョブの圧縮ファイル(custom_job.zip) を展開した内容から，manager フォルダ以下をすべてコピーし，JP1/AJS - Manager または JP1/AJS - Agent が動作するサーバの任意のフォルダにコピーします。

JP1/AJS - Manager または JP1/AJS - Agent が
Windows 版の場合
＜任意のフォルダ＞¥custom_job.zip¥Windows¥manager

Linux 版の場合
＜任意のフォルダ＞¥custom_job.zip¥Linux¥manager

(5) JP1/AJSにカスタムジョブを登録する

カスタムジョブを JP1/AJS で定義および実行するには，JP1/AJS - View にカスタムジョブとして登録する必要があります。カスタムジョブを JP1/AJS - View に登録する方法について説明します。

(a) イメージファイルを JP1/AJS - View のカスタムジョブイメージフォルダにコピーします。

・イメージファイル

カスタムジョブ定義を配置したフォルダの以下の gif ファイル

Windows 版の場合

＜配置フォルダ＞¥view¥custom¥CUSTOM_PC_TEL_SAAS.gif

Linux 版の場合

＜配置フォルダ＞¥view¥custom¥CUSTOM_PC_TEL_SAAS_LN.gif

・JP1/AJS - View のコピー先フォルダ

<JP1/AJS - View のインストールフォルダ>¥image¥custom

(b) JP1/AJS – View のPCで［カスタムジョブの登録］画面を表示します。

Windows のスタートメニューから，［すべてのプログラム］－［JP1_Automatic Job Management System 3 - View］－［カスタムジョブ登録］を選択すると，［カスタムジョブの登録］画面が表示されます。

(c) カスタムジョブを新規に登録します。

［カスタムジョブの登録］画面の［新規登録］ボタンをクリックすると，［カスタムジョブ登録情報］画面が表示されます。［カスタムジョブ登録情報］画面の設定項目の内容に，通報管理サービスのカスタムジョブの設定内容を指定してください。指定する内容を次の表に示します。

表 9.2-1 通報管理サービスのカスタムジョブの設定内容

定義項目	設定値
名前	カスタムジョブの名称「SAAS」を指定します。任意の名称も 8 バイト以内でも指定できます。
コメント	任意のコメントを 40 バイト以内で指定します。指定した文字列は，JP1/AJS - View のカスタムジョブのジョブ名として，［詳細定義－［Custom Job］］画面の［ユニット名］に表示されます。指定は省略できます。なお，コメントを省略した場合は，定義項目の名前に指定された値が JP1/AJS - View のカスタムジョブのジョブ名として表示されます。
定義プログラム	カスタムジョブ定義を配置したフォルダの以下の cmd ファイル ＜配置フォルダ＞¥view¥TEL_SAAS_Define.cmd 絶対パスで指定します。
実行プログラム	カスタムジョブ実行を配置したフォルダの以下の cmd ファイル Windows 版の場合

定義項目	設定値
	＜配置フォルダ＞¥manager¥TEL_SAAS_Execution.cmd Linux 版の場合 ＜配置フォルダ＞/manager/TEL_SAAS_Execution.sh 絶対パスで指定します。
バージョン	「0600」を指定します。（変更不可の固定値）
クラス名	Windows 版の場合 「TEL_SAAS」を指定します。（変更不可の固定値） Linux 版の場合 「TEL_SAAS_LN」を指定します。（変更不可の固定値）
ジョブ書別	［PC ジョブ］を選択します。（変更不可の固定値）

以下にカスタムジョブ登録時の注意事項を記載します。

- イメージファイル（アイコン）をコピーする際，ファイル名は変更しないでください。ファイルがコピーされていない場合，ファイル名を変更した場合は，JP1/AJS - View の［ジョブネットエディタ］画面にカスタムジョブのアイコンが正しく表示されません。
- バージョン，クラス名，ジョブ種別は，設定内容に示した固定値以外は指定しないでください。他の値が登録されると，JP1/AJS - View の［ジョブネットエディタ］画面にカスタムジョブのアイコンが正しく表示されません。
- 通報管理サービスのカスタムジョブの登録は 1 つだけ登録し，修正が必要になった場合は名前を選択し[変更]ボタンをクリックして，登録済みの情報を変更してください。通報管理サービスのカスタムジョブが複数登録されている場合，カスタムジョブが正しく動作しません。通報管理サービスのカスタムジョブを複数登録した場合は削除して 1 つにしてください。
- カスタムジョブを登録したあとで，必ず JP1/AJS3 - View を再起動してください。再起動後に，登録した内容が有効になります。
- カスタムジョブ登録に関するその他の注意事項などは，「JP1/Automatic Job Management System 3 連携ガイド」を参照ください。

(d) 登録した通報管理サービスのカスタムジョブを確認します。

JP1/AJS - View の［ジョブネットエディタ］画面を表示して，アイコンリストの［カスタムジョブ］タブを選択します。登録したカスタムジョブのアイコン［］が表示されていることを確認してください。

9.3 カスタムジョブの操作説明

9.3.1 カスタムジョブの定義

JP1/AJS から実行する連絡網通知をカスタムジョブから定義します。この節では，JP1/AJS - View を使用して，通報管理サービスのカスタムジョブを定義する方法について説明します。

1. JP1/AJS3 - View の［ジョブネットエディタ］画面のマップエリアを表示します。
2. ［カスタムジョブ］タブを選択し，［排他編集］をチェックします。
3. 通報管理サービスのカスタムジョブアイコン［］をドラッグし，マップエリアにドロップします。

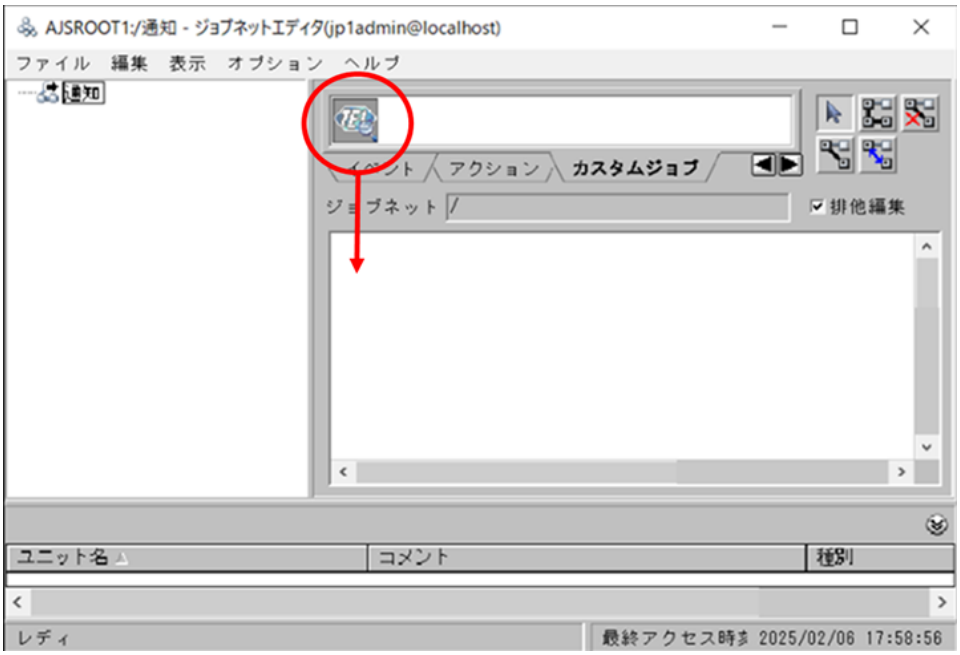


図 9.3-1［ジョブネットエディタ］画面

4. マップエリアのジョブネットに，通報管理サービスのカスタムジョブが追加され，［詳細定義 − ［Custom Job］］画面が表示されます



図 9.3-2［詳細定義−［Custom Job］］画面

■終了判定の「異常しきい値」に設定する値に関して

0 を指定した場合
　カスタムジョブの終了コード「0」だけが正常値として扱われます。
1 を指定した場合
　カスタムジョブの終了コード「0」と「1」が正常値として扱われます。

0 を指定する場合の例）
　連絡網に電話通知があり，プッシュ操作で「2（確認）」を押下して連絡網が
　終了したことを正常値として扱う場合
1 を指定する場合の例）
　連絡網にはメール通知のみが定義されており，メール通知が終了したことを
　正常値として扱う場合

カスタムジョブの終了コードは「9.3.3 カスタムジョブの実行結果」に記載しています。
連絡網の定義内容により，「0」だけを正常値として扱う場合，「0」または「1」を正常値として扱う場合を使い分けして，異常しきい値を設定してください。

画面の詳細な操作に関しては，マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド」を参照して定義ください。

5.　［詳細定義－［Custom Job］］画面の［定義］タブの［詳細］ボタンをクリックします。
［連絡網発信情報登録画面］が表示されます。

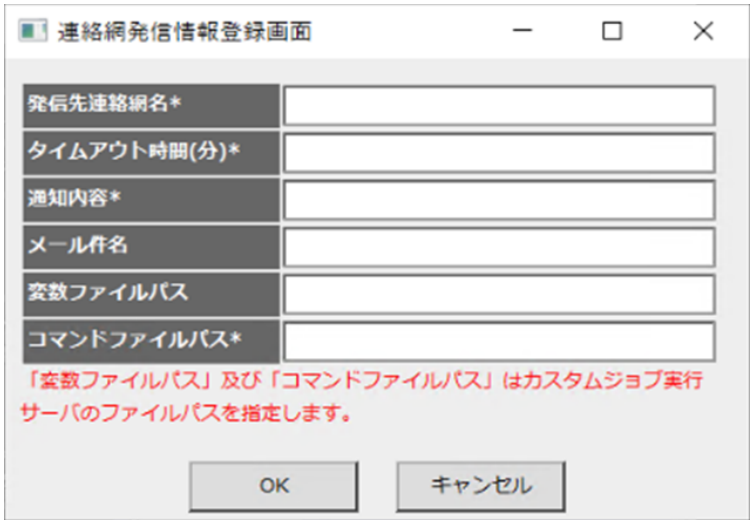


図 9.3-3［連絡網発信情報登録画面］

- 通報管理サービスに対し，発信する連絡網の情報，コマンド配置先のコマンドファイルパスなどを指定します。
- 通知内容には変数を指定することが可能です。実行時に変数を値に置換して通知が行えます。
- 各設定項目の禁止文字について

  Shift-JIS のみで使用できる文字は使用できません。また，以下の文字は使用できません。
  以下文字に該当するが各テキストフィールドで使用可能な文字については，各テキストフィールドの記述を参照してください。

  ```
  " ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; : # + ^ ` 半角空白文字 ASCII 制御文字(0x00～0x1f, 0x7f)
  ```

(1) **「発信先連絡網名」**テキストフィールド（必須項目）

発信する連絡網の連絡網名を指定します。

(2) **「タイムアウト時間(分)」**テキストフィールド（必須項目）

連絡網発信を実行したのち，結果取得のタイムアウト時間(分)を設定します。1～30 の範囲で指定します。連絡網に時間の掛かる通知（電話通知など）が含まれる場合，本値を長めに設定することで，タイムアウトを防止することが可能です。

(3) **「通知内容」**テキストフィールド（必須項目）

連絡網発信で使用する通知内容を指定します。1～1000 文字以内で指定します。JP1/AJS 環境変数とユーザ独自の変数が指定可能です。%で囲われた文字列を変数として扱います。変数の置換を行った後の文字数が 1000 文字を超えている場合，1000 文字以降の値は通知されません。JP1/AJS の環境変数に関しましては「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス」を参照ください。

例）JP1/AJS の環境変数 AJSPRE_RC を指定した通知内容の例
「先行ジョブネットの実行結果は %AJSPRE_RC% でした。」

例）ユーザ独自の変数 ITEM1 を指定した通知内容の例
「%ITEM1%で障害が発生しました。」

禁止文字について，以下の文字列を使用可能です。下記以外の禁止文字は 9.3.1 を参照してください。

% ? ! 半角空白文字

(4) **「メール件名」**テキストフィールド

メール件名の指定が可能です。200 文字以内で指定します。連絡網の通知先にメールが含まれていない場合は無視されます。変数は指定できません。

(5) **「変数ファイルパス」**テキストフィールド

ユーザ独自の変数ファイルを完全名で指定します。カスタムジョブ実行時に，通知内容に記述された変数を．変数ファイルに指定された値に置換します。変数ファイルは，ini ファイル形式で作成してください。変数ファイルの文字コードは SJIS で記載してください。

変数ファイル例）
ITEM1=転送システム

通知内容，変数ファイル使用例）
通知内容が「%ITEM1%で障害が発生しました。」の場合，
変数ファイルに「ITEM1=転送システム」が設定されていると，
通知内容は「転送システムで障害が発生しました。」となります。

禁止文字について，以下の文字列を使用可能です。下記以外の禁止文字は 9.3.1 を参照してください。

/ ¥

(6) **「コマンドファイルパス」**テキストフィールド（必須項目）

「9.2 カスタムジョブの導入」で配置した，通報管理サービスのコマンド（Windows 版：tlscbase.exe，Linux 版：tlscbase）を完全名で指定します。

例）コマンドの配置フォルダが c:¥telstaff-saas¥cmd の場合
c:¥telstaff-saas¥cmd¥bin¥tlscbase.exe

禁止文字について，以下の文字列を使用可能です。下記以外の禁止文字は 9.3.1 を参照してください。

/ ¥

(7) **「OK」ボタン**

入力された内容で JP1/AJS にカスタムジョブを登録します。

(8) **「キャンセル」ボタン**

ずべての入力内容を破棄し，詳細定義－［Custom Job］画面へ戻ります。

9.3.2 カスタムジョブの実行

カスタムジョブを含むジョブネットの定義が終了した後，JP1/AJS - View でジョブネットを実行登録します。ジョブネットの実行登録の操作の詳細については，マニュアル「JP1/Automatic Job Management System3 操作ガイド」を参照ください。

9.3.3 カスタムジョブの実行結果

カスタムジョブが正常に実行されたかどうかは，カスタムジョブの終了コード を参照することにより判断します。

(1) カスタムジョブの終了コード

表 9.3-1 カスタムジョブの終了コード

終了コード	内容
0	連絡網発信が「確認」（電話通知のプッシュ操作で「2（確認）」を押下）で終了したことを意味します。
1	連絡網発信が「完了」で終了したことを意味します。電話通知のプッシュ操作で「#（終了）」を押下し連絡網が終了した場合も含まれます。
2	タイムアウトが発生し終了したことを意味します。
3	連絡網発信でエラーが発生したことを意味します。

以下に終了コードに関しての注意事項を記載します。

- 終了コード「0」は，連絡網発信が「確認」（電話通知のプッシュ操作で「2（確認）」を押下）で終了した場合にのみ設定される終了コードです。電話通知が定義されていない連絡網では，終了コード「0」が設定されることはありません。
- 終了コードは「0」だけが正常終了ではありません。連絡網の定義内容により「1」が正常終了の場合もあります。例として，メール通知のみが連絡網に定義されている場合には，連絡網発信が完了したことを意味する，終了コード「1」が正常終了となります。連絡網の定義内容を参照し，終了コードを判定するようお願いします。

カスタムジョブの終了コードを参照する方法は，JP1/AJS - View の［ジョブネットモニタ］画面から参照する，または JP1/AJS のログなどで確認してください。詳細については，マニュアル「JP1/Automatic Job Management System3 操作ガイド」などを参照ください。

(2) カスタムジョブの終了コードの設定タイミング

カスタムジョブの実行では，指定された連絡網の実行指示だけを行うのではなく，連絡網の実行結果を取得し，その結果で終了コードを設定します。このため，連絡網に時間の掛かる通知（電話通知など）が含まれる場合には，結果が得られるまで，時間を要する場合があります。タイムアウトが発生する場合には［連絡網発信情報登録画面］の「タイムアウト時間(分)」を長めに設定してください。

9.4カスタムジョブ実行時の注意事項

この節では，カスタムジョブ実行時の注意事項について説明します。

- カスタムジョブ実行中に JP1/AJS からジョブをキャンセルした場合，JP1/AJS 上のカスタムジョブは強制終了します。ただし，通報管理サービスで実行した連絡網発信はキャンセルされず処理が継続されます。このため，連絡網通知の実行状況は，通報管理サービスの「発信履歴レポート画面」などで参照ください。
- 通報管理サービスの「発信履歴レポート画面」では，カスタムジョブとしての履歴は表示されません。カスタムジョブで実行した連絡網の発信履歴を参照ください。
- カスタムジョブでは，公開ログはありません。非公開のログのみが存在します。
- カスタムジョブで，エラーが発生し，お問い合わせを実施する際には「4.7 調査用資料の採取」に記載の手順に従い，コマンド側のログなども取得して，情報の提出をお願いします。

10. メッセージ

この章では，TELstaff クラウド方通報管理サービスが出力するメッセージについて説明します。

10.1 メッセージについて

10.2 メッセージ一覧

10.3 操作証跡メッセージ一覧

10.1 メッセージについて

10.1.1 メッセージの形式

(1) ログファイルに記録されるメッセージ形式

```
[yyyy/mm/dd hh:mm:ss] nnnn-z メッセージテキスト
```

yyyy/mm/dd　出力日付を，yyyy（年），mm（月），dd（日）で示します。
hh:mm:ss　出力時刻を，hh（時），mm（分），ss（秒）で示します。
nnnn　メッセージ番号を示します。
Z　メッセージ種別を示します。種別には次のものがあります。
　I　通知を表しユーザに情報を知らせます。
　E　エラーを表し処理は中止されます。
　W　警告を表しメッセージ出力後，処理は続行されます。
メッセージテキスト
　メッセージ内容を示します。

10.1.2 メッセージの表記方法

メッセージは，メッセージ ID 順に，次の形式で説明しています。メッセージは，バージョンアップに伴い変更されることがあります。

メッセージ ID
メッセージテキスト
　解説
　　メッセージの説明
（S）システム処置を示します。
（U）メッセージに対する利用者の処置を示します。

10.1.3 メッセージ挿入文字の説明

(1) メッセージ挿入文字の説明

メッセージ ID 4045～4059 のメッセージが，tlscbase コマンドのメッセージとなります。メッセージテキストは，CSV 形式（カンマ区切りテキスト）で出力されます。各列の説明を表 10.1-1 に示します。

表 10.1-1　各コマンドのメッセージ説明

列	説明
1	成否を示す文字。「o」:成功，「x」:失敗を示します。 （ 全角の「○」「×」ではありません，半角英字小文字の「o」「x」です ）

列	説明
2	コマンド種別。「電話」「SMS」「メール」「LINE」「Slack」「Teams」「連絡網」「ログ」のいずれかを示します。
3	操作種別。「発信」「実行」「削除」「取得」のいずれかを示します。
4	操作種別により，内容が変わります。 ・操作種別が「発信」の場合，「宛先」を示します。 ・操作種別が「実行」の場合，「連絡網名」を示します。
5	情報 1。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。
6	情報 2。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。

※：カンマ区切りの 6 項目（6 列）で構成されます。このため空の項目がある場合にはカンマが連続して出力されます。なお，コマンド種別が「連絡網」の場合，空の項目カンマは出力されません。

10.2　メッセージ一覧

1000以上1054以内のメッセージID（Webシステムのメッセージ）

1000-I

{電話|電話1|電話2|電話3|電話4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams|信号灯} の発信を受け付けました。SID:SID [Name:{ユーザ名}]

解説

{電話|電話 1|電話 2|電話 3|電話 4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams|信号灯} への発信を SID に示す値で受け付けました。通知先は Name へ示すユーザです（ユーザに紐づかない発信の場合 Name は省略されます）。

1001-I

{電話|電話1|電話2|電話3|電話4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams|信号灯} の発信を開始します。SID:SID [Name:{ユーザ名}]

解説

SID で示す {電話|電話 1|電話 2|電話 3|電話 4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams|信号灯} への発信を開始しました。通知先はNameへ示すユーザです（ユーザに紐づかない発信の場合 Name は省略されます）。

（S）発信を開始します。

1002-I

発信が確認されました。SID:SID

解説

SID で示す発信が確認されました。

電話通知の場合，受信者がプッシュ操作して「2」（確認）を選択したとき出力されます。

（S）発信を終了します。

1003-I

発信を行いました。SID:SID

解説

SID で示す発信が終了しました。

電話通知の場合，受信者がプッシュ操作して「#」（終了）を選択したとき出力されます。

（S）発信を終了します。

1004-E

発信が失敗しました。SID:SID REASON:理由

解説

SID で示す発信が理由によりできませんでした。

（S）発信を中止します。

（U）理由の内容を確認し，再度コマンドを実行してください。

1005-I

連絡網を登録しました。ID:連絡網名

解説

連絡網名で示す連絡網を登録しました。

1006-I

連絡網を削除しました。ID:連絡網名

解説

連絡網名で示す連絡網を削除しました。

1007-E

連絡網が見つかりませんでしたので発信を中止します。

解説

連絡網が見つからなかったため発信を中止します。

（S）発信を中止します。

（U）連絡網名を確認し，再度コマンドを実行してください。

1008-I

連絡網の発信を受け付けました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名で示す連絡網への発信が SID に示す値で受け付けされました。

1009-I

{電話|電話1|電話2|電話3|電話4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams|信号灯} の発信を開始します。SID:SID ID:連絡網名 [Name: {ユーザ名}]

解説

連絡網名，SID で示す連絡網の {電話|電話 1|電話 2|電話 3|電話 4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams|信号灯} への発信が開始されました。通知先は Name へ示すユーザです（ユーザに紐づかない発信の場合 Name は省略されます）。

1010-I

発信が確認されました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名，SID で示す連絡網の発信が確認されました。

電話通知の場合，受信者がプッシュ操作して「2」（確認）を選択したとき出力されます。

（S）発信を終了します。

1011-I

発信を行いました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名，SID で示す連絡網の発信が終了しました。

電話通知の場合，受信者がプッシュ操作して「#」（終了）を選択したとき出力されます。

（S）連絡網の後続の通知へ進みます。

1012-E

発信が失敗しました。SID:SID ID:連絡網名 REASON:理由

解説

連絡網名，SID で示す連絡網の発信が理由によりできませんでした。

（S）発信を中止します。

（U）理由の内容を確認し，再度コマンドを実行してください。

1013-I

連絡網の発信が完了しました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名，SID で示す連絡網の発信が完了しました。

（S）発信を終了します。

1014-I

トークルームを作成しました。Name:トークルーム名 RoomID:トークルームID

解説

トークルーム名に示すトークルームをトークルーム ID に示す ID で作成しました。

1015-I

通知先ユーザを登録しました。Name:ユーザ名

解説

ユーザ名で示す通知先ユーザを登録しました。

1016-I

通知先ユーザを削除しました。Name:ユーザ名

解説

ユーザ名で示す通知先ユーザを削除しました。

1017-I

通知先ユーザの {通知メディア} の発信を抑止しました。SID:{SID} Name:{ユーザ名}

解説

通知メディア，ユーザ名，SID で示す発信が抑止されました。（スケジュールによる発信抑止）

1018-I

{通知メディア} の発信を抑止しました。SID:{SID}

解説

通知メディア，SID で示す発信が抑止されました。（スケジュールによる発信抑止）

1019-I

{通知メディア} の発信を制限しました。SID:{SID} Limit:{limit}

解説

通知メディア，SID で示す発信が limit に示す理由で制限されました。（本サービスの発信制限に達したため）

1020-E

通知先ユーザが見つかりません。Name:{ユーザ名}

解説

連絡網に登録されたユーザ名で示す，ユーザがユーザ定義情報に見つからなかった。

（S）連絡網の次の通知先へ通知を行います。

（U）通知先のユーザ定義を確認し，再度コマンドを実行してください。

1021-E

通知先ユーザに通知先 {通知メディア} が定義されていません。Name:{ユーザ名}

解説

連絡網に登録されたユーザ名で示す，ユーザ定義情報に通知メディアで示す，通知メディアが定義されていない。

（S）連絡網の次の通知先へ通知を行います。

（U）通知先のユーザ定義を確認し，再度コマンドを実行してください。

1022-E

プロファイルが見つかりません。profile:{プロファイル名}

解説

連絡網に登録されたプロファイル名で示す，接続先のプロファイルが見つからなかった。

（S）連絡網の次の通知先へ通知を行います。

（U）通知先のユーザ定義，プロファイル定義を確認し，再度コマンドを実行してください。

1023-I

プロファイルを登録しました。type:{プロファイル種別} profile:{プロファイル名}

解説

プロファイル種別，プロファイル名で示す，プロファイルを登録しました。

1024-I

プロファイルを削除しました。type:{プロファイル種別} profile:{プロファイル名}

解説

プロファイル種別，プロファイル名で示す，プロファイルを削除しました。

1025-E

メール一括送信で有効なメールアドレスが見つかりません。Name:{タイトル}

解説

メール一括送信で有効なメールアドレスが定義されていない。

1026-I

受信メール連携ルールを登録しました。rule:{ルール名}

解説

ルール名で示す，受信メール連携ルールを登録しました。

1027-I

受信メール連携ルールを削除しました。rule:{ルール名}

解説

ルール名で示す，受信メール連携ルールを削除しました。

1028-I

受信メール連携からの連絡網の発信を受け付けました。SID:{SID} ID:{連絡網名} rule:{ルール名}

解説

受信メール連携から，連絡網名で示す連絡網への発信が SID に示す値で受け付けされました。

1029-I

連絡網の同一の発信を集約しました。ID:{連絡網名} SID:{SID} count:{集約された件数}

解説

連絡網名で示す連絡網への発信が，集約された件数で示された件数分集約されました。

1030-I

同一の発信であるため{集約|間引き}されました。SID:{同一と判断された発信のSID}

解説

SID で示す連絡網の通知と同一の内容と判断され，{集約|間引き}されました。

1031-I

ユーザグループを登録しました。Name:{ユーザグループ名}

解説

ユーザグループ名で示すユーザグループを登録しました。

1032-I

ユーザグループを削除しました。Name:{ユーザグループ名}

解説

ユーザグループ名で示すユーザグループを削除しました。

1033-I

サブアカウントを登録しました。Name:{サブアカウント名}

解説

サブアカウント名で示すサブアカウントを登録しました。

1034-I

サブアカウントを削除しました。Name:{サブアカウント名}

解説

サブアカウント名で示すサブアカウントを削除しました。

1035-I

APIキーを生成しました。

解説

API キーを生成しました。

1036-I

APIキーを無効化しました。

解説

API キーを無効化しました。

1037-I

連絡網発信フィルタを登録しました。Name:{連絡網発信フィルタ名}

解説

連絡網発信フィルタ名で示す連絡網発信フィルタを登録しました。

1038-I

連絡網発信フィルタを削除しました。Name:{連絡網発信フィルタ名}

解説

連絡網発信フィルタ名で示す連絡網発信フィルタを削除しました。

1039-I

連絡網発信フィルタ優先順位を登録しました。

解説

連絡網発信フィルタ優先順位を登録しました。

1040-E

{連絡網名} の発信を中止しました。SID:{SID} filter:{フィルタ名}

解説

SID及び連絡網名で示す連絡網への発信が，フィルタ名で示されたフィルタにより中止されました。

1041-I

電話読み替え定義を登録しました。Before:{読み替え前文字列}

解説

読み替え前文字列で示す電話読み替え定義を登録しました。

1042-I

電話読み替え定義を削除しました。Before:{読み替え前文字列}

解説

読み替え前文字列で示す電話読み替え定義を削除しました。

1043-I

通知文テンプレートを登録しました。No:{通知文テンプレート番号}

解説

当該通知文テンプレート番号に通知文テンプレートを登録しました。

1044-I

通知文テンプレートを削除しました。No:{通知文テンプレート番号}

解説

当該通知文テンプレート番号の通知文テンプレートを削除しました。

1045-I

ロールを登録しました。Name:{ロール名}

解説

ロールを登録しました。

1046-I

ロールを削除しました。Name:{ロール名}

解説

ロールを削除しました。

1047-I

リソースグループを登録しました。Name:{リソースグループ名}

解説

リソースグループを登録しました。

1048-I

リソースグループを削除しました。Name:{リソースグループ名}

解説

リソースグループを削除しました。

1049-I

ロールにリソースグループへの権限を割り当てました。Role:{ロール名} ResourceGroup:{リソースグループ名} Permission:{権限}

解説

ロールにリソースグループへの権限を割り当てました。

1050-I

ロールからリソースグループへの権限を削除しました。Role:{ロール名} ResourceGroup:{リソースグループ名}

解説

ロールからリソースグループへの権限を削除しました。

1051-I

サブアカウントによるリソース管理からロールによるリソース管理へ変更しました。

解説

サブアカウントによるリソース管理からロールによるリソース管理へ変更しました。

1052-I

生成AI連携接続設定を登録しました。

解説

生成 AI 連携接続設定を登録しました。

1053-W

生成AI連携通知文要約に失敗しました。REASON：{理由}

解説

REASON で示す理由により，生成 AI 連携通知文要約ができませんでした。

（S）生成 AI による要約を行わず発信を継続します。

1054-E

連絡網の発信を中止しました。ID:{連絡網名} SID:{SID} REASON:{理由}

解説

ID，SID で示す連絡網の発信を中止しました。

（U）連絡網へのアクセス権を確認し，再度コマンドを実行してください。

4045以上4062以内のメッセージID（tlscbaseコマンドのメッセージ）

4045-I

o,{電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams},発信,宛先,,

解説

宛先あてに｛電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams｝への発信を行いました。

4046-E

x,{電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams},発信,宛先,通信エラー,エラー情報

解説

宛先あてに｛電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams｝への発信を行いましたが，通信エラーにより発信できませんでした。

（S）処理を中止します。

（U）エラー情報を元にネットワーク設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

4047-E

x,{電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams},発信,宛先,,エラー情報

解説

宛先あてに｛電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams｝への発信を行いましたが，エラー情報により発信できませんでした。

（S）処理を中止します。

（U）エラー情報を元に設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

4048-I

o,ログ,取得,{公開|デバック},,

解説

｛公開|デバック｝ログの取得を行いました。

4049-E

x,ログ,取得,{公開|デバック},通信エラー,エラー情報

解説

｛公開|デバック｝ログの取得を行いましたが，通信エラーにより取得できませんでした。

（S）処理を中止します。

（U）エラー情報を元にネットワーク設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

4050-E

x,ログ,取得,{公開|デバック},,エラー情報

解説

｛公開|デバック｝ログの取得を行いましたが，エラー情報により取得できませんでした。

（S）処理を中止します。

（U）エラー情報を元に設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

4054-I

o,連絡網,{登録|削除}

解説

連絡網の｛登録|削除｝を行いました。

4055-E

x,連絡網,{登録|削除}

解説

連絡網の｛登録|削除｝を行いましたが，｛登録|削除｝できませんでした。

（S）処理を中止します。
（U）連絡網定義ファイルの内容や設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

4056-I
o, 連絡網, 実行, 連絡網名

解説
連絡網名に示す連絡網の実行を行いました。

4057-E
x, 連絡網, 実行, 連絡網名, エラー情報

解説
メ連絡網名に示す連絡網の実行を行いましたが，エラー情報により実行できませんでした。
（S）処理を中止します。
（U）エラー情報を元に連絡網定義ファイルの内容や設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

4058-I
o, ユーザ, {登録|削除}

解説
ユーザの｛登録|削除｝を行いました。

4059-E
x, ユーザ, {登録|削除}

解説
ユーザの｛登録|削除｝を行いましたが，｛登録|削除｝できませんでした。

4060-I
o, 証跡, 取得

解説
操作証跡ログの取得を行いました。

4061-E
x, 証跡, 取得, 通信エラー, エラー情報

解説
操作証跡ログの取得を行いましたが，通信エラーにより取得できませんでした。
（S）処理を中止します。
（U）エラー情報を元にネットワーク設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

4062-E
x, 証跡, 取得, エラー情報

解説
操作証跡ログの取得を行いましたが，エラー情報により取得できませんでした。
（S）処理を中止します。
（U）エラー情報を元に設定などを見直し，再度コマンドを実行してください。

10.3 操作証跡メッセージ一覧

10.3.1 メッセージの形式

(1) 記録されるメッセージ形式

操作証跡は以下の形式で記録されます。先頭には以下のヘッダ行が出力されます。

```
日付,アカウント名,操作種別,操作内容,ターゲット,ターゲットアカウント,結果,操作元IPアドレス
```

表 10.3-1 操作証跡の形式

項目名	説明
日付	「yyyy/mm/dd hh:MM:ss.fff」の書式で日付が記録されます。 yyyy は西暦年 4 桁，mm は月 2 桁，dd は日 2 桁，hh は時 2 桁，MM は分 2 桁，ss は秒 2 桁，fff はミリ秒 3 桁を表します。
アカウント名	操作を行ったアカウント名が記録されます。
操作種別	「空欄」，「登録」，「取得」，「削除」，「変更」，「作成」，「検証」のいずれか記録されます。
操作内容	操作の内容が記録されます。詳細は「(2) 記録されるメッセージ一覧」を参照ください。
ターゲット	操作の対象が記録されます。詳細は「(2) 記録されるメッセージ一覧」を参照ください。
ターゲットアカウント	どのアカウントが所持する情報かが記録されます。管理者アカウントの場合は空欄になります。
結果	成否を示す文字が記録されます。「o」は成功，「x」は失敗を示します。
操作元 IP アドレス	操作元の IP アドレスが記録されます。

(2) 記録されるメッセージ一覧

操作証跡として記録されるメッセージを記載します。

表 10.3-2 操作証跡のメッセージ

項番	操作種別	操作内容	ターゲット	対応する操作の例
1	登録	連絡網	連絡網名	連絡網追加画面で SAVE
2	取得	連絡網	連絡網名	既存プロファイルのページを開く
3	削除	連絡網	連絡網名	連絡網削除ダイアログで OK，コマンド(REST API)で削除
4	登録	システムカレンダー	なし	カレンダーダイアログで OK
5	登録	システムスケジュール	なし	スケジュールダイアログで OK
6	登録	ユーザ	ユーザプロファイル名	ユーザ追加画面で SAVE
7	取得	ユーザ	ユーザプロファイル名	既存プロファイルのページを開く
8	削除	ユーザ	ユーザプロファイル名	ユーザ削除ダイアログで OK，コマンド(REST API)で削除
9	登録	ユーザグループ	ユーザグループ名	ユーザグループ追加ダイアログで OK
10	削除	ユーザグループ	ユーザグループ名	ユーザ削除ダイアログで OK
11	取得	ログ	公開ログ or デバックログ	ログの取得
12	作成	LINE トークルーム	LINE トークルーム名	LINE WORKS のトークルーム作成
13	登録	メールサーバ	なし	メールサーバーページで SAVE
14	取得	メールサーバ	なし	メールサーバーページを開く
15	登録	Twilio プロファイル	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE

項番	操作種別	操作内容	ターゲット	対応する操作の例
16	取得	Twilio プロファイル	プロファイル名	既存プロファイルのページを開く
17	削除	Twilio プロファイル	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
18	登録	LINE プロファイル	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE
19	取得	LINE プロファイル	プロファイル名	既存プロファイルのページを開く
20	削除	LINE プロファイル	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
21	登録	Slack プロファイル	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE
22	取得	Slack プロファイル	プロファイル名	既存プロファイルのページを開く
23	削除	Slack プロファイル	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
24	登録	Teams プロファイル	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE
25	取得	Teams プロファイル	プロファイル名	既存プロファイルのページを開く
26	削除	Teams プロファイル	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
27	登録	信号灯プロファイル	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE
28	取得	信号灯プロファイル	プロファイル名	既存プロファイルのページを開く
29	削除	信号灯プロファイル	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
30	登録	楽天モバイルプロファイル	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE
31	取得	楽天モバイルプロファイル	プロファイル名	既存プロファイルのページを開く
32	削除	楽天モバイルプロファイル	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
33	変更	パスワード	なし	パスワード変更画面で SAVE
34		サインイン	なし	サインインボタン押下
35		サインアウト	なし	サインアウトボタン押下
36	取得	レポートデータ	なし	ページ開いたとき、レポート更新時
37	登録	受信メール連携ルール	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE
38	取得	受信メール連携ルール	プロファイル名	既存プロファイルのページ開いたとき
39	削除	受信メール連携ルール	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
40	取得	信号灯ステータス	信号灯名	信号灯を指定したとき、更新ボタン押下
41	登録	アカウント設定	なし	アカウント設定ページで SAVE
42	取得	コマンド一式	なし	コマンド&マニュアル押下
43	取得	外部 API 連携プロファイル	プロファイル名	既存プロファイルのページ開いたとき
44	登録	外部 API 連携プロファイル	プロファイル名	プロファイル追加画面で SAVE
45	削除	外部 API 連携プロファイル	プロファイル名	プロファイル削除ダイアログで OK
46	登録	発信間引き定義	なし	大量発信の集約、間引きページで SAVE
47	登録	サブアカウント	サブアカウント名	サブアカウント登録
48	削除	サブアカウント	サブアカウント名	サブアカウント削除
49	登録	ワンタイムパスワード	なし	ワンタイムパスワード設定保存
50	検証	ワンタイムパスワード	なし	サインイン後のワンタイムパスワード検証
51	取得	証跡	なし	操作証跡ログ取得
52	発行	API キー	なし	API キー設定画面で生成ボタンを押下
53	参照	API キー	なし	API キー設定画面を開いたとき
54	削除	API キー	なし	API キー設定画面で削除ボタンを押下
55	取得	連絡網発信フィルタ	連絡網フィルタ名	既存のフィルタのページ開いたとき
56	登録	連絡網発信フィルタ	連絡網フィルタ名	フィルタ追加画面で SAVE
57	削除	連絡網発信フィルタ	連絡網フィルタ名	フィルタ削除ダイアログで OK
58	取得	電話読み替え	読み替え前文字列	既存の電話読み替えページ開いたとき
59	登録	電話読み替え	読み替え前文字列	電話読み替え追加画面で SAVE
60	削除	電話読み替え	読み替え前文字列	電話読み替え削除ダイアログで OK
61	登録	連絡網発信フィルタ優先順位	なし	フィルタの優先順位を変更したとき
62	登録	通知文テンプレート	なし	通知文テンプレートを登録したとき
63	取得	通知文テンプレート	なし	既存プロファイルのページを開いたとき
64	削除	通知文テンプレート	なし	通知文テンプレートを削除したとき
65	登録	生成 AI 連携ルール	なし	生成 AI 連携ルールを登録
66	取得	生成 AI 連携ルール	なし	生成 AI 連携ルールを取得
67	登録	AmazonBedrock 接続先	なし	AmazonBedrock 接続先情報を登録
68	取得	AmazonBedrock 接続先	なし	AmazonBedrock 接続先情報を取得
69	登録	ロール定義	なし	ロール編集画面で SAVE
70	取得	ロール定義	なし	既存プロファイルのページを開いたとき

項番	操作種別	操作内容	ターゲット	対応する操作の例
71	削除	ロール定義	なし	ロール定義を削除したとき
72	登録	リソースグループ	なし	リソース編集画面で SAVE
73	取得	リソースグループ	なし	既存プロファイルのページを開いたとき
74	削除	リソースグループ	なし	リソースグループを削除したとき
75	登録	ロールへの権限	なし	ロールにリソースへの権限変更したとき
76	登録	リソース管理方法	なし	リソース管理方法画面で SAVE

索　引

L

LINE WORKS 通知 11
LINE WORKS 投稿コマンド..... 39, 54, 191
LINE WORKS トークルーム作成 API.. 138, 246, 269
LINE WORKS トークルーム作成コマンド39, 138, 213
LINE WORKS プロファイル一覧 103
LINE WORKS プロファイル画面 104
LINE WORKS への通知 16
LINE WORKS へ発信する際の注意事項 46

M

Microsoft Teams 通知 12
Microsoft Teams 投稿コマンド..... 54, 196
Microsoft Teams プロファイル画面110, 112, 115, 121
Microsoft Teams プロファイル一覧109, 111, 114, 119
Microsoft Teams への通知 16

S

Slack 通知..... 12
Slack 投稿コマンド 54, 194
Slack プロファイル一覧..... 107
Slack プロファイル画面..... 108
Slack へ発信する際の注意事項 47, 48
SMS 通知 11, 15
SMS 発信コマンド..... 54, 187

T

Twilio プロファイル一覧 99
Twilio プロファイル画面 101
Twilio へ発信する際の注意事項..... 46

お

応答結果 52
お客様側の IP アドレス..... 15

か

確認操作 21, 52, 268
カレンダーダイアログ 146

こ

コマンド設定ファイル9, 14, 37, 184, 185, 188, 190, 192, 195, 197, 200, 202, 204, 206, 208, 209, 211, 212, 214, 216, 218, 219, 221

さ

サインアウト API..... 227, 232, 278
サインイン API..... 227, 230, 231, 267, 270, 277
サインイン画面65, 74, 76, 78, 79, 80, 82, 85, 86, 88, 93, 94, 122
サインイントークン更新 API..... 231, 232, 267, 271

し

終了操作 52, 268
受信操作 51, 52
受信メール連携..... 9, 10, 17, 23, 169
受信メール連携一覧 23, 168
受信メール連携ルール..... 21, 23, 159, 161, 164, 168
受信メール連携ルール画面 23, 169
使用できる変数54, 185, 187, 190, 192, 194, 197, 199, 222

す

スケジュールダイアログ..... 152

つ

通知先ユーザ定義削除コマンド..... 207
通知先ユーザ定義取得コマンド..... 57, 58, 205
通知先ユーザ定義登録コマンド..... 204
通知文ファイル54, 185, 186, 187, 188, 190, 192, 193, 194, 195, 197, 199, 200, 201, 222, 223
通知先ユーザ定義削除 API..... 239, 242
通知先ユーザ定義取得 API238, 241, 270, 271, 273
通知先ユーザ定義登録 API..... 237, 240

て

電話通知 11, 15, 52, 53, 55, 194, 208, 220, 222
電話発信コマンド..... 50, 52, 54, 185
電話発信の動作 49

は

パスワード変更画面 70
発信受付 API50, 227, 233, 234, 270, 278, 280, 281, 283
発信結果問い合わせコマンド..... 49, 53, 55, 56, 202
発信情報件数問い合わせ API.....55, 246, 268
発信情報件数問い合わせコマンド.....55, 215
発信情報削除 API.....247
発信情報削除コマンド.....217
発信制限に関して24, 44, 50, 55, 186, 188, 190, 193, 195, 197, 201, 234, 235
発信問い合わせ API49, 53, 55, 56, 227, 233, 234, 236, 268
発信履歴レポート画面158, 160, 161, 162, 164, 166, 176

ふ

プッシュ入力操作 51
プッシュ入力の繰り返し回数 51
プッシュ入力の待ち時間..... 51

ま

マシン時刻の設定.....15, 41

め

メイン画面 67
メールサーバ登録画面..... 96
メール送信機能.....12, 17, 25, 59, 96
メール通知..... 12
メール発信コマンド.....54, 189

ゆ

ユーザー覧.....123
ユーザ定義画面 126

よ

呼び出し時間..... 53

ら

ライセンス表示画面 72

る

ルーム ID 記録ファイル 38, 39, 40, 138, 213

れ

連絡網一覧 130
連絡網定義画面.....132
連絡網定義削除 API.....245
連絡網定義削除コマンド.....212
連絡網定義取得 API.....244
連絡網定義取得コマンド..... 57, 58, 210
連絡網定義登録 API.....243
連絡網定義登録コマンド.....209
連絡網発信 API..... 235, 236, 261
連絡網発信結果取得 API..... 235, 236
連絡網発信コマンド.....50, 52, 54, 198

ろ

ログ取得 API.....44, 154, 248
ログ取得コマンド..... 44, 57, 154, 219, 220

株式会社 日立製作所

〒 100–8280　東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 6 号